

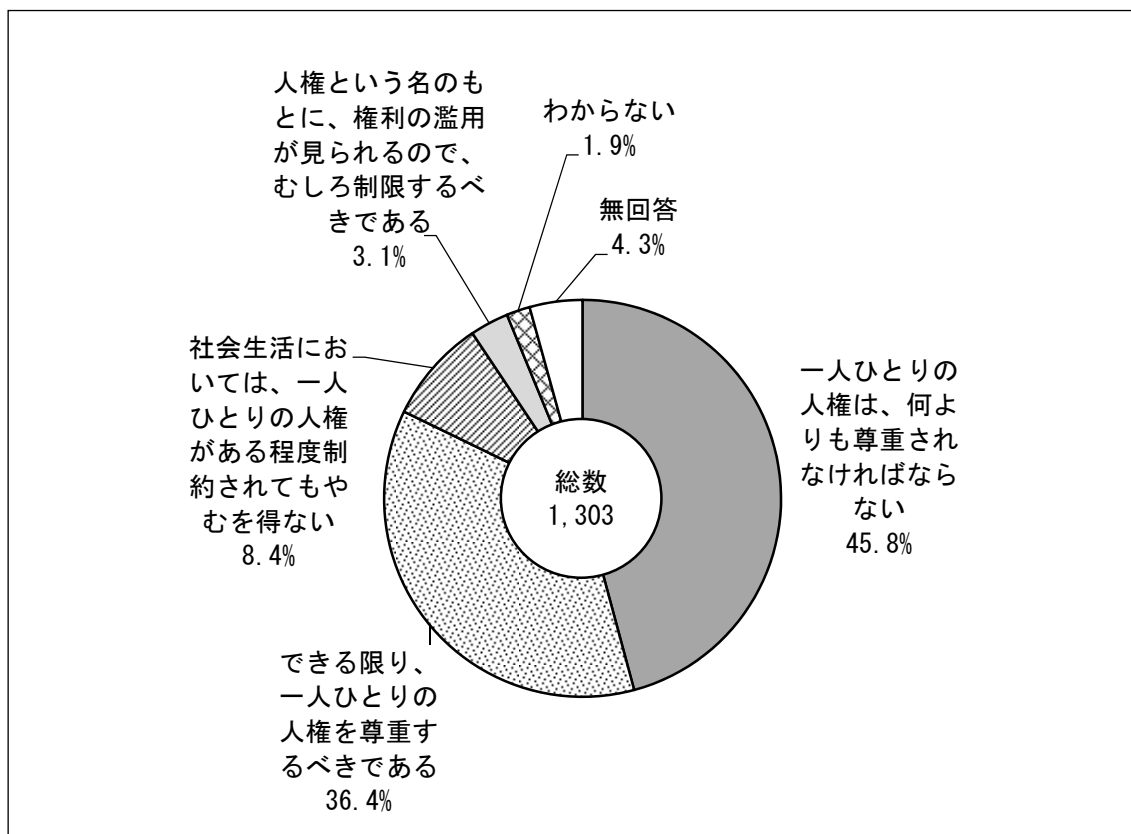
❖ 第3章 調査結果 ❖

第3章 調査結果

1 人権問題全般について

問1 人権への意識

あなたは人権についてどのようにお考えですか。（〇は1つ）



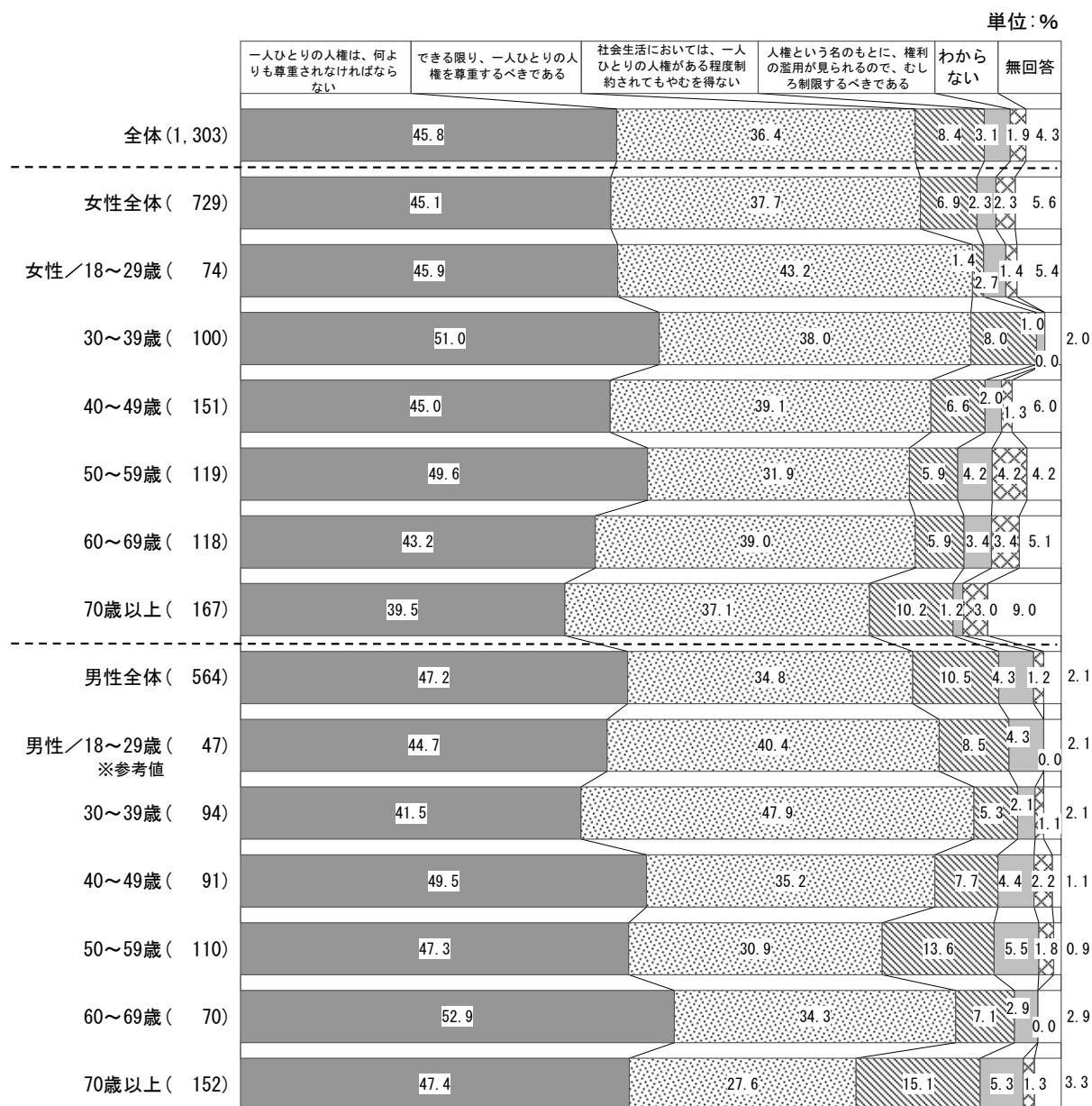
図表 6 人権への意識

○全体の傾向

「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が 45.8%で最も多く、「できる限り、一人ひとりの人権を尊重すべきである」(36.4%)、「社会生活においては、一人ひとりの人権がある程度制約されてもやむを得ない」(8.4%)が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



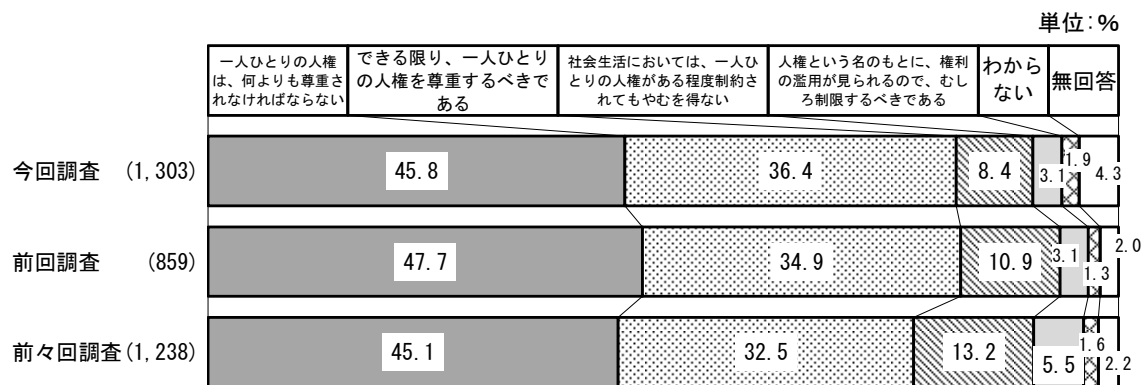
図表 7 人権への意識（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では「できる限り、一人ひとりの人権を尊重するべきである」が 43.2％であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。70 歳以上では「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が 39.5％であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント下回っています。

男性の 30～39 歳では「できる限り、一人ひとりの人権を尊重するべきである」(47.9％) が他の年代に比べて多くなっているとともに、「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」(41.5％) を上回って最も多い回答となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



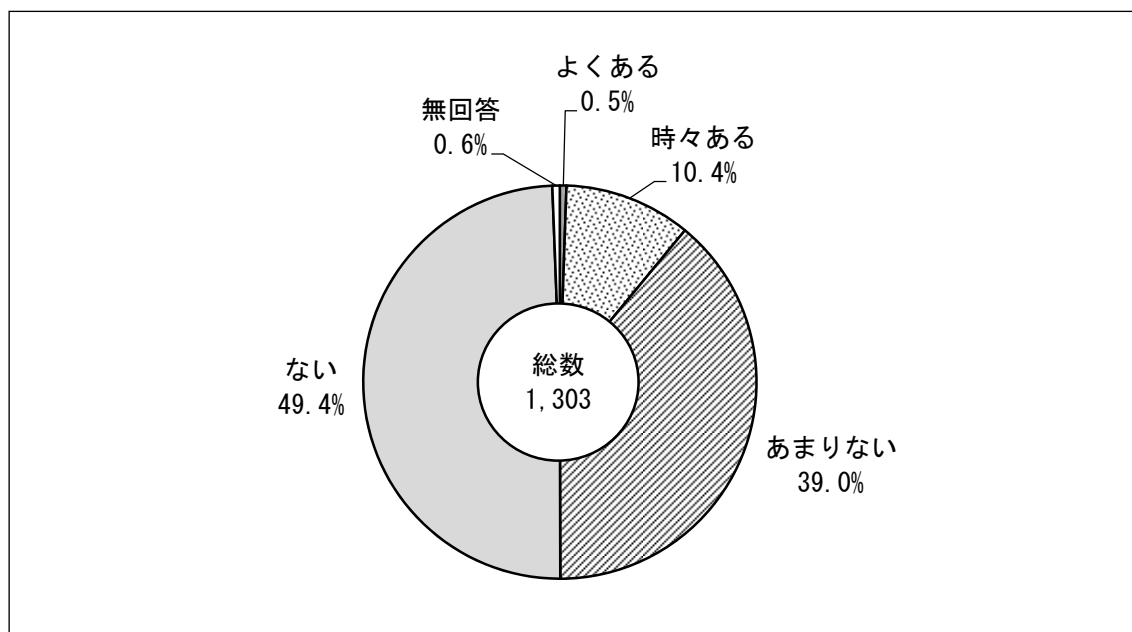
図表 8 人権への意識《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査、前回調査、前々回調査とも「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」が5割弱、「できる限り、一人ひとりの人権を尊重すべきである」が3割台であり、大きな傾向の違いは見られません。

問2 周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験

あなたは、自分の意思とはかわかりなく、周囲の人とともに、自分より劣ったり、弱い立場にある人に対して差別的な行動や発言をしてしまうことがありますか（ありましたか）。（○は1つ）



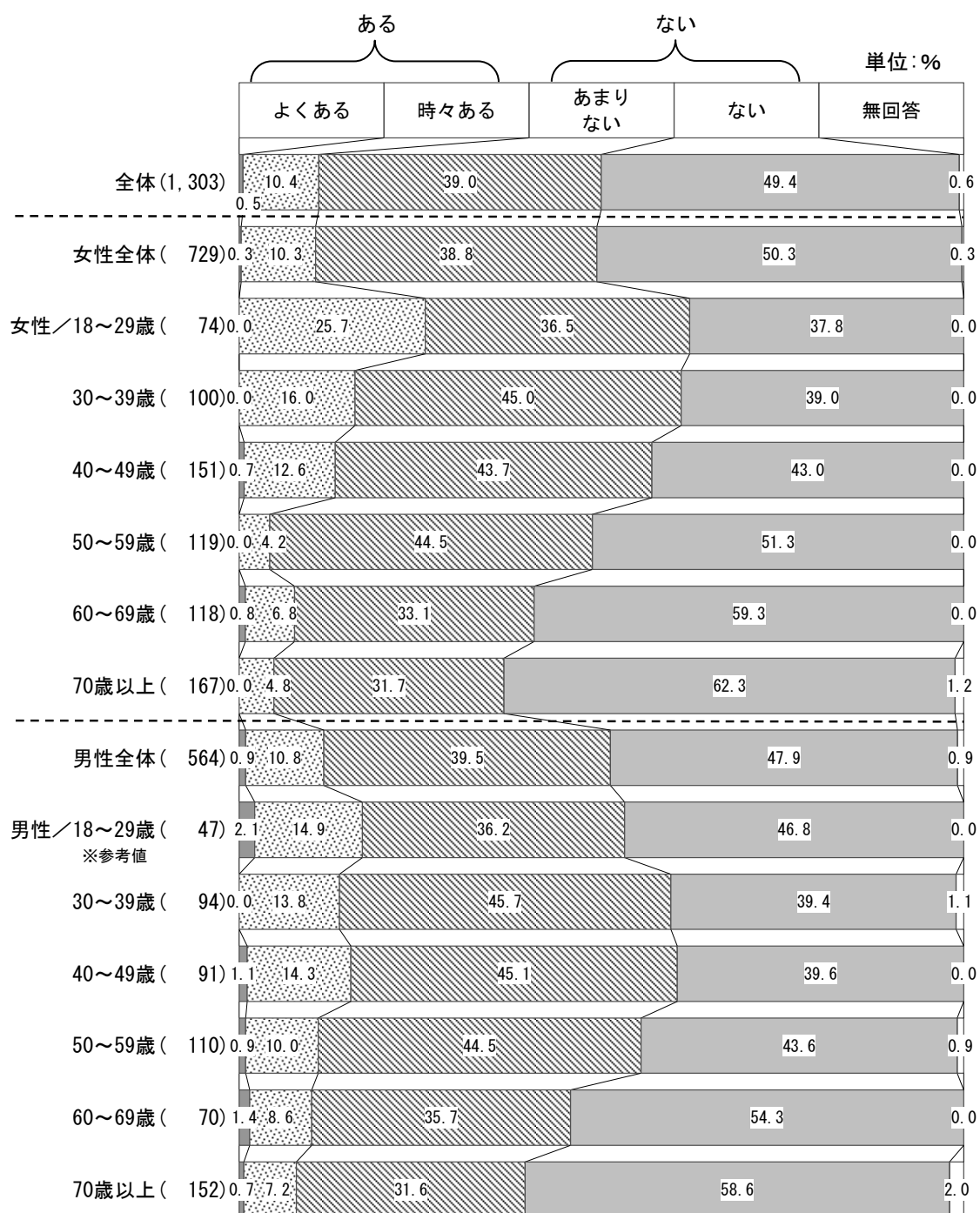
図表 9 周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験

○全体の傾向

“ある（「よくある」と「時々ある」の合計）”が10.9%であり、“ない（「あまりない」と「ない」の合計）”が88.4%となっています。

○男女別の傾向

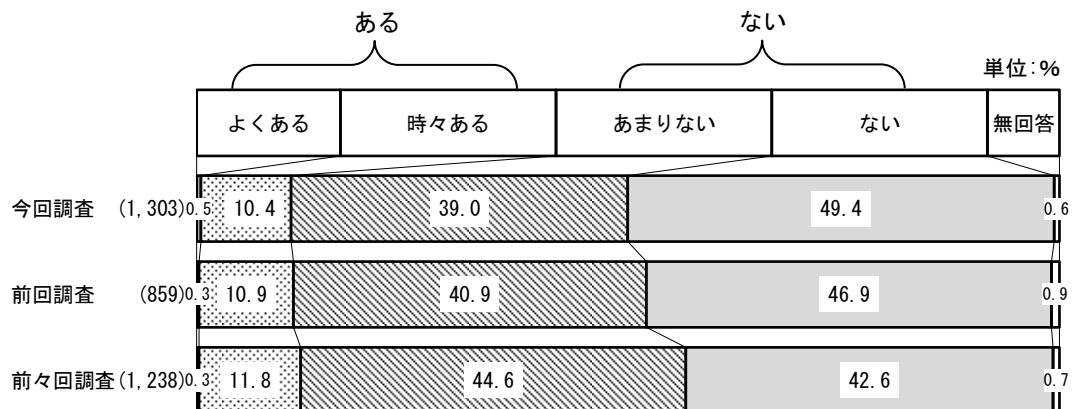
性別による大きな傾向の違いはありません。



○男女・年代別の傾向

男性では、30～39 歳から 60～69 歳にかけて“ある”の割合が1割台となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



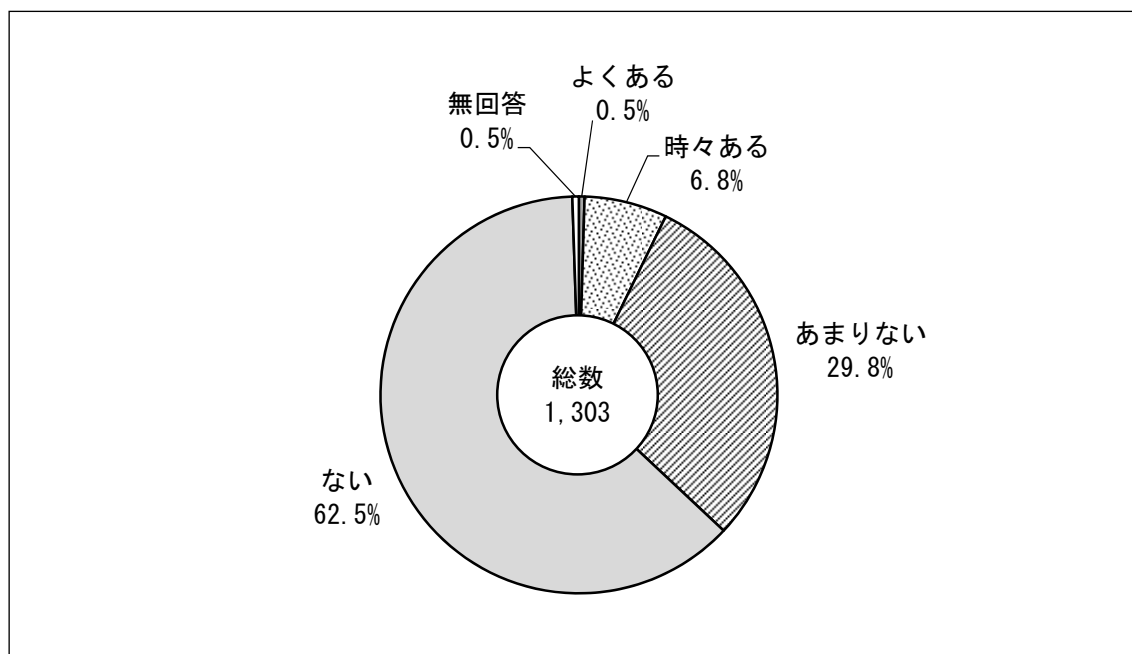
図表 11 周囲の人とともに、差別的な行動や発言をした経験《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、「あまりない」の割合が5ポイント減少し、「ない」の割合が6ポイント増加しています。また、前々回調査から今回調査にかけて“ある”の割合が減少を続けるとともに、“ない”の割合が増加を続けていますが、今回調査・前回調査・前々回調査とも“ない”が9割弱を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問3 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験

あなたは、他人から受けた不当な扱いや日ごろの劣等感等から、自分より劣ったり、弱い立場にあると思う人に対して差別的な行動や発言をしてしまうことがありますか（ありましたか）。（○は1つ）



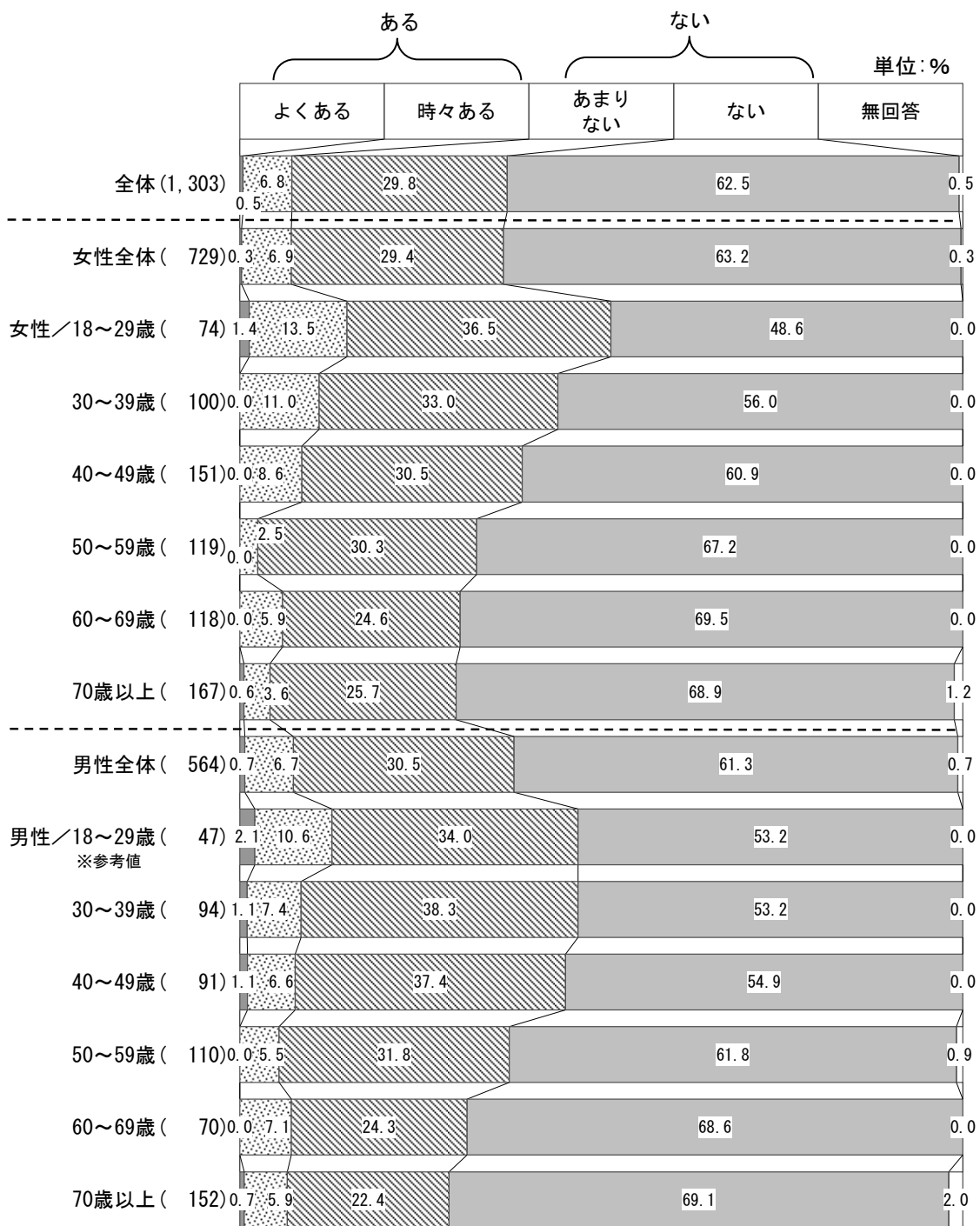
図表 12 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験

○全体の傾向

“ある（「よくある」と「時々ある」の合計）”が7.3%であり、“ない（「あまりない」と「ない」の合計）”が92.3%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



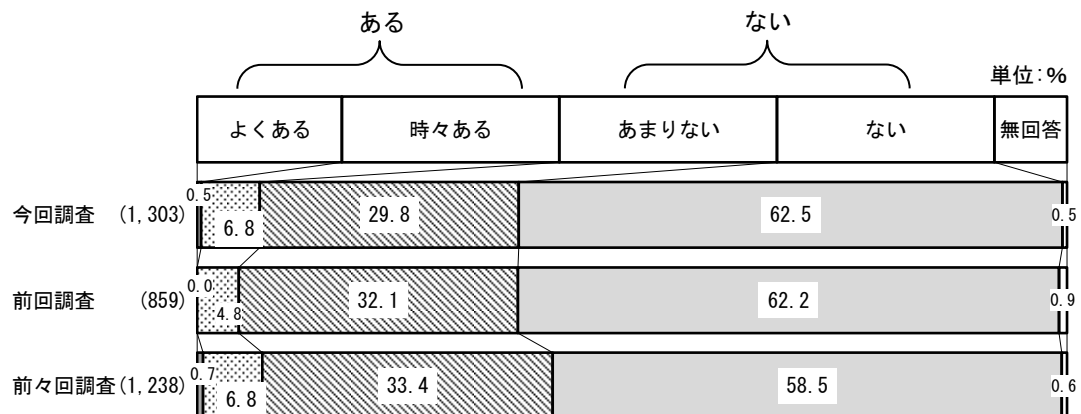
図表 13 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では“ある”が 14.9%であり、女性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。女性の“ある”の割合は 18～29 歳と 30～39 歳で 1 割強であるのに対し、40 歳以上では 1 割未満となっています。

男性では、30～39 歳から 70 歳以上にかけて“ある”の割合が 1 割未満となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 14 不当な扱いや劣等感等から、差別的な行動や発言をした経験《前回調査・前々回調査との比較》

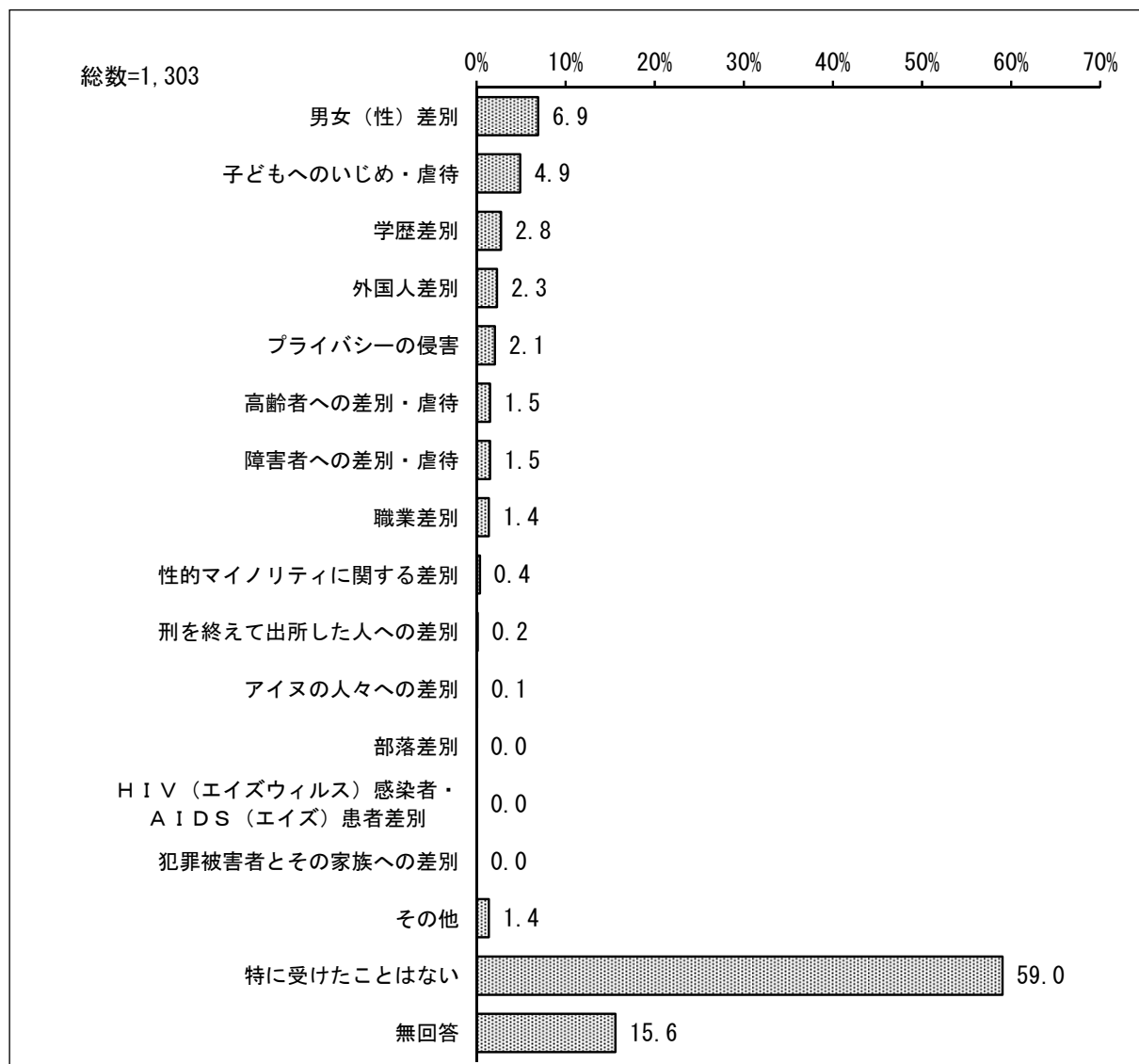
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも“ない”が9割強を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問4 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと

あなたは、これまでに自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたことがありますか。（あてはまるものすべてに○、その中で主なもの1つに◎）

（1）主なもの



図表 15 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【主なもの】

○全体の傾向

「男女（性）差別」が 6.9% で最も多く、「子どもへのいじめ・虐待」（4.9%）、「学歴差別」（2.8%）が続きます。

一方、「特に受けたことはない」という回答が 59.0% と過半数を占めています。

		全体	男女 (性) 差別	子ども へのいじめ・ 虐待	高齢者 への差別・ 虐待	障害者 への差別・ 虐待	部落 差別	アイヌの 人々への 差別	外国人 差別	HIV(エイズ ウイルス) 感染者・ AIDS (エイズ) 患者差別	刑を終 えて出所 した人 への差別	プライバシー の侵害	学歴 差別	犯罪被害 者とその 家族への 差別	職業 差別	性的マイ ノリティに 関
全体		1,303 100.0	90 6.9	64 4.9	20 1.5	20 1.5	-	1 0.1	30 2.3	-	2 0.2	27 2.1	36 2.8	-	18 1.4	5 0.4
性別	女性	729 100.0	68 9.3	37 5.1	14 1.9	13 1.8	-	-	16 2.2	-	-	16 2.2	17 2.3	-	7 1.0	2 0.3
	男性	564 100.0	21 3.7	27 4.8	6 1.1	7 1.2	-	1 0.2	14 2.5	-	2 0.4	11 2.0	19 3.4	-	11 2.0	3 0.5
	無回答	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	※参考値	100.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	8 10.8	4 5.4	-	1 1.4	-	4 5.4	-	-	3 4.1	1 1.4	-	2 2.7	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	11 11.0	5 5.0	-	1 1.0	-	5 5.0	-	-	3 3.0	2 2.0	-	2 2.0	-
		40～49歳	151 100.0	16 10.6	9 6.0	2 1.3	3 2.0	-	3 2.0	-	-	3 2.0	5 3.3	-	2 1.3	-
		50～59歳	119 100.0	14 11.8	7 5.9	3 2.5	2 1.7	-	3 2.5	-	-	-	4 3.4	-	-	-
		60～69歳	118 100.0	14 11.9	8 6.8	5 4.2	1 0.8	-	1 0.8	-	-	3 2.5	3 2.5	-	-	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	5 3.0	4 2.4	4 2.4	5 3.0	-	-	-	-	4 2.4	2 1.2	-	1 0.6	-
		無回答	47 100.0	5 10.6	2 4.3	-	-	-	1 2.1	-	-	4 8.5	2 4.3	-	-	-
	男性	18～29歳	94 100.0	4 4.3	3 3.2	-	-	-	2 2.1	-	1 1.1	2 2.1	6 6.4	-	4 4.3	1 1.1
		30～39歳	91 100.0	5 5.5	4 4.4	1 1.1	1 1.1	-	5 5.5	-	1 1.1	1 1.1	1 1.1	-	2 2.2	1 1.1
		40～49歳	110 100.0	5 4.5	9 8.2	-	1 0.9	-	1 0.9	-	-	3 2.7	4 3.6	-	2 1.8	-
		50～59歳	70 100.0	2 2.9	3 4.3	1 1.4	3 4.3	-	1 1.4	-	-	-	1 1.4	-	1 1.4	-
		60～69歳	152 100.0	-	6 3.9	4 2.6	2 1.3	-	4 2.6	-	-	1 0.7	5 3.3	-	2 1.3	1 0.7
		70歳以上	10 100.0	1 10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		無回答	10 100.0	1 10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		※参考値	100.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		特に は受けた こと	その他	無 回答
全体		769 59.0	18 1.4	203 15.6
性別	女性	397 54.5	12 1.6	130 17.8
	男性	365 64.7	6 1.1	71 12.6
	無回答	7	-	2
	※参考値	70.0	-	20.0
性・年代別	女性	18～29歳	33 44.6	1 1.4
		30～39歳	44 44.0	2 2.0
		40～49歳	81 53.6	2 1.3
		50～59歳	61 51.3	5 4.2
		60～69歳	62 52.5	1 0.8
		70歳以上	116 69.5	1 0.6
	男性	18～29歳	27 57.4	1 2.1
		30～39歳	59 62.8	1 1.1
		40～49歳	57 62.6	2 2.2
		50～59歳	71 64.5	1 0.9
		60～69歳	47 67.1	-
		70歳以上	104 68.4	1 0.7
	無回答	7	-	2
	※参考値	70.0	-	20.0

図表 16 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと
(男女別・年代別)【主なもの】

○男女別の傾向

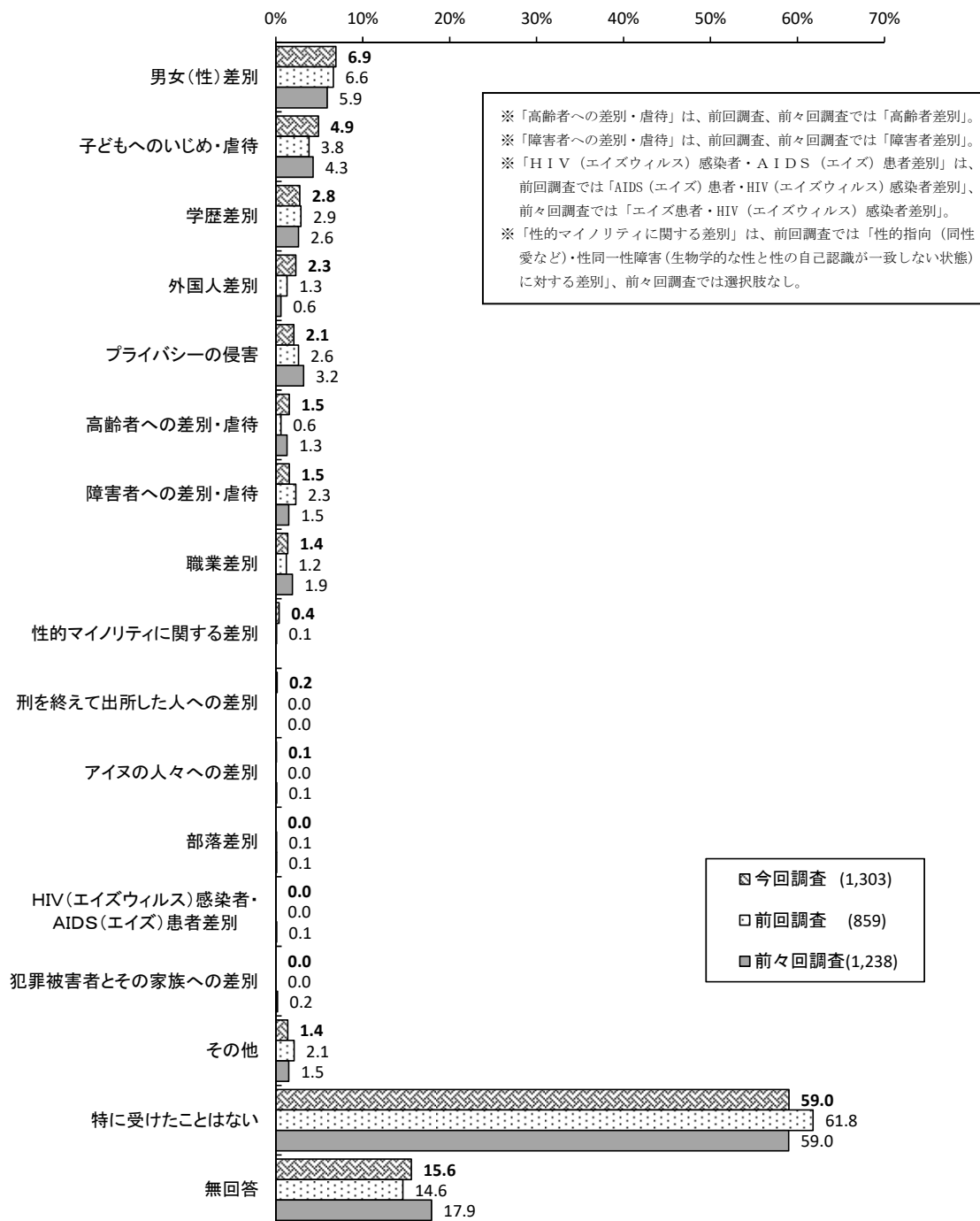
女性の「男女（性）差別」は9.3%であり、男性を5ポイント上回っています。一方、男性の「特に受けたことはない」は64.7%であり、女性を10ポイント上回っています。

○男女・年代別の傾向

女性の「特に受けたことはない」の割合は18～29歳と30～39歳で4割強、40～49歳と50～59歳と60～69歳で5割強、70歳以上でほぼ7割となっています。

男性の「特に受けたことはない」の割合は、30～39歳から70歳以上にかけて6割台となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較

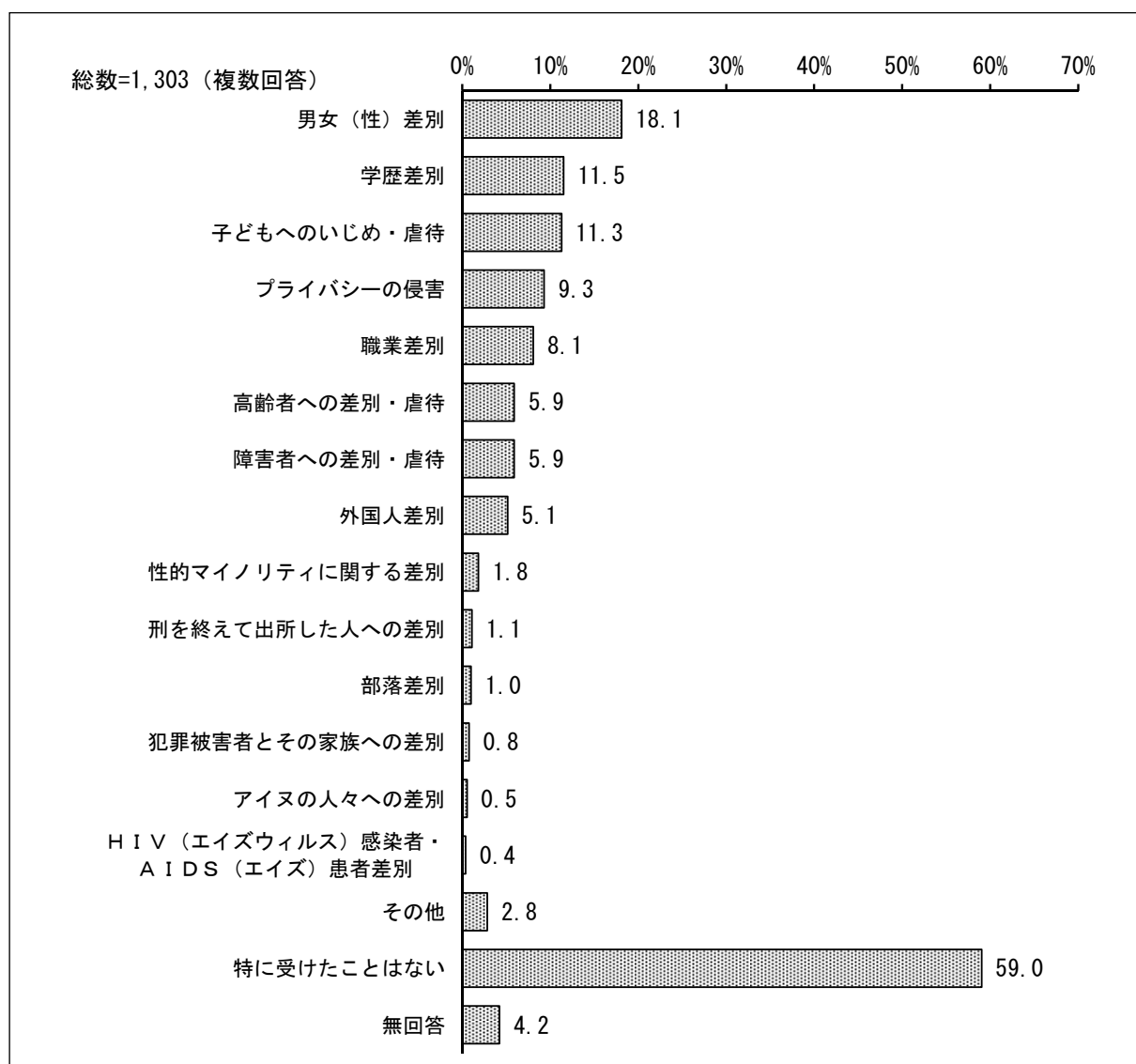


図表 17 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【主なもの】《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「特に受けたことはない」が6割前後を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

(2) すべて



図表 18 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【すべて】

○全体の傾向

「男女（性）差別」が18.1%で最も多く、「学歴差別」（11.5%）、「子どもへのいじめ・虐待」（11.3%）が続きます。

一方、「特に受けたことはない」という回答が59.0%と過半数を占めています。

		全体	男女（性） 差別	子どもへのいじめ・虐待	高齢者への差別・虐待	障害者への差別・虐待	部落差別	アイヌの人々への差別	外国人差別	HIV（エイズウイルス）感染者・AIDS（エイズ）患者差別	刑を終えて出所した人への差別	プライバシーの侵害	学歴差別	犯罪被害者とその家族への差別	職業差別	性的マイノリティに関する差別
全体		1,303 100.0	236 18.1	147 11.3	77 5.9	77 5.9	13 1.0	7 0.5	67 5.1	5 0.4	14 1.1	121 9.3	150 11.5	10 0.8	105 8.1	24 1.8
性別	女性	729 100.0	177 24.3	83 11.4	51 7.0	51 7.0	7 1.0	3 0.4	42 5.8	2 0.3	7 1.0	80 11.0	96 13.2	3 0.4	62 8.5	13 1.8
	男性	564 100.0	58 10.3	64 11.3	26 4.6	26 4.6	6 1.1	4 0.7	25 4.4	3 0.5	7 1.2	41 7.3	54 9.6	7 1.2	43 7.6	11 2.0
	無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		74 100.0	23 31.1	10 13.5	4 5.4	3 4.1	1 1.4	-	5 6.8	-	1 1.4	18 24.3	15 20.3	-	9 12.2	3 4.1
性・年代別	女性	18～29歳	100 100.0	35 31.1	15 13.5	5 5.4	5 4.1	1 1.4	-	11 6.8	-	11 11.0	21 21.0	-	20 20.0	2 2.0
		30～39歳	100 100.0	35 35.0	15 15.0	5 5.0	5 5.0	1 1.0	-	11 11.0	-	11 11.0	21 21.0	-	20 20.0	2 2.0
		40～49歳	151 100.0	38 25.2	19 12.6	6 4.0	14 9.3	2 1.3	1 0.7	12 7.9	-	1 0.7	16 16.6	1 0.7	15 9.9	3 2.0
		50～59歳	119 100.0	34 28.6	16 13.4	12 10.1	10 8.4	1 0.8	1 0.8	8 6.7	1 0.8	2 1.7	15 13.4	1 0.8	7 5.9	2 1.7
		60～69歳	118 100.0	31 26.3	13 11.0	12 10.2	6 5.1	1 0.8	-	6 5.1	1 0.8	2 1.7	10 8.5	1 0.8	7 5.9	3 2.5
		70歳以上	167 100.0	16 9.6	10 6.0	12 7.2	13 7.8	1 0.6	1 0.6	-	1 0.6	1 6.0	6 3.6	-	4 2.4	-
		無回答 ※参考値	47 100.0	9 19.1	5 10.6	1 2.1	2 4.3	-	3 6.4	-	-	6 12.8	7 14.9	-	3 6.4	2 4.3
	男性	18～29歳	94 100.0	13 13.8	6 6.4	4 4.3	4 4.3	1 1.1	1 1.1	4 4.3	-	1 1.1	5 5.3	-	9 9.6	3 3.2
		30～39歳	100 100.0	13 13.0	6 6.0	4 4.0	4 4.0	1 1.0	1 1.0	4 4.0	-	1 1.0	5 5.0	-	9 9.0	3 3.0
		40～49歳	91 100.0	10 11.0	11 12.1	4 4.4	2 2.2	-	6 6.6	1 1.1	1 1.1	6 6.6	4 4.4	2 2.2	7 7.7	1 1.1
		50～59歳	110 100.0	14 12.7	19 17.3	2 1.8	6 5.5	2 1.8	5 4.5	-	1 0.9	14 12.7	12 10.9	-	12 10.9	-
		60～69歳	70 100.0	9 12.9	11 15.7	5 7.1	6 8.6	1 1.4	-	1 1.4	-	1 2.9	2 5.7	1 1.4	3 4.3	3 4.3
		70歳以上	152 100.0	3 2.0	12 7.9	10 6.6	6 3.9	2 1.3	1 0.7	6 3.9	2 1.3	3 2.0	8 9.9	15 2.6	9 5.9	2 1.3
		無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		特には受けたこと	その他	無回答
全体		769 59.0	37 2.8	55 4.2
性別	女性	397 54.5	28 3.8	26 3.6
	男性	365 64.7	9 1.6	27 4.8
	無回答 ※参考値	7 70.0	-	2 20.0
		33 44.6	3 4.1	3 4.1
性・年代別	女性	18～29歳	44 44.0	5 5.0
		30～39歳	81 53.6	4 2.6
		40～49歳	61 51.3	7 5.9
		50～59歳	62 52.5	7 5.9
		60～69歳	116 69.5	2 1.2
		70歳以上	27 57.4	1 2.1
		無回答 ※参考値	59 62.8	3 3.2
	男性	18～29歳	57 62.6	2 2.2
		30～39歳	71 64.5	2 1.8
		40～49歳	47 67.1	-
		50～59歳	104 68.4	1 0.7
		60～69歳	152 70.0	4 2.0
		70歳以上	7 7.0	-
		無回答 ※参考値	7 70.0	2 20.0

図表 19 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと
（男女別・年代別）【すべて】

○男女別の傾向

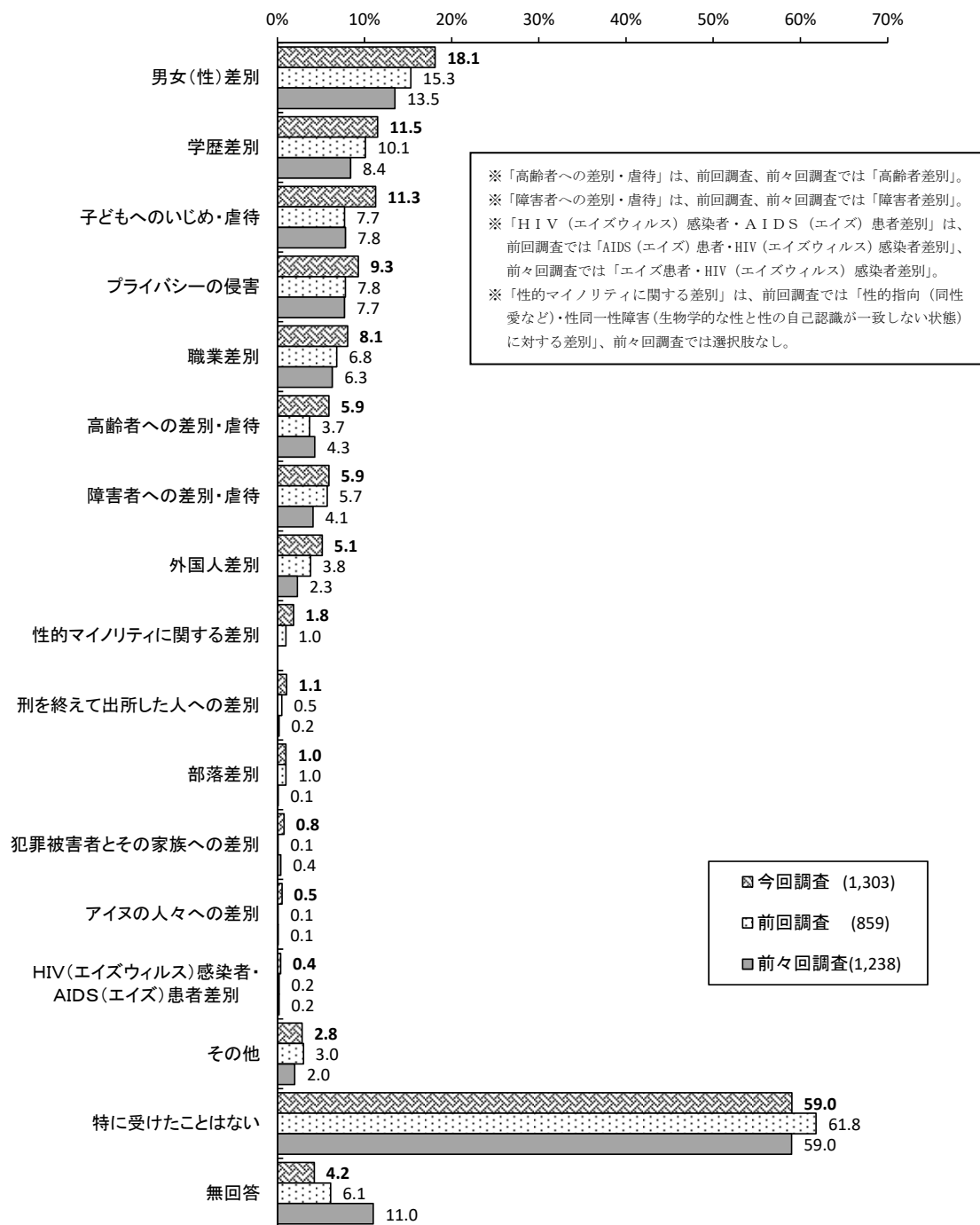
女性の「男女（性）差別」は24.3%であり、男性を14ポイント上回っています。一方、男性の「特に受けたことはない」は64.7%であり、女性を10ポイント上回っています。

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と30～39歳では「男女（性）差別」が3割強、「学歴差別」が2割強であり、女性回答者全体の割合を6ポイント以上上回っています。このほか、18～29歳では「プライバシーの侵害」が24.3%、30～39歳では「職業差別」が20.0%、「外国人差別」が11.0%であり、いずれも女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。

男性では、50～59歳で「子どもへのいじめ・虐待」が17.3%であり、男性回答者全体の割合を6ポイント上回っているほか、「プライバシーの侵害」が12.7%であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 20 自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたこと【すべて】《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

「男女（性）差別」「学歴差別」「プライバシーの侵害」など多くの項目について、前々回調査から今回調査にかけて割合が増加を続けていますが、今回調査・前回調査・前々回調査とも「特に受けたことはない」が6割前後を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問 4-1 最もひどい人権侵害のケース

問 4 で「1」～「14」「16」を選択された方（「人権」が侵害されたと感じたことがあるとお答えの方）にうかがいます。

最もひどい人権侵害のケースについて、内容を具体的に記入してください。

これまでに自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたことがあったと回答した人に対して、その具体的な内容を聞いたところ、311 人から回答がありました。いただいた回答を分類すると、次のとおりとなります。

なお、1 人の回答者が複数の内容を記入している場合、それぞれの区分で計上しているため、件数の合計は回答者数を上回っています。

I 職場・就職での差別…………… 107 件

分 類	件数
1 職場・就職時の男女差別（昇進、昇給、給与、待遇や仕事内容等）	58
2 職場における待遇の格差（男女差別を除く）	12
3 仕事の上での学歴差別	10
4 上司等からのいじめ、パワー・ハラスメント	10
5 職業差別	8
6 就職活動中の差別（男女差別を除く）	6
7 その他	4

II 教育やスポーツに関する差別、いじめ…………… 66 件

分 類	件数
1 学校でのいじめ・差別（子ども同士、教師から）	55
2 仕事以外での学歴差別	9
3 スポーツクラブでのいじめ・差別	2

III 障害者、高齢者、病人、外国人等への差別…………… 62 件

分 類	件数
1 外国人差別（海外における日本人差別も含む）	20
2 障害者・障害児などへの差別	11
3 高齢者差別	10
4 親からの虐待	8
5 病院等における病人に対する差別	5
6 母子家庭、ひとり親への差別	1
7 性的マイノリティへの差別	1
8 その他	6

IV 男女差別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43件

分 類	件数
1 職場・就職時以外の男女差別	31
2 セクシュアル・ハラスメント	7
3 ドメスティック・バイオレンス、ストーカー	4
4 未婚であることに対する差別	1

V 暴言、脅迫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12件

分 類	件数
1 暴言、脅迫、誹謗中傷	10
2 悪質な噂の流布	2

VI 個人情報、プライバシー等・・・・・・・・・・・・・・・・ 11件

分 類	件数
1 必要以上にプライバシーに関わることを聞かれる、監視される	7
2 個人情報の流出	4

VII 公的な機関による人権侵害・・・・・・・・・・・・・・・・ 4件

分 類	件数
1 警察、行政の対応	4

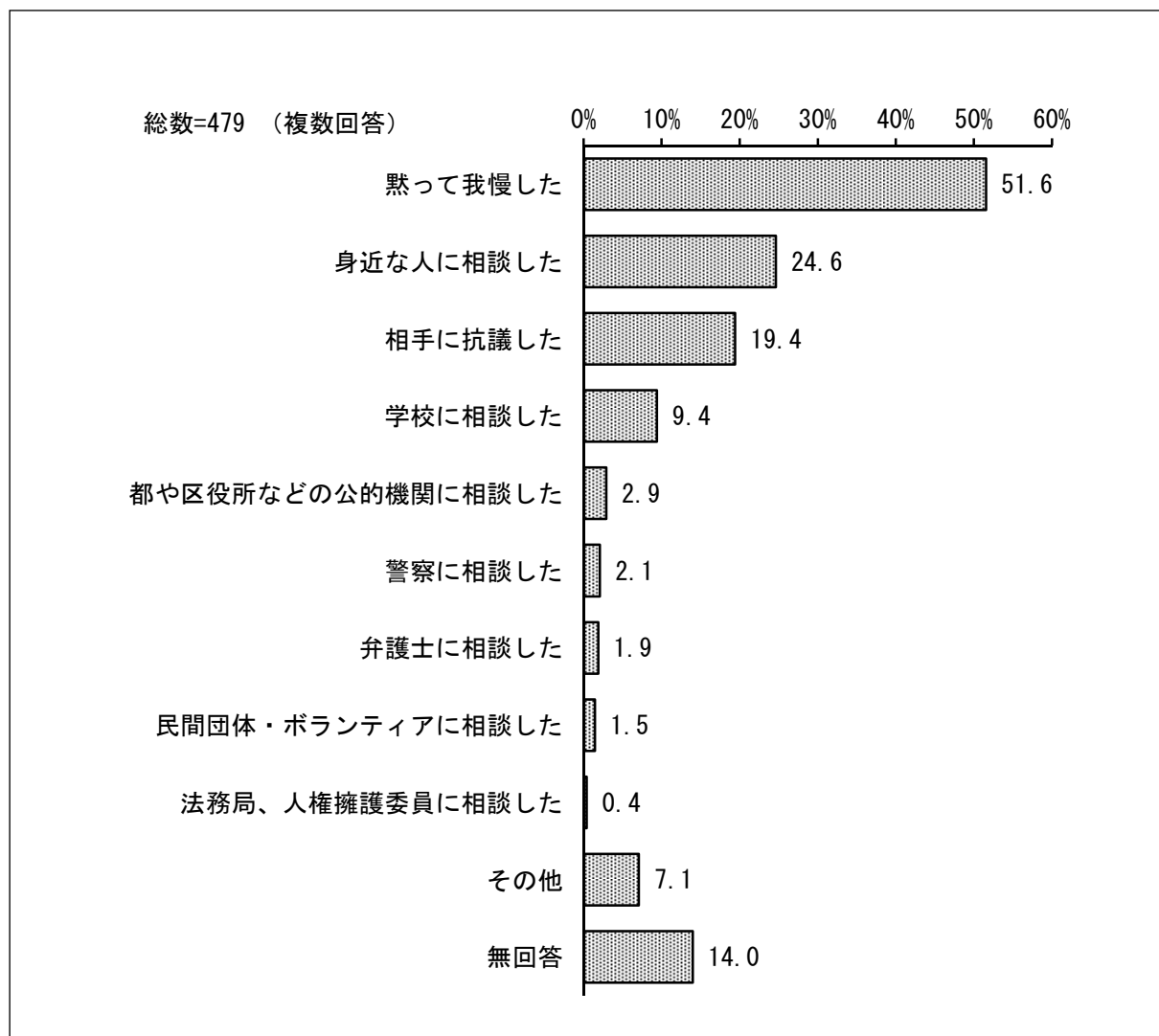
VIII その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13件

分 類	件数
1 その他	13

問 4-2 最もひどい人権侵害への対応

問 4 で「1」～「14」「16」を選択された方（「人権」が侵害されたと感じたことがあるとお答えの方）にうかがいます。

では、最もひどい人権侵害に対して、どのように対応しましたか。（〇はいくつでも）



図表 21 最もひどい人権侵害への対応

○全体の傾向

人権が侵害されたと感じたことがあると回答した人に対して、その際の対応方法を聞いたところ、具体的な対応として「身近な人に相談した」が 24.6%で最も多く、「相手に抗議した」(19.4%)、「学校に相談した」(9.4%)が続きます。

一方、「黙って我慢した」という回答が 51.6%と過半数を占めています。

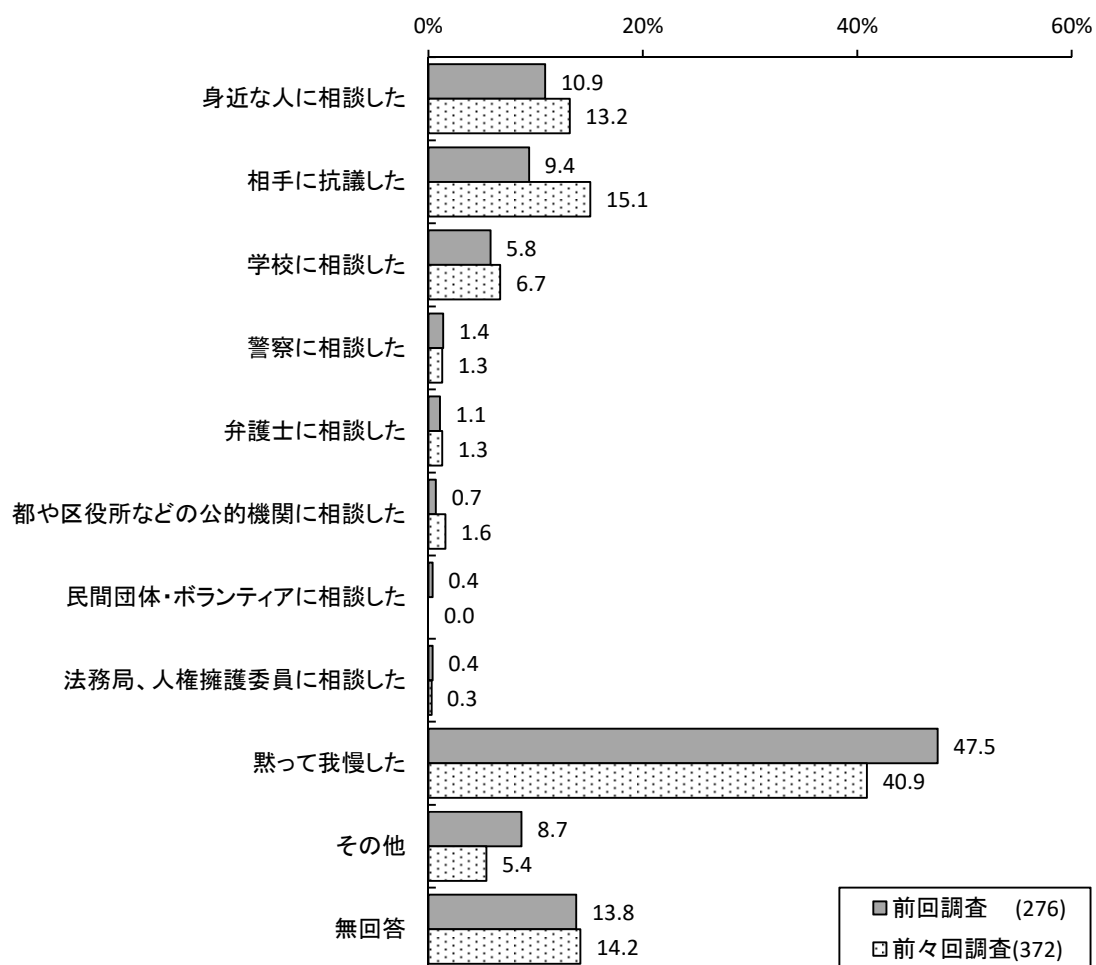
		全体	相手に抗議した	身近な人に相談した	警察に相談した	都や区役所などの公的機関に相談した	民間団体・ボランティアに相談した	学校に相談した	弁護士に相談した	法務局、人権擁護委員に相談した	黙って我慢した	その他	無回答	
全体		479 100.0	93 19.4	118 24.6	10 2.1	14 2.9	7 1.5	45 9.4	9 1.9	2 0.4	247 51.6	34 7.1	67 14.0	
性別	女性	306 100.0	66 21.6	93 30.4	6 2.0	7 2.3	5 1.6	30 9.8	5 1.6	2 0.7	164 53.6	23 7.5	35 11.4	
	男性	172 100.0	27 15.7	25 14.5	4 2.3	7 4.1	2 1.2	15 8.7	4 2.3	-	83 48.3	11 6.4	31 18.0	
	無回答	1 ※参考値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	
	※参考値	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳 ※参考値	38 100.0	6 15.8	19 50.0	-	-	-	4 10.5	-	1 2.6	19 50.0	1 2.6	7 18.4
		30～39歳	52 100.0	15 28.8	22 42.3	2 3.8	2 3.8	2 3.8	4 7.7	3 5.8	-	26 50.0	4 7.7	3 5.8
		40～49歳	68 100.0	19 27.9	26 38.2	2 2.9	1 1.5	1 1.5	8 11.8	1 1.5	-	39 57.4	4 5.9	4 5.9
		50～59歳	56 100.0	10 17.9	13 23.2	1 1.8	2 3.6	2 3.6	6 10.7	-	1 1.8	29 51.8	7 12.5	6 10.7
		60～69歳	54 100.0	8 14.8	7 13.0	-	1 1.9	-	6 11.1	-	-	32 59.3	6 11.1	8 14.8
		70歳以上 ※参考値	38 100.0	8 21.1	6 15.8	1 2.6	1 2.6	-	2 5.3	1 2.6	-	19 50.0	1 2.6	7 18.4
		※参考値	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性	18～29歳 ※参考値	18 100.0	3 16.7	3 16.7	2 11.1	-	-	-	-	-	11 61.1	1 5.6	2 11.1
		30～39歳 ※参考値	32 100.0	7 21.9	5 15.6	1 3.1	1 3.1	-	-	1 3.1	-	16 50.0	4 12.5	5 15.6
		40～49歳 ※参考値	30 100.0	5 16.7	5 16.7	-	1 3.3	1 3.3	3 10.0	1 3.3	-	16 53.3	-	3 10.0
		50～59歳 ※参考値	37 100.0	6 16.2	6 16.2	1 2.7	2 5.4	-	6 16.2	2 5.4	-	18 48.6	3 8.1	6 16.2
		60～69歳 ※参考値	22 100.0	2 9.1	2 9.1	-	1 4.5	-	4 18.2	-	-	12 54.5	-	4 18.2
		70歳以上 ※参考値	33 100.0	4 12.1	4 12.1	-	2 6.1	1 3.0	2 6.1	-	-	10 30.3	3 9.1	11 33.3
		※参考値	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1 ※参考値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0

図表 22 最もひどい人権侵害への対応（男女別・年代別）

○男女別の傾向

女性の「身近な人に相談した」は 30.4%であり、男性を 15 ポイント上回っています。また、女性の「黙って我慢した」は 53.6%、「相手に抗議した」は 21.6%であり、いずれも男性を 5 ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



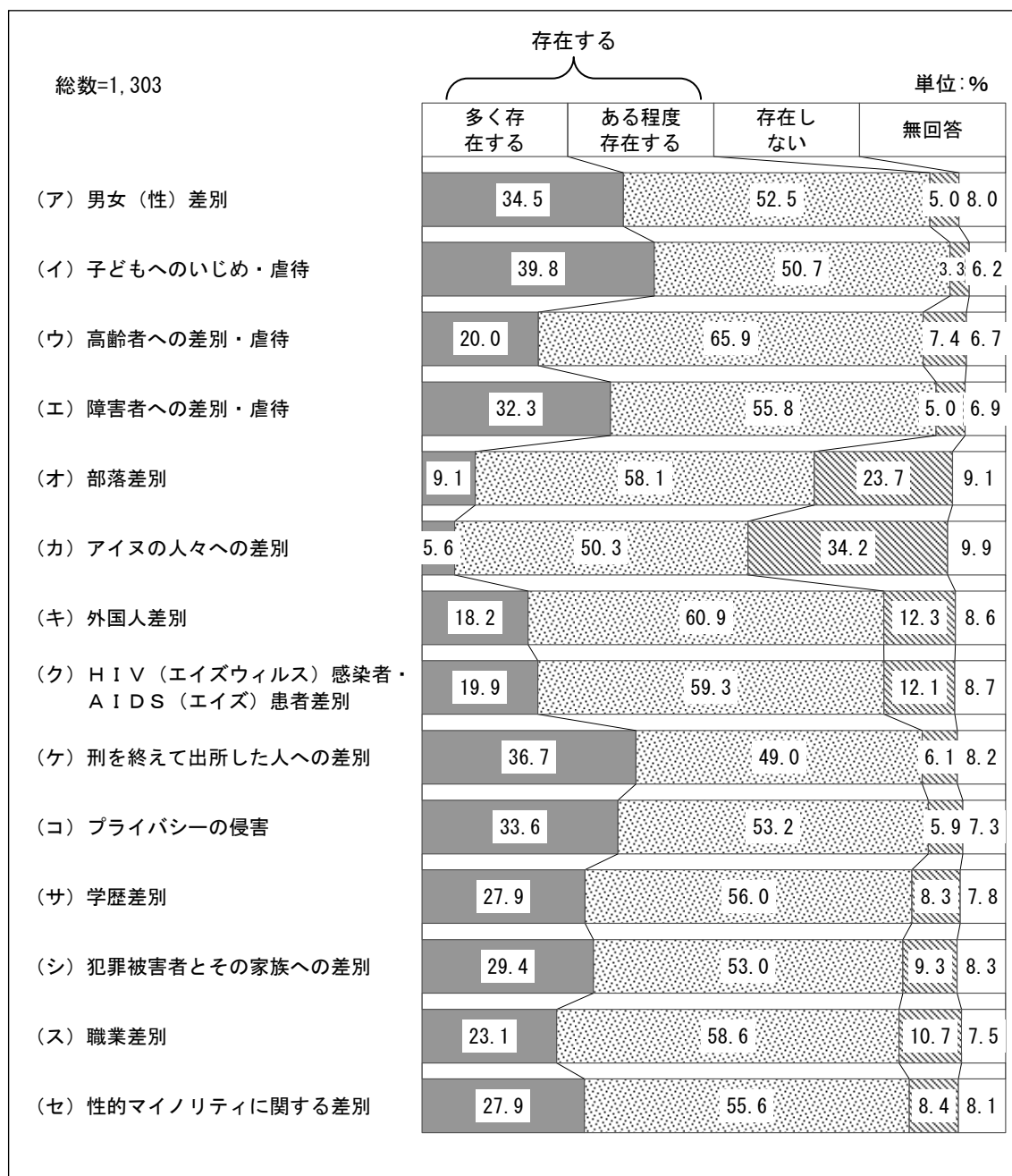
※単数回答。

図表 23 最もひどい人権侵害への対応《前回調査・前々回調査結果》

●前回調査・前々回調査とも本設問は単数回答方式で調査したため、参考掲載します。

問5 現在の社会に存在する人権侵害

あなたは、現在の社会で、次のような差別や人権侵害が存在すると思いますか。(ア)～(セ)の各項目についてお答えください。(ア～セのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



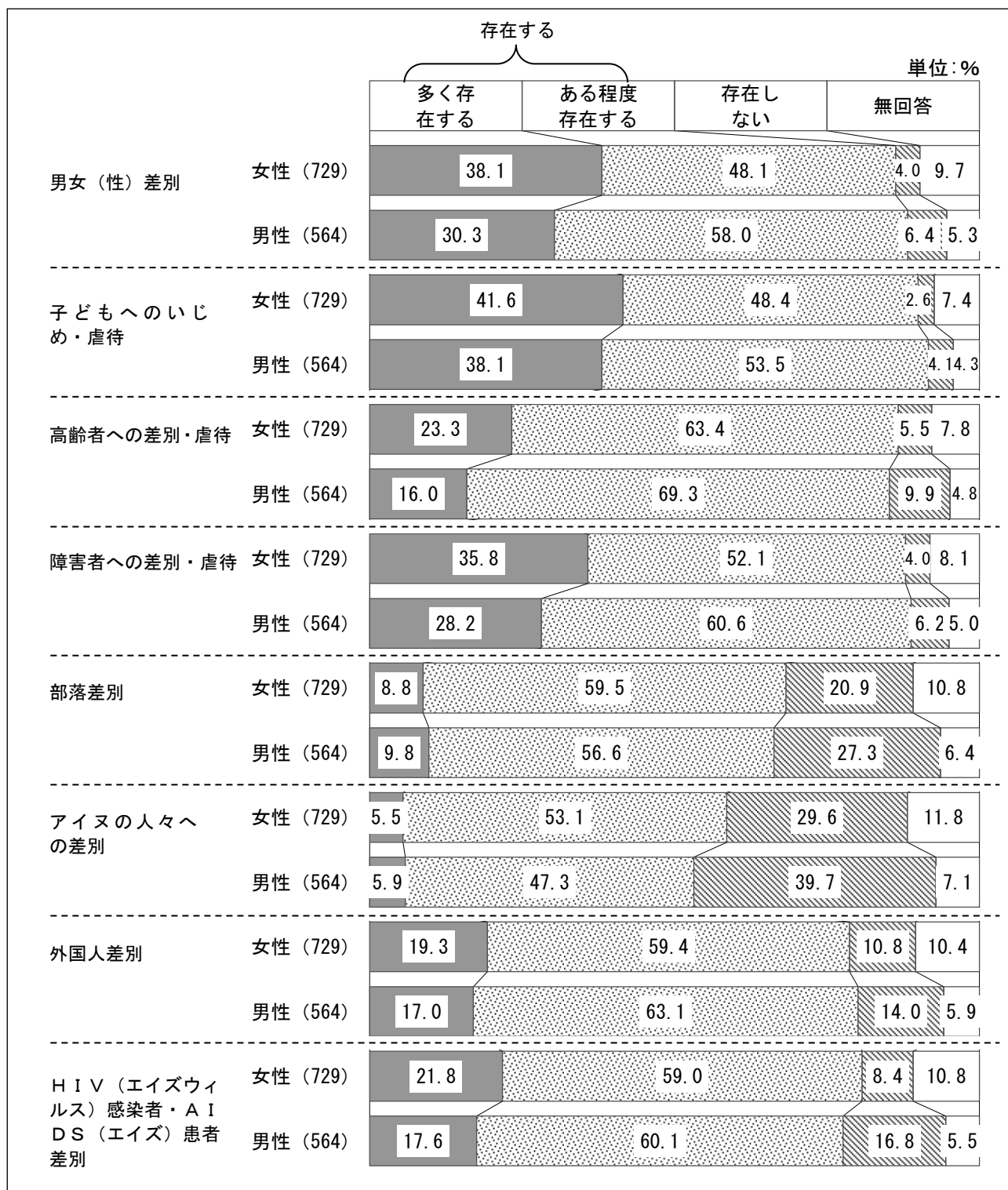
図表 24 現在の社会に存在する人権侵害

○全体の傾向

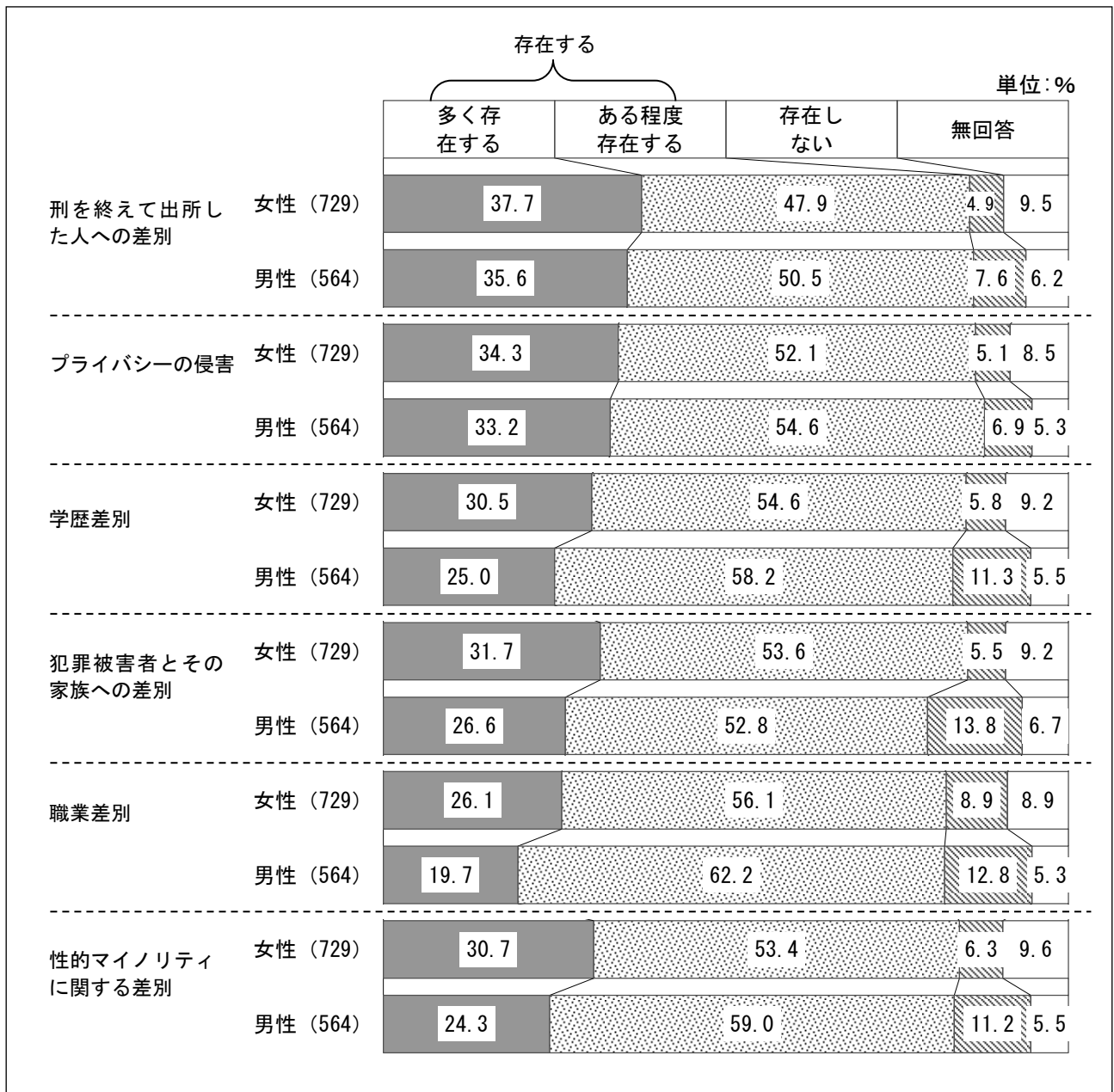
現在の社会に存在する人権侵害について、『子どもへのいじめ・虐待』(39.8%)、『刑を終えて出所した人への差別』(36.7%)、『男女(性)差別』(34.5%)、『プライバシーの侵害』

(33.6%)、『障害者への差別・虐待』(32.3%)では、「多く存在する」が3割台となっています。また、『部落差別』『アイヌの人々への差別』以外の項目では、“存在する（「多く存在する」と「ある程度存在する」の合計）”が7割以上を占めています。

一方、『部落差別』(67.2%)、『アイヌの人々への差別』(55.9%)では“存在する”が5割から6割台であり、「存在しない」という回答が2割から3割台となっています。



図表 25 現在の社会に存在する人権侵害（男女別）①



図表 26 現在の社会に存在する人権侵害（男女別）②

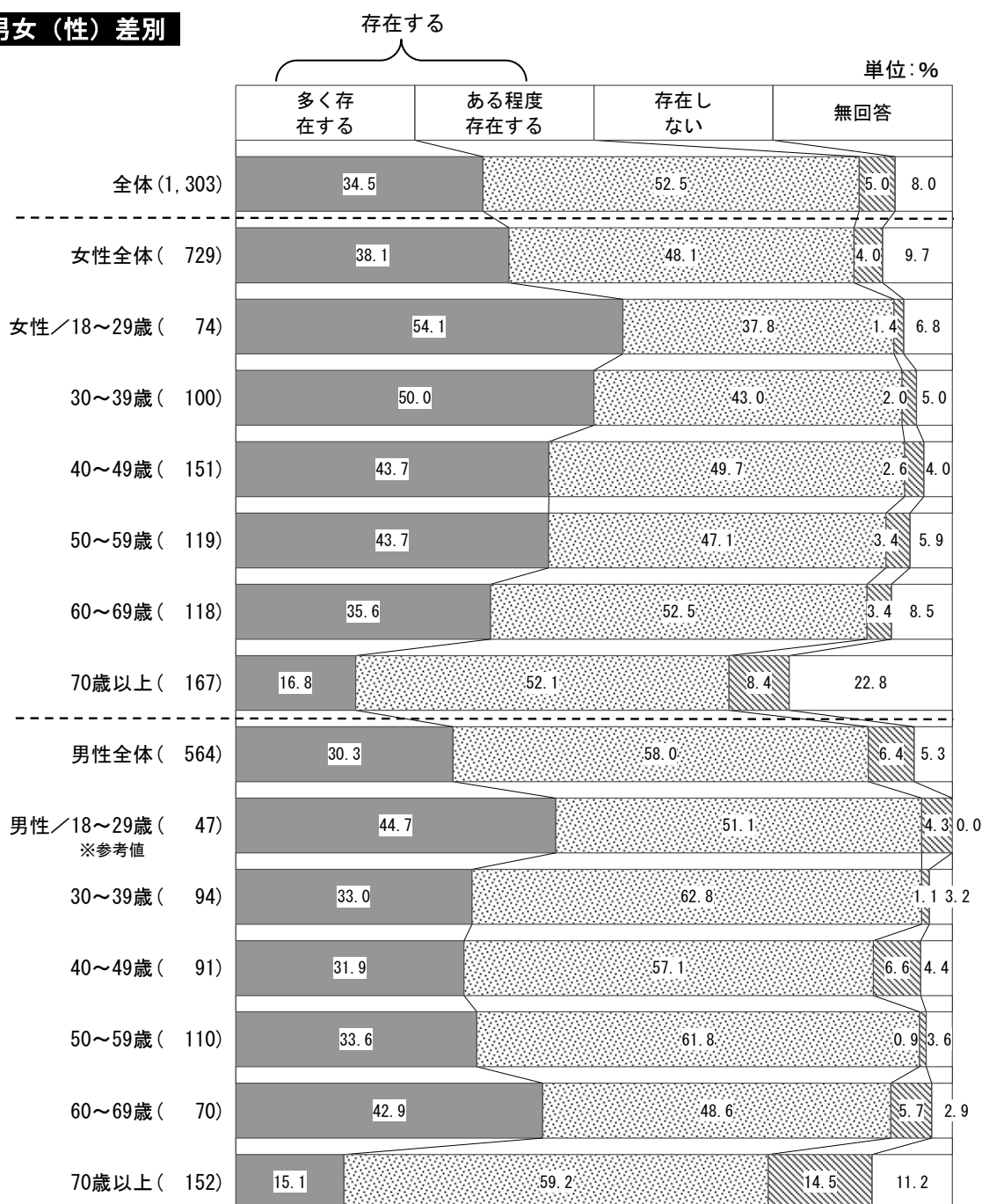
○男女別の傾向

『男女（性）差別』『高齢者への差別・虐待』『障害者への差別・虐待』『職業差別』『性的マイノリティに関する差別』については、女性の「多く存在する」の割合が男性を6ポイント以上上回っています。『学歴差別』については、女性の「多く存在する」の割合が男性を5ポイント上回る一方で、男性の「存在しない」の割合が女性を5ポイント上回っています。

『アイヌの人々への差別』『犯罪被害者とその家族への差別』については、女性の“存在する”の割合が男性を5ポイント上回っている一方で、男性の「存在しない」の割合が女性を8ポイント以上上回っています。

また、『部落差別』『HIV（エイズウィルス）感染者・AIDS（エイズ）患者差別』については、男性の「存在しない」の割合が女性を6ポイント上回っています。

(ア) 男女（性）差別



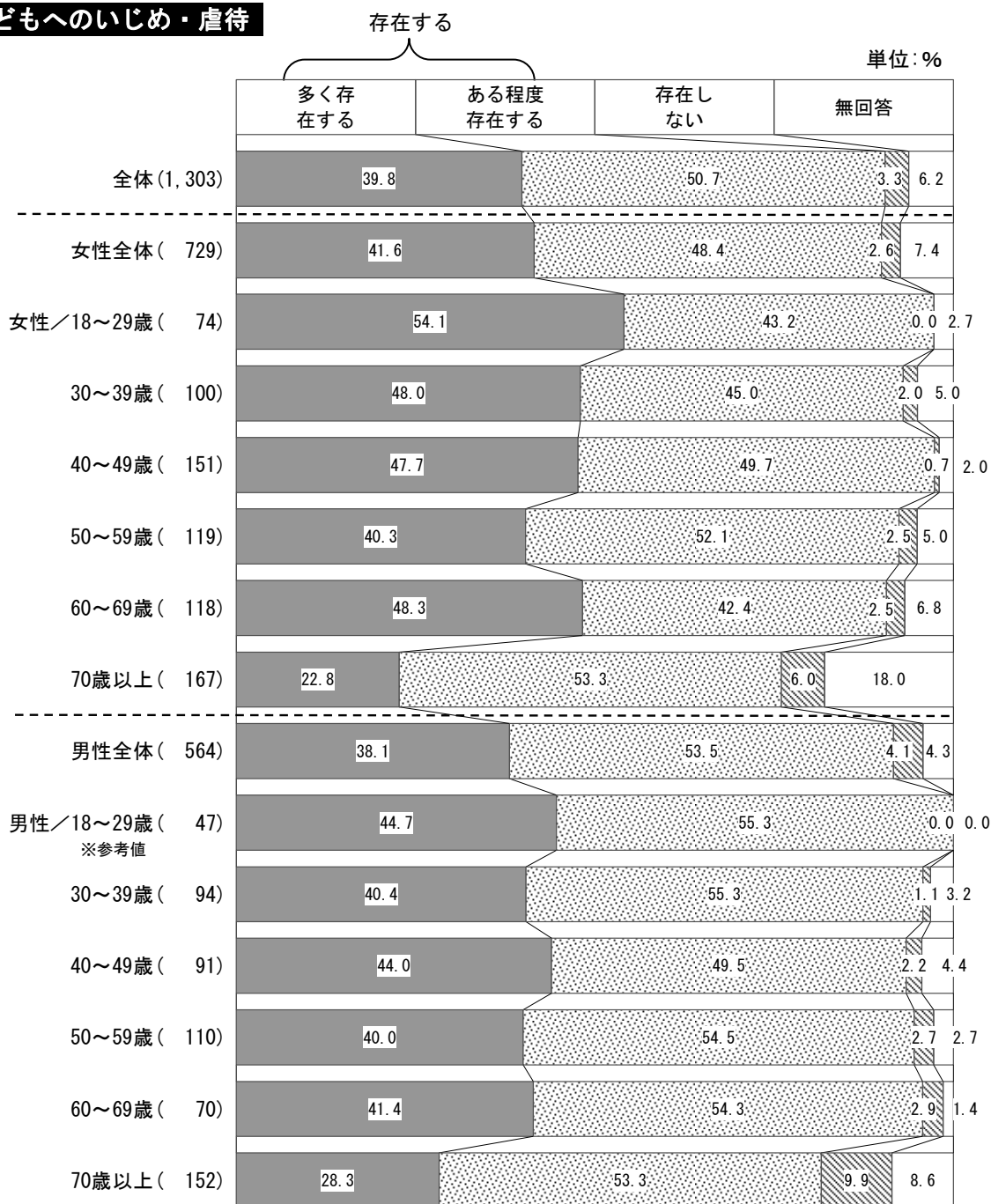
図表 27 現在の社会に存在する人権侵害『男女（性）差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と30～39歳では「多く存在する」が5割台であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、年代とともに減少する傾向があり、70歳以上では16.8%にとどまっています。

男女とも69歳以下では“存在する”が8割以上となっていますが、女性の70歳以上では68.9%、男性の70歳以上では74.3%となっています。また、男性の70歳以上では「存在しない」が14.5%となっています。

(イ) 子どもへのいじめ・虐待



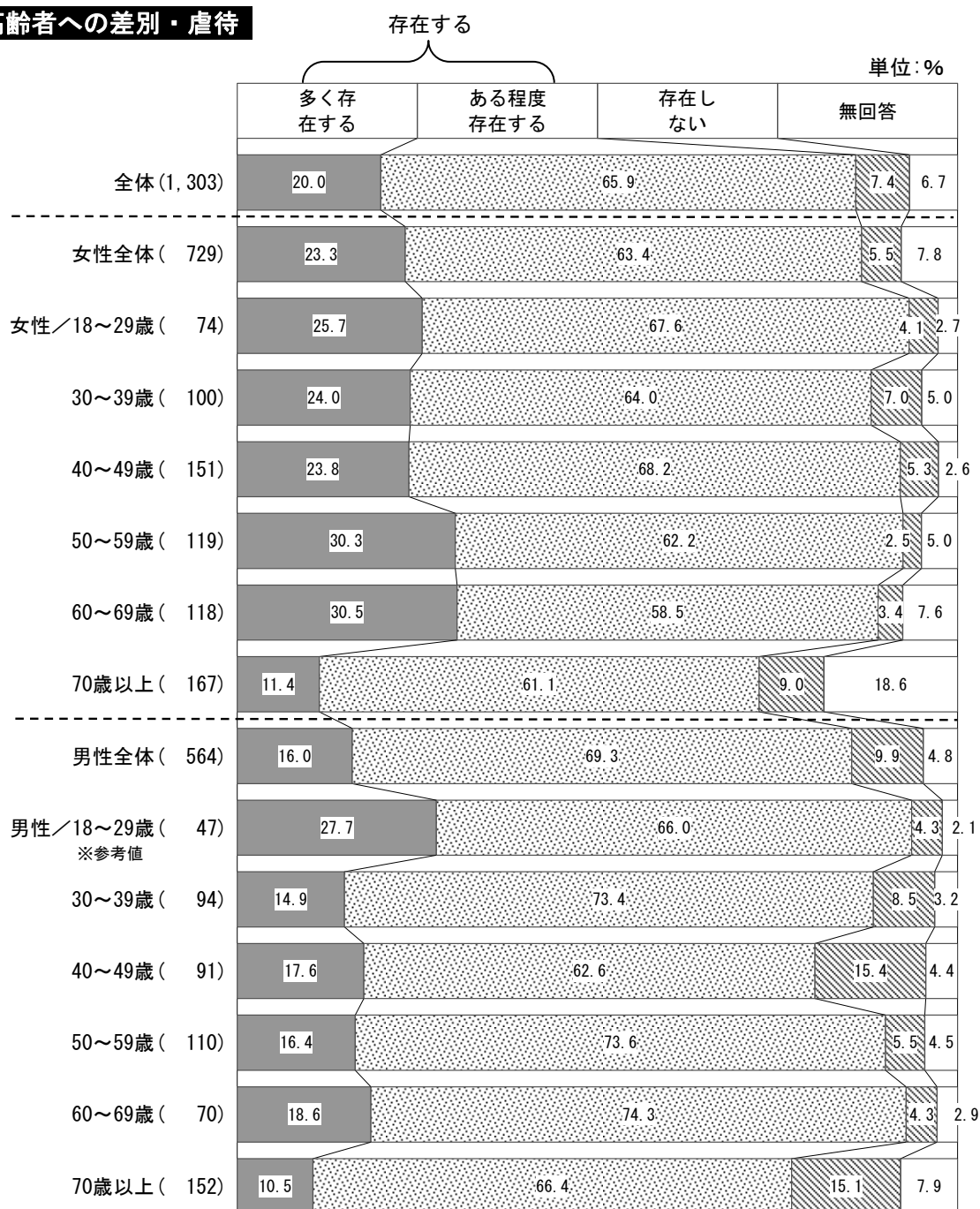
図表 28 現在の社会に存在する人権侵害『子どもへのいじめ・虐待』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では「多く存在する」が 54.1%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。

男女とも 69 歳以下では“存在する”が 9 割台となっていますが、女性の 70 歳以上では 76.1%、男性の 70 歳以上では 81.6%となっています。また、男性の 70 歳以上では「存在しない」が 9.9%となっています。

(ウ) 高齢者への差別・虐待



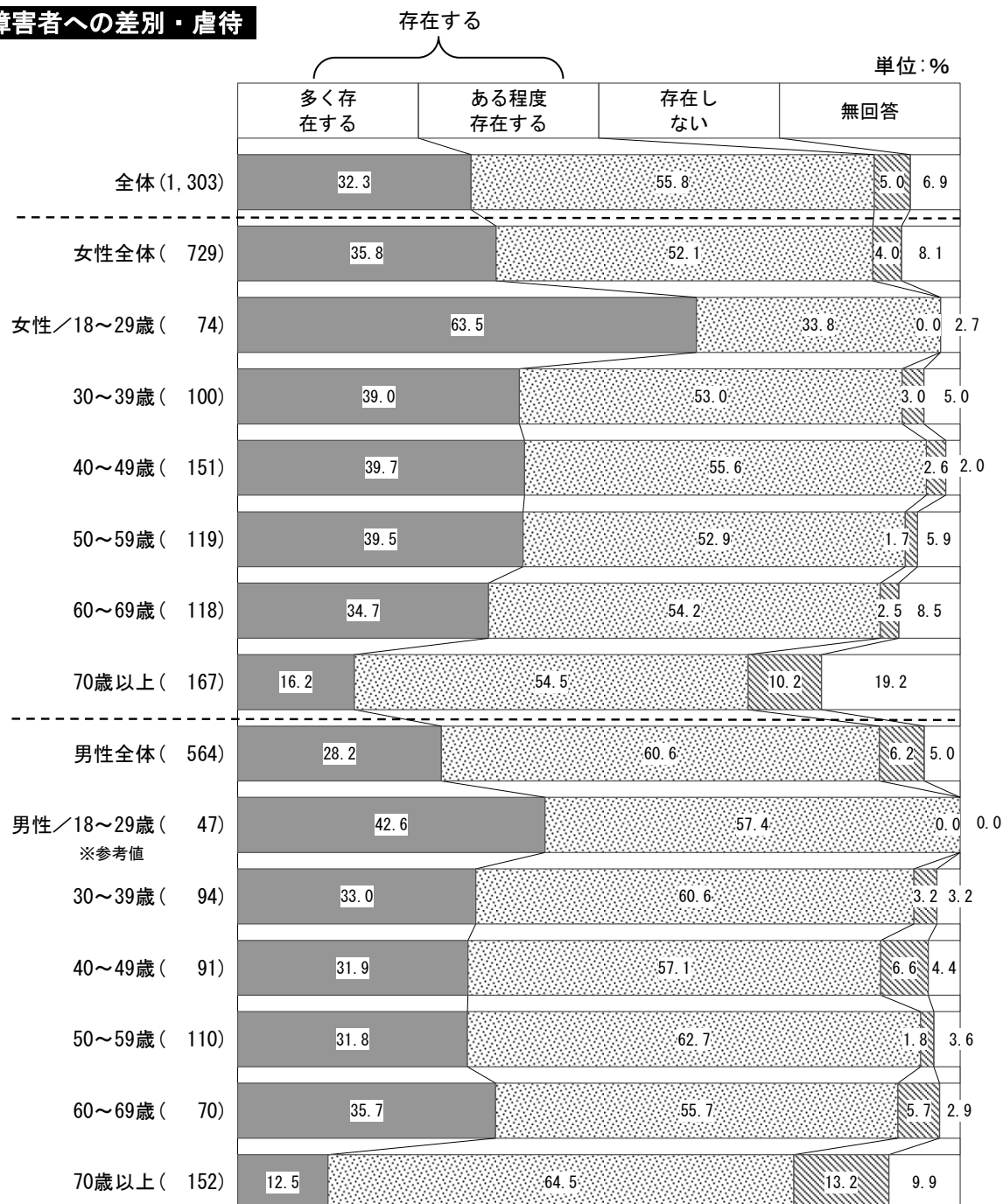
図表 29 現在の社会に存在する人権侵害『高齢者への差別・虐待』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳と 60～69 歳では「多く存在する」が 3 割強であり、女性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。

男女とも 69 歳以下では“存在する”が 8 割から 9 割台となっていますが、女性の 70 歳以上では 72.5%であるほか、男性の 40～49 歳と 70 歳以上では“存在する”が 8 割前後、「存在しない」が 1 割台半ばとなっています。

(エ) 障害者への差別・虐待



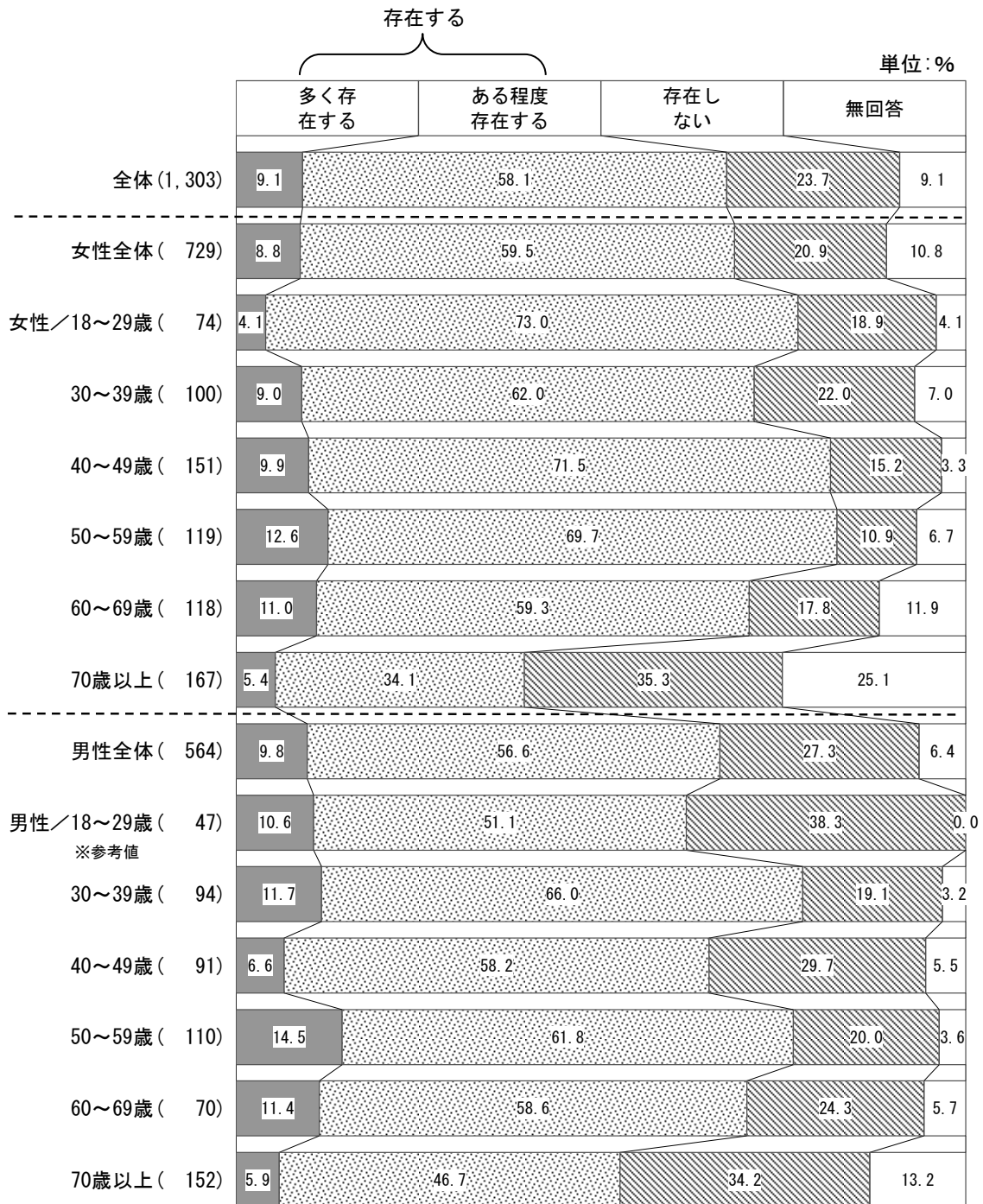
図表 30 現在の社会に存在する人権侵害『障害者への差別・虐待』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「多く存在する」が63.5%であり、他の年代を23ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、おおむね年代とともに減少する傾向があり、70歳以上では16.2%にとどまっています。

男女とも69歳以下では“存在する”がおおむね9割台となっていますが、女性の70歳以上では70.7%、男性の70歳以上では77.0%となっています。また、男女とも70歳以上では「存在しない」が1割強となっています。

(オ) 部落差別

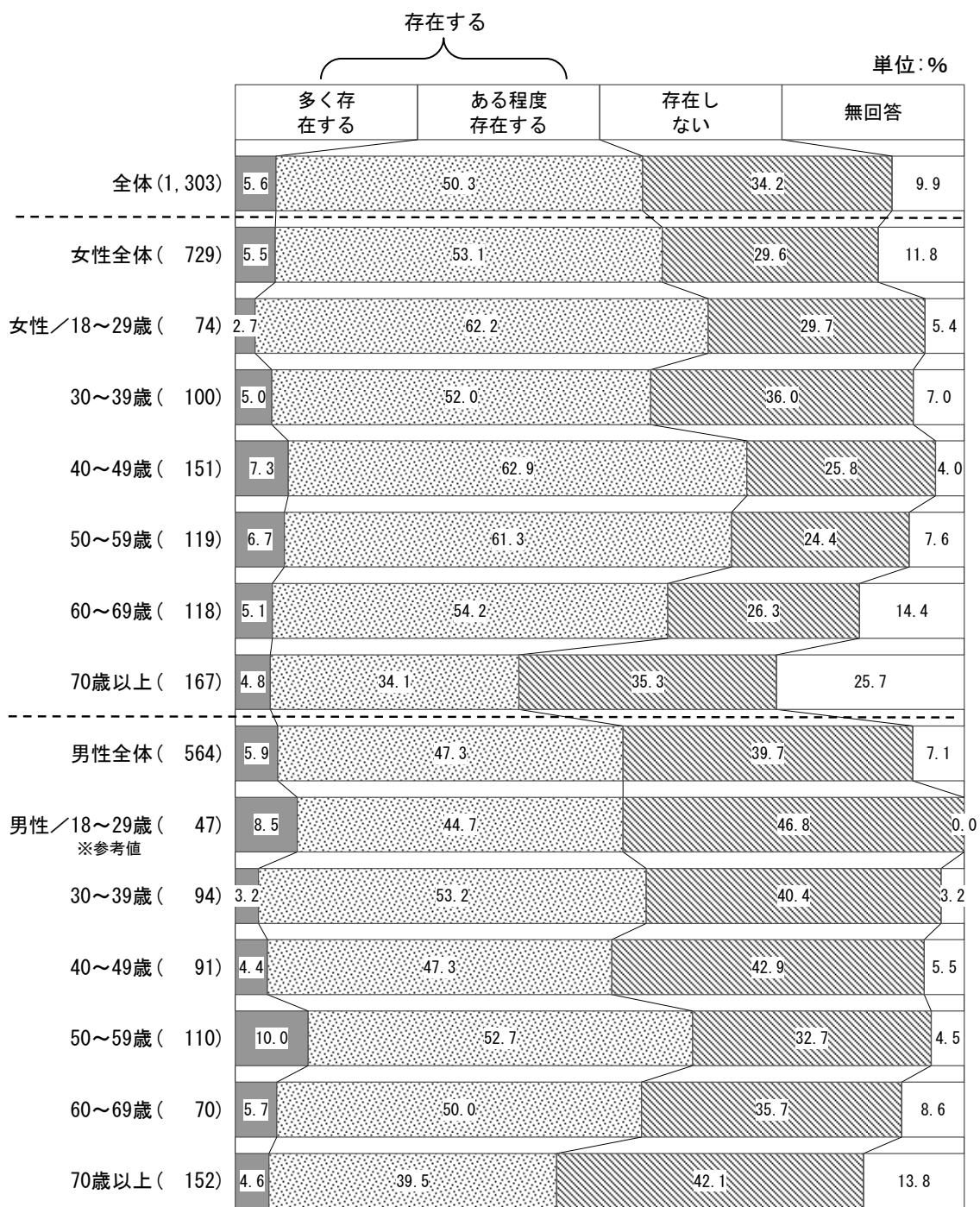


図表 31 現在の社会に存在する人権侵害『部落差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の69歳以下では“存在する”が7割以上、男性の69歳以下では6割以上となっていますが、女性の70歳以上では39.5%、男性の70歳以上では52.6%となっています。また、男女とも70歳以上では「存在しない」が3割台となっています。

(カ) アイヌの人々への差別

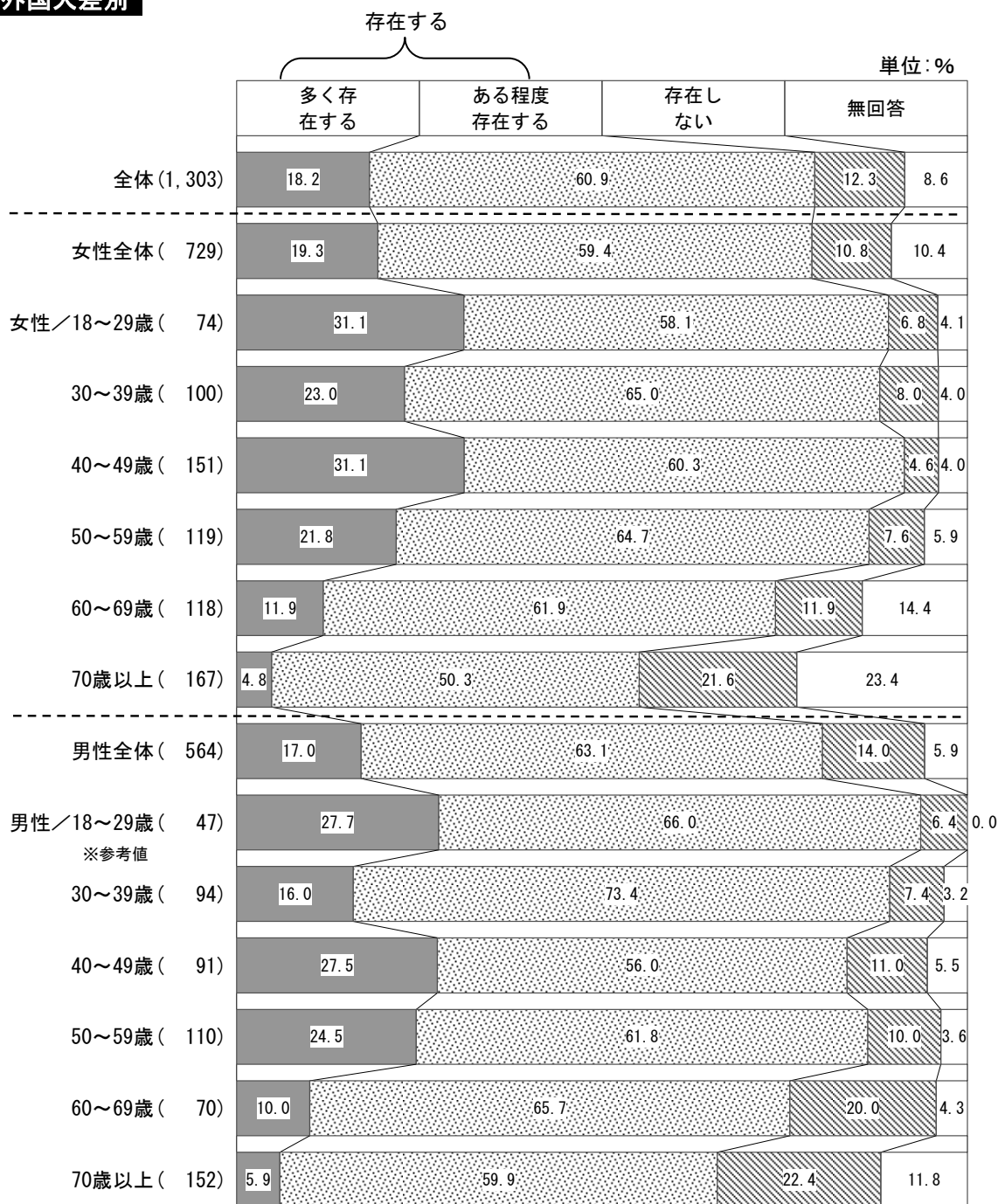


図表 32 現在の社会に存在する人権侵害『アイヌの人々への差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男女とも 69 歳以下では“存在する”が 5 割以上となっていますが、女性の 70 歳以上では 38.9%、男性の 70 歳以上では 44.1%となっています。「存在しない」は男女とも各年代で 2 ～ 4 割台となっています。

(キ) 外国人差別



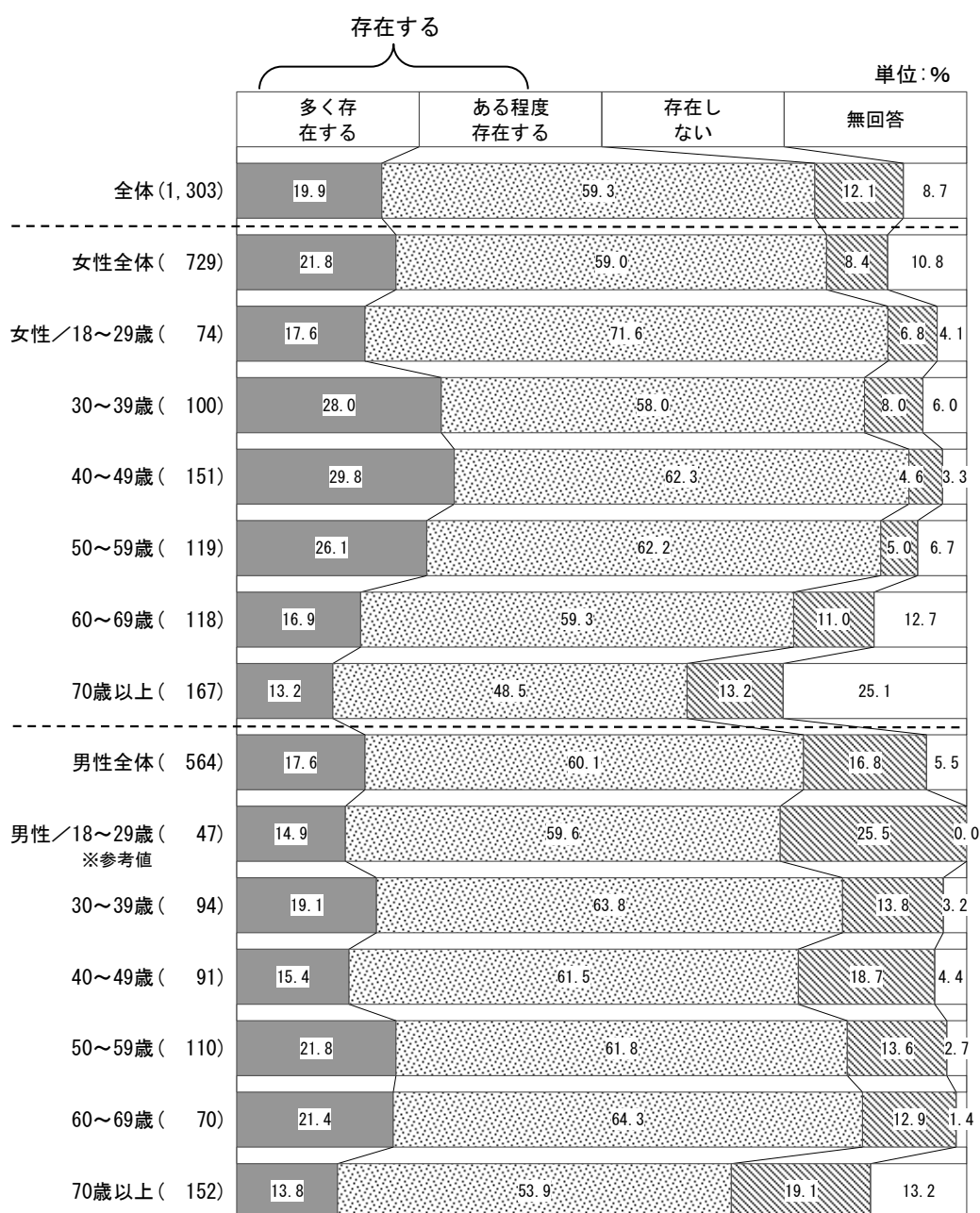
図表 33 現在の社会に存在する人権侵害『外国人差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と40～49歳では「多く存在する」が31.1%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

男女とも69歳以下では“存在する”が7割以上となっていますが、女性の70歳以上では55.1%、男性の70歳以上では65.8%となっています。また、男女の70歳以上では「存在しない」が2割強となっています。

(ク) HIV（エイズウイルス）感染者・AIDS（エイズ）患者差別



図表 34 現在の社会に存在する人権侵害

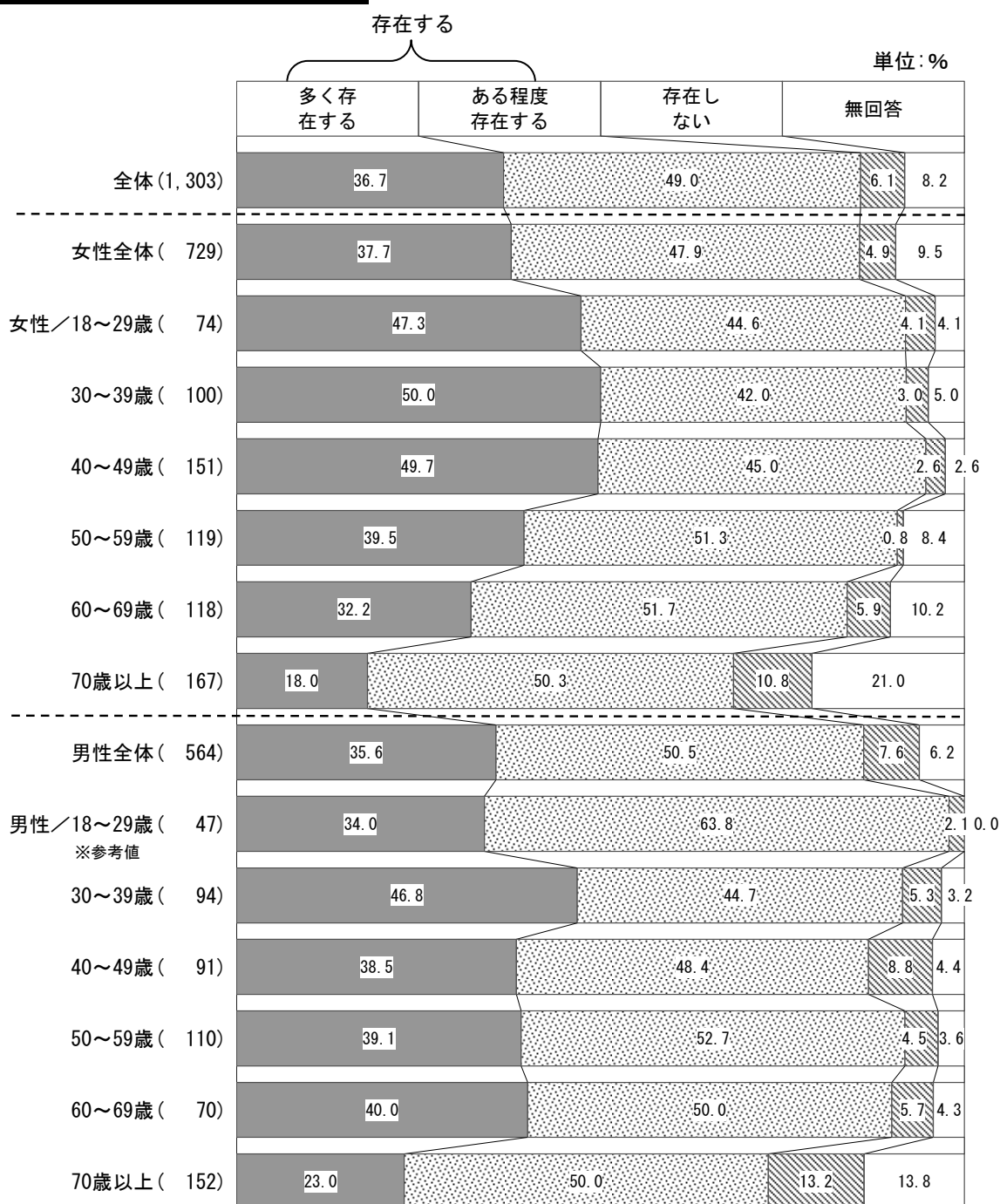
『HIV（エイズウイルス）感染者・AIDS（エイズ）患者差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の30～39歳と40～49歳、50～59歳では「多く存在する」が3割弱であり、30～39歳と40～49歳では女性回答者全体の割合を6ポイント以上上回っています。

男女とも69歳以下では“存在する”がおおむね8割以上となっていますが、70歳以上では6割台となっています。また、男性の40～49歳と70歳以上では「存在しない」が2割弱となっています。

（ケ）刑を終えて出所した人への差別



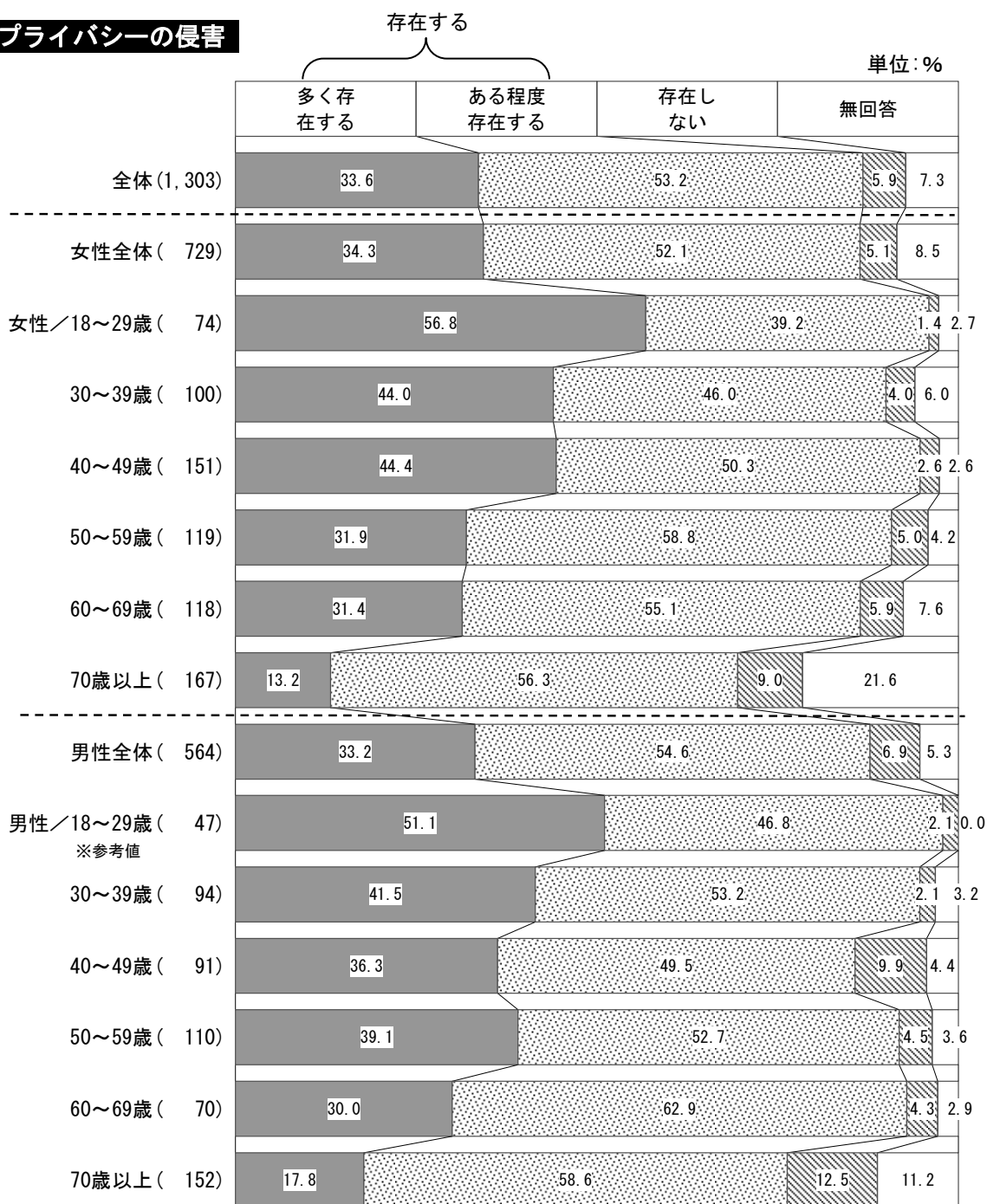
図表 35 現在の社会に存在する人権侵害『刑を終えて出所した人への差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳、30～39 歳、40～49 歳では「多く存在する」が 4 割以上であり、女性回答者全体の割合を 10 ポイント前後上回っています。男性の 30～39 歳では「多く存在する」が 46.8%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。

男女とも 69 歳以下では“存在する”が 8 割以上となっていますが、70 歳以上では 7 割前後となっており、男女とも 70 歳以上では「存在しない」が 1 割強となっています。

(コ) プライバシーの侵害



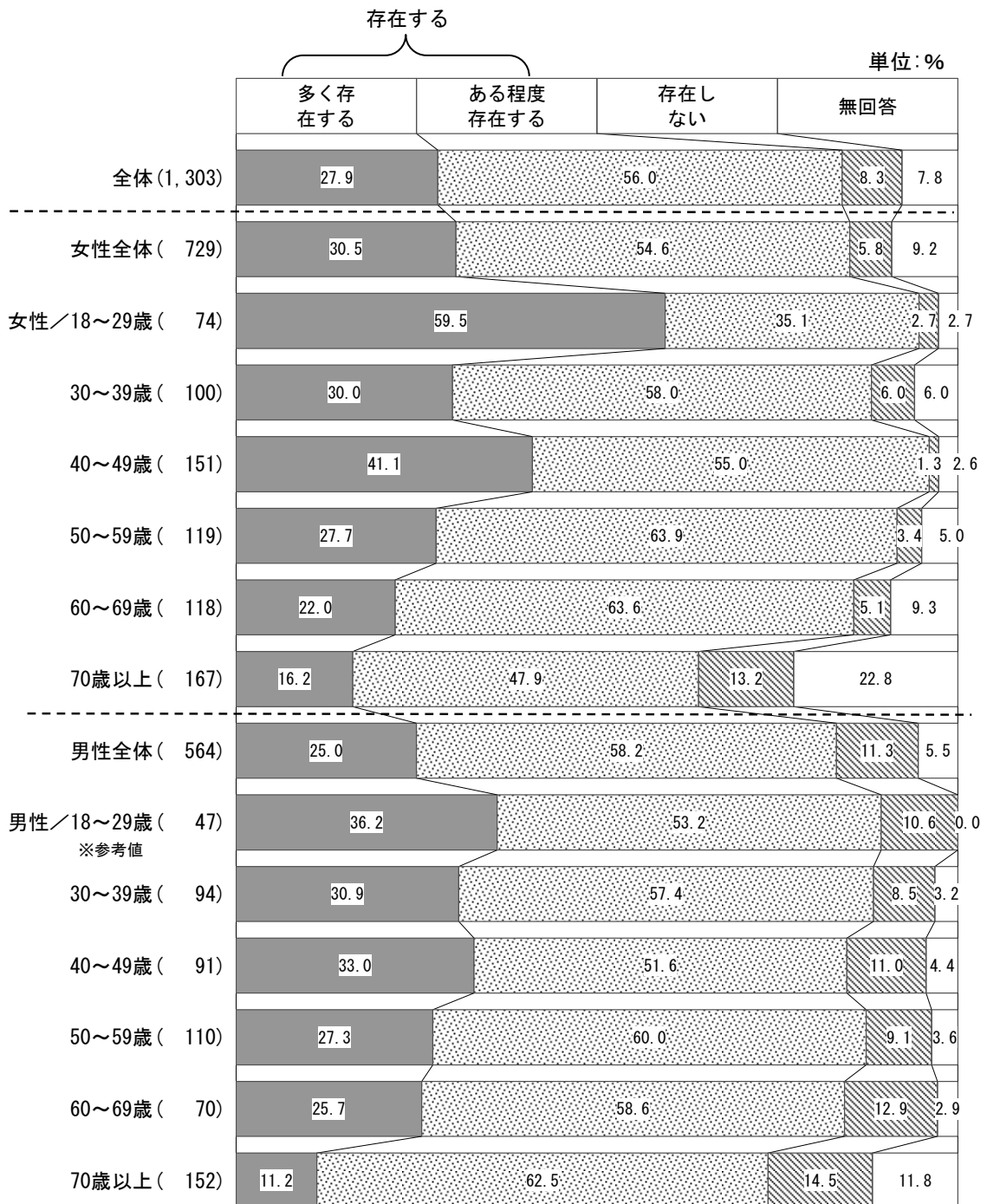
図表 36 現在の社会に存在する人権侵害『プライバシーの侵害』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「多く存在する」が56.8%であり、他の年代を12ポイント以上上回っています。女性の「多く存在する」の割合は、おおむね年代とともに減少する傾向があり、70歳以上では13.2%にとどまっています。

男女とも69歳以下では“存在する”がおおむね9割となっていますが、女性の70歳以上では69.5%、男性の70歳以上では76.4%となっています。また、男性の70歳以上では「存在しない」が12.5%となっています。

(サ) 学歴差別



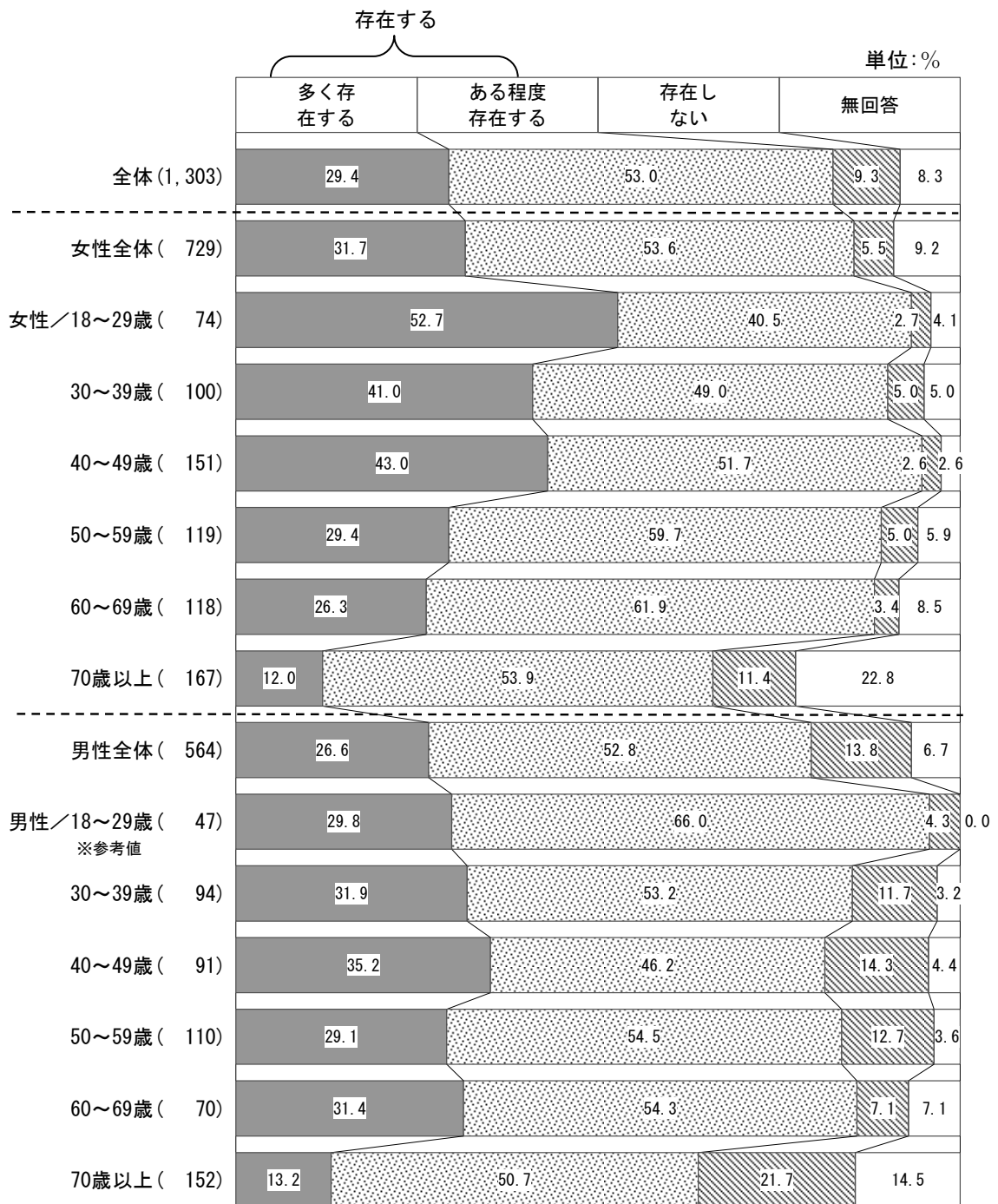
図表 37 現在の社会に存在する人権侵害『学歴差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「多く存在する」が59.5%、40～49歳では41.1%であり、他の年代を11ポイント以上上回っています。

男女とも69歳以下では“存在する”が8割以上となっていますが、女性の70歳以上では64.1%、男性の70歳以上では73.7%となっています。

(シ) 犯罪被害者とその家族への差別



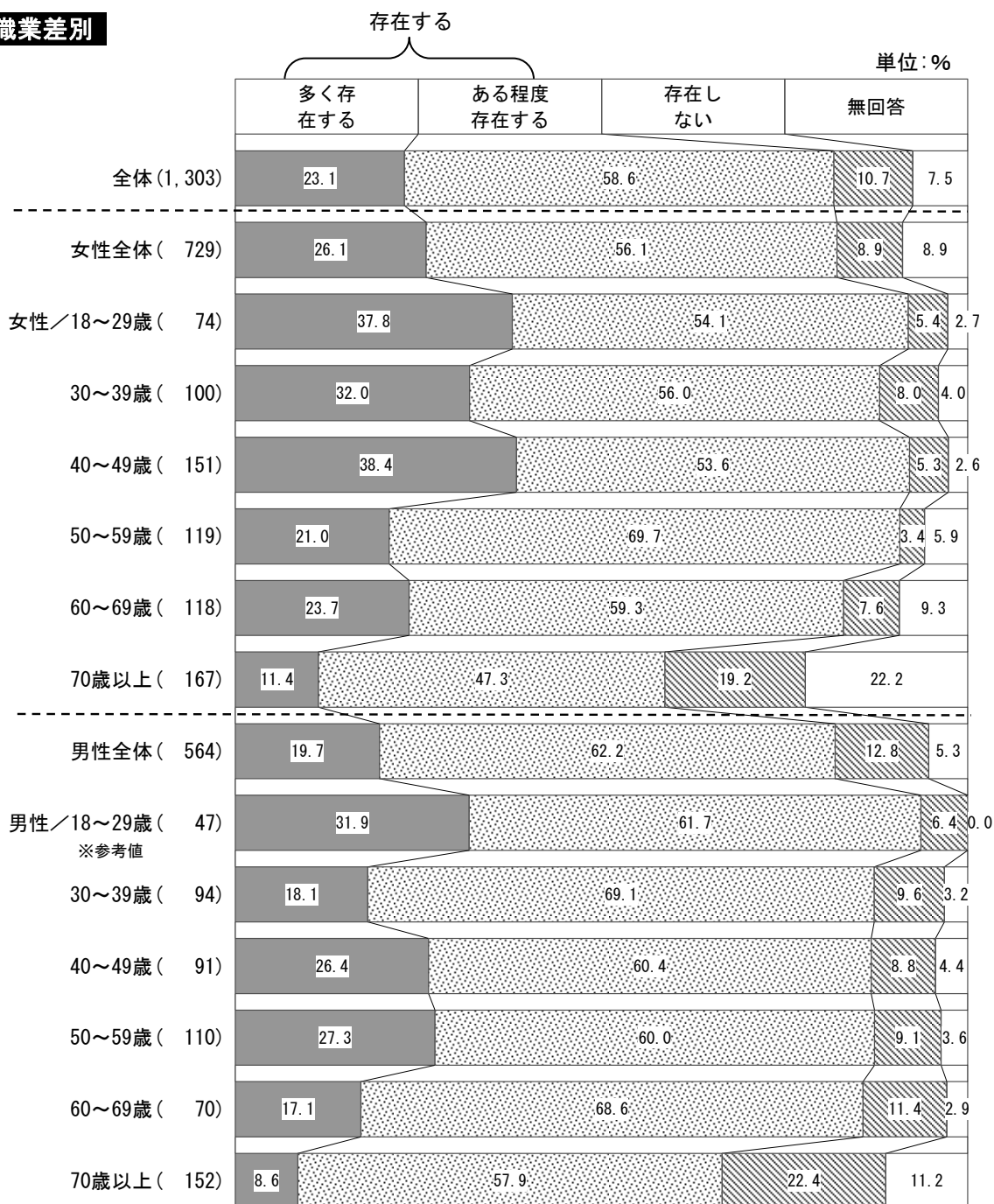
図表 38 現在の社会に存在する人権侵害『犯罪被害者とその家族への差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「多く存在する」が52.7%、30～39歳と40～49歳では4割強であり、女性回答者全体の割合を9ポイント以上上回っています。

男女とも69歳以下では“存在する”が8割以上となっていますが、女性の70歳以上では65.9%、男性の70歳以上では63.9%となっています。また、男性の70歳以上では「存在しない」が21.7%となっています。

(ス) 職業差別



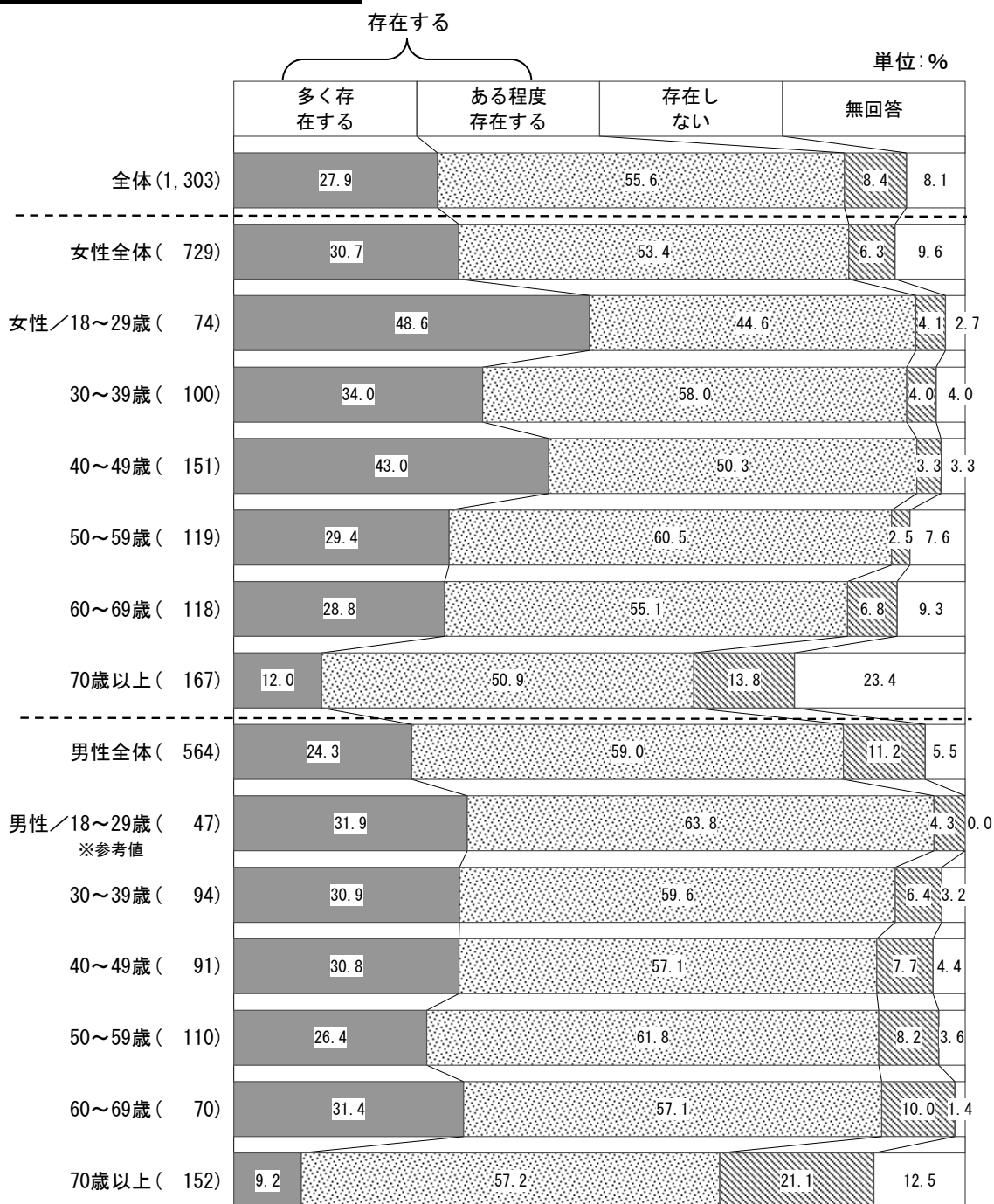
図表 39 現在の社会に存在する人権侵害『職業差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳と 40～49 歳では「多く存在する」が 4 割弱であり、女性回答者全体の割合を 11 ポイント以上上回っています。また、男性の 40～49 歳と 50～59 歳では「多く存在する」が 3 割弱であり、男性回答者全体の割合を 6 ポイント以上上回っています。

男女とも 69 歳以下では“存在する”が 8 割以上となっていますが、女性の 70 歳以上では 58.7%、男性の 70 歳以上では 66.5%となっています。また、男女の 70 歳以上では「存在しない」が 2 割前後となっています。

(セ) 性的マイノリティに関する差別



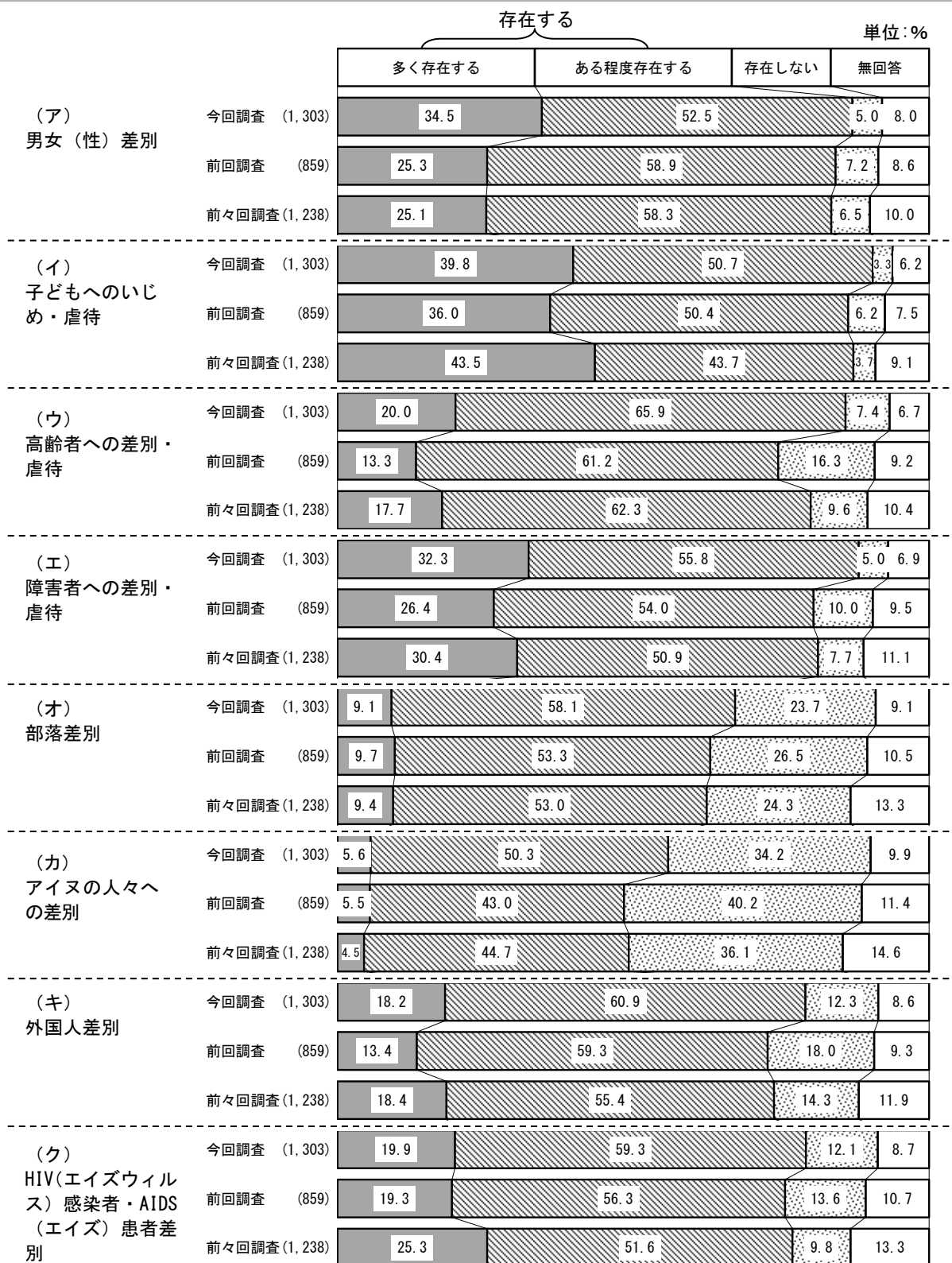
図表 40 現在の社会に存在する人権侵害『性的マイノリティに関する差別』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

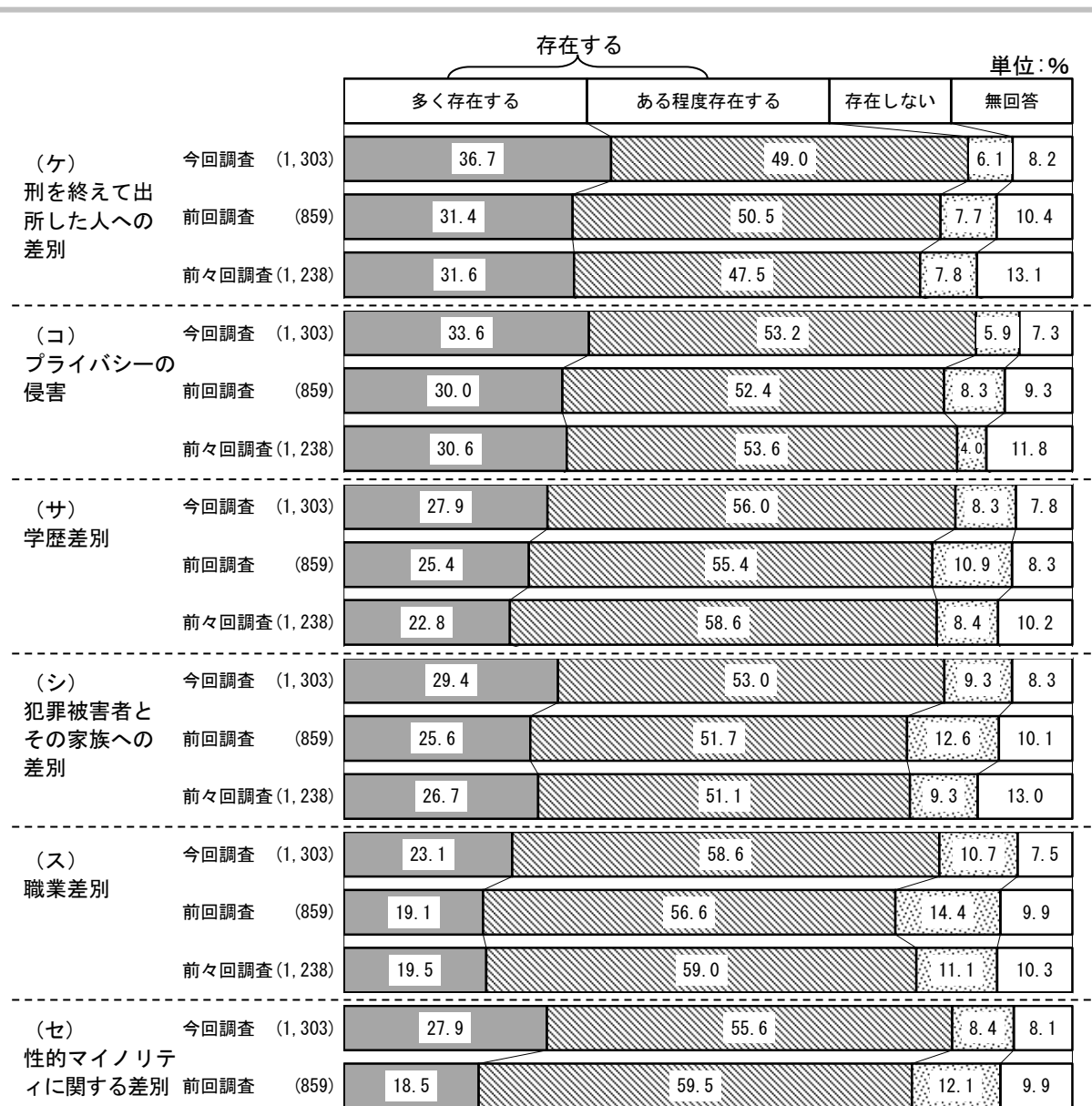
女性の18～29歳では「多く存在する」が48.6%、40～49歳では43.0%であり、女性回答者全体の割合を12ポイント以上上回っています。

男女とも69歳以下では“存在する”が8割以上となっていますが、女性の70歳以上では62.9%、男性の70歳以上では66.4%となっています。また、女性の70歳以上では「存在しない」が13.8%、男性の70歳以上では21.1%となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 41 現在の社会に存在する人権侵害＜前回調査・前々回調査との比較①＞



※「高齢者への差別・虐待」は、前回調査、前々回調査では「高齢者差別」。「障害者への差別・虐待」は、前回調査、前々回調査では「障害者差別」。「HIV（エイズウィルス）感染者・AIDS（エイズ）患者差別」は、前回調査では「AIDS（エイズ）患者・HIV（エイズウィルス）感染者差別」、前々回調査では「エイズ患者・HIV（エイズウィルス）感染者差別」。「性的マイノリティに関する差別」は、前回調査では「性的指向（同性愛など）・性同一性障害（生物学的な性と性の自己認識が一致しない状態）に対する差別」、前々回調査では項目なし。

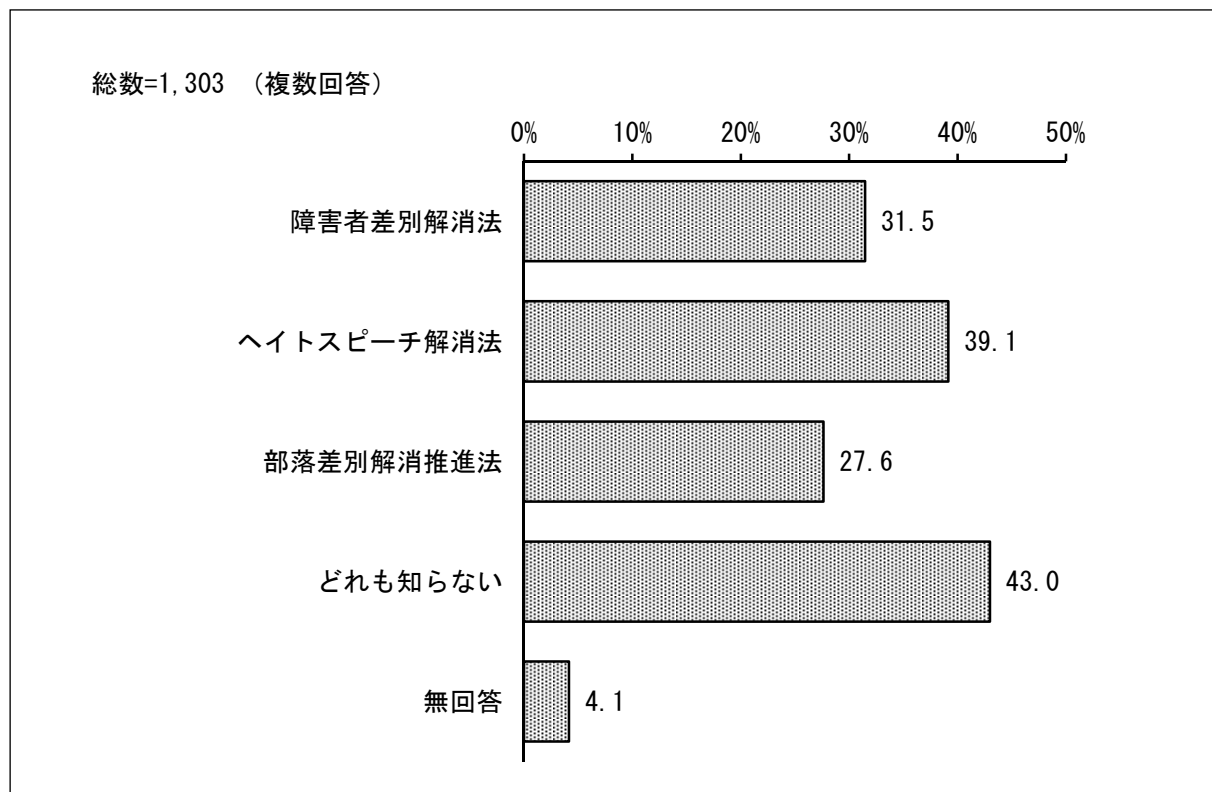
図表 42 現在の社会に存在する人権侵害◀前回調査・前々回調査との比較②▶

●前回調査・前々回調査との比較

『部落差別』以外のすべての項目について、今回調査の「多く存在する」の割合が前回調査を上回っています。また、今回調査の“存在する”の割合は、すべての項目について前回調査及び前々回調査の割合を上回っています。

問6 差別解消に関する法律の認知状況

あなたは、次の3つの法律が施行されていることを知っていますか。知っている法律に○をつけてください。(○はいくつでも)



図表 43 差別解消に関する法律の認知状況

○全体の傾向

「ヘイトスピーチ解消法」が 39.1%で最も多く、「障害者差別解消法」(31.5%)、「部落差別解消推進法」(27.6%)が続きます。

一方、「どれも知らない」という回答が 43.0%を占めています。

○男女別の傾向

男性の「ヘイトスピーチ解消法」は 45.9%であり、女性を 12 ポイント上回っています。一方、女性の「どれも知らない」は 46.0%であり、男性を 6 ポイント上回っています。

		全体	障害者差別解消法	ヘイトスピーチ解消法	部落差別解消推進法	どれも知らない	無回答	
全体		1,303 100.0	410 31.5	510 39.1	360 27.6	560 43.0	54 4.1	
性別	女性	729 100.0	241 33.1	247 33.9	191 26.2	335 46.0	36 4.9	
	男性	564 100.0	164 29.1	259 45.9	168 29.8	224 39.7	15 2.7	
	無回答 ※参考値	10 100.0	5 50.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	24 32.4	17 23.0	7 9.5	37 50.0	5 6.8
		30～39歳	100 100.0	16 16.0	23 23.0	12 12.0	65 65.0	5 5.0
		40～49歳	151 100.0	48 31.8	59 39.1	41 27.2	66 43.7	3 2.0
		50～59歳	119 100.0	40 33.6	45 37.8	32 26.9	50 42.0	7 5.9
		60～69歳	118 100.0	45 38.1	44 37.3	37 31.4	51 43.2	6 5.1
		70歳以上	167 100.0	68 40.7	59 35.3	62 37.1	66 39.5	10 6.0
		無回答 ※参考値	47 100.0	13 27.7	18 38.3	10 21.3	24 51.1	- -
	男性	30～39歳	94 100.0	22 23.4	40 42.6	22 23.4	45 47.9	- -
		40～49歳	91 100.0	29 31.9	41 45.1	17 18.7	35 38.5	3 3.3
		50～59歳	110 100.0	33 30.0	62 56.4	42 38.2	32 29.1	3 2.7
		60～69歳	70 100.0	16 22.9	34 48.6	21 30.0	27 38.6	2 2.9
		70歳以上	152 100.0	51 33.6	64 42.1	56 36.8	61 40.1	7 4.6
		無回答 ※参考値	10 100.0	5 50.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0

図表 44 差別解消に関する法律の認知状況（男女別・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳では、「障害者差別解消法」が 16.0%であり、他の年代を 15 ポイント以上上回っています。女性の「部落差別解消推進法」は 18～29 歳で 9.5%ですが、おおむね年代とともに割合が増加しており、70 歳以上では 37.1%となっています。

男性では、50～59 歳で「ヘイトスピーチ解消法」が 56.4%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。また、40～49 歳では「部落差別解消推進法」が 18.7%であり、男性回答者全体の割合を 11 ポイント下回っています。

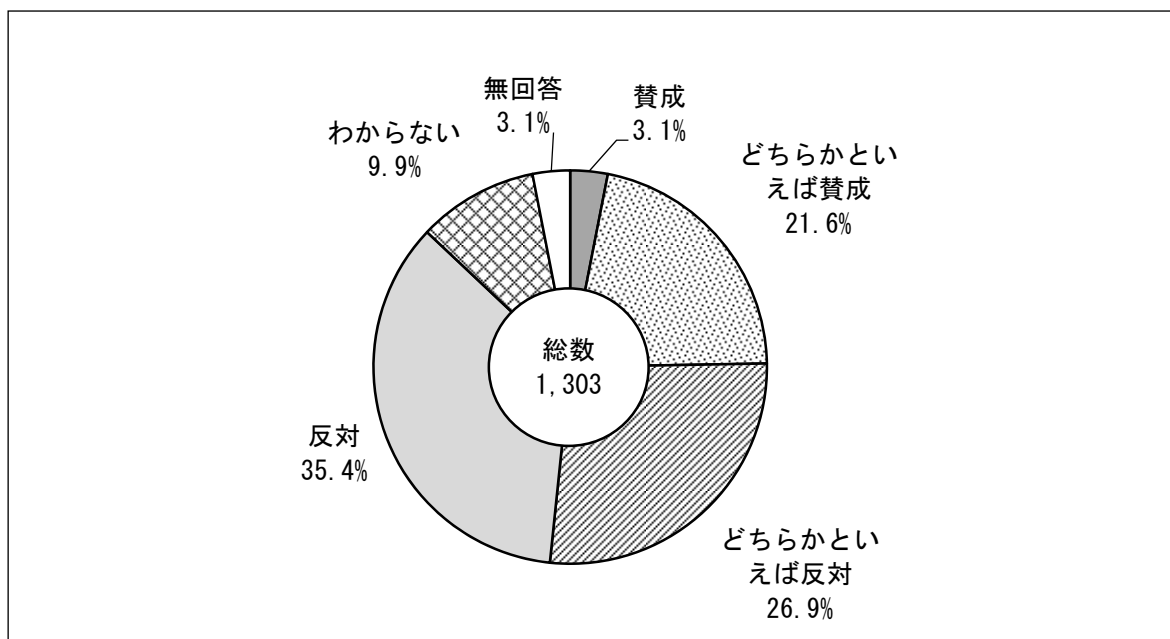
このほか、女性の 30～39 歳では「どれも知らない」が 65.0%、男性の 30～39 歳では 47.9%であり、いずれも他の年代に比べて多くなっています。

2 男女平等に関する意識について

問7 「性別役割分担」の意識

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

(〇は1つ)



図表 45 「性別役割分担」の意識

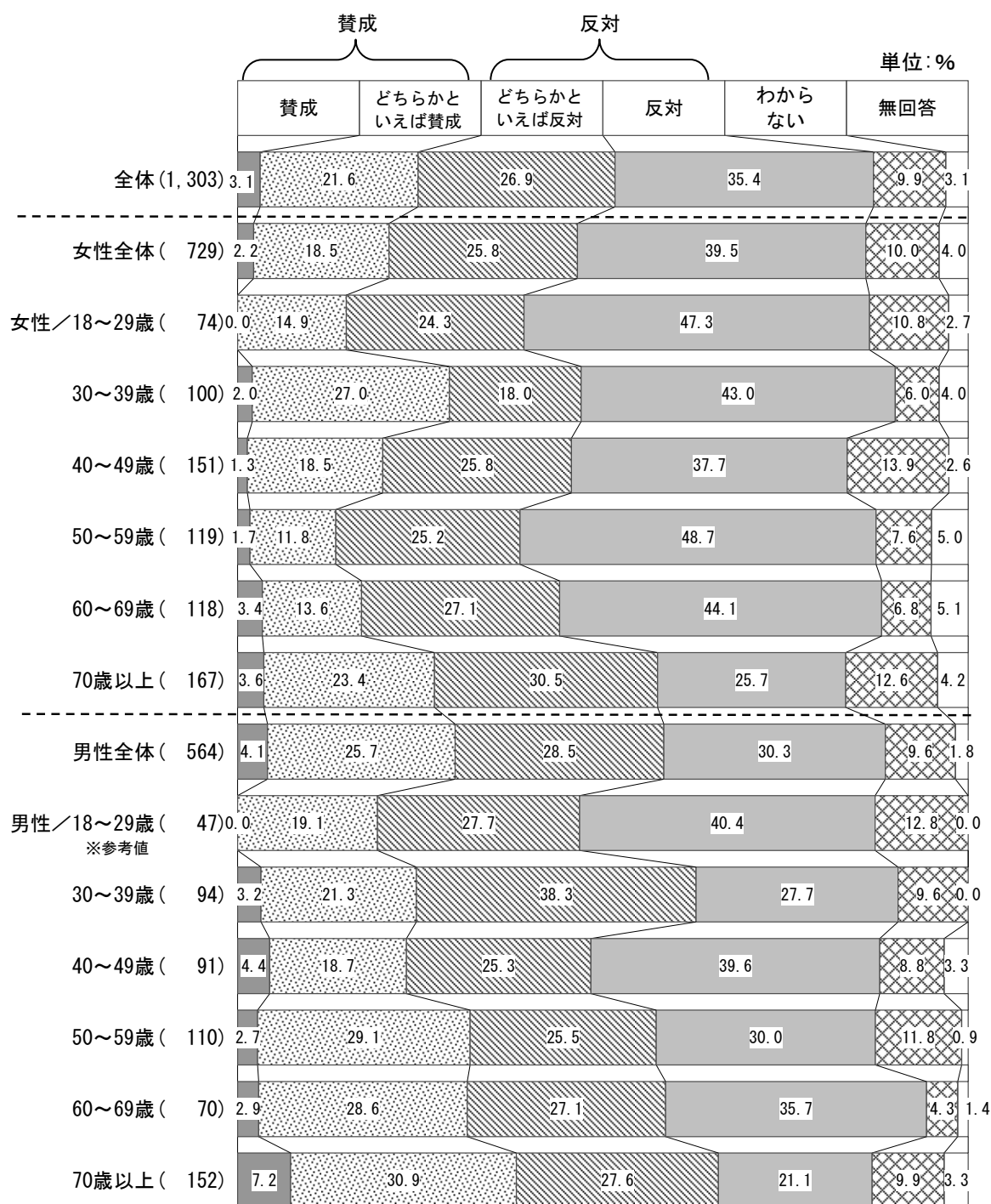
○全体の傾向

「賛成」が 3.1%、「どちらかといえば賛成」が 21.6%であり、「反対」が 35.4%、「どちらかといえば反対」が 26.9%となっています。

“賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）”は 24.7%、“反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）”は 62.3%であり、“反対”が“賛成”を 37 ポイント上回っています。

○男女別の傾向

“賛成”は男性 29.8%、女性 20.7%であり、男性が女性を 9 ポイント上回っています。一方、“反対”は男性 58.8%、女性 65.3%であり、女性が男性を 6 ポイント上回っています。



図表 46 「性別役割分担」の意識（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳と 70 歳以上では“賛成”が 3 割弱であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。女性の 70 歳以上の“反対”は 56.2%であり、女性回答者全体の割合を 9 ポイント下回っています。

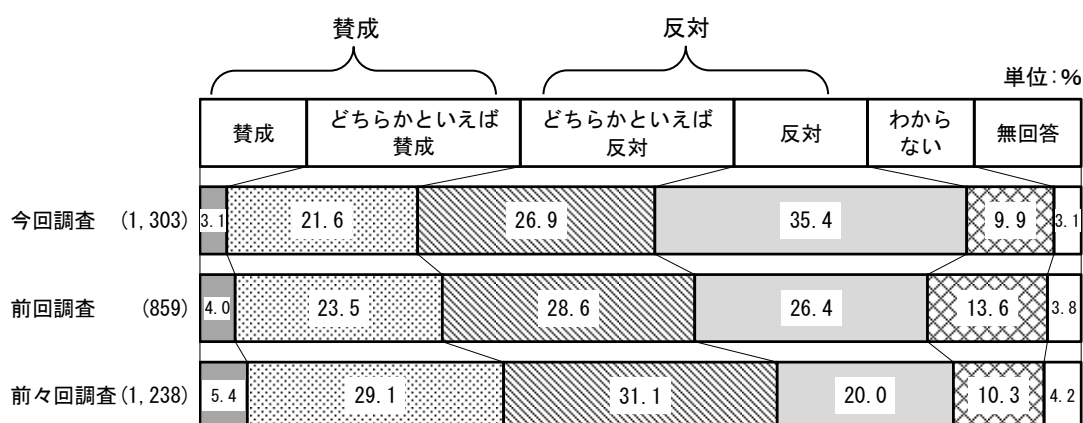
男性の 70 歳以上では“賛成”が 38.1%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。

		賛成			反対						
		全体	賛成	どちらか 賛成	どちら 反対	反対	わからない	無回答		“賛成”	“反対”
全体		1,303 100.0	40 3.1	282 21.6	351 26.9	461 35.4	129 9.9	40 3.1		322 24.7	812 62.3
性・職業	女性	自営業	66 100.0	1 1.5	6 9.1	15 22.7	35 53.0	7 10.6	2 3.0	7 10.6	50 75.8
		勤め	299 100.0	2 0.7	52 17.4	67 22.4	143 47.8	25 8.4	10 3.3	54 18.1	210 70.2
		学生 ※参考値	21 100.0	-	2 9.5	8 38.1	11 52.4	-	-	2 9.5	19 90.5
		主婦・主夫	225 100.0	7 3.1	59 26.2	66 29.3	57 25.3	24 10.7	12 5.3	66 29.3	123 54.7
		無職	94 100.0	3 3.2	12 12.8	27 28.7	34 36.2	14 14.9	4 4.3	15 16.0	61 64.9
		その他 ※参考値	23 100.0	3 13.0	3 13.0	5 21.7	8 34.8	3 13.0	1 4.3	6 26.1	13 56.5
		自営業	89 100.0	4 4.5	22 24.7	25 28.1	28 31.5	9 10.1	1 1.1	26 29.2	53 59.6
	男性	勤め	314 100.0	7 2.2	80 25.5	91 29.0	102 32.5	29 9.2	5 1.6	87 27.7	193 61.5
		学生 ※参考値	13 100.0	-	2 15.4	6 46.2	5 38.5	-	-	2 15.4	11 84.6
		主婦・主夫 ※参考値	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	0 0.0	0 0.0
		無職	133 100.0	11 8.3	37 27.8	37 27.8	30 22.6	16 12.0	2 1.5	48 36.1	67 50.4
		その他 ※参考値	11 100.0	1 9.1	2 18.2	2 18.2	6 54.5	-	-	3 27.3	8 72.7
		無回答 ※参考値	14 100.0	1 7.1	5 35.7	2 14.3	2 14.3	2 14.3	2 14.3	6 42.9	4 28.6

○男女・職業別の傾向

自営業、勤めの女性では、“反対”が7割台となっています。一方、主婦・主夫の女性では“賛成”が29.3%で女性回答者全体の割合を8ポイント上回っており、無職の男性では“賛成”が36.1%で男性回答者全体の割合を6ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較

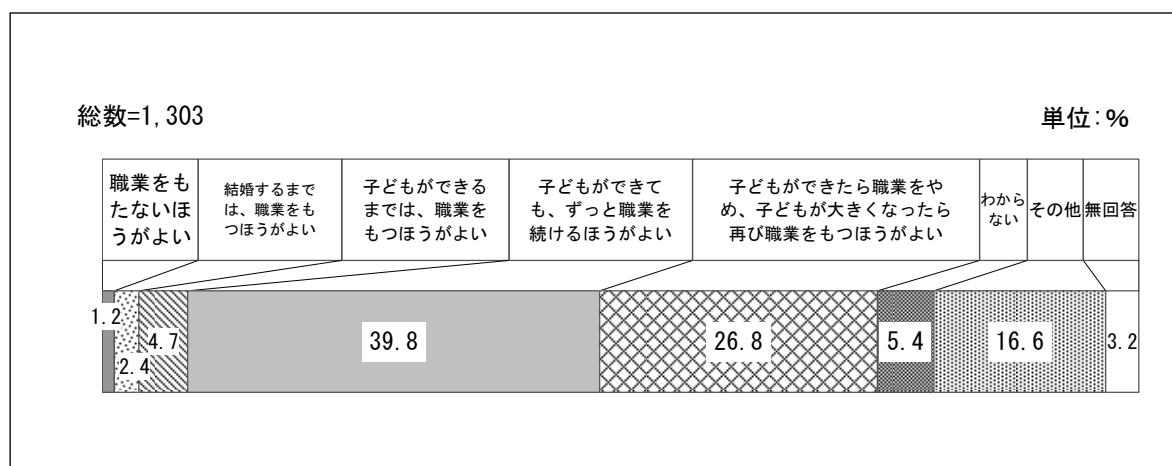


●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、“賛成”の割合が減少を続けるとともに、“反対”の割合が増加を続けています。今回調査の“反対”は前回調査を7ポイント上回っており、「性別役割分担」に否定的な意識が強くなっています。

問8 女性が職業をもつことについての意識

一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。（〇は1つ）



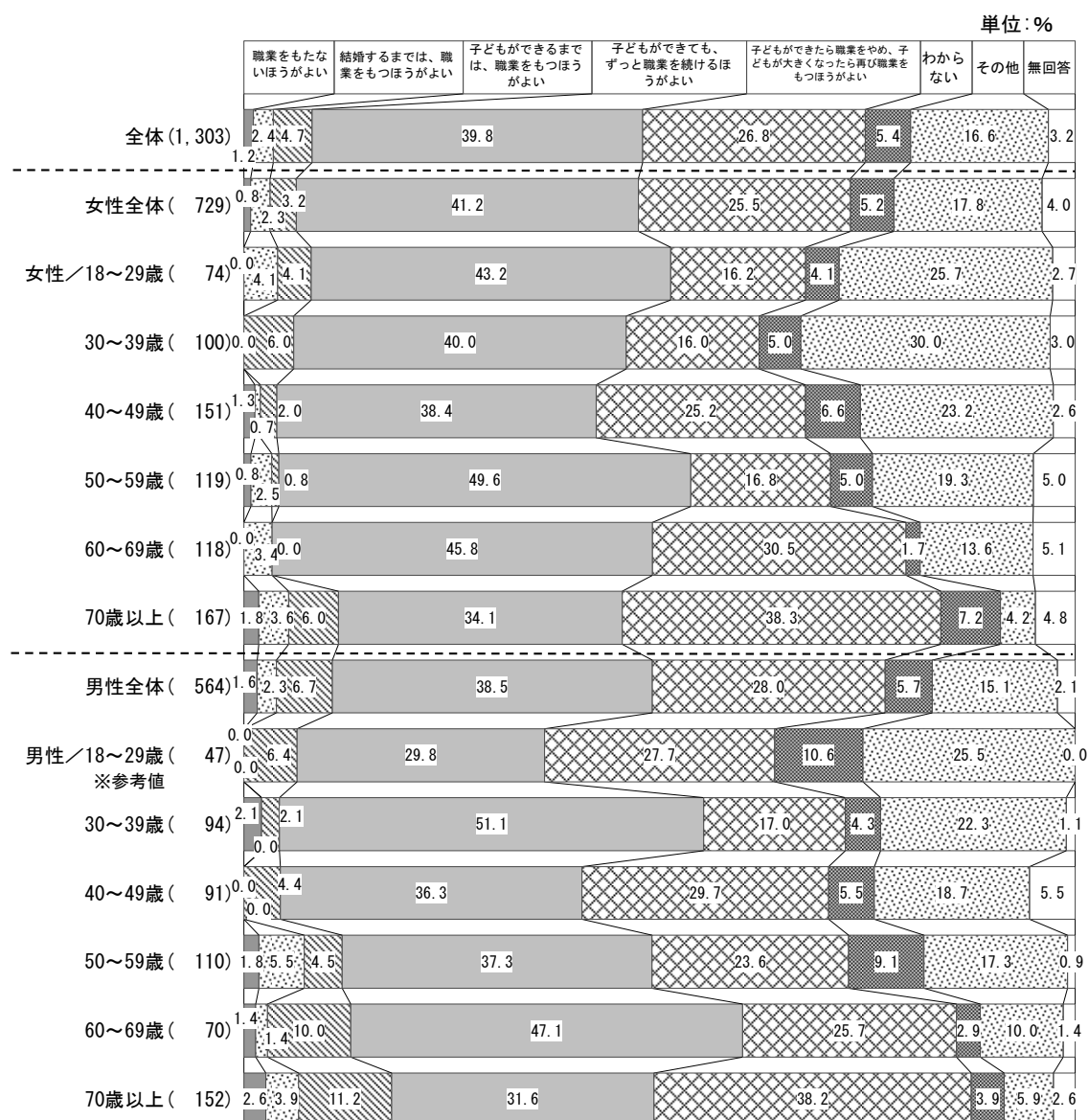
図表 49 女性が職業をもつことについての意識

○全体の傾向

「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 39.8%で最も多く、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」（26.8%）が続きます。「子どもができるまでは、職業をもつほうがよい」「結婚するまでは、職業をもつほうがよい」「職業を持たないほうがよい」という回答は、いずれも1割に達していません。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



図表 50 女性が職業をもつことについての意識（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳では「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 49.6% であり、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」(16.8%) を 32 ポイント上回っています。女性の 60～69 歳と 70 歳以上では「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が 3 割台となっています。

男性では、30～39 歳と 60～69 歳で「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が 5 割前後となっており、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。

このほか、男女とも 70 歳以上では「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」を上回っています。

			全体	職業をもたないほうがよい	結婚するまでは、 つほうがよい	子どもができるまでは、 業をもつほうがよい	子どもができては、 ずっと 職業を続けるほうがよい	子どもができた ら職業をやめ、 子どもが大きくな ったら再び職業 をもつほうがよい	わからない	その他	無回答
全体			1,303 100.0	15 1.2	31 2.4	61 4.7	518 39.8	349 26.8	71 5.4	216 16.6	42 3.2
性・世帯の働き方	女性	共働きである	208 100.0	- -	2 1.0	4 1.9	102 49.0	47 22.6	10 4.8	35 16.8	8 3.8
		片働きである	124 100.0	2 1.6	2 1.6	3 2.4	38 30.6	35 28.2	9 7.3	27 21.8	8 6.5
		働いていない・その他	73 100.0	1 1.4	4 5.5	2 2.7	19 26.0	25 34.2	2 2.7	15 20.5	5 6.8
	男性	共働きである	151 100.0	1 0.7	4 2.6	5 3.3	81 53.6	25 16.6	9 6.0	23 15.2	3 2.0
		片働きである	111 100.0	3 2.7	3 2.7	10 9.0	30 27.0	35 31.5	10 9.0	16 14.4	4 3.6
		働いていない・その他	89 100.0	3 3.4	2 2.2	9 10.1	28 31.5	37 41.6	3 3.4	6 6.7	1 1.1
	無回答、未婚、離死別		547 100.0	5 0.9	14 2.6	28 5.1	220 40.2	145 26.5	28 5.1	94 17.2	13 2.4

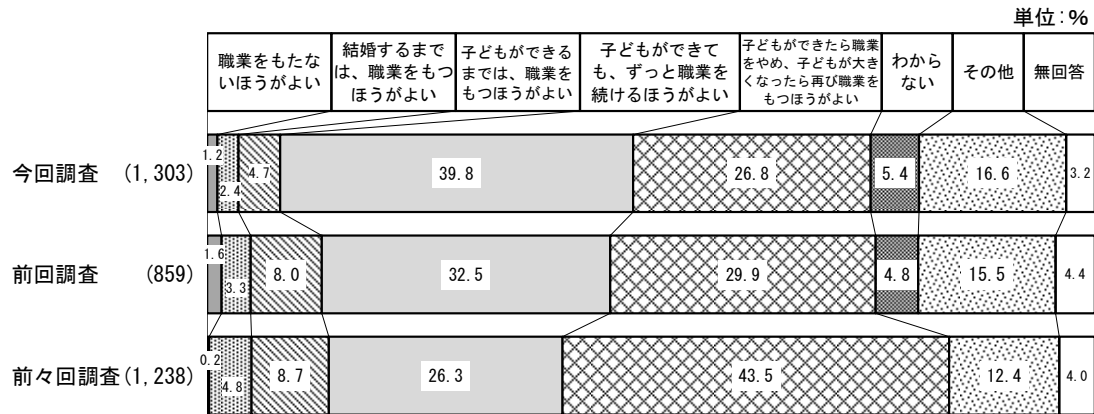
図表 51 女性が職業をもつことについての意識（男女・世帯の働き方別）

○男女・世帯の働き方別の傾向

共働きの世帯では、回答者の性別を問わず「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が5割前後であり、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」を男性で37ポイント、女性で26ポイント上回っています。

一方、片働き世帯の男性では、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が31.5%であり、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」を上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「職業をもたないほうがよい」は前々回調査では「女性は職業に就かないほうがよい」。「結婚するまでは、職業をもつほうがよい」は前々回調査では「結婚するまでは職業に就くが、結婚後は家事に専念したほうがよい」。「子どもができるまでは、職業をもつほうがよい」は前々回調査では「結婚し、子どもが生まれたらやめ、家事に専念したほうがよい」。「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」は前々回調査では「結婚して子どもが生まれても、職業を持ち続けたほうがよい」。「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」は前々回調査では「結婚し、子どもが生まれたらやめるが、子どもに手がからなくなったら再び職業に就いたほうがよい」。

※前々回調査は「わからない」なし。

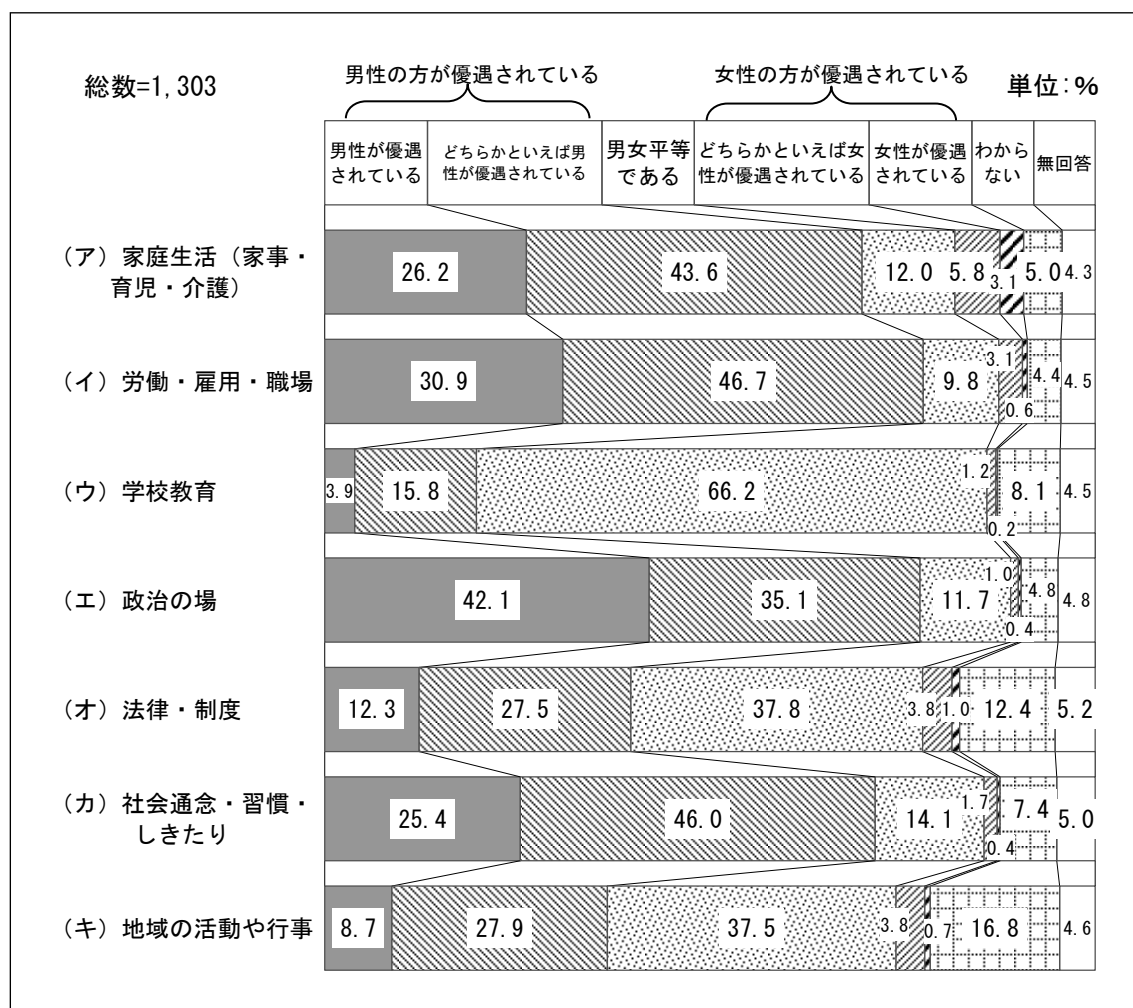
図表 52 女性が職業をもつことについての意識《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査の「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合は前回調査を7ポイント上回っています。「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい」との差は、前回調査では2ポイントでしたが、今回調査では13ポイントに増加しています。

問9 男女平等の認識

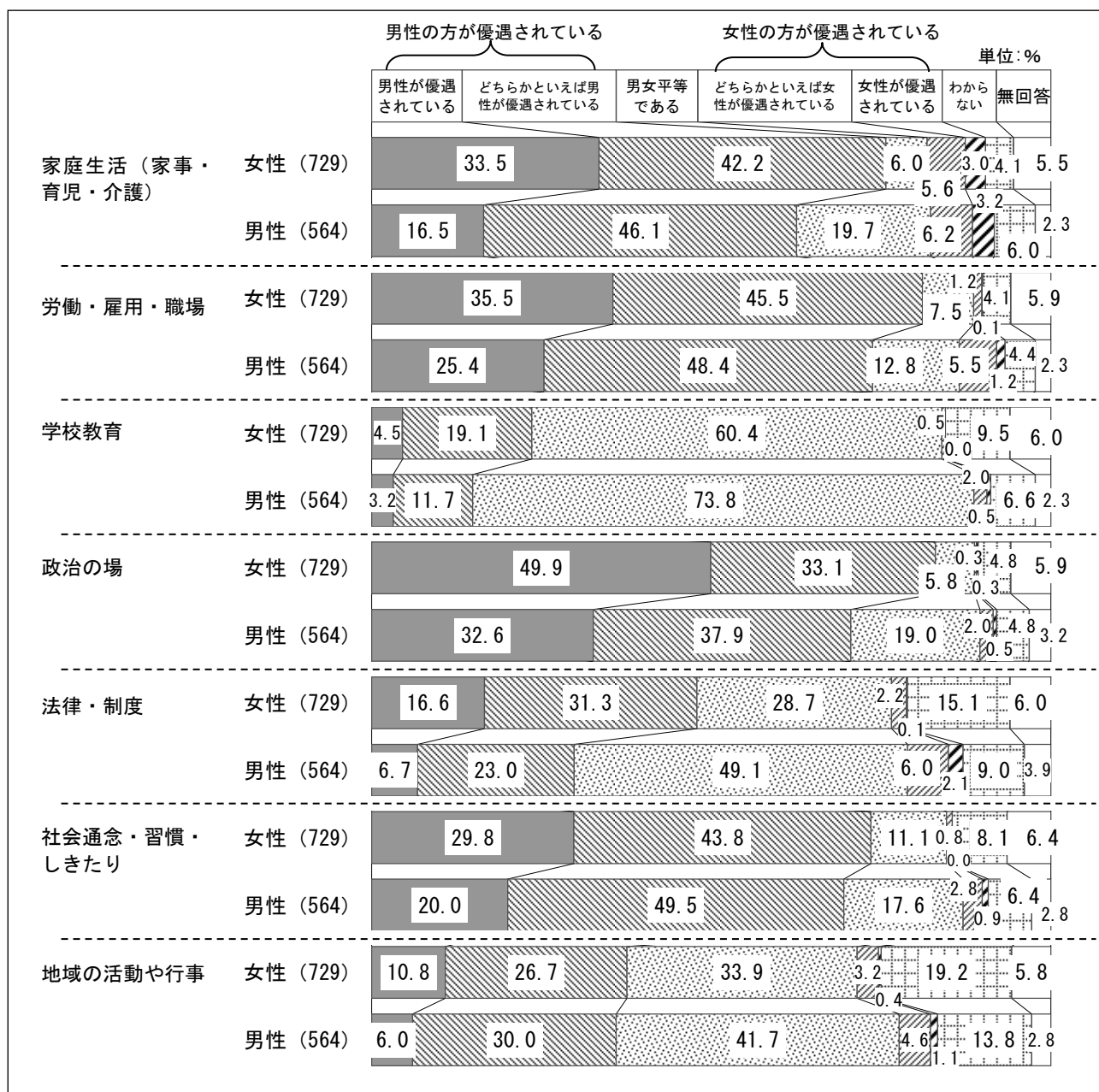
次のそれぞれの分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア)～(キ)の各項目についてお答えください。(ア～キのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)



図表 53 男女平等の認識

○全体の傾向

男女の地位が最も「平等」と考えられているのは、『学校教育』（66.2%）となっています。一方、『家庭生活（家事・育児・介護）』『労働・雇用・職場』『政治の場』『社会通念・習慣・しきたり』では“男性の方が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）”という認識が強く、『労働・雇用・職場』『政治の場』で8割弱、『社会通念・習慣・しきたり』『家庭生活（家事・育児・介護）』で7割前後となっています。『法律・制度』『地域の活動や行事』では、“男性の方が優遇されている”と「平等」がいずれも4割弱となっています。



図表 54 男女平等の認識（男女別）

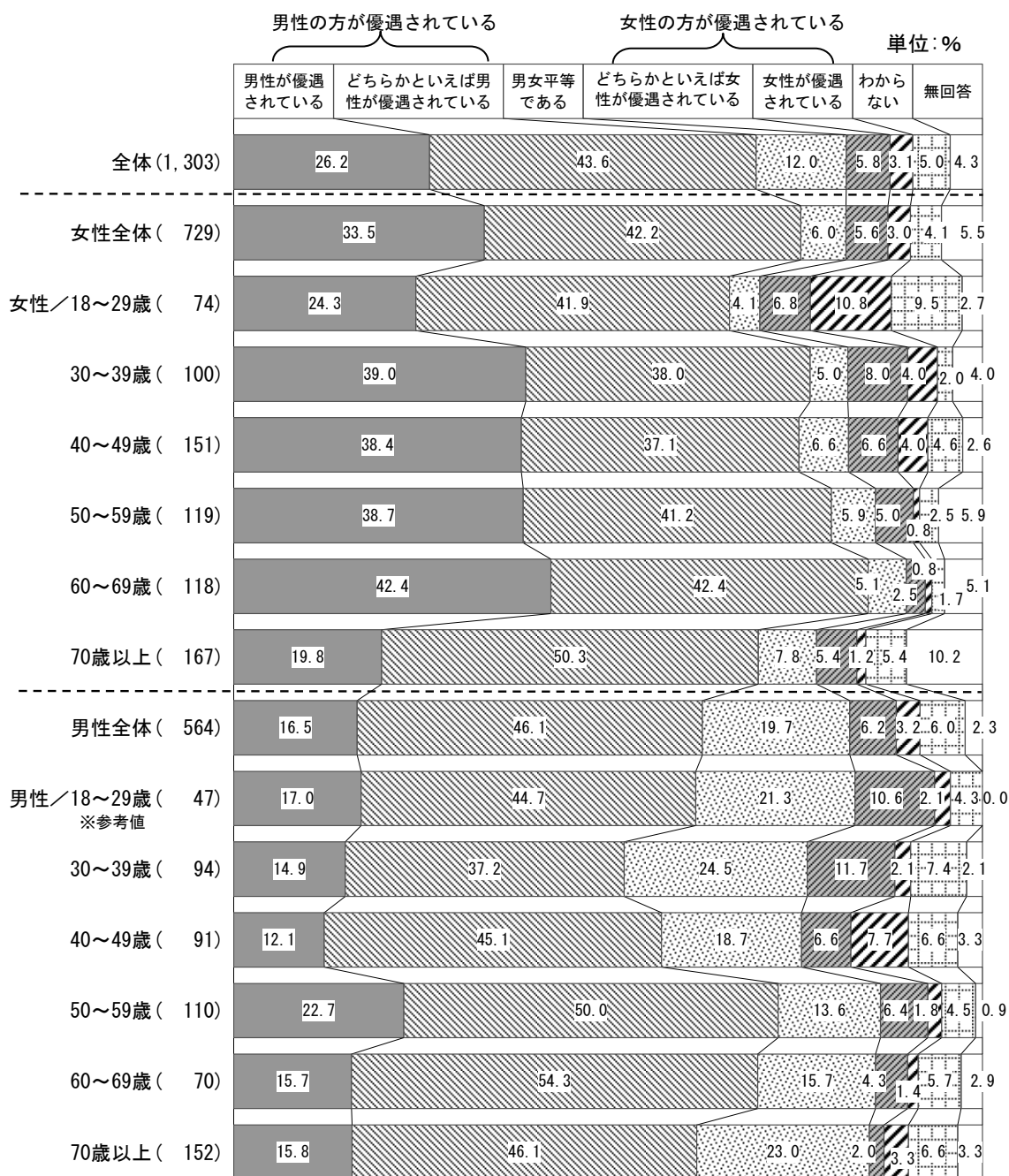
○男女別の傾向

『労働・雇用・職場』『政治の場』では、女性の“男性の方が優遇されている”が8割強に達しており、男性の割合を7ポイント以上上回っています。

『法律・制度』については、女性で“男性の方が優遇されている”が「男女平等である」を上回っているのに対し、男性では「男女平等である」が“男性の方が優遇されている”を上回っており、男女で意識の違いが見られます。

このほか、各分野について男性の「男女平等である」の割合が女性を上回っており、その差は『法律・制度』で20ポイント、『家庭生活（家事・育児・介護）』『学校教育』『政治の場』で13ポイントとなっています。

(ア) 家庭生活（家事・育児・介護）



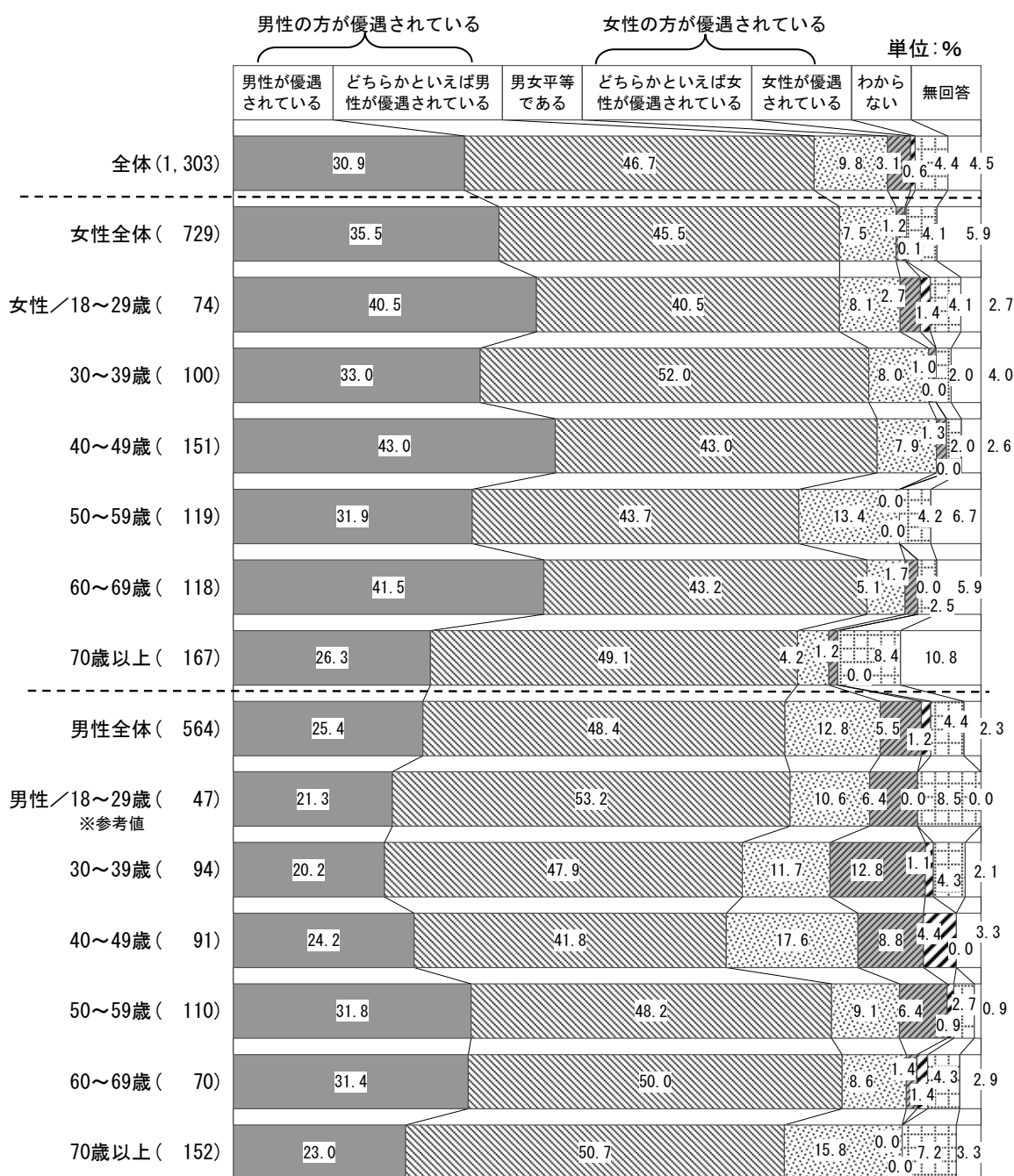
図表 55 男女平等の認識『家庭生活（家事・育児・介護）』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 60～69 歳では“男性の方が優遇されている”が 84.8%であり、女性回答者全体の割合を 9 ポイント上回っています。女性の「男女平等である」の割合は、各年代とも 1 割に達していません。

男性では、50～59 歳で“男性の方が優遇されている”が 72.7%、60～69 歳で 70.0%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。

(イ) 労働・雇用・職場



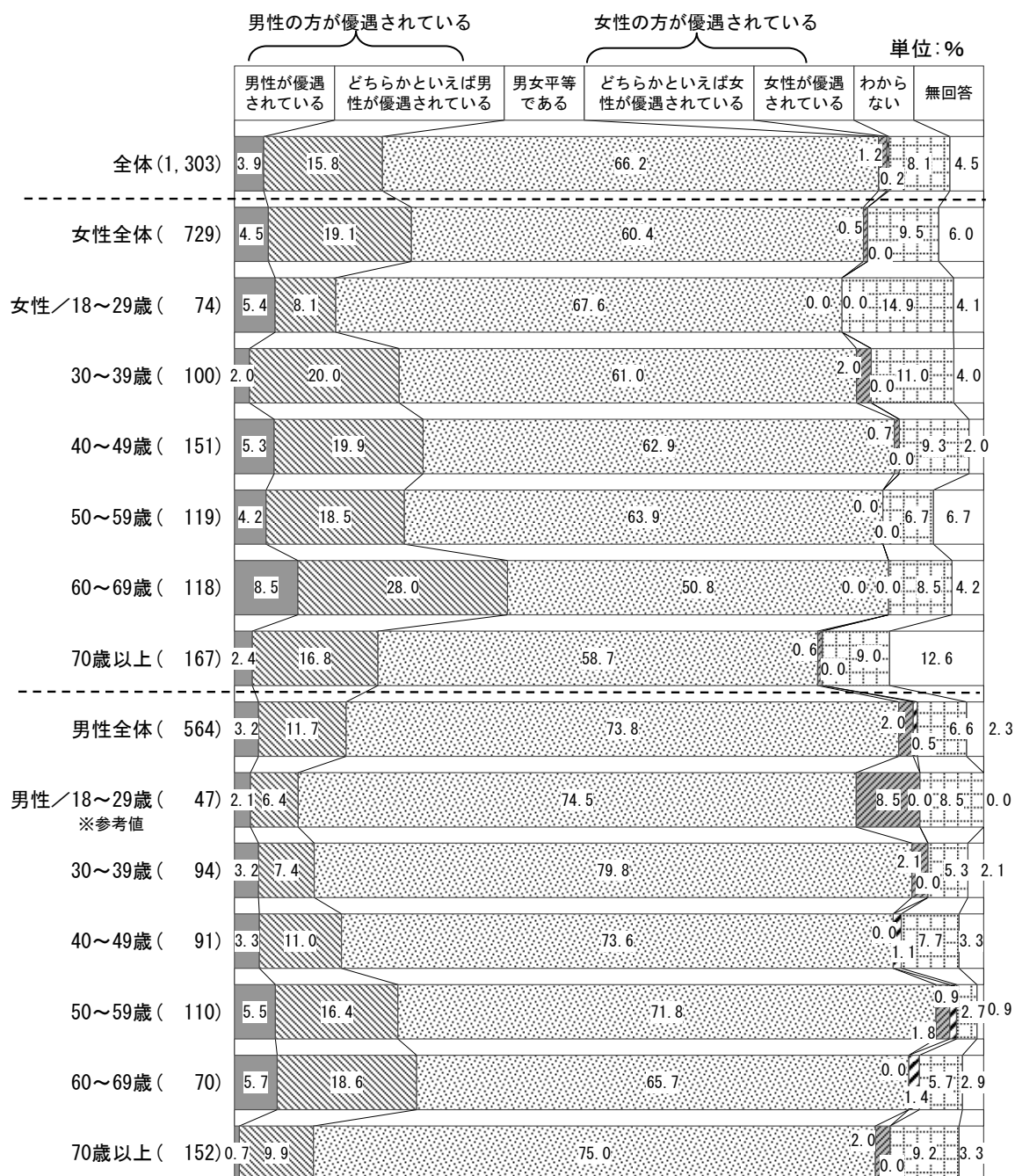
図表 56 男女平等の認識『労働・雇用・職場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の“男性の方が優遇されている”の割合は、各年代とも7割以上となっています。また、「男女平等である」の割合は50～59歳（13.4%）を除き1割に達していません。

男性では、30～39歳と40～49歳で“男性の方が優遇されている”が7割弱であり、他の年代を5ポイント以上下回っています。30～39歳と40～49歳の“女性の方が優遇されている（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）」は1割強であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

(ウ) 学校教育



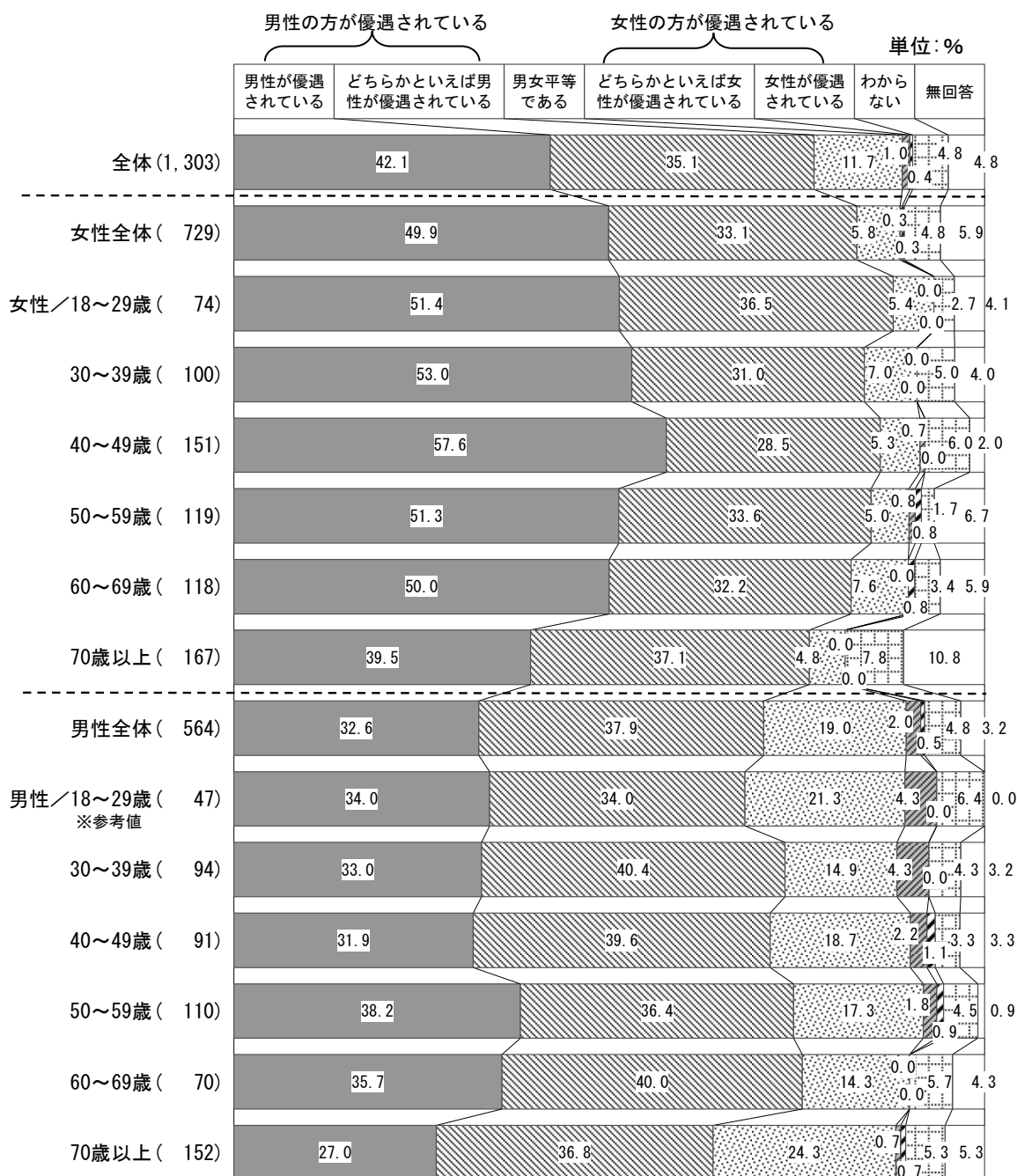
図表 57 男女平等の認識『学校教育』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の60～69歳では「男性の方が優遇されている」が36.5%であり、他の年代を11ポイント以上上回っているほか、「男女平等である」が50.8%であり、他の年代を7ポイント以上下回っています。

男性では、60～69歳で「男女平等である」が65.7%であり、他の年代を6ポイント以上下回っています。

(エ) 政治の場



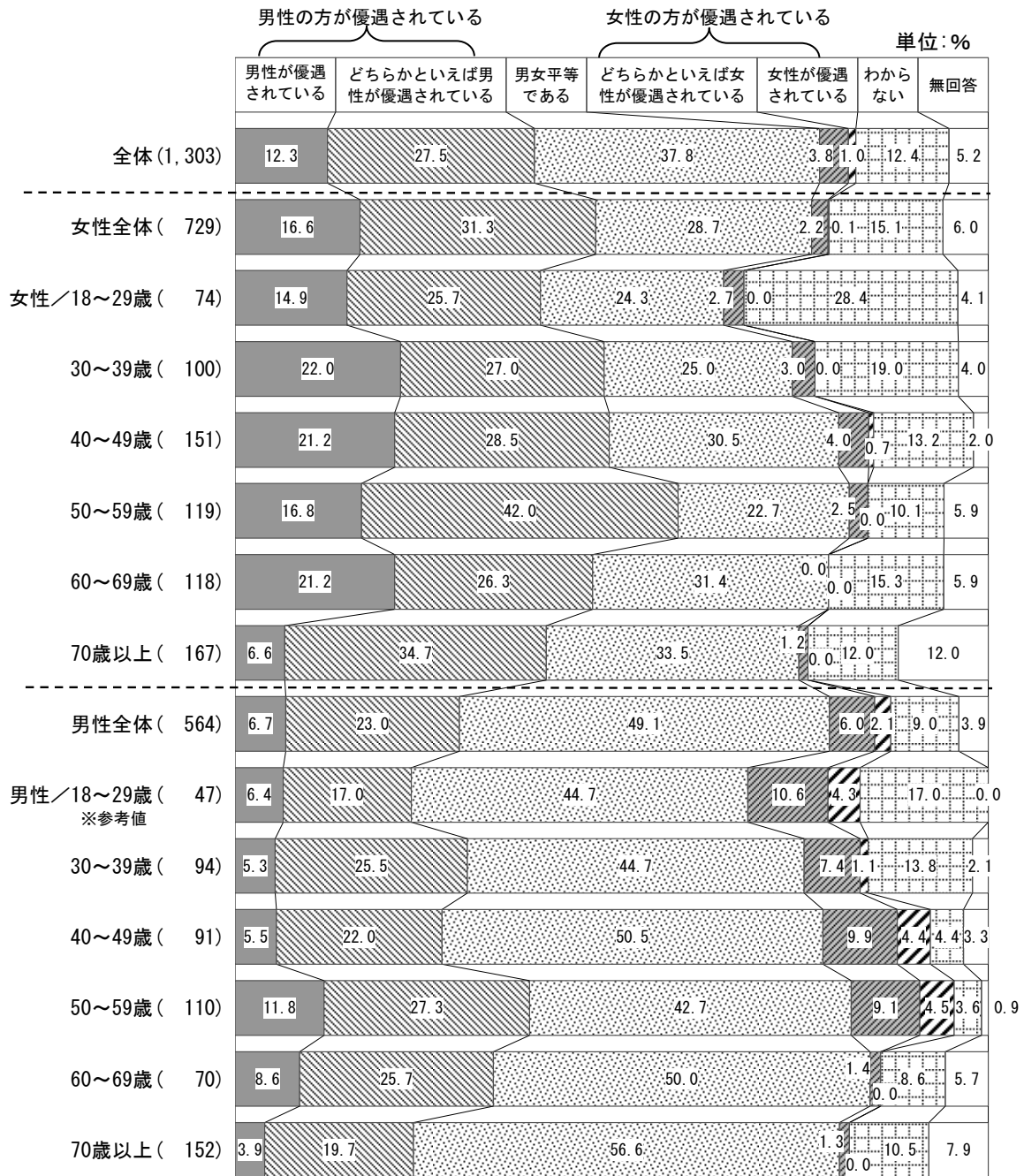
図表 58 男女平等の認識『政治の場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 69 歳以下では“男性の方が優遇されている”が 8 割台であるのに対し、70 歳以上では 76.6%であり、他の年代を 5 ポイント以上下回っています。

男性では、70 歳以上で“男性の方が優遇されている”が 63.8%であり、他の年代を 7 ポイント以上下回っています。また、70 歳以上の「男女平等である」は 24.3%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。

(オ) 法律・制度



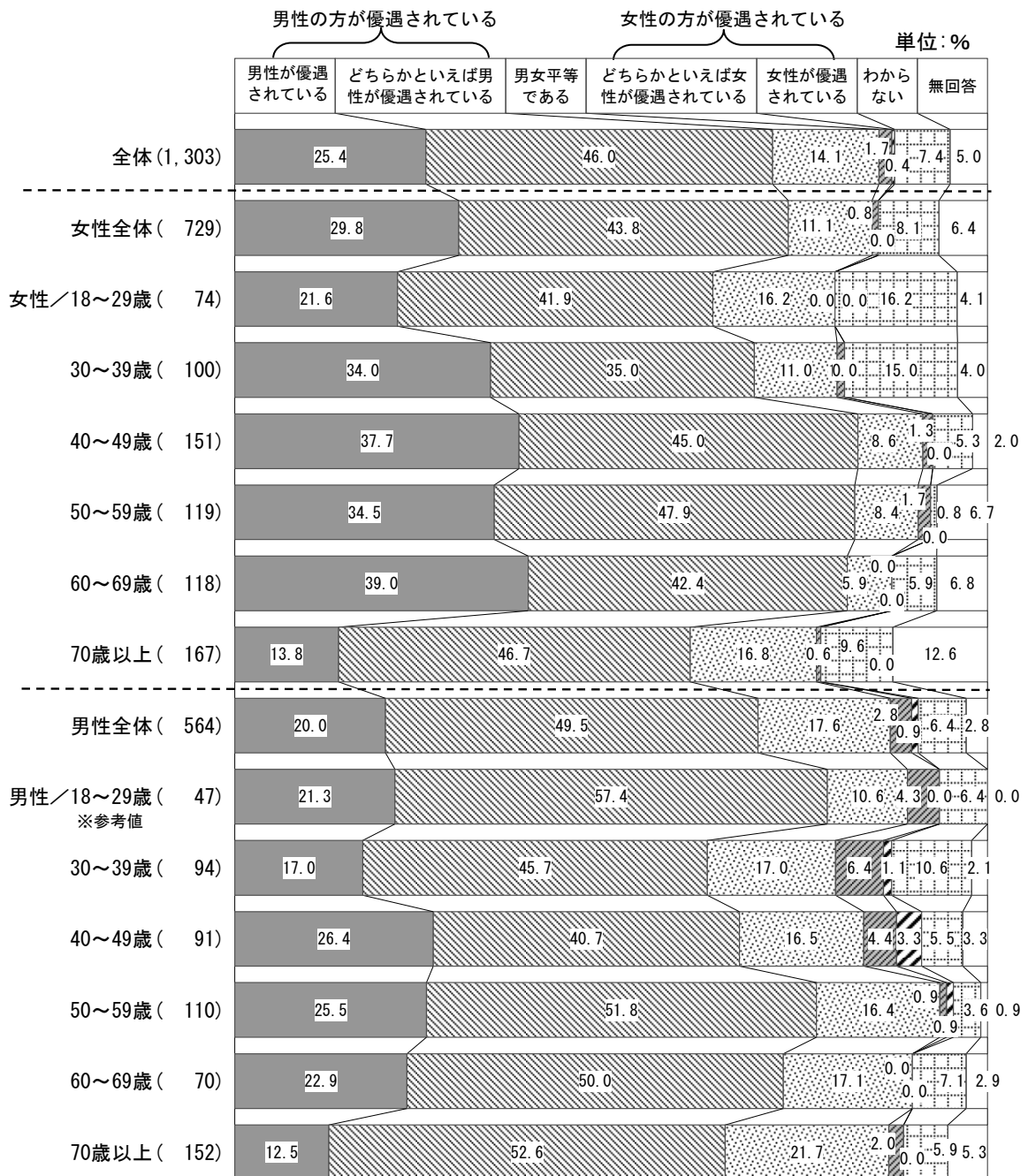
図表 59 男女平等の認識『法律・制度』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 50~59 歳では“男性の方が優遇されている”が 58.8%であり、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。

男性では、50~59 歳で“男性の方が優遇されている”が 39.1%であり、男性回答者全体の割合を 9 ポイント上回っています。また、70 歳以上では「男女平等である」が 56.6%であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。

（力）社会通念・習慣・しきたり



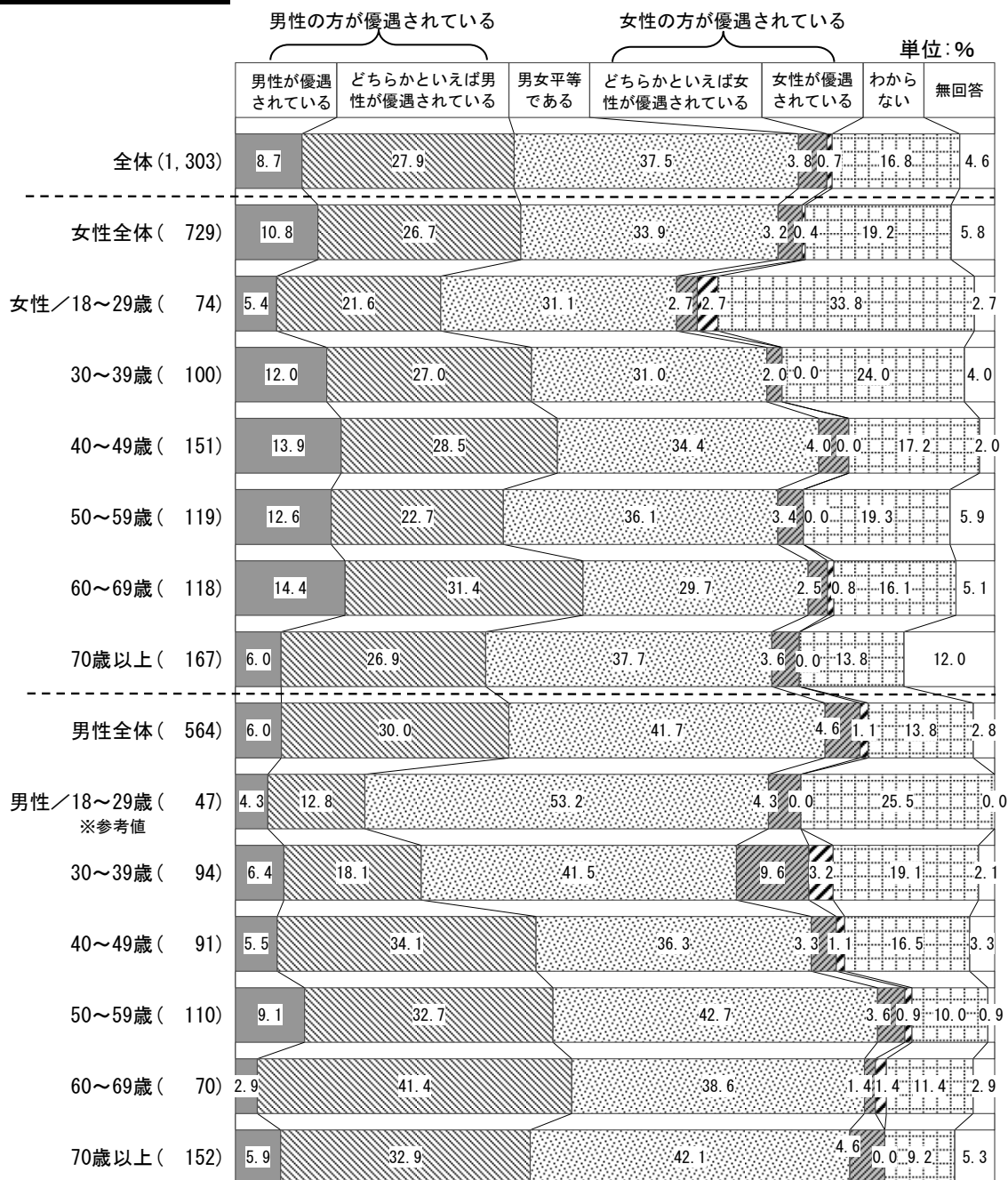
図表 60 男女平等の認識『社会通念・習慣・しきたり』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳と50～59歳、60～69歳では“男性の方が優遇されている”が8割強であり、他の年代を12ポイント以上上回っています。また、女性の18～29歳と70歳以上では、「男女平等である」が2割弱であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。

男性では、50～59歳で“男性の方が優遇されている”が77.3%であり、男性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。

(キ) 地域の活動や行事



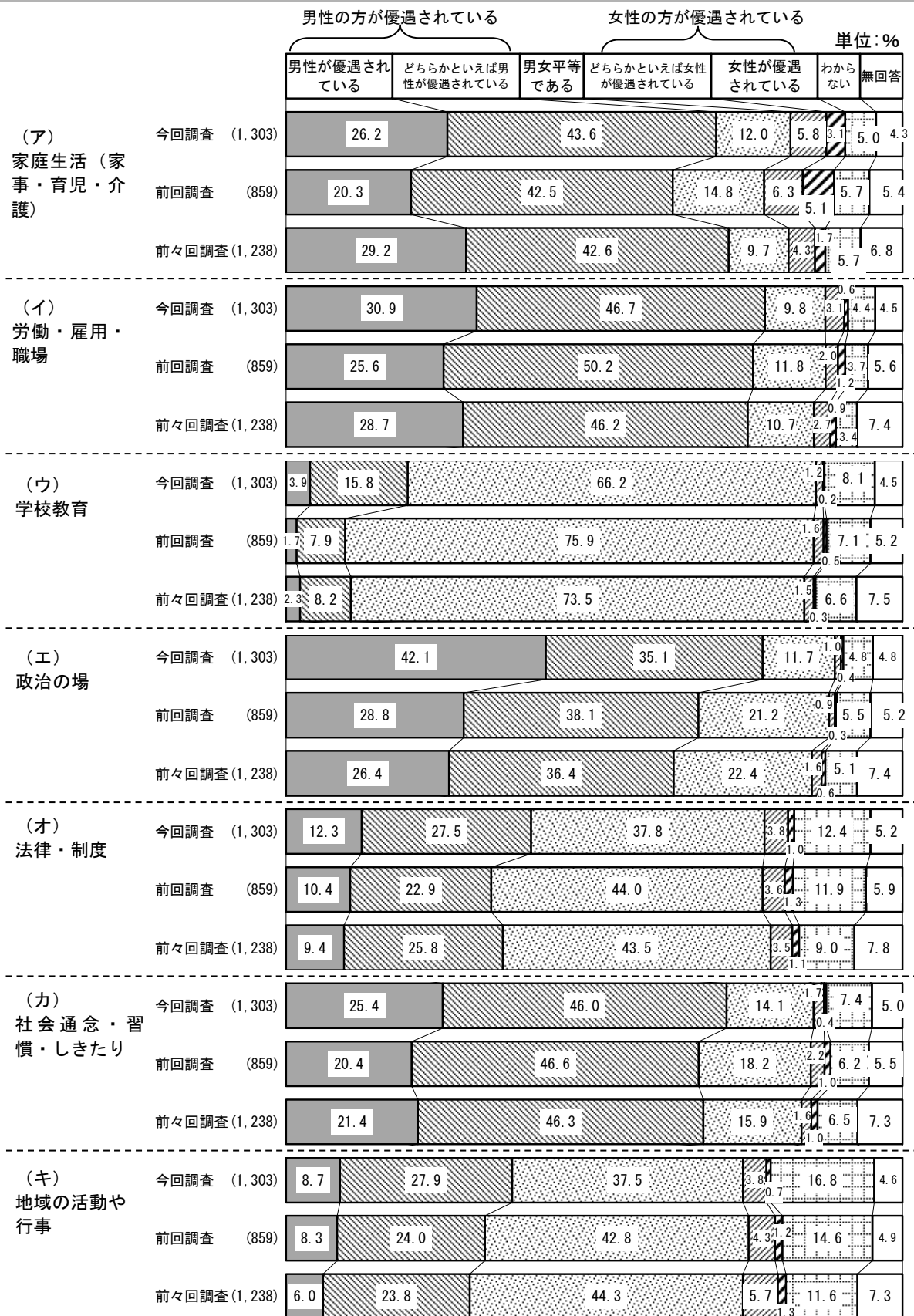
図表 61 男女平等の認識『地域の活動や行事』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では“男性の方が優遇されている”が 27.0%であり、他の年代を 5 ポイント以上下回っています。女性の「男女平等である」の割合は、60～69 歳を除く各年代とも 3 割台となっています。

男性では 30～39 歳で“男性の方が優遇されている”が 24.5%であり、他の年代を 14 ポイント以上下回っているほか、“女性の方が優遇されている”が 12.8%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 62 男女平等の認識＜前回調査・前々回調査との比較＞

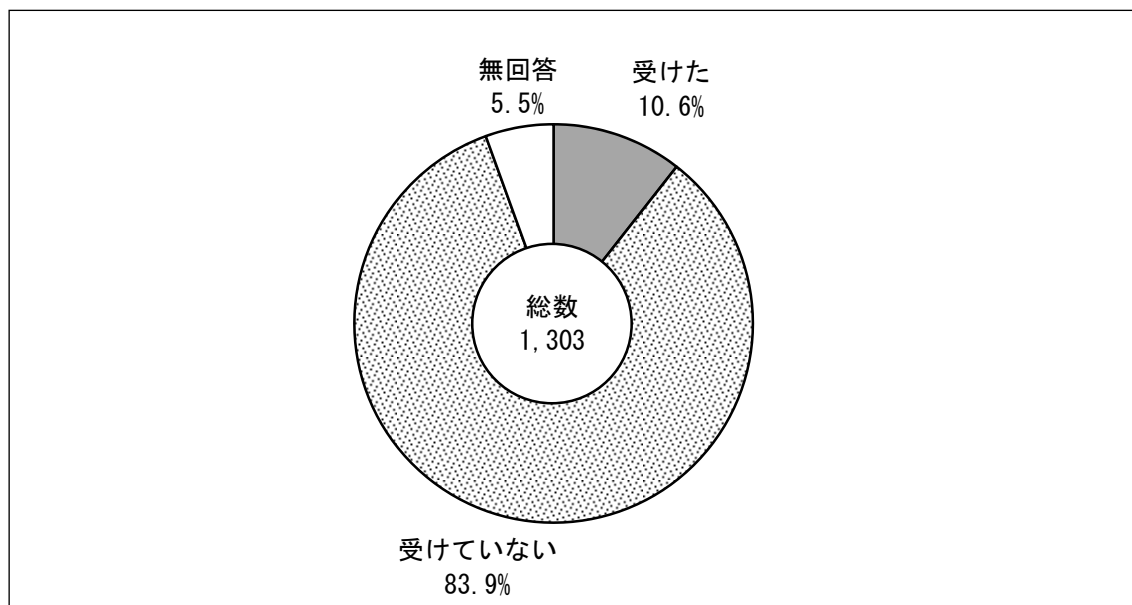
●前回調査・前々回調査との比較

すべての分野において、今回調査の「男女平等である」の割合が前回調査を下回っているほか、『政治の場』『学校教育』『法律・制度』『地域の活動や行事』では前回調査及び前々回調査を5ポイント以上下回っています。『政治の場』『地域の活動や行事』『労働・雇用・職場』では、前々回調査から今回調査にかけて“男性の方が優遇されている”の割合が増加しており、『政治の場』では今回調査の割合が前回調査の割合を10ポイント上回っています。

『家庭生活（家事・育児・介護）』では、前々回調査から前回調査にかけて“男性の方が優遇されている”の割合が9ポイント減少したのに対し、前回調査から今回調査にかけては7ポイント増加しています。

問 10 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

相手を不快にさせる性的な言動を「セクシュアル・ハラスメント」といいます。あなたは
この3年間で、セクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。(○は1つ)



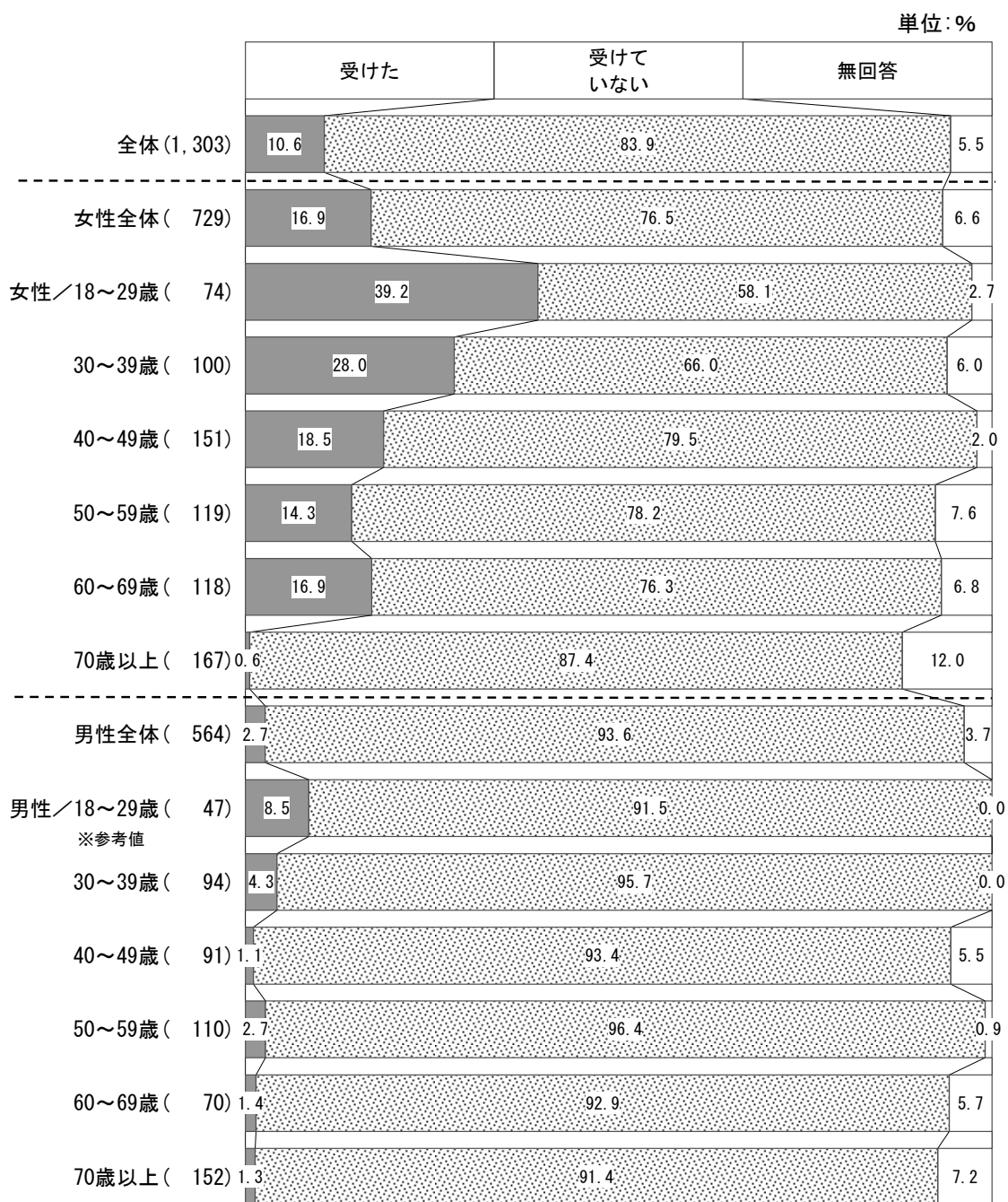
図表 63 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

○全体の傾向

「受けた」が 10.6%、「受けていない」が 83.9%となっています。

○男女別の傾向

「受けた」は、女性が男性を 14 ポイント上回っています。一方、「受けていない」は、男性が女性を 17 ポイント上回っています。

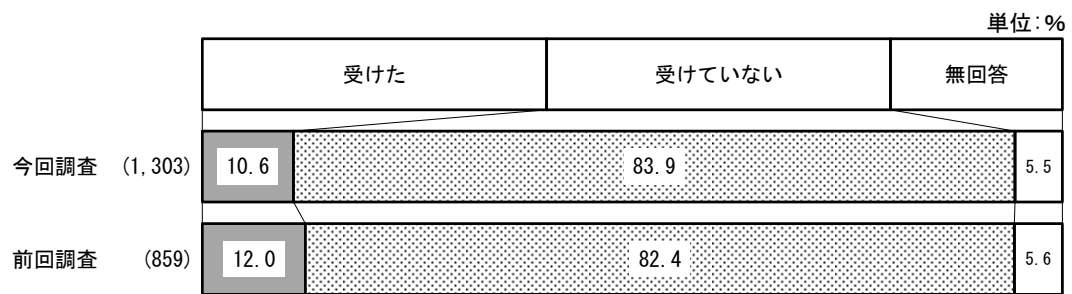


図表 64 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「受けた」が39.2%、30～39歳では28.0%であり、他の年代に比べて多くなっています。

▼ 前回調査との比較



図表 65 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験《前回調査との比較》

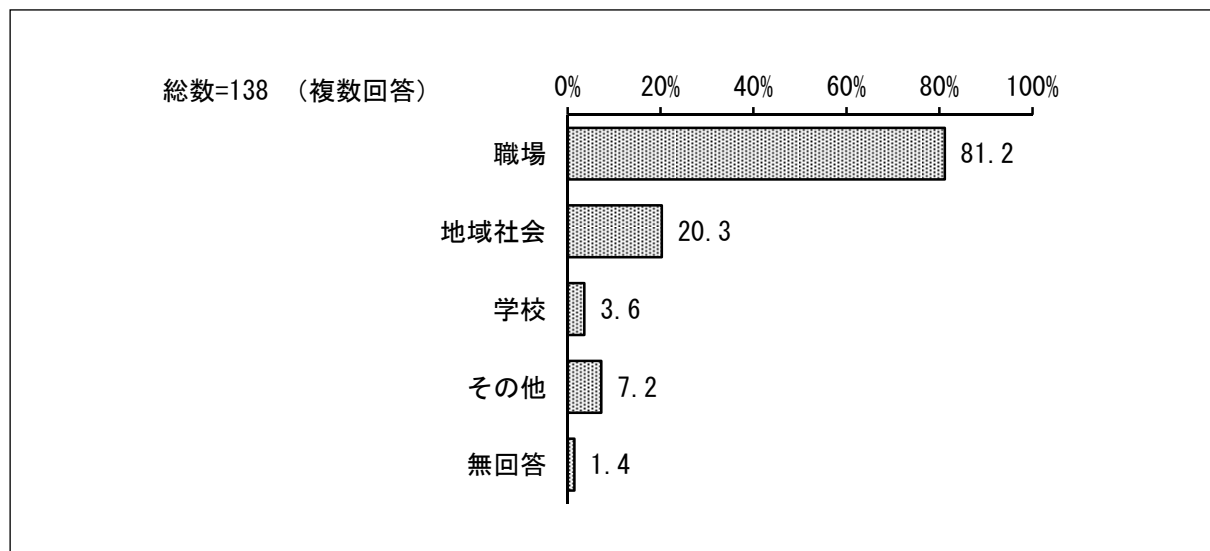
●前回調査との比較

今回調査・前回調査とも「受けていない」が8割強を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問 10-1 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所

問 10 で「1. 受けた」を選択された方にうかがいます。

あなたは、セクシュアル・ハラスメントをどこで受けましたか。(〇はいくつでも)



図表 66 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所

○全体の傾向

この3年間でセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に対して、被害を受けた場所を聞いたところ、「職場」が81.2%で最も多く、「地域社会」(20.3%)、「学校」(3.6%)が続きます。

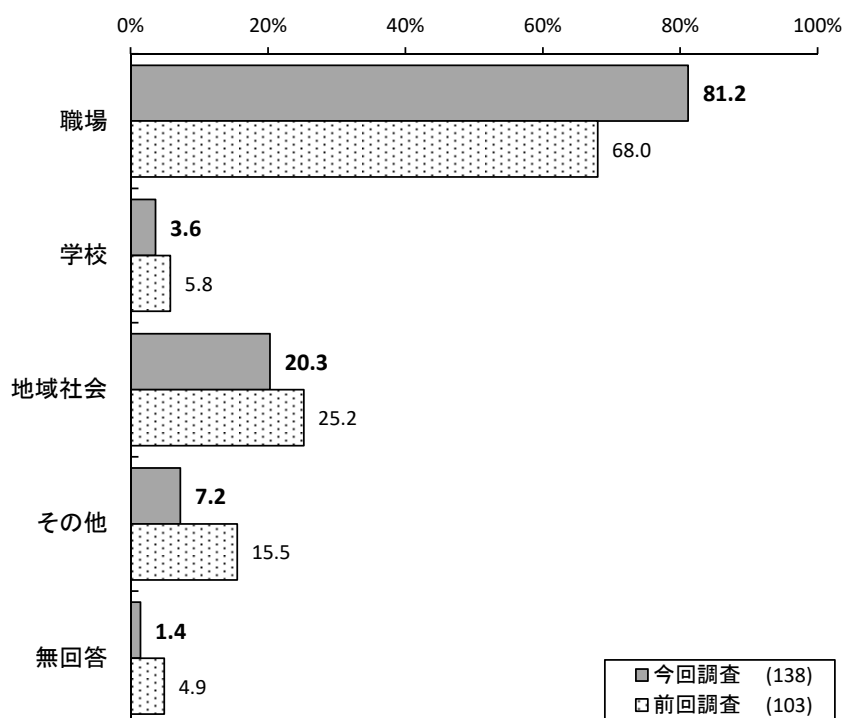
○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

			全体	職場	学校	地域社会	その他	無回答
全体			138 100.0	112 81.2	5 3.6	28 20.3	10 7.2	2 1.4
性別	女性		123 100.0	100 81.3	5 4.1	25 20.3	10 8.1	1 0.8
	男性		15 100.0	12 80.0	— —	3 20.0	— —	1 6.7
	※参考値							
	無回答		— ※参考値	— ※参考値	— ※参考値	— ※参考値	— ※参考値	— ※参考値
性・年代別	女性	18～29歳	29	26	1	4	2	—
		※参考値	100.0	89.7	3.4	13.8	6.9	—
		30～39歳	28	23	1	7	1	1
		※参考値	100.0	82.1	3.6	25.0	3.6	3.6
		40～49歳	28	24	—	7	—	—
		※参考値	100.0	85.7	—	25.0	—	—
		50～59歳	17	13	1	4	2	—
		※参考値	100.0	76.5	5.9	23.5	11.8	—
	60～69歳	20	14	2	3	4	—	
	※参考値	100.0	70.0	10.0	15.0	20.0	—	
	70歳以上	1	—	—	—	1	—	
	※参考値	100.0	—	—	—	100.0	—	
	男性	18～29歳	4	4	—	—	—	—
		※参考値	100.0	100.0	—	—	—	—
		30～39歳	4	3	—	—	—	1
		※参考値	100.0	75.0	—	—	—	25.0
		40～49歳	1	1	—	—	—	—
		※参考値	100.0	100.0	—	—	—	—
		50～59歳	3	2	—	2	—	—
		※参考値	100.0	66.7	—	66.7	—	—
60～69歳	1	1	—	—	—	—		
※参考値	100.0	100.0	—	—	—	—		
70歳以上	2	1	—	1	—	—		
※参考値	100.0	50.0	—	50.0	—	—		
無回答		—	—	—	—	—	—	
※参考値		*	*	*	*	*	*	

図表 67 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所（男女・年代別）

▼ 前回調査との比較



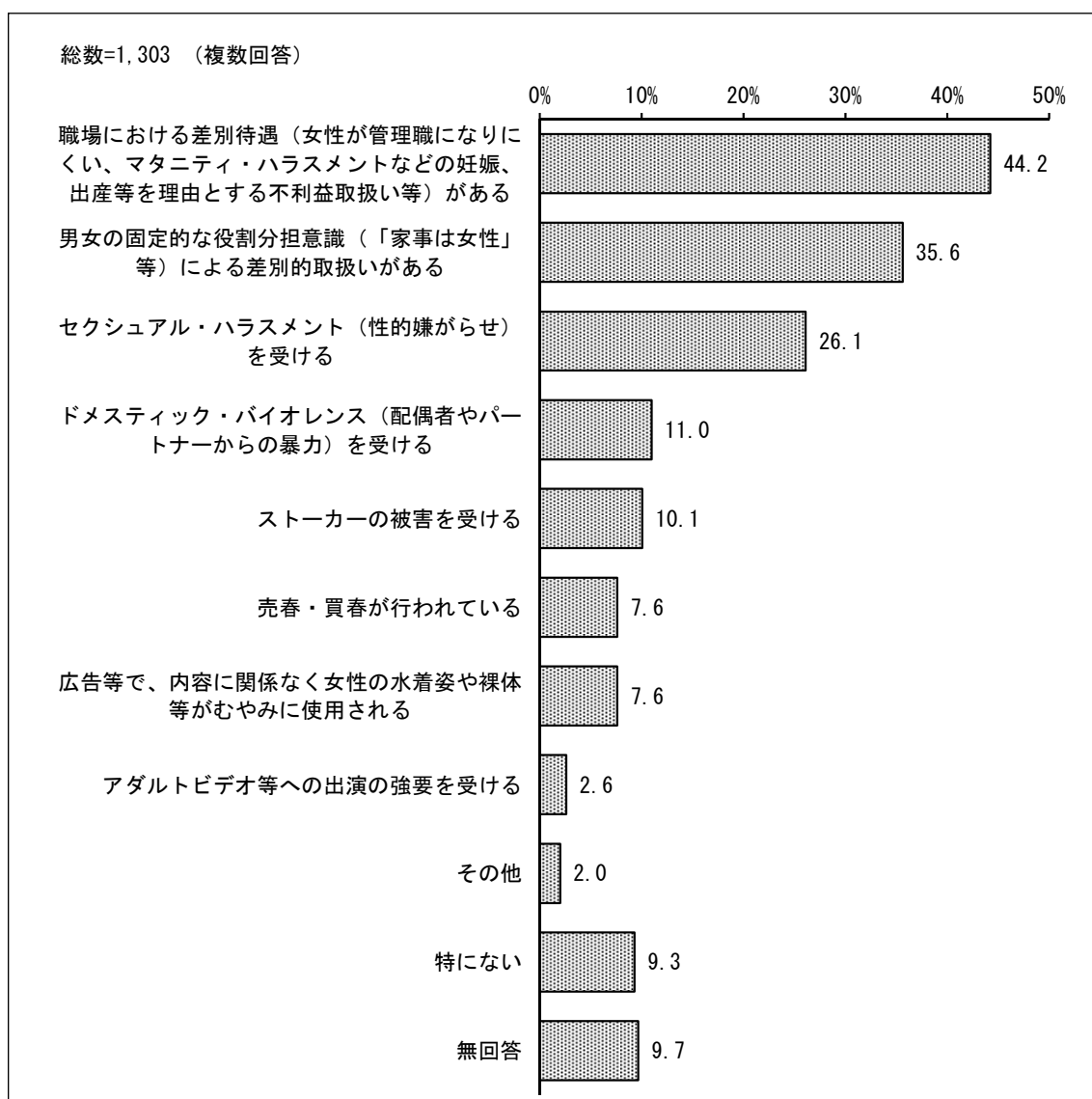
図表 68 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所《前回調査との比較》

●前回調査との比較

今回調査、前回調査とも「職場」が最も多い回答となっていますが、今回調査の割合が前回調査の割合を 13 ポイント上回っています。

問 11 女性の人権が守られていないと思うこと

女性の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか。（〇は2つまで）



図表 69 女性の人権が守られていないと思うこと

○全体の傾向

「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」が 44.2%で最も多く、「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある」（35.6%）、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受ける」（26.1%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）による差別的取扱いがある」は 40.1%であり、男性を 9 ポイント上回っています。一方、男性の「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受ける」は 30.3%であり、女性を 7 ポイント上回っています。

		全体	男女の固定的な役割分担意識 （「家事は女性」等）による差 別の取扱いがある	職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある	セクシュアル・ハラスメント （性的嫌がらせ）を受ける	ドメスティック・バイオレンス （配偶者やパートナーからの暴力）を受ける	売春・買春が行われている	ストーカーの被害を受ける	アダルトビデオ等への出演の強要を受ける	広告等で、内容に関係なく女性の水着姿や裸体等がむやみに使用される	特にない	その他	無回答
全体		1,303 100.0	464 35.6	576 44.2	340 26.1	143 11.0	99 7.6	131 10.1	34 2.6	99 7.6	121 9.3	26 2.0	126 9.7
性別	女性	729 100.0	292 40.1	334 45.8	168 23.0	79 10.8	71 9.7	60 8.2	18 2.5	65 8.9	53 7.3	13 1.8	71 9.7
	男性	564 100.0	171 30.3	241 42.7	171 30.3	64 11.3	28 5.0	71 12.6	16 2.8	34 6.0	66 11.7	12 2.1	50 8.9
	無回答	10 100.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	-	-	-	-	2 20.0	1 10.0	5 50.0
	※参考値	74 100.0	36 48.6	39 52.7	22 29.7	8 10.8	3 4.1	5 6.8	1 1.4	3 4.1	3 4.1	2 2.7	7 9.5
性・年代別	女性	18～29歳	100 100.0	44 48.6	43 52.7	30 29.7	14 10.8	7 4.1	10 6.8	3 3.0	5 5.0	2 2.0	2 14.0
		30～39歳	100 100.0	44 44.0	43 43.0	30 30.0	14 14.0	7 7.0	10 10.0	3 3.0	5 5.0	2 2.0	2 14.0
		40～49歳	151 100.0	62 41.1	82 54.3	46 30.5	10 6.6	13 8.6	10 6.6	5 3.3	7 4.6	3 4.0	14 9.3
		50～59歳	119 100.0	50 42.0	53 44.5	22 18.5	20 16.8	11 10.1	11 9.2	3 2.5	7 5.9	5 4.2	13 10.9
		60～69歳	118 100.0	47 39.8	50 42.4	23 19.5	16 13.6	13 11.0	10 8.5	4 3.4	15 12.7	9 7.6	10 8.5
		70歳以上	167 100.0	53 31.7	67 40.1	25 15.0	11 6.6	23 13.8	14 8.4	2 1.2	28 16.8	28 16.8	2 7.8
		18～29歳 ※参考値	47 100.0	13 27.7	19 40.4	20 42.6	6 12.8	2 4.3	8 17.0	-	2 4.3	3 6.4	1 10.6
		30～39歳	94 100.0	33 35.1	34 36.2	35 37.2	5 5.3	2 2.1	9 9.6	3 3.2	4 4.3	9 9.6	2 10.6
	男性	40～49歳	91 100.0	19 20.9	29 31.9	31 34.1	10 11.0	1 1.1	13 14.3	4 4.4	6 6.6	14 15.4	2 2.2
		50～59歳	110 100.0	39 35.5	46 41.8	37 33.6	16 14.5	7 6.4	11 10.0	4 3.6	4 3.6	11 10.0	4 7.3
		60～69歳	70 100.0	24 34.3	40 57.1	15 21.4	10 14.3	2 2.9	9 12.9	4 5.7	3 4.3	7 10.0	6 8.6
		70歳以上	152 100.0	43 28.3	73 48.0	33 21.7	17 11.2	14 9.2	21 13.8	1 0.7	15 9.9	22 14.5	2 1.3
		無回答	10 100.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	-	-	-	-	2 20.0	1 10.0
		※参考値	10 100.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	-	-	-	-	2 20.0	1 10.0

図表 70 女性の人権が守られていないと思うこと（男女・年代別）

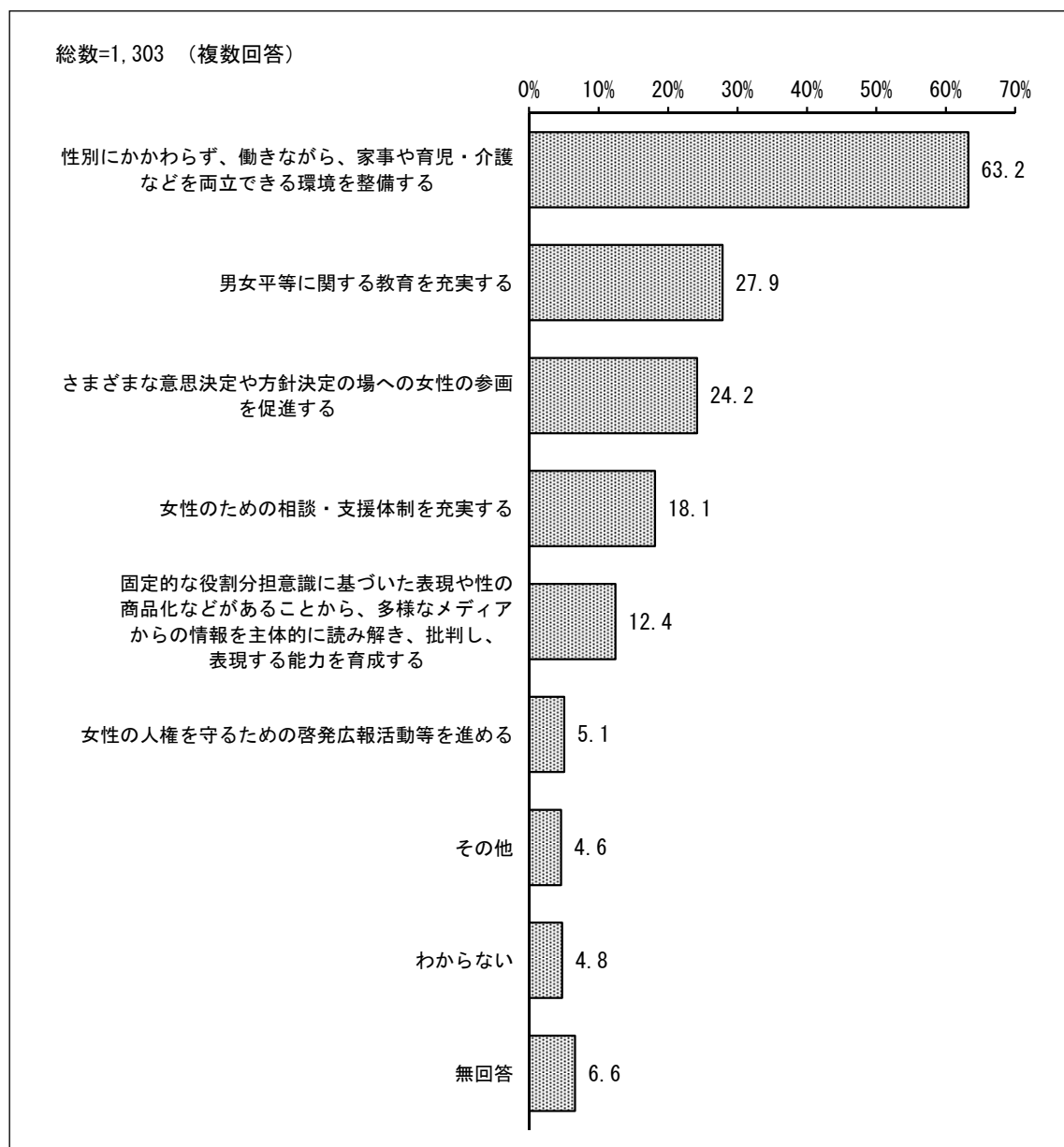
○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳と 40～49 歳では「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」が 5 割強であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。また、女性の 18～29 歳と 30～39 歳、40～49 歳では「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受ける」が 3 割前後であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。このほか、50～59 歳では「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）を受ける」が 16.8%であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っているほか、60～69 歳と 70 歳以上では「広告等で、内容に関係なく女性の水着姿や裸体等がむやみに使用される」が 1 割台であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。

男性では、60～69 歳で「職場における差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）がある」が 57.1%であり、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。

問 12 女性の人権を守るために実施すべきこと

女性の人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。（〇は2つまで）



図表 71 女性の人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が 63.2% で最も多く、「男女平等に関する教育を充実する」(27.9%)、「さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」(24.2%) が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全体	女性のための相談・支援体制を充実する	性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する	さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する	女性の人権を守るための啓発広報活動等を進める	男女平等に関する教育を充実する	固定的な役割分担意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する	わからない	その他	無回答	
全体		1,303 100.0	236 18.1	824 63.2	315 24.2	66 5.1	363 27.9	162 12.4	62 4.8	60 4.6	86 6.6	
性別	女性	729 100.0	124 17.0	475 65.2	178 24.4	31 4.3	214 29.4	107 14.7	31 4.3	29 4.0	51 7.0	
	男性	564 100.0	111 19.7	346 61.3	137 24.3	34 6.0	145 25.7	55 9.8	30 5.3	30 5.3	31 5.5	
	無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	3 30.0	- -	1 10.0	4 40.0	- -	1 10.0	1 10.0	4 40.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	12 16.2	60 81.1	18 24.3	1 1.4	20 27.0	15 20.3	- -	3 4.1	4 5.4
		30～39歳	100 100.0	11 11.0	70 70.0	29 29.0	2 2.0	33 33.0	12 12.0	- -	5 5.0	11 11.0
		40～49歳	151 100.0	21 13.9	101 66.9	35 23.2	6 4.0	42 27.8	24 15.9	9 6.0	8 5.3	5 3.3
		50～59歳	119 100.0	18 15.1	75 63.0	29 24.4	6 5.0	37 31.1	18 15.1	4 3.4	4 3.4	10 8.4
		60～69歳	118 100.0	24 20.3	72 61.0	31 26.3	7 5.9	37 31.4	20 16.9	5 4.2	3 2.5	8 6.8
		70歳以上	167 100.0	38 22.8	97 58.1	36 21.6	9 5.4	45 26.9	18 10.8	13 7.8	6 3.6	13 7.8
		18～29歳 ※参考値	47 100.0	8 17.0	28 59.6	7 14.9	1 2.1	11 23.4	6 12.8	4 8.5	6 12.8	2 4.3
	男性	30～39歳	94 100.0	10 10.6	66 70.2	17 18.1	2 2.1	12 12.8	11 11.7	5 5.3	8 8.5	7 7.4
		40～49歳	91 100.0	10 11.0	55 60.4	26 28.6	5 5.5	15 16.5	7 7.7	5 5.5	6 6.6	9 9.9
		50～59歳	110 100.0	32 29.1	63 57.3	29 26.4	6 5.5	33 30.0	11 10.0	3 2.7	6 5.5	4 3.6
		60～69歳	70 100.0	13 18.6	42 60.0	17 24.3	6 8.6	28 40.0	9 12.9	2 2.9	3 4.3	3 4.3
		70歳以上	152 100.0	38 25.0	92 60.5	41 27.0	14 9.2	46 30.3	11 7.2	11 7.2	1 0.7	6 3.9
		無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	3 30.0	- -	1 10.0	4 40.0	- -	1 10.0	1 10.0	4 40.0

図表 72 女性の人権を守るために実施すべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が81.1%であり、他の年代を11ポイント以上上回っています。「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」は年代とともに割合が減少しており、70歳以上では58.1%となっています。このほか、女性の18～29歳では「固定的な役割分担意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する」が20.3%であり、女性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。

男性では30～39歳で「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が70.2%、60～69歳で「男女平等に関する教育を充実する」が40.0%であり、いずれも他の年代を9ポイント以上上回っています。また、50～59歳では「女性のための相談・支援体制を充実する」が29.1%、70歳以上では25.0%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。

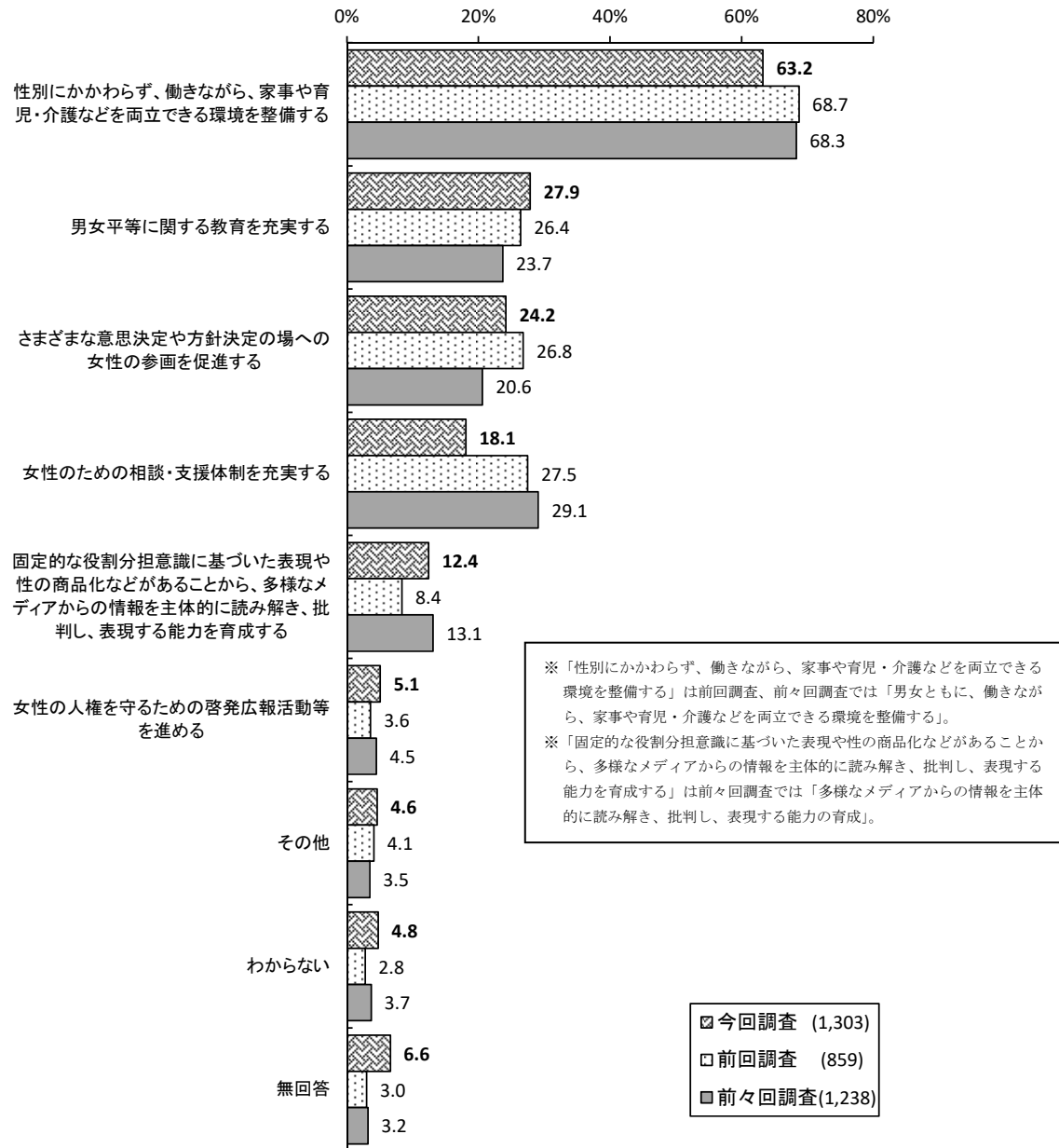
			全体	女性のための相談・支援体制を充実する	性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する	さまざまな意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する	女性の人権を守るための啓発広報活動等を進める	男女平等に関する教育を充実する	固定的な役割分担意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する	わからない	その他	無回答
全体			1,303 100.0	236 18.1	824 63.2	315 24.2	66 5.1	363 27.9	162 12.4	62 4.8	60 4.6	86 6.6
性・職業	女性	自営業	66 100.0	6 9.1	42 63.6	10 15.2	6 9.1	23 34.8	9 13.6	6 9.1	3 4.5	5 7.6
		勤め	299 100.0	42 14.0	219 73.2	78 26.1	6 2.0	80 26.8	49 16.4	7 2.3	13 4.3	21 7.0
		学生 ※参考値	21 100.0	4 19.0	17 81.0	5 23.8	1 4.8	8 38.1	3 14.3	- -	1 4.8	- -
		主婦・主夫	225 100.0	48 21.3	131 58.2	47 20.9	11 4.9	70 31.1	32 14.2	10 4.4	8 3.6	19 8.4
		無職	94 100.0	19 20.2	50 53.2	28 29.8	7 7.4	28 29.8	9 9.6	6 6.4	4 4.3	6 6.4
		その他 ※参考値	23 100.0	5 21.7	15 65.2	10 43.5	- -	5 21.7	5 21.7	2 8.7	- -	- -
		無回答 ※参考値	14 100.0	2 14.3	5 35.7	- -	1 7.1	6 42.9	- -	1 7.1	1 7.1	5 35.7
	男性	自営業	89 100.0	16 18.0	53 59.6	19 21.3	8 9.0	25 28.1	9 10.1	4 4.5	5 5.6	6 6.7
		勤め	314 100.0	53 16.9	202 64.3	71 22.6	12 3.8	74 23.6	36 11.5	15 4.8	21 6.7	18 5.7
		学生 ※参考値	13 100.0	2 15.4	9 69.2	2 15.4	- -	3 23.1	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7
		主婦・主夫 ※参考値	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0
		無職	133 100.0	35 26.3	73 54.9	40 30.1	13 9.8	39 29.3	8 6.0	10 7.5	3 2.3	4 3.0
		その他 ※参考値	11 100.0	4 36.4	8 72.7	5 45.5	1 9.1	2 18.2	1 9.1	- -	- -	- -
		無回答 ※参考値	14 100.0	2 14.3	5 35.7	- -	1 7.1	6 42.9	- -	1 7.1	1 7.1	5 35.7

図表 73 女性の人権を守るために実施すべきこと（男女・職業別）

○男女・職業別の傾向

勤めの女性では、「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が73.2%であり、女性回答者全体の割合を8ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 74 女性の人権を守るために実施すべきこと《前回調査・前々回調査との比較》

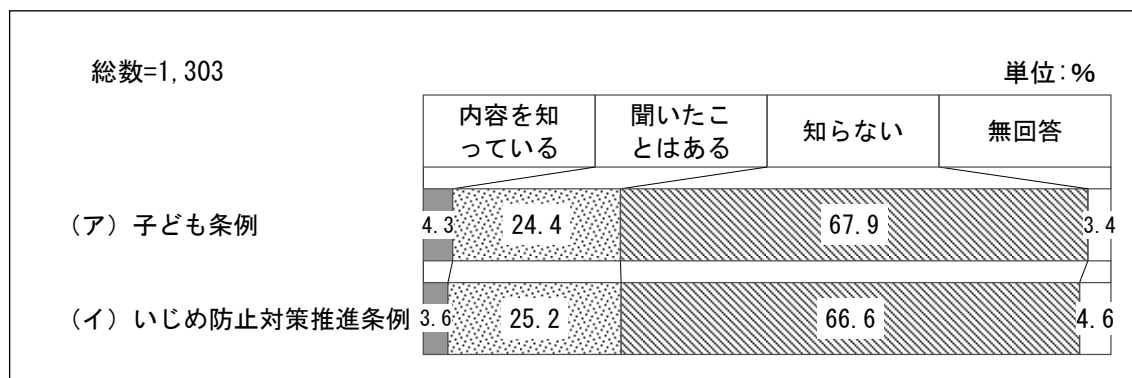
●前回調査・前々回調査との比較

「性別にかかわらず、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」は、今回調査・前回調査・前々回調査とも6割台で最も多い回答となっていますが、前回調査から今回調査にかけて5ポイント減少しています。また、「女性のための相談・支援体制を充実する」は前々回調査から今回調査にかけて減少を続けており、前回調査から今回調査にかけて9ポイント減少しています。一方、「男女平等に関する教育を充実する」は前々回調査から今回調査にかけて増加を続けています。

3 子どもの人権について

問 13 区制定条例の認知

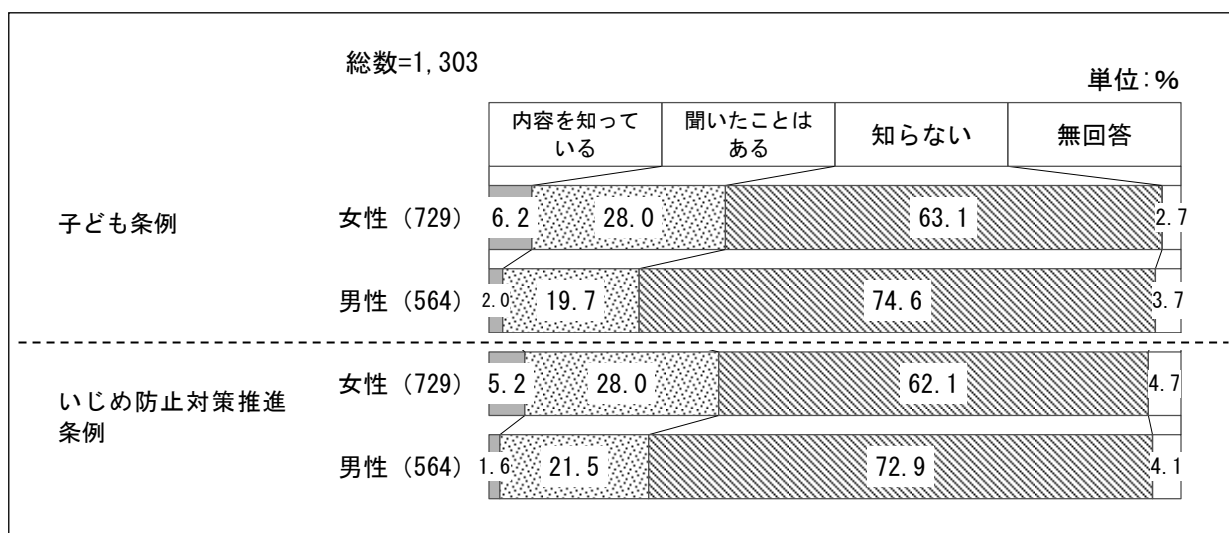
目黒区が制定した「子ども条例」や「いじめ防止対策推進条例」を知っていますか。（ア、イのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ）



図表 75 区制定条例の認知

○全体の傾向

目黒区が制定した条例について、『子ども条例』『いじめ防止対策推進条例』ともに「内容を知っている」が1割未満、「聞いたことはある」が2割台にとどまっており、「知らない」という回答が7割弱を占めています。

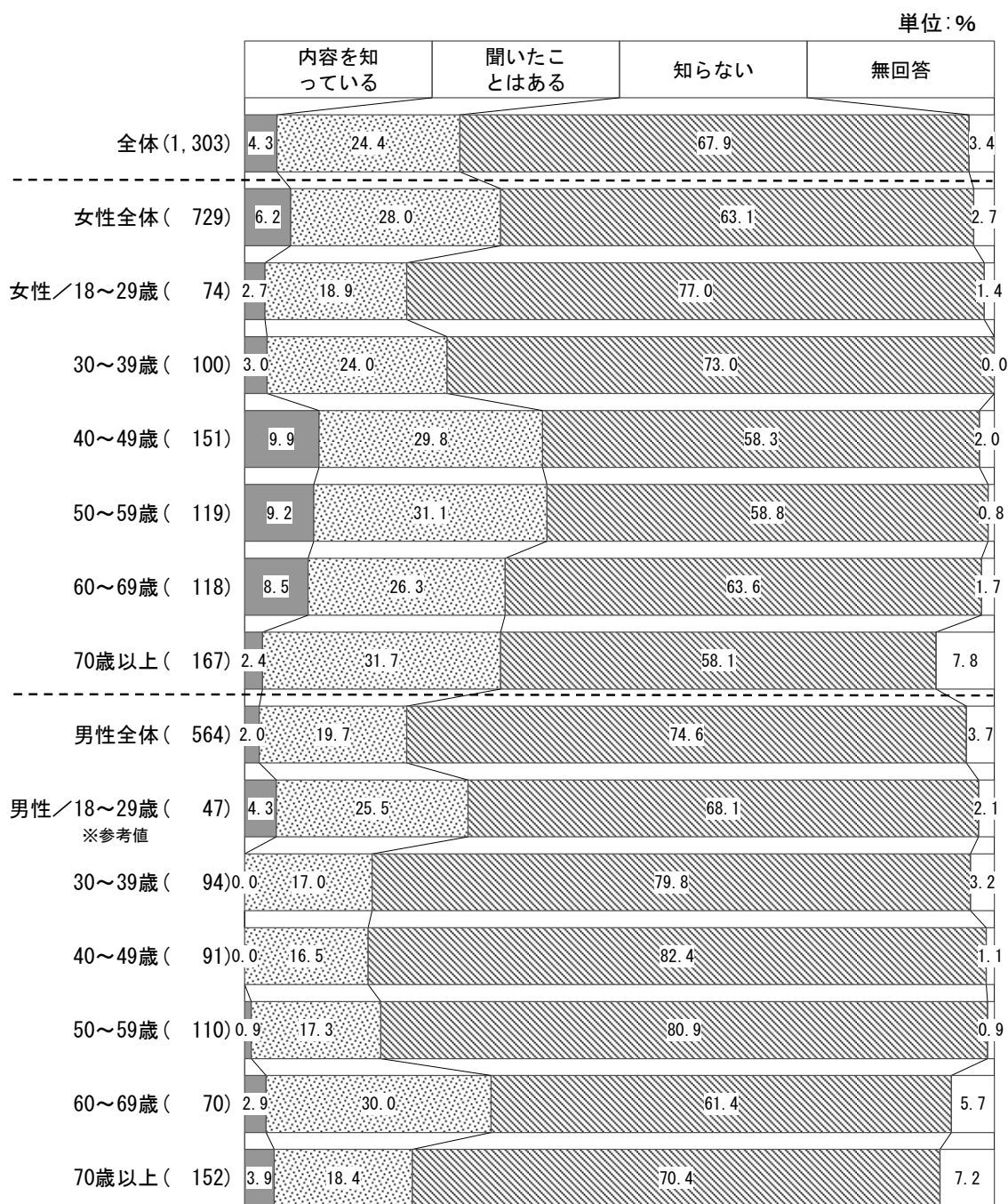


図表 76 区制定条例の認知（男女別）

○男女別の傾向

女性の「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計は、『子ども条例』『いじめ防止対策推進条例』とも3割強で男性を10ポイント以上上回っています。男性の「知らない」は『子ども条例』『いじめ防止対策推進条例』とも7割強で女性を10ポイント以上上回っています。

(ア) 子ども条例



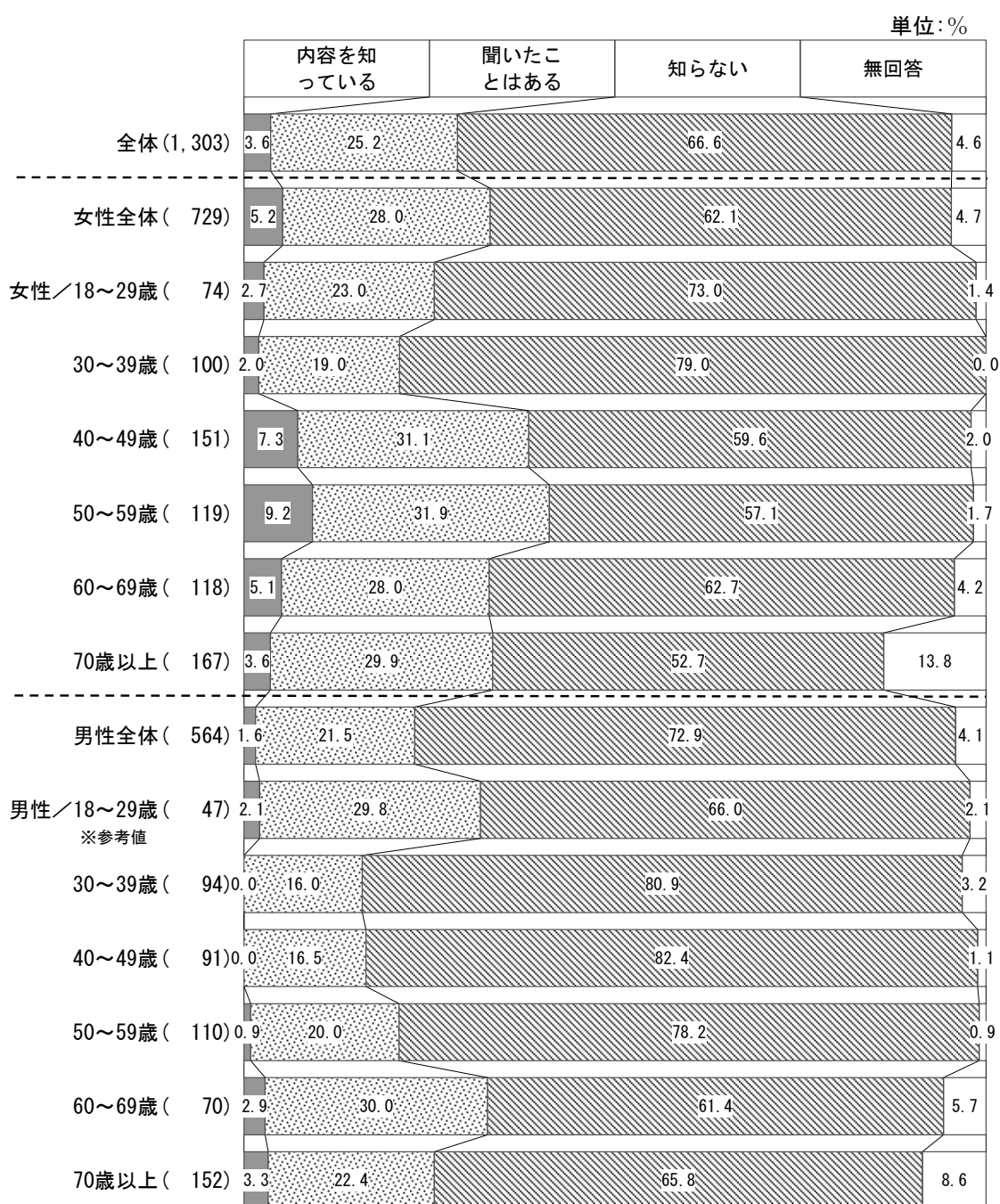
図表 77 区制定条例の認知『子ども条例』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の40～49歳と50～59歳では「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が4割前後であり、女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。また、18～29歳と30～39歳では「知らない」が7割台であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。

男性では、60～69歳で「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が32.9%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。

(イ) いじめ防止対策推進条例



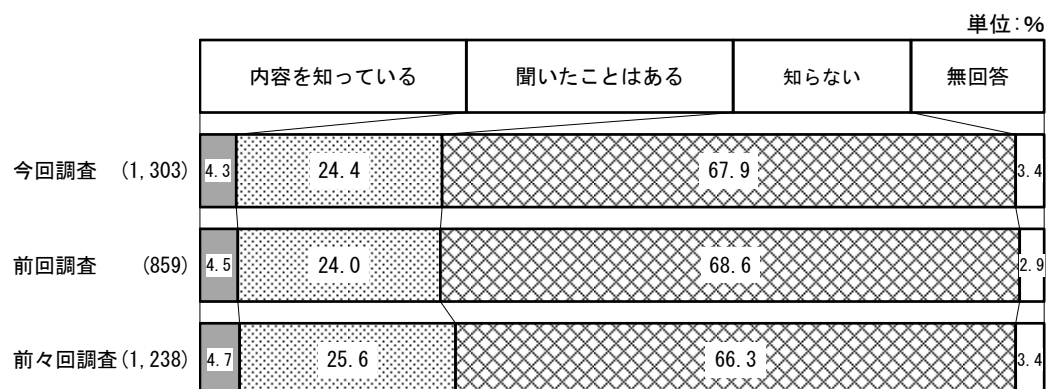
図表 78 区制定条例の認知『いじめ防止対策推進条例』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 40~49 歳と 50~59 歳では「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が 4 割前後であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。また、18~29 歳と 30~39 歳では「知らない」が 7 割台であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。

男性では、60~69 歳で「内容を知っている」「聞いたことはある」の合計が 32.9%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「内容を知っている」は前回調査、前々回調査では「条例の内容を知っている」。「聞いたことはある」は前回調査、前々回調査では「内容は分からないが条例があることは知っている」。

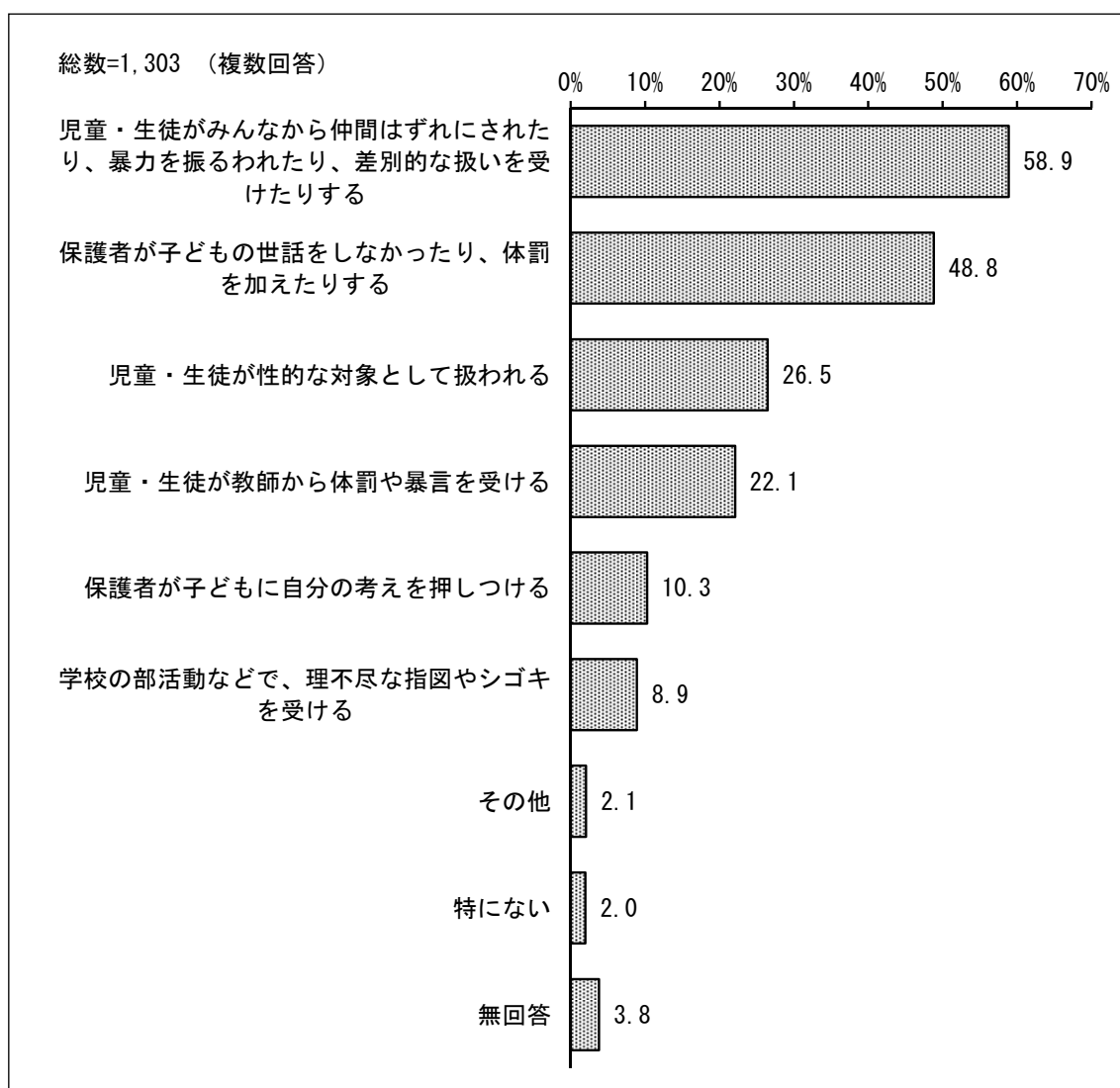
図表 79 区制定条例の認知（子ども条例）◀前回調査・前々回調査との比較▶

●前回調査・前々回調査との比較

『子ども条例』について、今回調査・前回調査・前々回調査とも「知らない」が7割弱を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問 14 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと

次にあげる子どもの人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。（○は2つまで）



図表 80 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、差別的な扱いを受けたりする」が 58.9%で最も多く、「保護者が子どもの世話をしなかったり、体罰を加えたりする」（48.8%）、「児童・生徒が性的な対象として扱われる」（26.5%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「児童・生徒が性的な対象として扱われる」は 30.6%であり、男性の割合を 9 ポイント上回っています。

		全体	児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、差別的な扱いを受けたりする	児童・生徒が教師から体罰や暴言を受ける	学校の部活動などで、理不尽な指図やシゴキを受ける	児童・生徒が性的な対象として扱われる	保護者が子どもの世話をしなかつたり、体罰を加えたりする	保護者が子どもに自分の考えを押しつける	特にない	その他	無回答
全体		1,303 100.0	767 58.9	288 22.1	116 8.9	345 26.5	636 48.8	134 10.3	26 2.0	27 2.1	50 3.8
性別	女性	729 100.0	424 58.2	165 22.6	62 8.5	223 30.6	370 50.8	74 10.2	7 1.0	13 1.8	23 3.2
	男性	564 100.0	340 60.3	120 21.3	53 9.4	119 21.1	263 46.6	60 10.6	19 3.4	14 2.5	25 4.4
	無回答	10	3	3	1	3	3	-	-	-	2
	※参考値	100.0	30.0	30.0	10.0	30.0	30.0	-	-	-	20.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	39 52.7	22 29.7	10 13.5	25 33.8	25 33.8	11 14.9	-	2 2.7
		30～39歳	100 100.0	51 51.0	34 34.0	11 11.0	34 34.0	46 46.0	8 8.0	-	3 4.0
		40～49歳	151 100.0	80 53.0	31 20.5	13 8.6	65 43.0	87 57.6	8 5.3	1 0.7	2 1.3
		50～59歳	119 100.0	74 62.2	24 20.2	3 2.5	41 34.5	70 58.8	9 7.6	1 0.8	2 0.8
		60～69歳	118 100.0	71 60.2	25 21.2	9 7.6	34 28.8	66 55.9	11 9.3	1 0.8	3 2.5
		70歳以上	167 100.0	109 65.3	29 17.4	16 9.6	24 14.4	76 45.5	27 16.2	4 2.4	10 6.0
		無回答	10	3	3	1	3	3	-	-	2
		※参考値	100.0	30.0	30.0	10.0	30.0	30.0	-	-	20.0
	男性	18～29歳	47 100.0	14 29.8	15 31.9	8 17.0	8 17.0	23 48.9	13 27.7	1 2.1	2 4.3
		30～39歳	94 100.0	49 52.1	17 18.1	11 11.7	22 23.4	48 51.1	8 8.5	1 1.1	4 4.3
		40～49歳	91 100.0	63 69.2	15 16.5	8 8.8	32 35.2	39 42.9	7 7.7	1 1.1	2 2.2
		50～59歳	110 100.0	65 59.1	22 20.0	7 6.4	26 23.6	58 52.7	9 8.2	6 5.5	3 2.7
		60～69歳	70 100.0	53 75.7	13 18.6	3 4.3	11 15.7	34 48.6	6 8.6	-	2 8.6
		70歳以上	152 100.0	96 63.2	38 25.0	16 10.5	20 13.2	61 40.1	17 11.2	10 6.6	7 4.6
		無回答	10	3	3	1	3	3	-	-	2
		※参考値	100.0	30.0	30.0	10.0	30.0	30.0	-	-	20.0

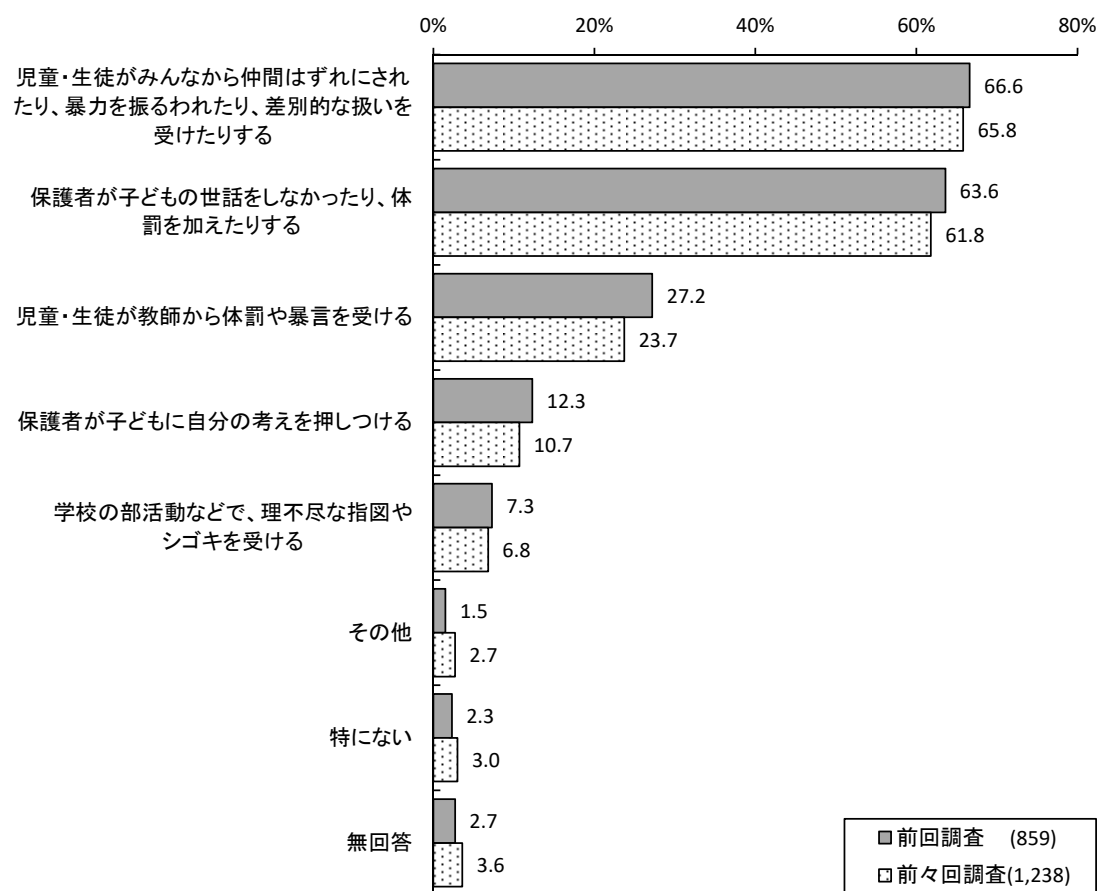
図表 81 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の70歳以上では「児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、差別的な扱いを受けたりする」が65.3%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。また、30～39歳では「児童・生徒が教師から体罰や暴言を受ける」が34.0%、40～49歳では「児童・生徒が性的な対象として扱われる」が43.0%であり、女性回答者全体の割合を11ポイント以上上回っています。このほか、40～49歳と50～59歳、60～69歳では「保護者が子どもの世話をしなかつたり、体罰を加えたりする」が6割弱であり、女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。

男性では60～69歳で「児童・生徒がみんなから仲間はずれにされたり、暴力を振るわれたり、差別的な扱いを受けたりする」が75.7%、40～49歳で「児童・生徒が性的な対象として扱われる」が35.2%であり、いずれも他の年代を6ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果

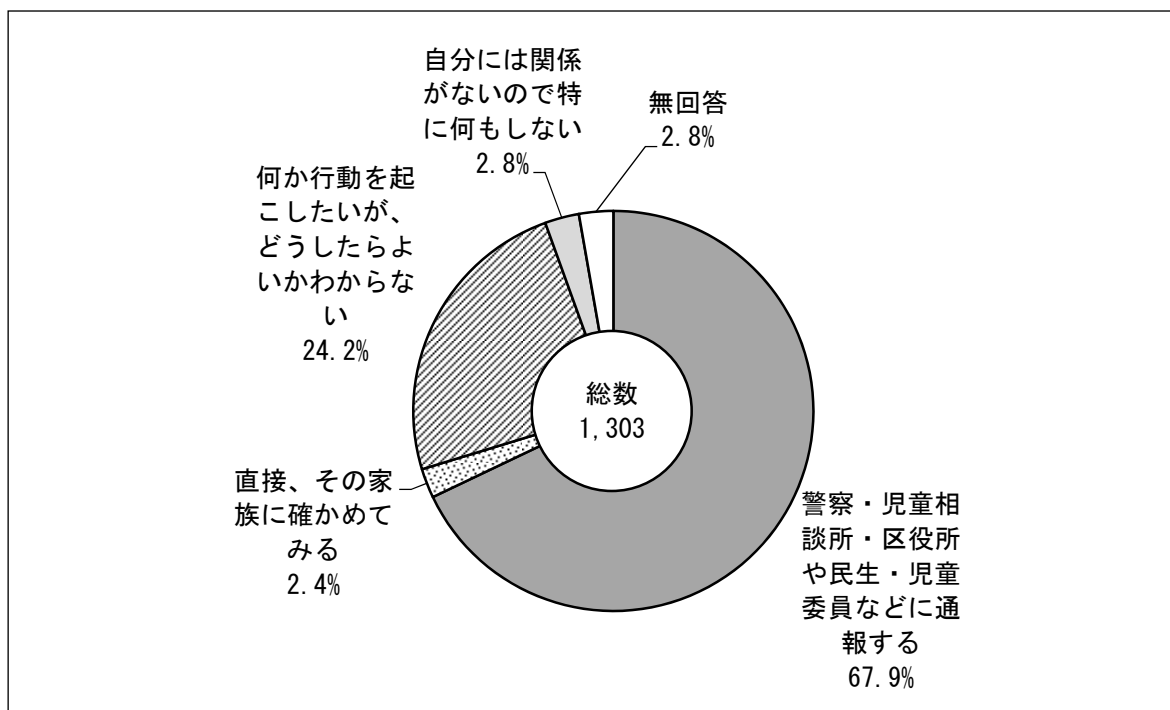


図表 82 子どもの人権問題で、特にひどいと思うこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 15 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応

あなたがお住まいの地域の子どもの保護者等から虐待を受けていると思われる場合、あなたはどうしますか。(〇は1つ)



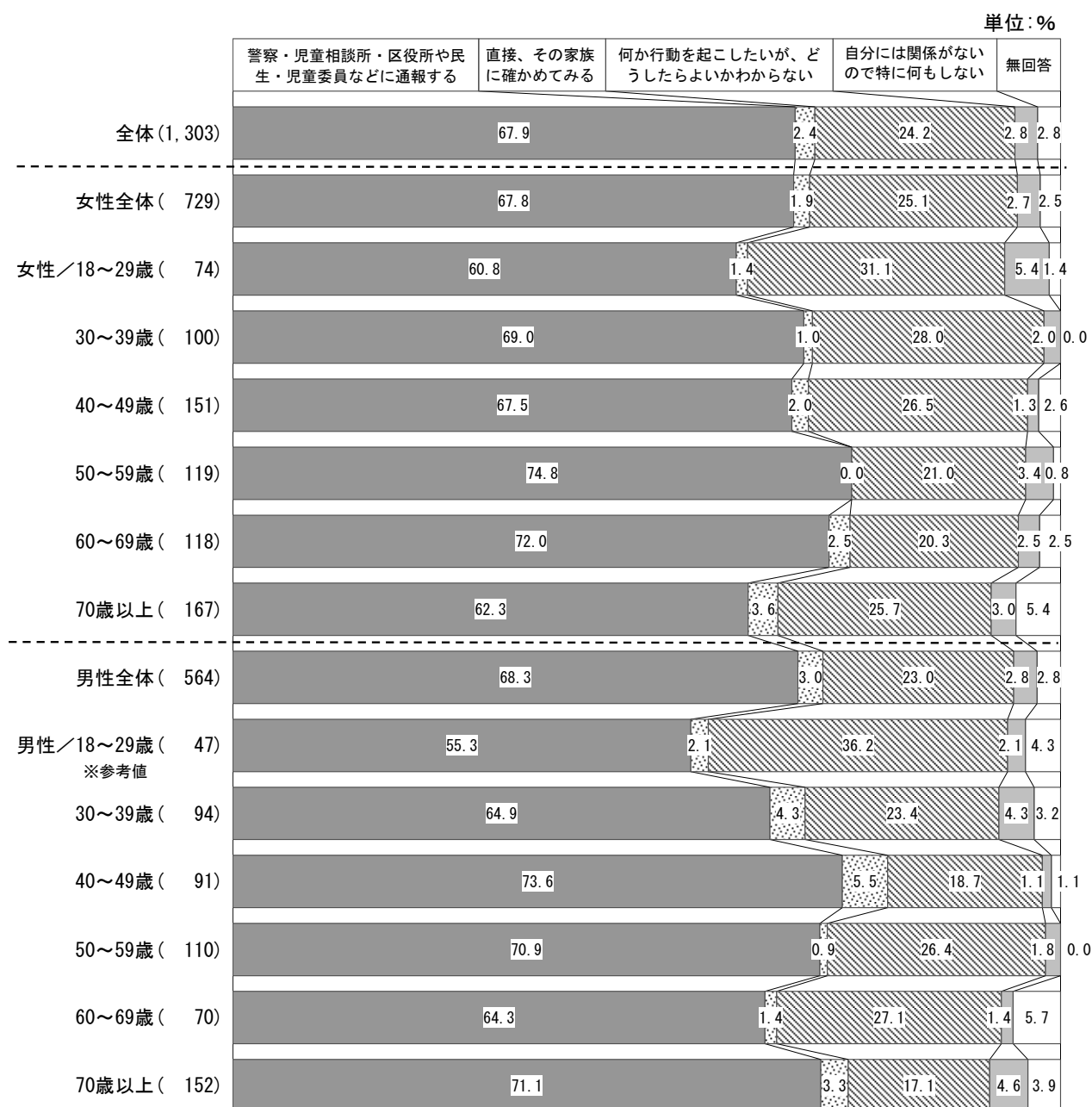
図表 83 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応

○全体の傾向

「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」が67.9%で最も多く、「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」(24.2%)が続きます。「自分には関係がないので特に何もしない」「直接、その家族に確かめてみる」という回答は、いずれも1割に達していません。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

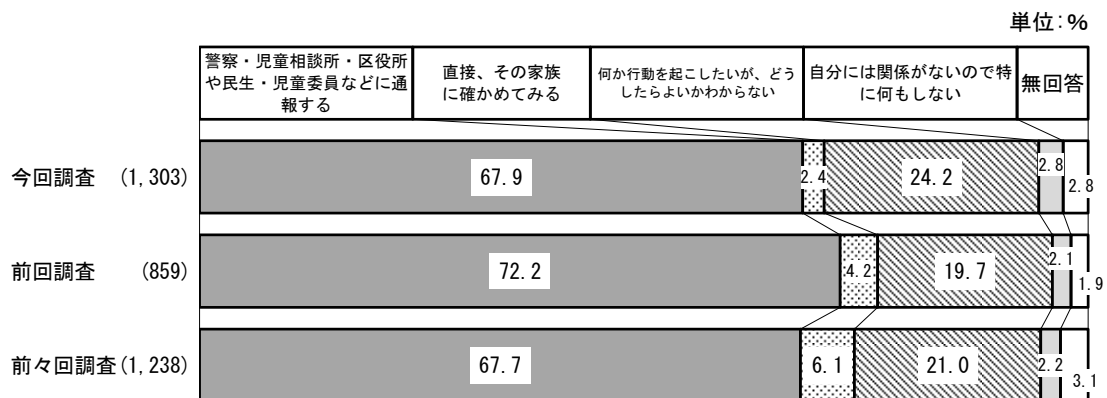


図表 84 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の50～59歳と男性の40～49歳では、「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」が7割強であり、女性回答者全体、男性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。また、女性の18～29歳では「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」が31.1%であり、女性回答者全体の割合を6ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」は前々回調査では「警察・区役所や民生・児童委員などに通報する」。

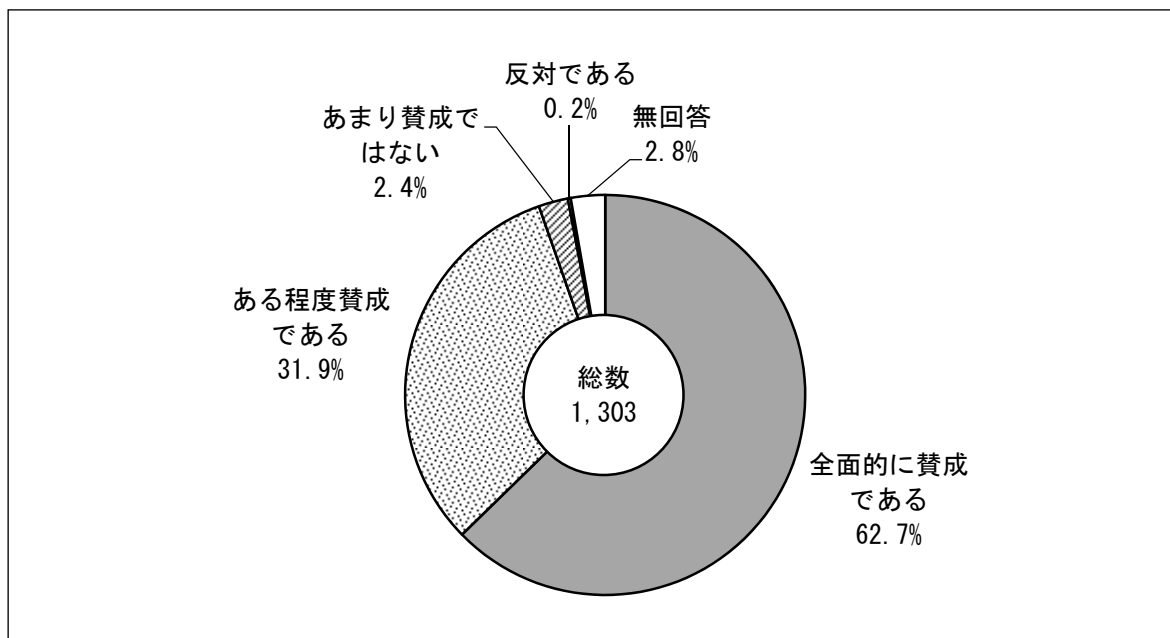
図表 85 地域で子どもが保護者等から虐待されている場合の対応《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「警察・児童相談所・区役所や民生・児童委員などに通報する」が7割前後、「何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない」が2割前後となっており、大きな傾向の違いは見られません。

問 16 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否

「子どもを一人の人間として尊重し、子どもが主体性や自立心を伸ばすことのできる社会が望ましい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)



図表 86 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否

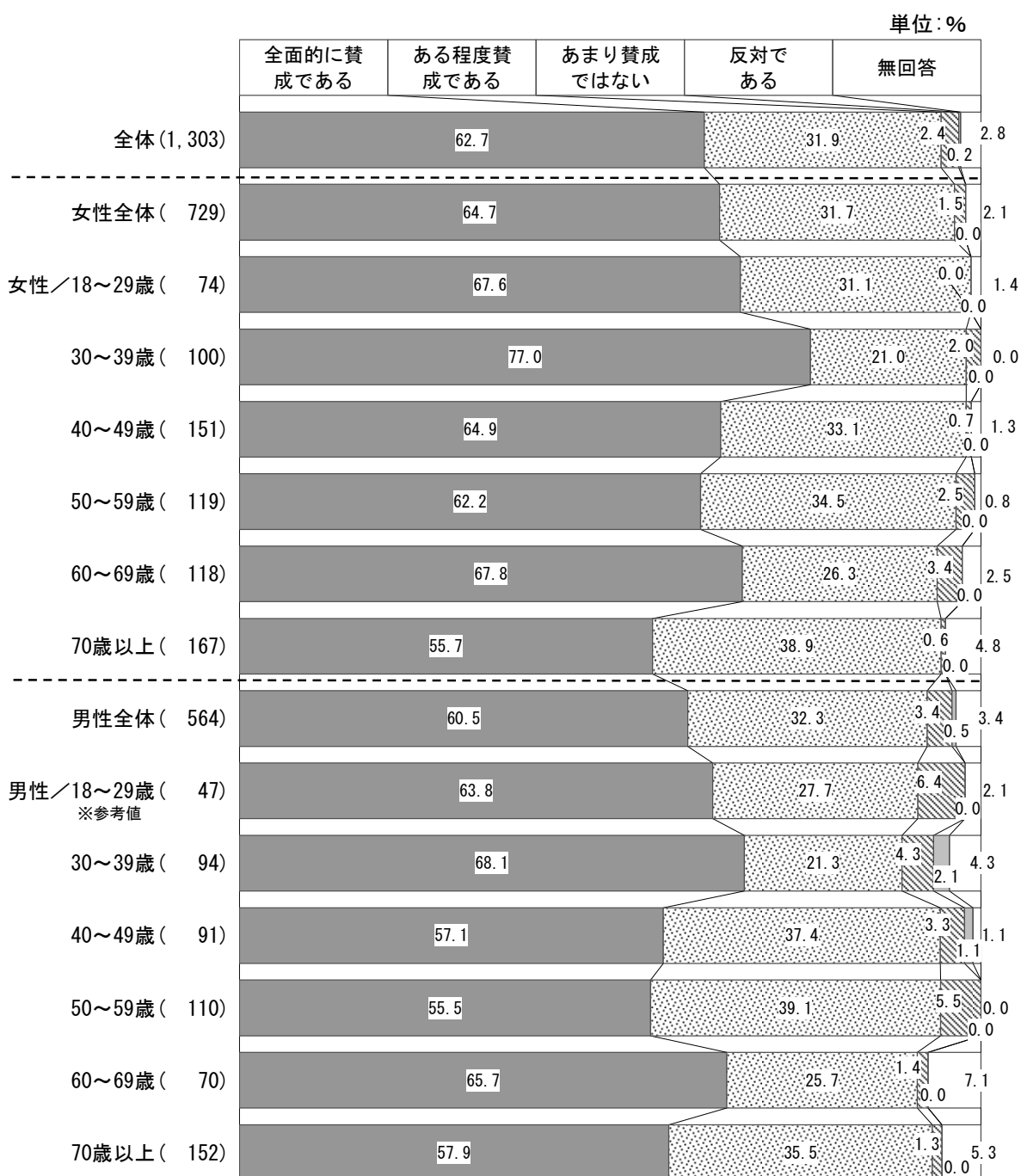
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が 62.7%、「ある程度賛成である」が 31.9%であり、「反対である」が 0.2%、「あまり賛成ではない」が 2.4%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は 94.6%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は 2.6%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

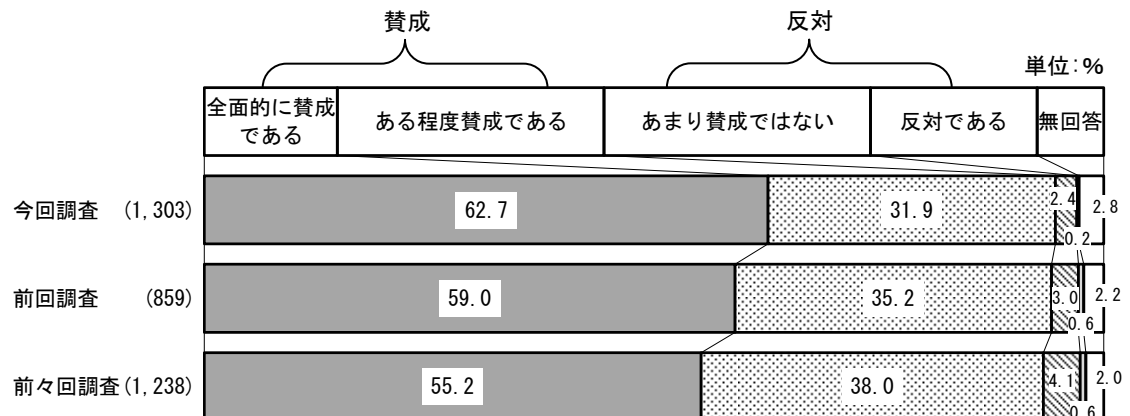


図表 87 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 70 歳以上では「全面的に賛成である」が 55.7%であり、他の年代を 6 ポイント以上下回っています。また、男性の 30～39 歳では、「全面的に賛成である」が 68.1%であり、男性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



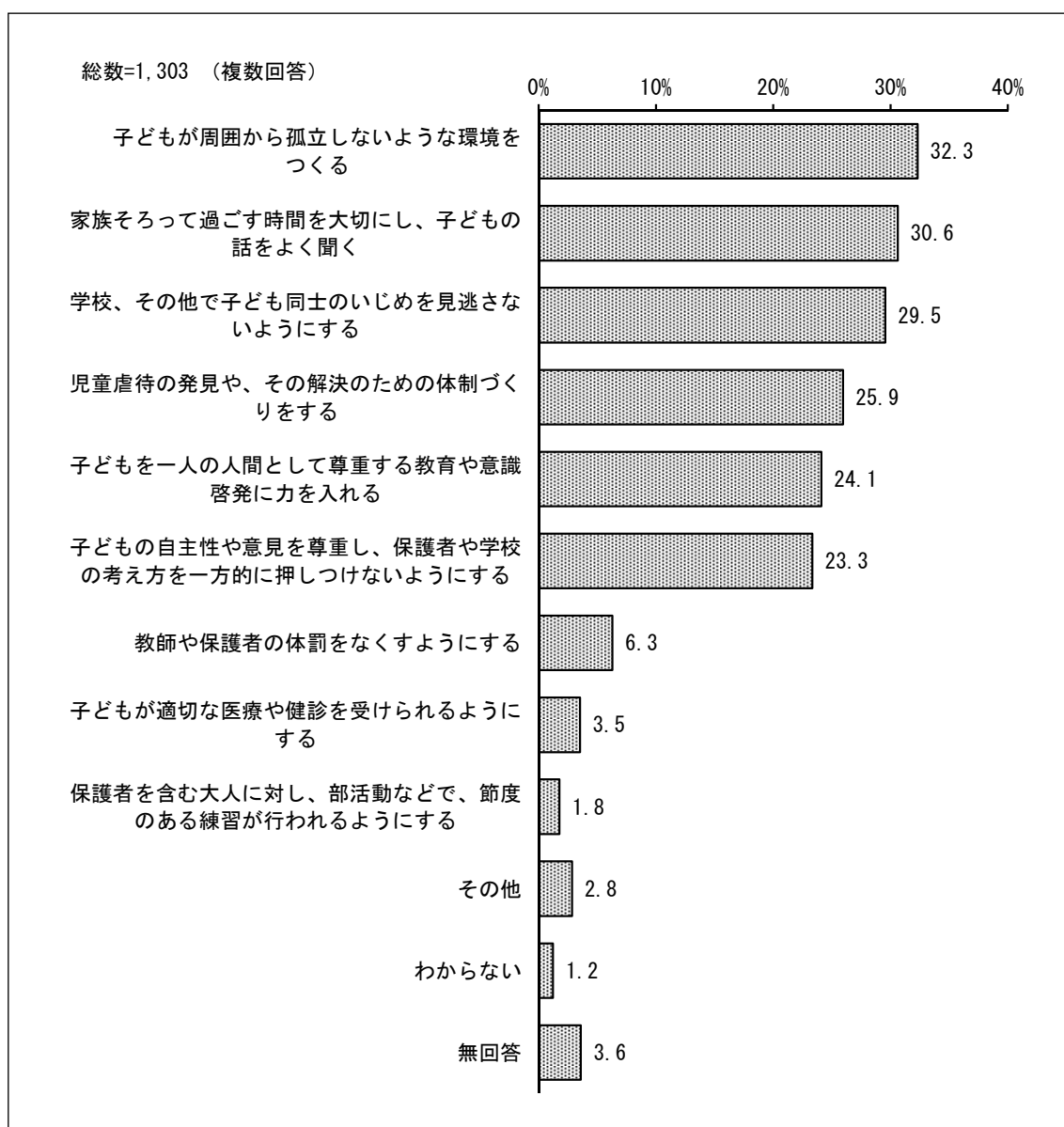
図表 88 「子どもを一人の人間として尊重する社会が望ましい」という考え方への賛否
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、「全面的に賛成である」の割合が増加を続けており、今回調査の「全面的に賛成である」の割合は前々回調査を7ポイント上回っています。なお、今回調査・前回調査・前々回調査とも“賛成”が9割以上を占めています。

問 17 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと

子どもの人権を守るため、大人たちはどのようにするべきだと思いますか。(〇は2つまで)



図表 89 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと

○全体の傾向

「子どもが周囲から孤立しないような環境をつくる」が 32.3%で最も多く、「家族そろって過ごす時間を大切にし、子どもの話をよく聞く」(30.6%)、「学校、その他で子ども同士のいじめを見逃さないようにする」(29.5%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」は 28.5%であり、男性の割合を 5 ポイント上回っています。

		全体	子どもが周囲から孤立しないような環境をつくる	学校、その他で子ども同士の間を築き、いじめを見逃さないようにする	子どもの自主性や意見を尊重し、保護者や学校の考え方を一方的に押しつけないようにする	教師や保護者の体罰をなくすようにする	保護者を含む大人に対し、部活動などで、節度のある練習が行われるようにする	子どもを一人の人間として尊重する教育や意識啓発に力を入れる	児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	家族そろって過ごす時間を大切に、子どもの話をよく聞く	子どもが適切な医療や健診を受けられるようにする	わからない	その他	無回答	
全体		1,303 100.0	421 32.3	385 29.5	304 23.3	82 6.3	23 1.8	314 24.1	338 25.9	399 30.6	46 3.5	16 1.2	37 2.8	47 3.6	
性別	女性	729 100.0	232 31.8	208 28.5	159 21.8	55 7.5	9 1.2	188 25.8	208 28.5	234 32.1	33 4.5	7 1.0	15 2.1	22 3.0	
	男性	564 100.0	186 33.0	176 31.2	145 25.7	26 4.6	14 2.5	125 22.2	128 22.7	161 28.5	11 2.0	9 1.6	22 3.9	23 4.1	
	無回答 ※参考値	10 100.0	3 30.0	1 10.0	－ －	1 10.0	－ －	1 10.0	2 20.0	4 40.0	2 20.0	－ －	－ －	2 20.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	17 23.0	18 24.3	27 36.5	5 6.8	1 1.4	16 21.6	18 24.3	27 36.5	3 4.1	1 1.4	3 4.1	4 5.4
		30～39歳	100 100.0	29 29.0	22 22.0	31 31.0	9 9.0	－ －	27 27.0	29 29.0	43 43.0	4 4.0	－ －	1 1.0	2 2.0
		40～49歳	151 100.0	49 32.5	39 25.8	26 17.2	13 8.6	4 2.6	43 28.5	59 39.1	39 25.8	5 3.3	2 1.3	3 2.0	3 2.0
		50～59歳	119 100.0	41 34.5	38 31.9	26 21.8	5 4.2	－ －	35 29.4	46 38.7	22 18.5	7 5.9	－ －	3 2.5	2 1.7
		60～69歳	118 100.0	36 30.5	39 33.1	24 20.3	11 9.3	1 0.8	26 22.0	33 28.0	31 26.3	5 4.2	3 2.5	3 2.5	2 1.7
		70歳以上	167 100.0	60 35.9	52 31.1	25 15.0	12 7.2	3 1.8	41 24.6	23 13.8	72 43.1	9 5.4	1 0.6	2 1.2	9 5.4
		無回答 ※参考値	10 100.0	3 30.0	1 10.0	－ －	1 10.0	－ －	1 10.0	2 20.0	4 40.0	2 20.0	－ －	－ －	2 20.0
	男性	18～29歳 ※参考値	47 100.0	12 25.5	13 27.7	20 42.6	6 12.8	2 4.3	3 6.4	10 21.3	16 34.0	2 4.3	－ －	3 6.4	2 4.3
		30～39歳	94 100.0	30 31.9	25 26.6	26 27.7	8 8.5	4 4.3	16 17.0	28 29.8	23 24.5	－ －	1 1.1	3 3.2	5 5.3
		40～49歳	91 100.0	33 36.3	29 31.9	20 22.0	1 1.1	3 3.3	19 20.9	22 24.2	27 29.7	2 2.2	1 1.1	8 8.8	3 3.3
		50～59歳	110 100.0	38 34.5	38 34.5	21 19.1	2 1.8	2 1.8	25 22.7	33 30.0	32 29.1	3 2.7	－ －	2 1.8	2 1.8
		60～69歳	70 100.0	22 31.4	17 24.3	21 30.0	1 1.4	－ －	25 35.7	10 14.3	19 27.1	2 2.9	1 1.4	4 5.7	5 7.1
		70歳以上	152 100.0	51 33.6	54 35.5	37 24.3	8 5.3	3 2.0	37 24.3	25 16.4	44 28.9	2 1.3	6 3.9	2 1.3	6 3.9
		無回答 ※参考値	10 100.0	3 30.0	1 10.0	－ －	1 10.0	－ －	1 10.0	2 20.0	4 40.0	2 20.0	－ －	－ －	2 20.0

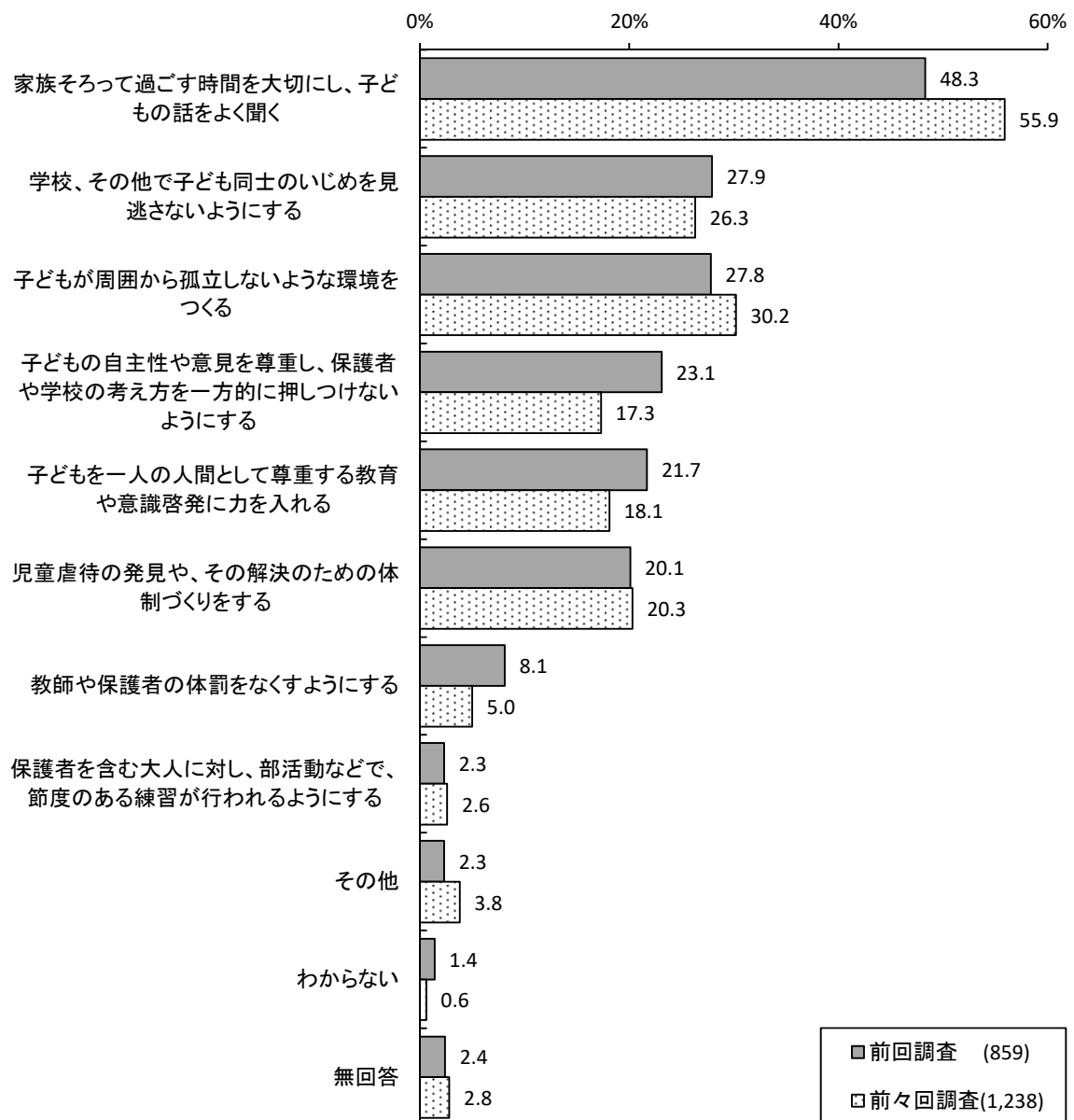
図表 90 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳と 70 歳以上では「家族そろって過ごす時間を大切にし、子どもの話をよく聞く」が 4 割強であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。また、40～49 歳と 50～59 歳では「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」が 4 割弱、18～29 歳では「子どもの自主性や意見を尊重し、保護者や学校の考え方を一方的に押しつけないようにする」が 36.5%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。

男性では、50～59 歳で「児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする」が 30.0%、30～39 歳で 29.8%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っているほか、60～69 歳で「子どもを一人の人間として尊重する教育や意識啓発に力を入れる」が 35.7%であり、他の年代を 11 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



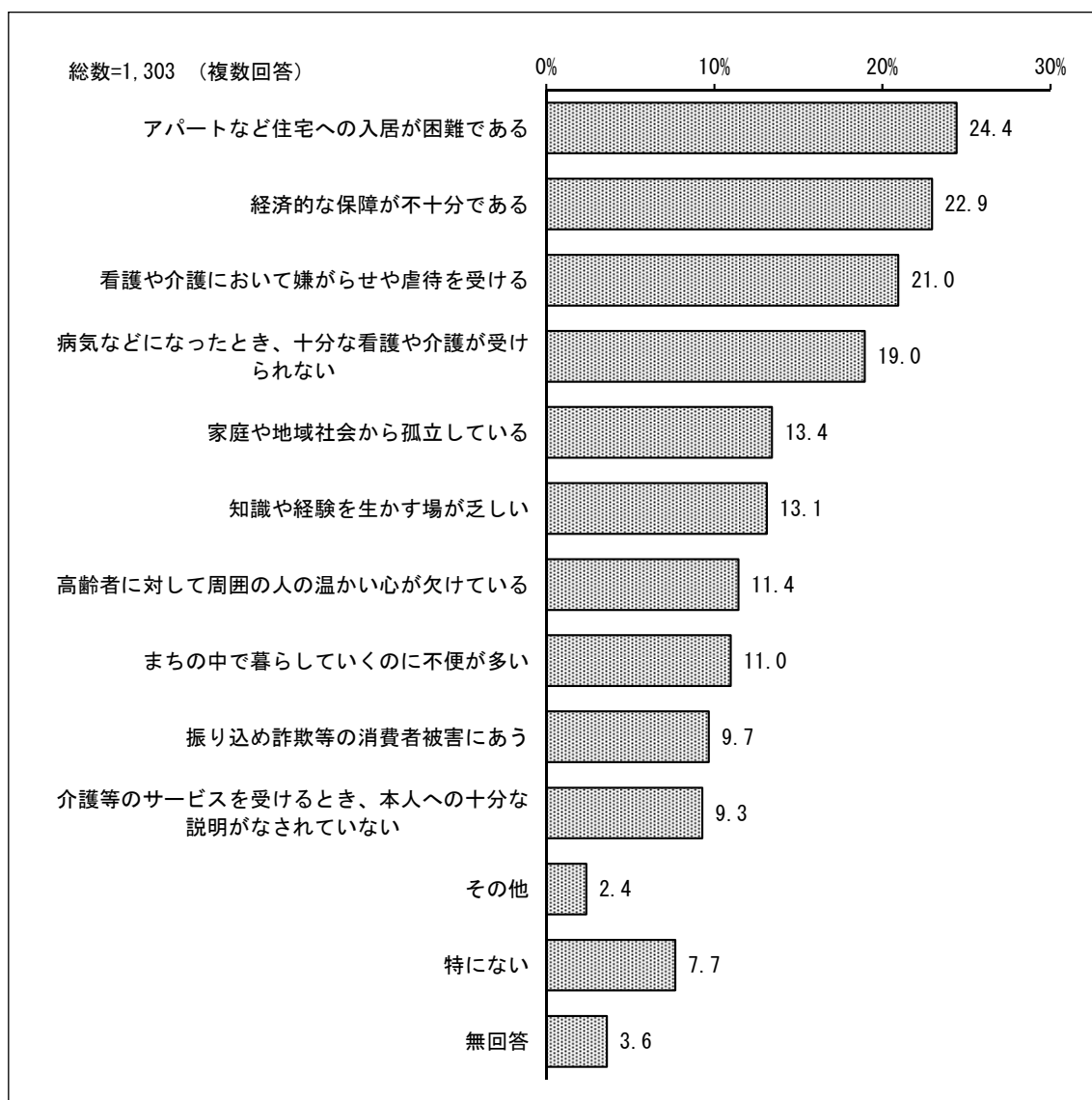
図表 91 子どもの人権を守るため、大人たちがすべきこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

4 高齢者の人権について

問 18 高齢者の人権が守られていないと思うこと

高齢者の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか。（〇は2つまで）



図表 92 高齢者の人権が守られていないと思うこと

○全体の傾向

「アパートなど住宅への入居が困難である」が 24.4%で最も多く、「経済的な保障が不十分である」(22.9%)、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」(21.0%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」は 24.8%であり、男性の割合を 8ポイント上回っています。

		全体	介護等のサービスを受けるとき、本人への十分な説明がなされていない	病気などになったとき、十分な看護や介護が受けられない	アパートなど住宅への入居が困難である	まちの中で暮らしていくのに不便が多い	家庭や地域社会から孤立している	高齢者に対して周囲の人の温かい心が欠けている	知識や経験を生かす場が乏しい	経済的な保障が不十分である	振り込め詐欺等の消費者被害にあう	看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける	特にな	その他	無回答
全体		1,303 100.0	121 9.3	247 19.0	318 24.4	143 11.0	175 13.4	149 11.4	171 13.1	299 22.9	126 9.7	273 21.0	100 7.7	31 2.4	47 3.6
性別	女性	729 100.0	62 8.5	143 19.6	183 25.1	65 8.9	98 13.4	87 11.9	95 13.0	163 22.4	79 10.8	181 24.8	44 6.0	18 2.5	27 3.7
	男性	564 100.0	58 10.3	103 18.3	133 23.6	77 13.7	76 13.5	61 10.8	76 13.5	135 23.9	47 8.3	92 16.3	53 9.4	12 2.1	18 3.2
	無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	-	-	3 30.0	1 10.0	2 20.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	6 8.1	14 18.9	8 10.8	9 12.2	12 16.2	13 17.6	6 8.1	8 10.8	13 17.6	29 39.2	4 5.4	- 4.1
		30～39歳	100 100.0	12 12.0	21 21.0	20 20.0	14 14.0	17 17.0	16 16.0	14 14.0	21 21.0	10 31.0	31 2.0	2 2.0	2 2.0
		40～49歳	151 100.0	12 7.9	31 20.5	39 25.8	13 8.6	16 10.6	13 8.6	17 11.3	36 23.8	19 12.6	50 33.1	6 4.0	3 2.0
		50～59歳	119 100.0	8 6.7	31 26.1	31 26.1	11 9.2	19 16.0	14 11.8	31 26.1	13 10.9	26 21.8	7 5.9	3 2.5	4 3.4
		60～69歳	118 100.0	12 10.2	23 19.5	47 39.8	8 6.8	12 10.2	12 10.2	17 14.4	20 16.9	8 6.8	32 27.1	3 2.5	4 3.4
		70歳以上	167 100.0	12 7.2	23 13.8	38 22.8	10 6.0	22 13.2	19 11.4	27 16.2	47 28.1	16 9.6	13 7.8	22 13.2	6 3.6
		18～29歳 ※参考値	47 100.0	6 12.8	4 8.5	8 17.0	11 23.4	7 14.9	3 6.4	7 14.9	8 17.0	9 19.1	12 25.5	4 8.5	2 4.3
	男性	30～39歳	94 100.0	10 10.6	14 14.9	15 16.0	11 11.7	16 17.0	8 8.5	9 9.6	14 14.9	7 7.4	19 20.2	13 13.8	4 4.3
		40～49歳	91 100.0	10 11.0	15 16.5	21 23.1	19 20.9	13 14.3	10 11.0	9 9.9	17 18.7	6 6.6	20 22.0	5 5.5	5 2.2
		50～59歳	110 100.0	11 10.0	25 22.7	29 26.4	13 11.8	16 14.5	6 5.5	13 11.8	32 29.1	13 11.8	24 21.8	10 9.1	-
		60～69歳	70 100.0	8 11.4	13 18.6	29 41.4	10 14.3	4 5.7	10 14.3	10 14.3	22 31.4	6 8.6	7 10.0	- 2.9	2 5.7
		70歳以上	152 100.0	13 8.6	32 21.1	31 20.4	13 8.6	20 13.2	24 15.8	28 18.4	42 27.6	6 3.9	10 6.6	21 13.8	1 0.7
		無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	1 10.0	-	-	3 30.0	1 10.0

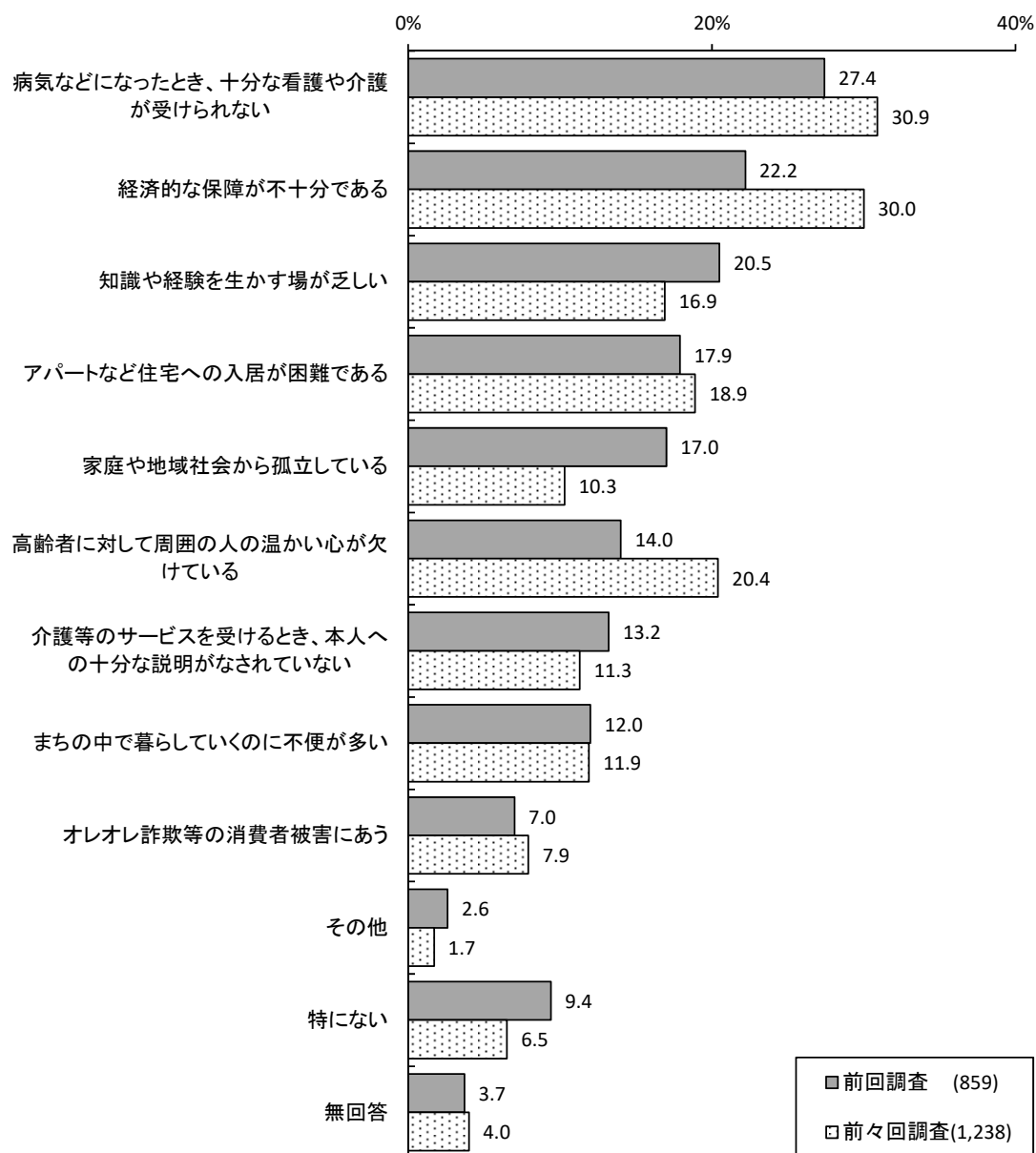
図表 93 高齢者の人権が守られていないと思うこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 60～69 歳では「アパートなど住宅への入居が困難である」が 39.8%であり、他の年代を 13 ポイント以上上回っています。70 歳以上では「経済的な保障が不十分である」が 28.1%、50～59 歳では「病気などになったとき、十分な看護や介護が受けられない」が 26.1%であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。このほか、18～29 歳と 30～39 歳、40～49 歳では「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」が最も多い回答となっており、各年代とも 3 割台となっています。

男性では 60～69 歳で「アパートなど住宅への入居が困難である」が 41.4%であり、他の年代を 15 ポイント以上上回っています。また、50～59 歳と 60～69 歳では「経済的な保障が不十分である」が 3 割前後であり、男性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果

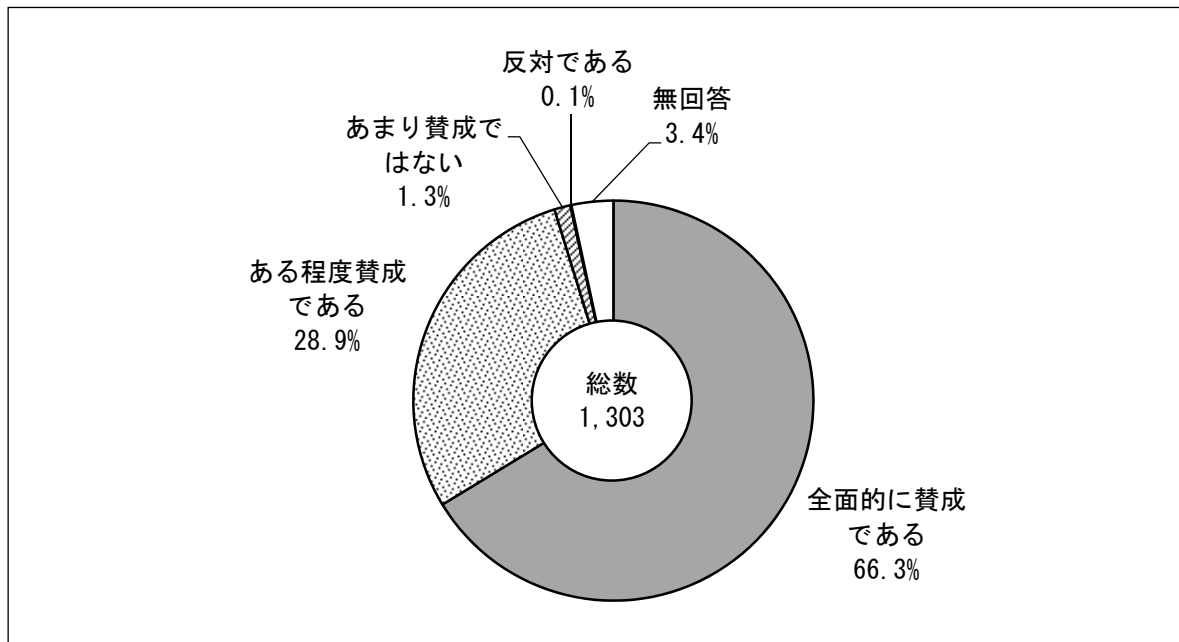


図表 94 高齢者の人権が守られていないと思うこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 19 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否

「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)



図表 95 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否

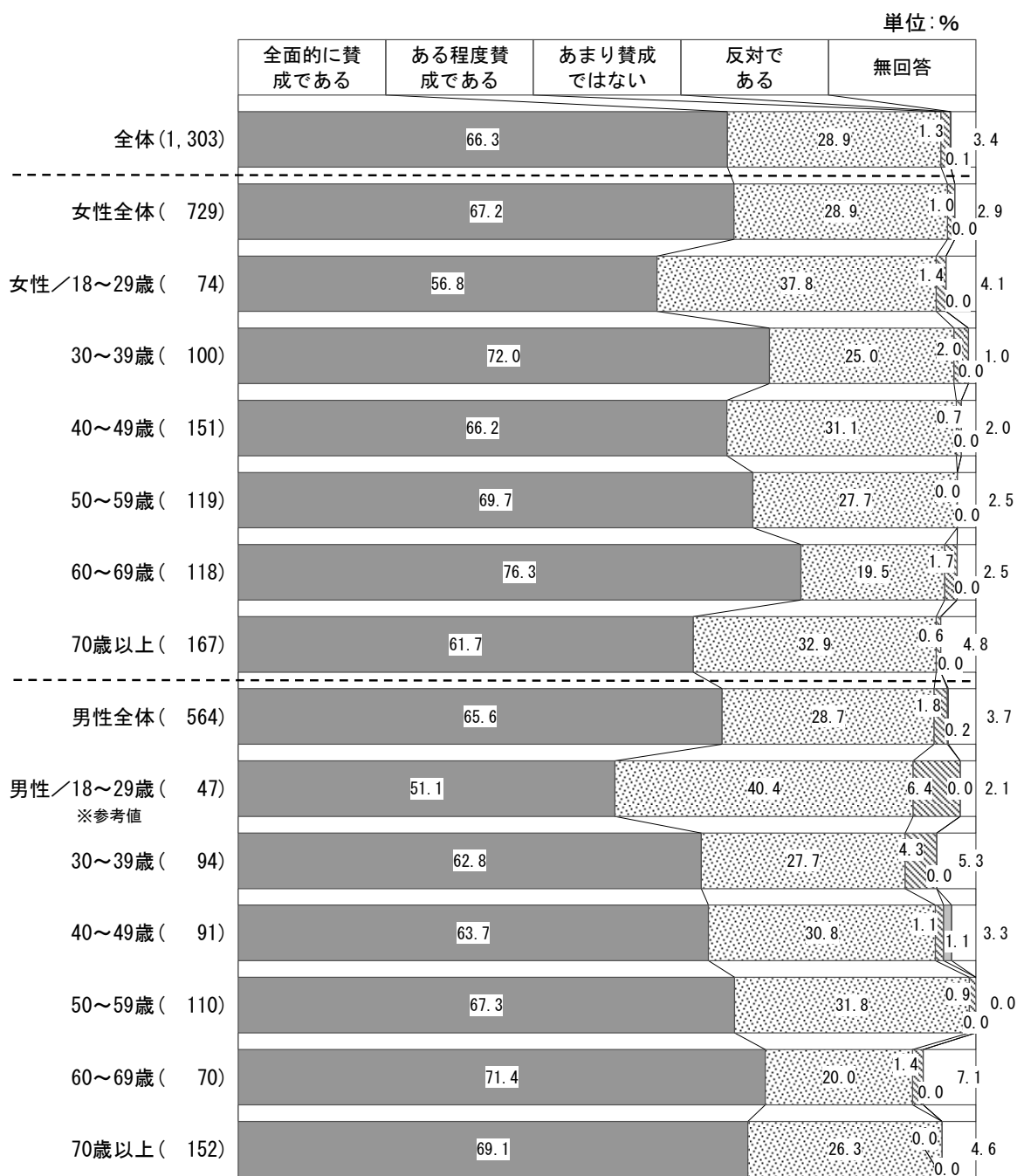
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が 66.3%、「ある程度賛成である」が 28.9%であり、「反対である」が 0.1%、「あまり賛成ではない」が 1.3%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は 95.2%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は 1.4%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

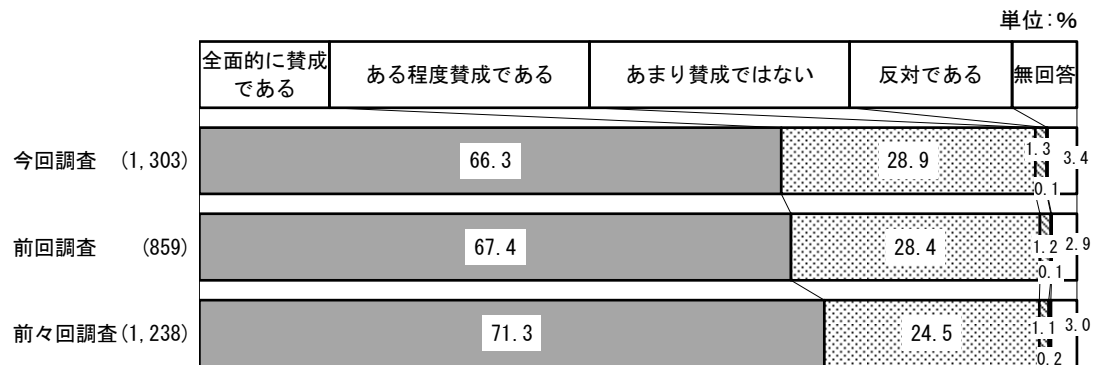


図表 96 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

男女・各年代とも“賛成”が9割台となっています。女性の18～29歳では「全面的に賛成である」が56.8%であり、女性回答者全体の割合を10ポイント下回っています。また、男性の60～69歳では「全面的に賛成である」が71.4%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



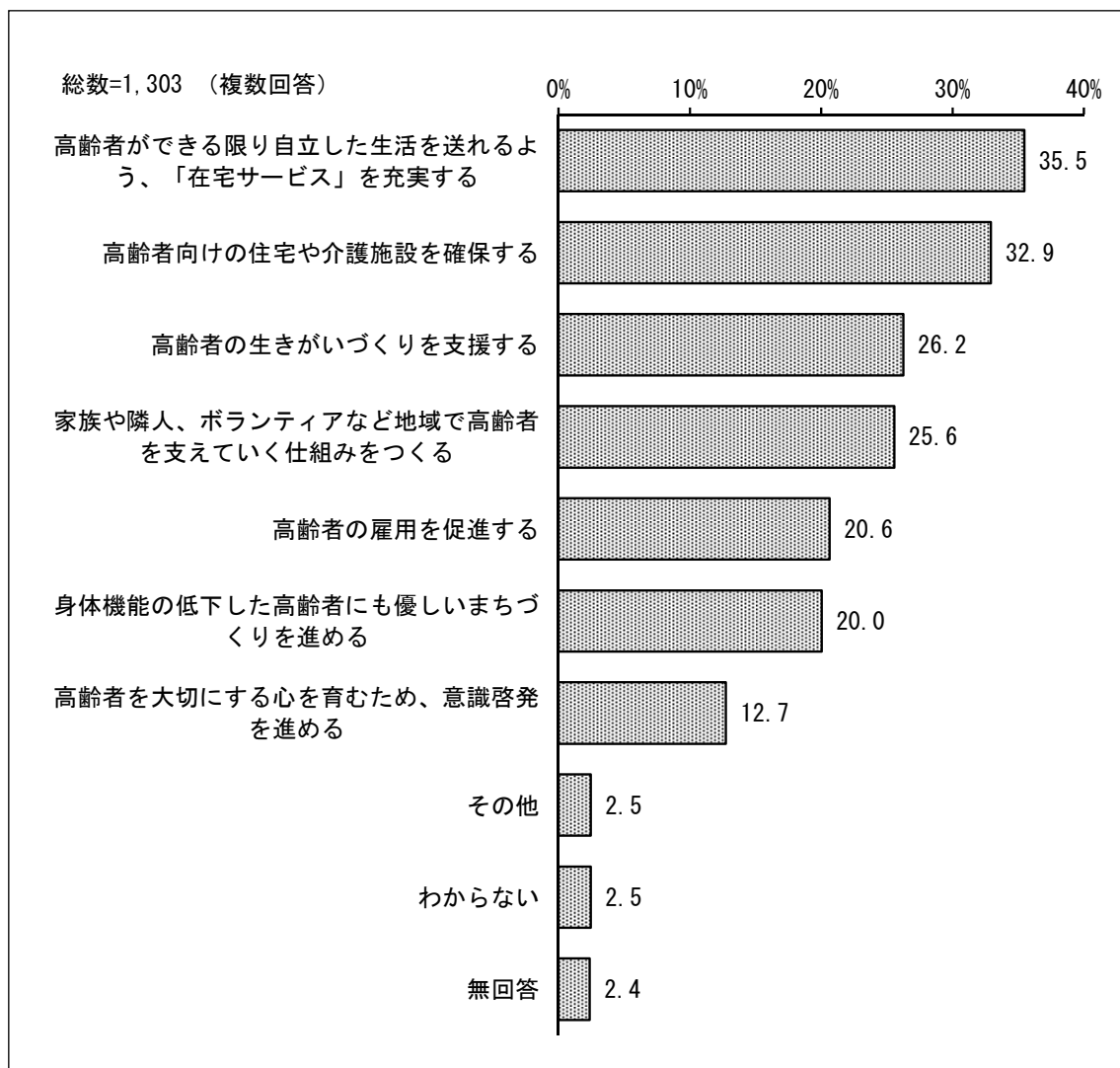
図表 97 「高齢者も他の人々とともに地域の中で暮らしていける社会が望ましい」という考え方への賛否
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも“賛成”が9割以上を占めています。このほか、前々回調査から今回調査にかけて、「全面的に賛成である」の割合が減少を続けており、今回調査の「全面的に賛成である」の割合は前々回調査を5ポイント下回っています。

問 20 高齢者の人権を守るために実施すべきこと

高齢者の人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。（〇は2つまで）



図表 98 高齢者の人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する」が 35.5% で最も多く、「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」（32.9%）、「高齢者の生きがいを支援する」（26.2%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」は 37.4%であり、男性の割合を 10 ポイント上回っています。

		全体	高齢者を大切に する心を育む ため、意識啓発 を進める	高齢者ができる 限り自立した 生活を送れるよう、 「在宅サービス」 を充実する	身体機能の低下 した高齢者にも 優しいまちづくり を進める	家族や隣人、ボ ランティアなど 地域で高齢者を 支えていく仕組 みをつくる	高齢者の雇用を 促進する	高齢者の生きが いづくりを支 援する	高齢者向け の住宅や介護 施設を確保する	わからない	その他	無回答	
全体		1,303 100.0	166 12.7	462 35.5	261 20.0	333 25.6	269 20.6	342 26.2	429 32.9	32 2.5	32 2.5	31 2.4	
性別	女性	729 100.0	84 11.5	273 37.4	143 19.6	193 26.5	139 19.1	196 26.9	273 37.4	10 1.4	11 1.5	16 2.2	
	男性	564 100.0	81 14.4	187 33.2	116 20.6	138 24.5	128 22.7	145 25.7	154 27.3	21 3.7	20 3.5	13 2.3	
	無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	5 6.8	22 29.7	15 20.3	18 24.3	13 17.6	22 29.7	29 39.2	2 2.7	-	2 2.7
		30～39歳	100 100.0	7 7.0	29 29.0	24 24.0	33 33.0	28 28.0	34 34.0	30 30.0	-	-	3 3.0
		40～49歳	151 100.0	9 6.0	57 37.7	29 19.2	48 31.8	37 24.5	36 23.8	52 34.4	4 2.6	2 1.3	2 2.6
		50～59歳	119 100.0	16 13.4	40 33.6	22 18.5	32 26.9	26 21.8	34 28.6	50 42.0	1 0.8	2 1.7	-
		60～69歳	118 100.0	20 16.9	42 35.6	22 18.6	30 25.4	18 15.3	27 22.9	51 43.2	1 0.8	1 0.8	2 2.5
		70歳以上	167 100.0	27 16.2	83 49.7	31 18.6	32 19.2	17 10.2	43 25.7	61 36.5	2 1.2	6 3.6	4 2.4
		※参考値	100.0	8.5	23.4	29.8	12.8	36.2	21.3	25.5	6.4	6.4	2.1
	男性	30～39歳	94 100.0	11 11.7	29 30.9	17 18.1	18 19.1	26 27.7	29 30.9	16 17.0	5 5.3	2 2.1	4 4.3
		40～49歳	91 100.0	10 11.0	30 33.0	24 26.4	26 28.6	27 29.7	20 22.0	20 22.0	3 3.3	4 4.4	1 1.1
		50～59歳	110 100.0	14 12.7	35 31.8	21 19.1	28 25.5	30 27.3	24 21.8	37 33.6	3 2.7	6 5.5	1 0.9
		60～69歳	70 100.0	12 17.1	29 41.4	11 15.7	20 28.6	11 15.7	18 25.7	23 32.9	3 4.3	4 5.7	-
		70歳以上	152 100.0	30 19.7	53 34.9	29 19.1	40 26.3	17 11.2	44 28.9	46 30.3	4 2.6	1 0.7	6 3.9
		無回答 ※参考値	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0

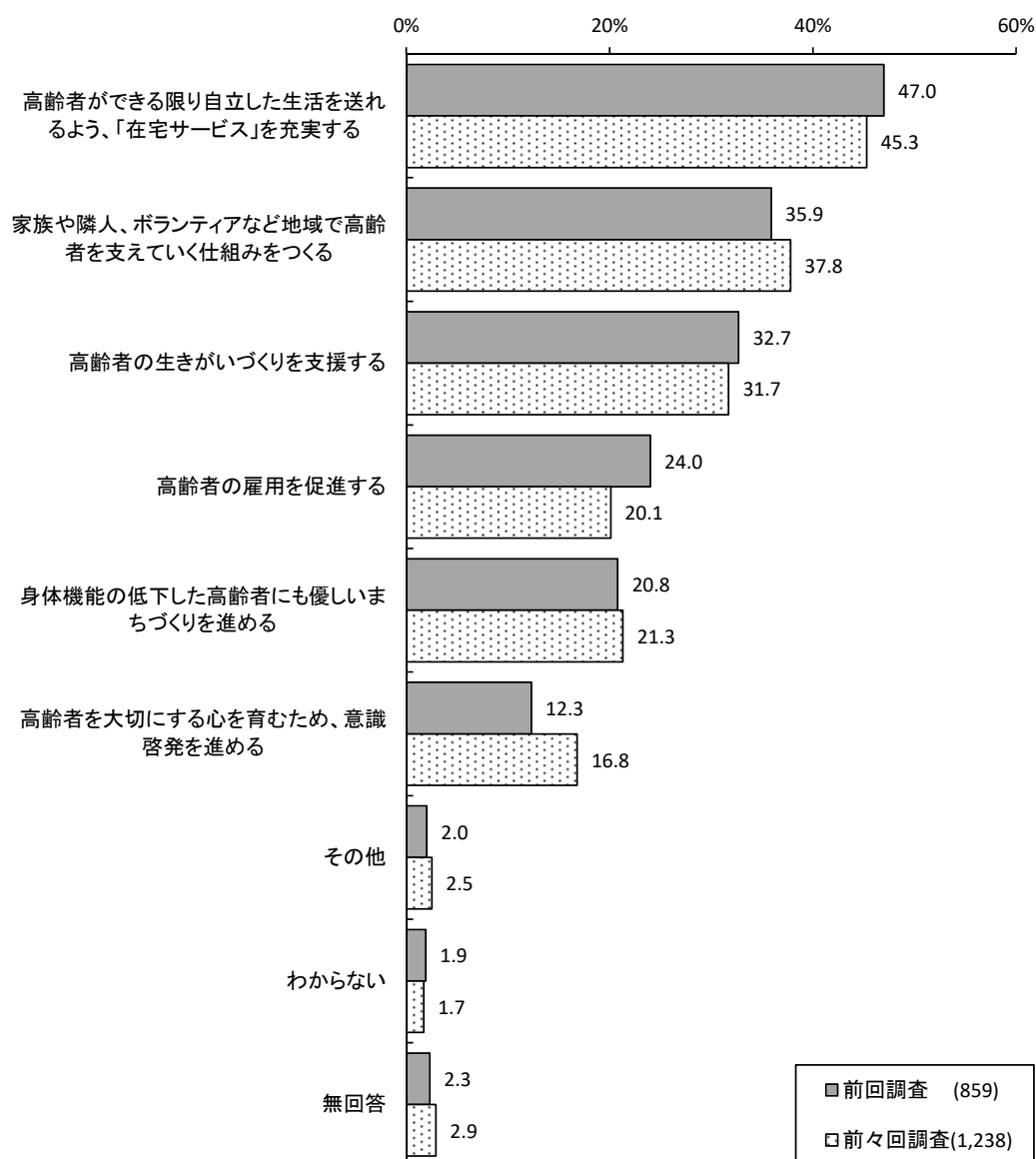
図表 99 高齢者の人権を守るために実施すべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 70 歳以上では「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する」が 49.7%であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。このほか、30～39 歳と 40～49 歳では「高齢者の雇用を促進する」が 2 割台、「家族や隣人、ボランティアなど地域で高齢者を支えていく仕組みをつくる」が 3 割強、30～39 歳では「高齢者の生きがいづくりを支援する」が 34.0%、60～69 歳では「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」が 43.2%であり、いずれも女性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。

男性では、60～69 歳で「高齢者ができる限り自立した生活を送れるよう、「在宅サービス」を充実する」が 41.4%、40～49 歳で「身体機能の低下した高齢者にも優しいまちづくりを進める」が 26.4%であり、いずれも他の年代を 6 ポイント以上上回っています。また、30～39 歳と 40～49 歳で「高齢者の雇用を促進する」が 3 割弱、30～39 歳で「高齢者の生きがいづくりを支援する」が 30.9%、50～59 歳と 60～69 歳で「高齢者向けの住宅や介護施設を確保する」が 3 割強であり、いずれも男性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



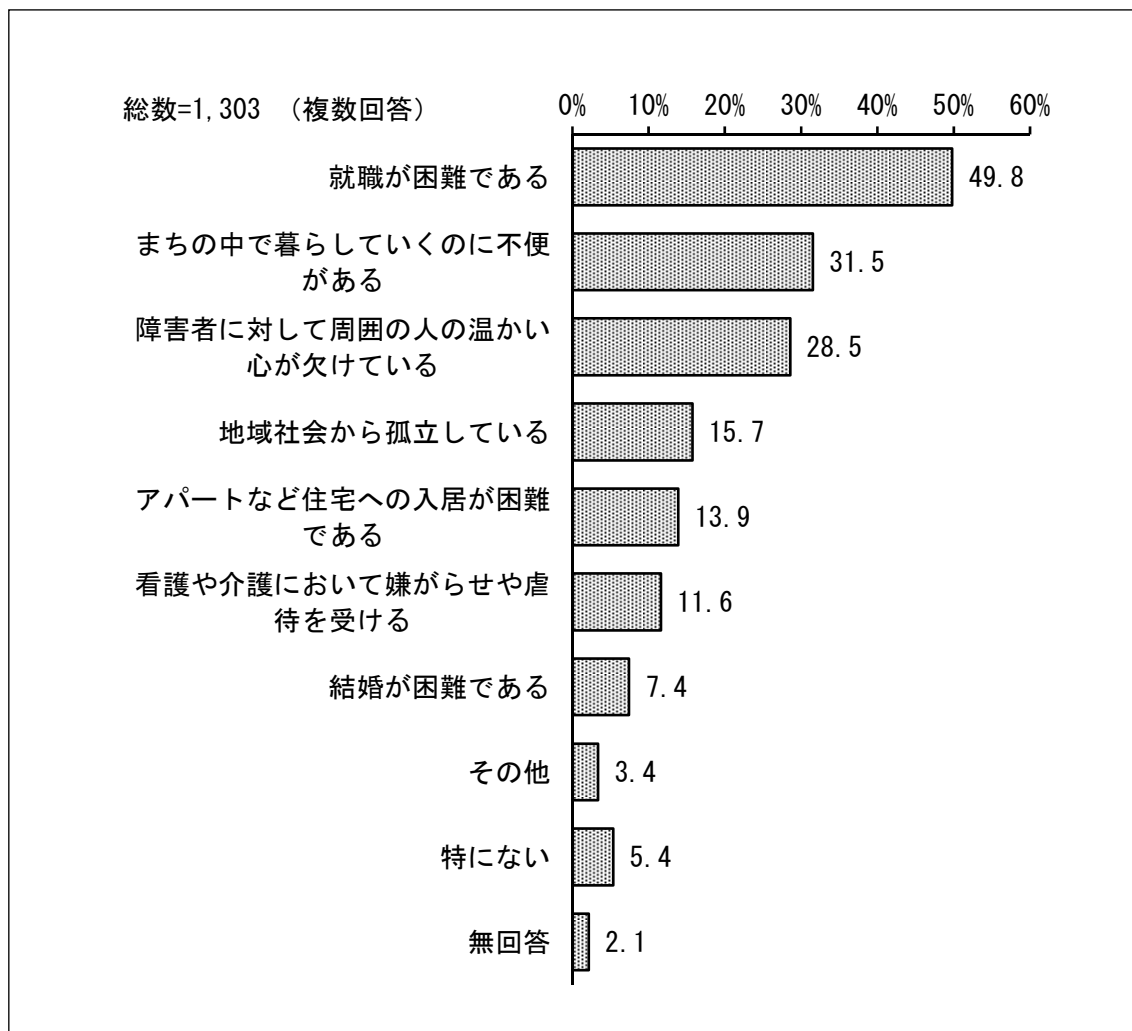
図表 100 高齢者の人権を守るために実施すべきこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回の調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

5 障害者の人権について

問 21 障害者の人権が守られていないと思うこと

障害者の人権が守られていないと思うのは、どのような場合ですか。（○は2つまで）



図表 101 障害者の人権が守られていないと思うこと

○全体の傾向

「就職が困難である」が 49.8%で最も多く、「まちの中で暮らしていくのに不便がある」(31.5%)、「障害者に対して周囲の人の温かい心が欠けている」(28.5%)が続いています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全体	就職が困難である	結婚が困難である	アパートなど住宅への入居が困難である	まちの中で暮らしていくのに不便がある	地域社会から孤立している	障害者に対して周囲の人の温かい心が欠けている	看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける	特にな	その他	無回答	
全体		1,303 100.0	649 49.8	97 7.4	181 13.9	411 31.5	205 15.7	372 28.5	151 11.6	70 5.4	44 3.4	28 2.1	
性別	女性	729 100.0	370 50.8	54 7.4	102 14.0	225 30.9	115 15.8	220 30.2	92 12.6	31 4.3	25 3.4	14 1.9	
	男性	564 100.0	276 48.9	42 7.4	76 13.5	185 32.8	88 15.6	151 26.8	59 10.5	37 6.6	19 3.4	12 2.1	
	無回答	10 100.0	3 30.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	-	2 20.0	-	2 20.0	
	※参考値												
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	47 63.5	3 4.1	3 4.1	21 28.4	14 18.9	27 36.5	13 17.6	-	2 2.7	-
		30～39歳	100 100.0	51 51.0	3 3.0	13 13.0	34 34.0	24 24.0	34 34.0	12 12.0	1 1.0	3 3.0	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	76 50.3	18 11.9	20 13.2	48 31.8	24 15.9	39 25.8	30 19.9	3 2.0	6 4.0	1 0.7
		50～59歳	119 100.0	48 40.3	13 10.9	16 13.4	45 37.8	22 18.5	30 25.2	16 13.4	8 6.7	5 4.2	-
		60～69歳	118 100.0	62 52.5	8 6.8	23 19.5	39 33.1	15 12.7	34 28.8	10 8.5	9 7.6	3 2.5	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	86 51.5	9 5.4	27 16.2	38 22.8	16 9.6	56 33.5	11 6.6	10 6.0	6 3.6	11 6.6
		※参考値											
	男性	18～29歳	47 100.0	23 48.9	3 6.4	4 8.5	12 25.5	10 21.3	9 19.1	9 19.1	1 2.1	3 6.4	2 4.3
		30～39歳	94 100.0	37 39.4	10 10.6	7 7.4	34 36.2	19 20.2	25 26.6	14 14.9	6 6.4	2 2.1	4 4.3
		40～49歳	91 100.0	42 46.2	2 2.2	9 9.9	34 37.4	20 22.0	20 22.0	9 9.9	5 5.5	5 5.5	2 2.2
		50～59歳	110 100.0	66 60.0	8 7.3	22 20.0	40 36.4	9 8.2	22 20.0	16 14.5	5 4.5	3 2.7	-
		60～69歳	70 100.0	35 50.0	10 14.3	14 20.0	23 32.9	8 11.4	22 31.4	4 5.7	3 4.3	2 2.9	-
		70歳以上	152 100.0	73 48.0	9 5.9	20 13.2	42 27.6	22 14.5	53 34.9	7 4.6	17 11.2	4 2.6	4 2.6
		無回答	10 100.0	3 30.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	-	2 20.0	-	2 20.0
	※参考値												

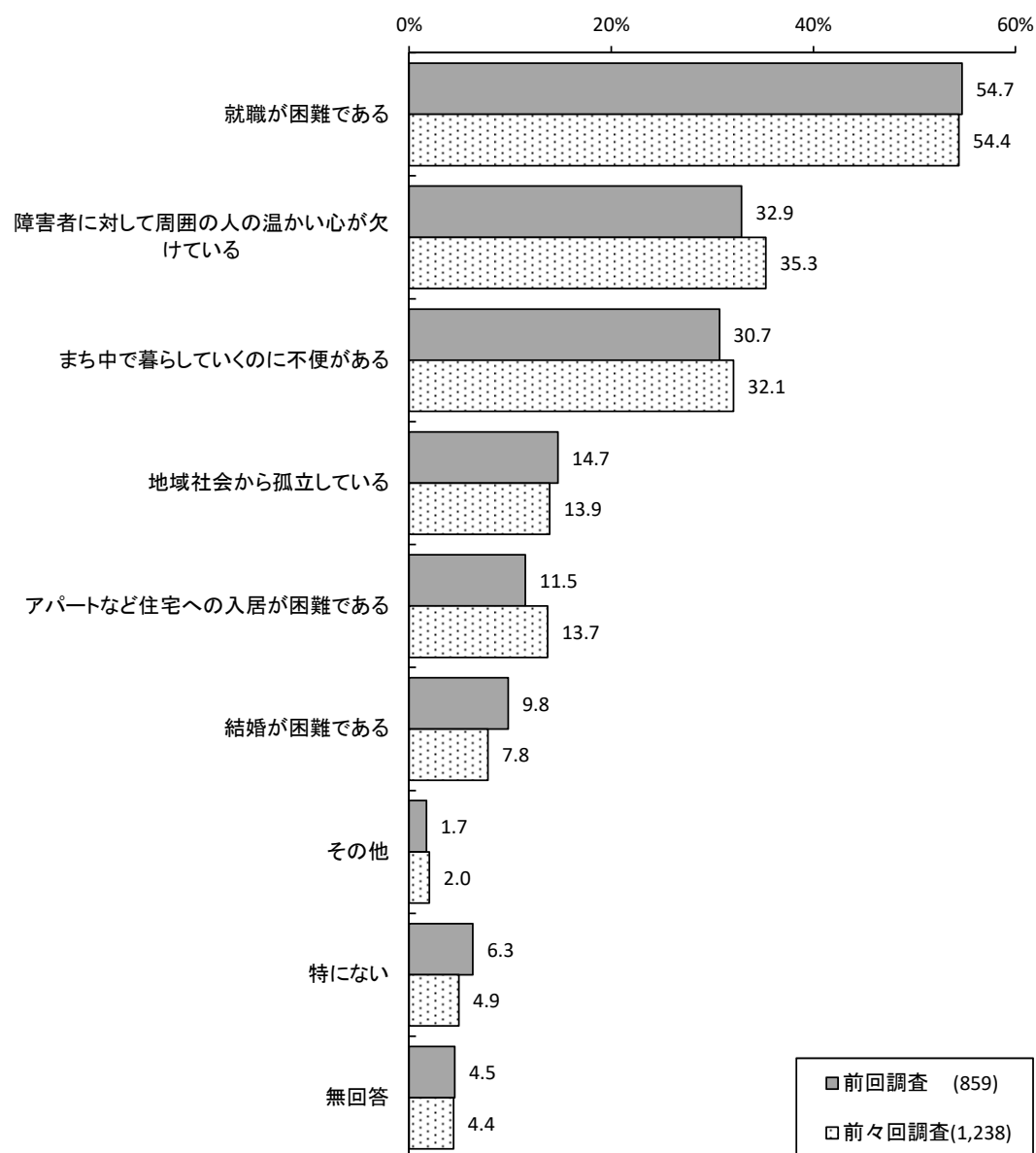
図表 102 障害者の人権が守られていないと思うこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「就職が困難である」が63.5%であり、他の年代を11ポイント以上上回っています。30～39歳では「地域社会から孤立している」が24.0%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。このほか、50～59歳では「まちの中で暮らしていくのに不便がある」が37.8%、18～29歳では「障害者に対して周囲の人の温かい心が欠けている」が36.5%、60～69歳では「アパートなど住宅への入居が困難である」が19.5%、18～29歳と40～49歳では「看護や介護において嫌がらせや虐待を受ける」が2割弱であり、いずれも女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。

男性では50～59歳で「就職が困難である」が60.0%であり、他の年代を10ポイント以上上回っています。50～59歳と60～69歳では「アパートなど住宅への入居が困難である」が2割であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。また、70歳以上では「障害者に対して周囲の人の温かい心が欠けている」が34.9%、40～49歳では「地域社会から孤立している」が22.0%、60～69歳では「結婚が困難である」が14.3%であり、いずれも男性回答者全体の割合を6ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果

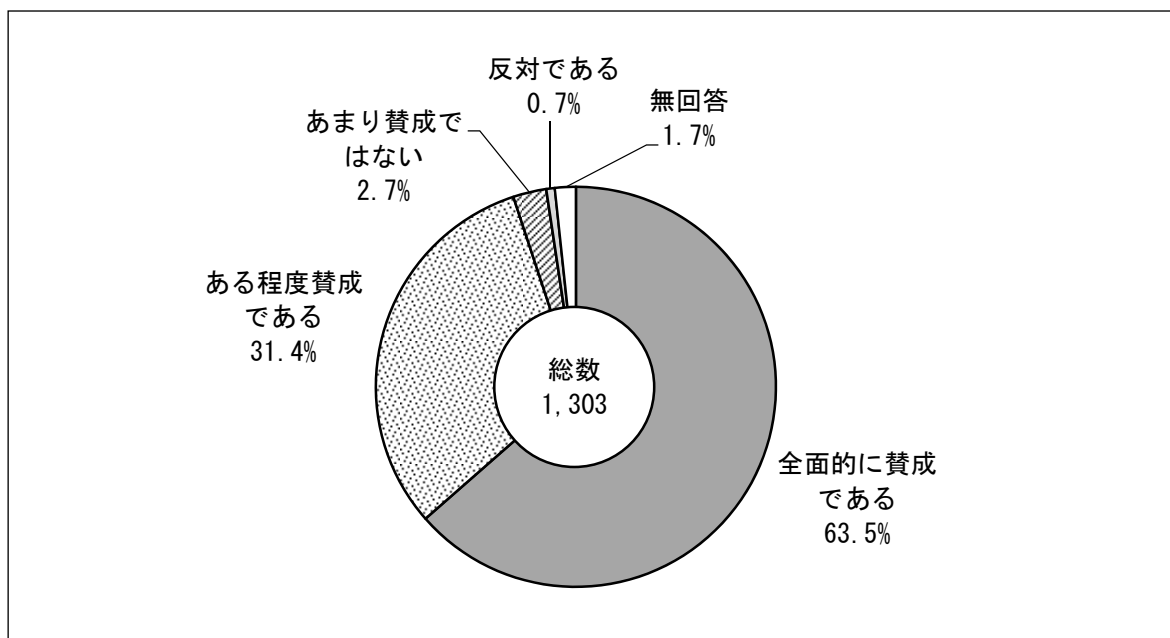


図表 103 障害者の人権が守られていないと思うこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回の調査では選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 22 共生社会の賛否

「障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いともに生きていく社会（共生社会）」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）



図表 104 共生社会の賛否

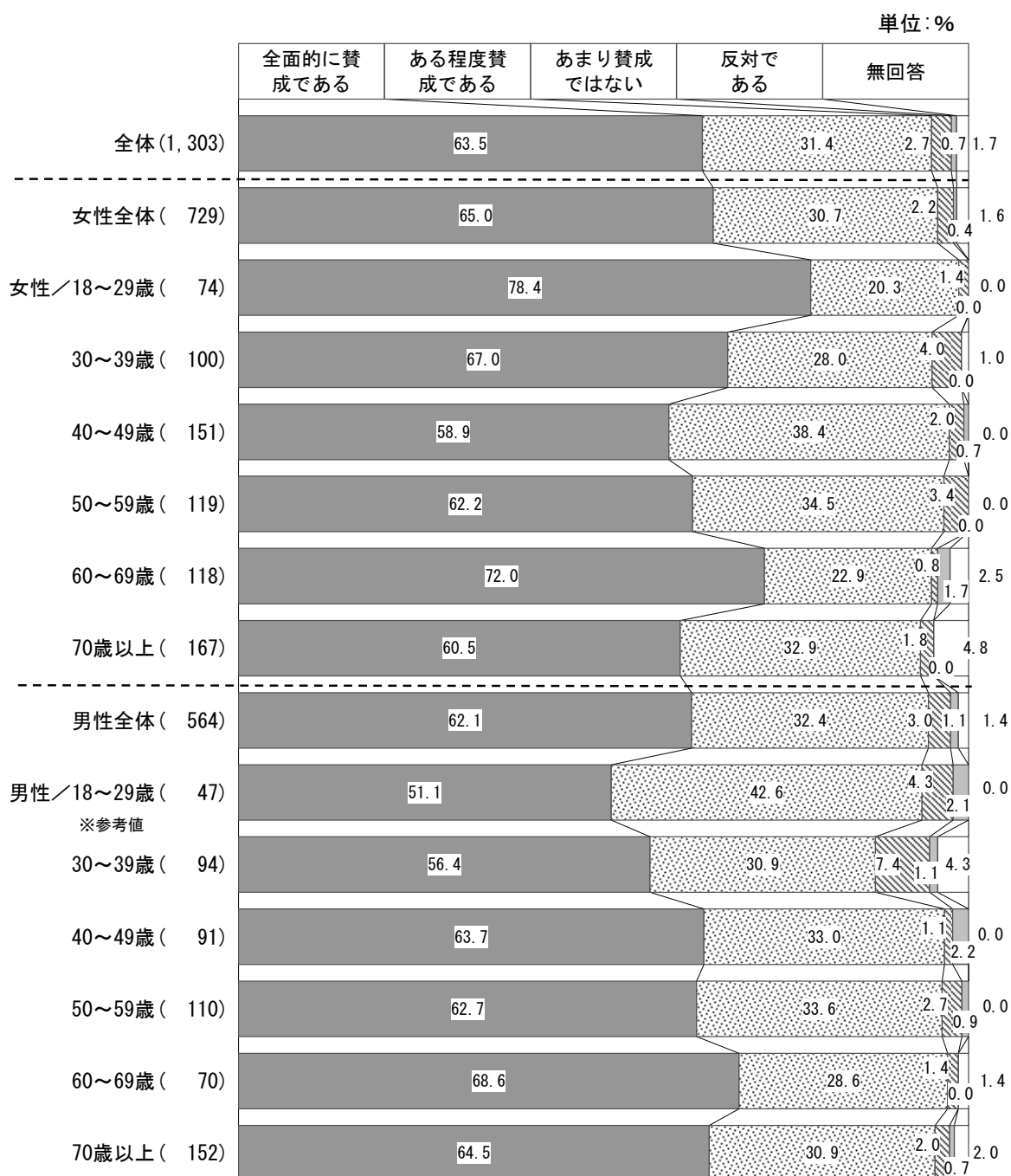
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が 63.5%、「ある程度賛成である」が 31.4%であり、「反対である」が 0.7%、「あまり賛成ではない」が 2.7%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は 94.9%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は 3.4%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



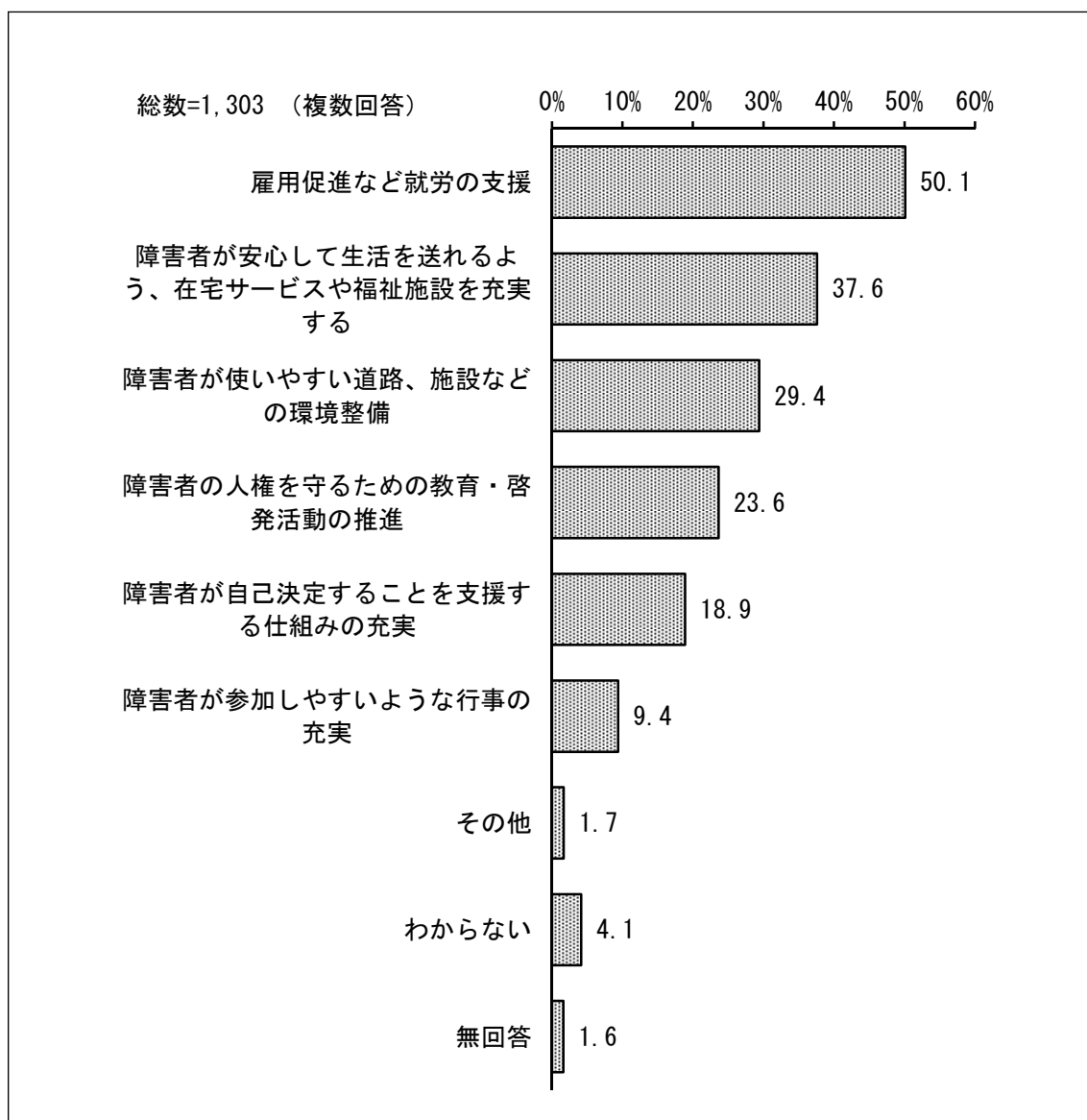
図表 105 共生社会の賛否（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男性の30～39歳を除く各年代とも“賛成”が9割台となっています。女性の18～29歳では「全面的に賛成である」が78.4%であり、他の年代を6ポイント以上上回っています。一方、男性の30～39歳では「全面的に賛成である」が56.4%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント下回っています。

問 23 障害者の人権を守るために実施すべきこと

障害者の人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。（〇は2つまで）



図表 106 障害者の人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「雇用促進など就労の支援」が 50.1%で最も多く、「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」（37.6%）、「障害者が使いやすい道路、施設などの環境整備」（29.4%）が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全 体	雇 用 促 進 な ど 就 労 の 支 援	障 害 者 が 安 心 し て 生 活 を 送 る よ う 、 在 宅 サ ー ビ ス や 福 祉 施 設 を 充 実 す る	障 害 者 が 使 い や す い 道 路 、 施 設 な ど の 環 境 整 備	障 害 者 が 参 加 し や す い よ う な 行 事 の 充 実	障 害 者 の 人 権 を 守 る た め の 教 育 ・ 啓 発 活 動 の 推 進	障 害 者 が 自 己 決 定 す る こ と を 支 援 す る 仕 組 み の 充 実	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答	
全体		1,303 100.0	653 50.1	490 37.6	383 29.4	122 9.4	308 23.6	246 18.9	54 4.1	22 1.7	21 1.6	
性 別	女性	729 100.0	361 49.5	284 39.0	217 29.8	66 9.1	176 24.1	145 19.9	28 3.8	13 1.8	8 1.1	
	男性	564 100.0	288 51.1	205 36.3	165 29.3	54 9.6	130 23.0	99 17.6	25 4.4	9 1.6	11 2.0	
	無回答 ※参考値	10 100.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	-	2 20.0	
性・ 年 代 別	女 性	18～29歳	74 100.0	42 56.8	25 33.8	17 23.0	8 10.8	18 24.3	18 24.3	-	1 1.4	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	56 56.0	32 32.0	32 32.0	14 14.0	26 26.0	20 20.0	4 4.0	-	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	75 49.7	53 35.1	48 31.8	15 9.9	40 26.5	24 15.9	6 4.0	6 4.0	2 1.3
		50～59歳	119 100.0	48 40.3	52 43.7	33 27.7	10 8.4	36 30.3	23 19.3	6 5.0	1 0.8	-
		60～69歳	118 100.0	63 53.4	46 39.0	33 28.0	8 6.8	21 17.8	34 28.8	4 3.4	1 0.8	-
		70歳以上	167 100.0	77 46.1	76 45.5	54 32.3	11 6.6	35 21.0	26 15.6	8 4.8	4 2.4	4 2.4
		無回答 ※参考値	10 100.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	-	2 20.0	
	男 性	18～29歳 ※参考値	47 100.0	23 48.9	10 21.3	13 27.7	3 6.4	10 21.3	12 25.5	4 8.5	1 2.1	1 2.1
		30～39歳	94 100.0	45 47.9	32 34.0	25 26.6	12 12.8	20 21.3	17 18.1	2 2.1	3 3.2	4 4.3
		40～49歳	91 100.0	47 51.6	28 30.8	28 30.8	7 7.7	24 26.4	8 8.8	6 6.6	2 2.2	1 1.1
		50～59歳	110 100.0	61 55.5	42 38.2	35 31.8	7 6.4	26 23.6	23 20.9	3 2.7	1 0.9	2 1.8
		60～69歳	70 100.0	31 44.3	34 48.6	19 27.1	7 10.0	21 30.0	12 17.1	3 4.3	1 1.4	-
		70歳以上	152 100.0	81 53.3	59 38.8	45 29.6	18 11.8	29 19.1	27 17.8	7 4.6	1 0.7	3 2.0
		無回答 ※参考値	10 100.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	-	2 20.0

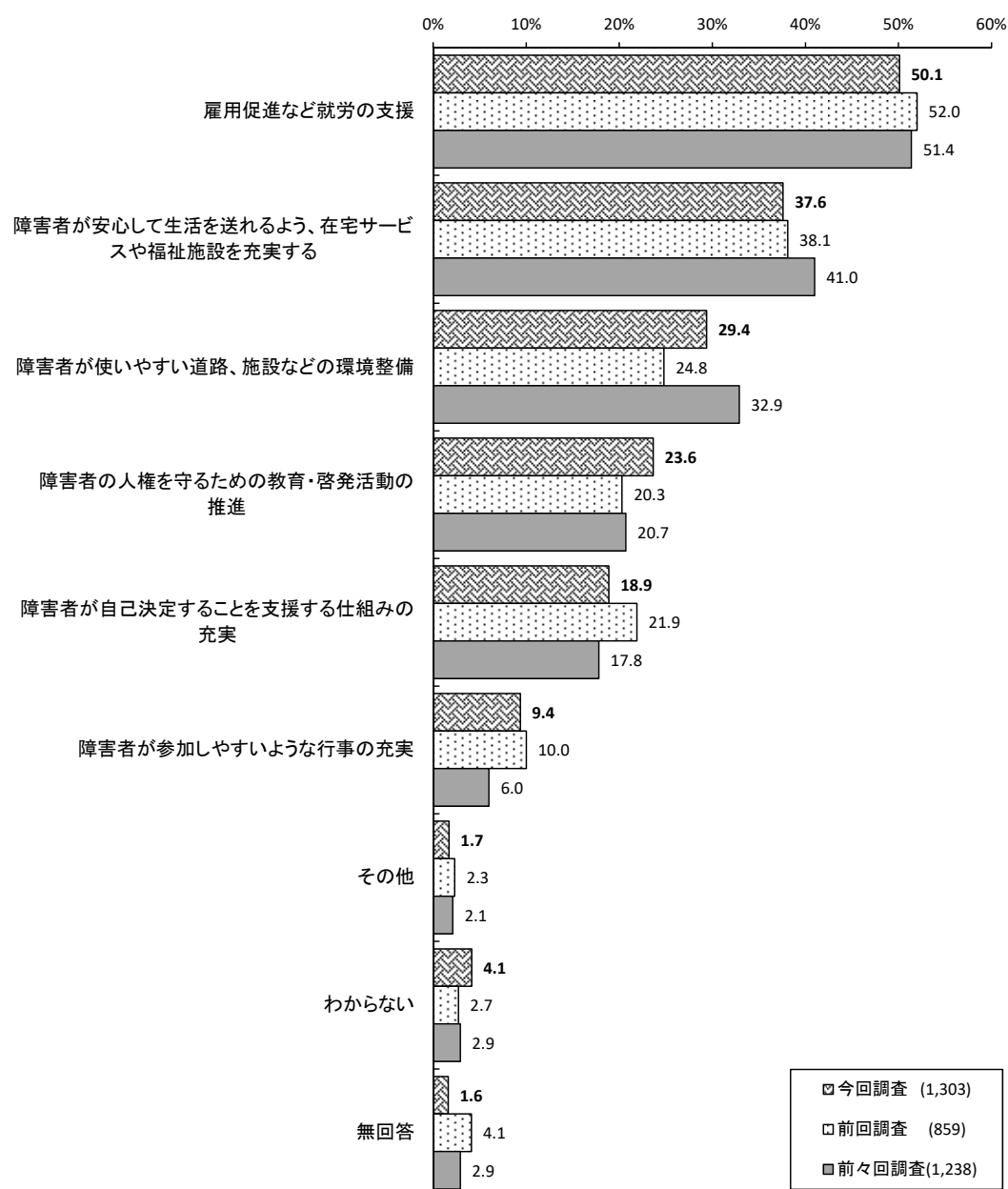
図表 107 障害者の人権を守るために実施すべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と30～39歳では「雇用促進など就労の支援」が6割弱、70歳以上では「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」が45.5%、50～59歳では「障害者の人権を守るための教育・啓発活動の推進」が30.3%、60～69歳では「障害者が自己決定することを支援する仕組みの充実」が28.8%であり、いずれも女性回答者全体の割合を6ポイント以上上回っています。

男性では、60～69歳で「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」が48.6%であり、他の年代を9ポイント以上上回っているほか、「障害者の人権を守るための教育・啓発活動の推進」が30.0%であり、男性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。また、40～49歳では「障害者が自己決定することを支援する仕組みの充実」が8.8%であり、男性回答者全体の割合を8ポイント下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 108 障害者の人権を守るために実施すべきこと《前回調査・前々回調査との比較》

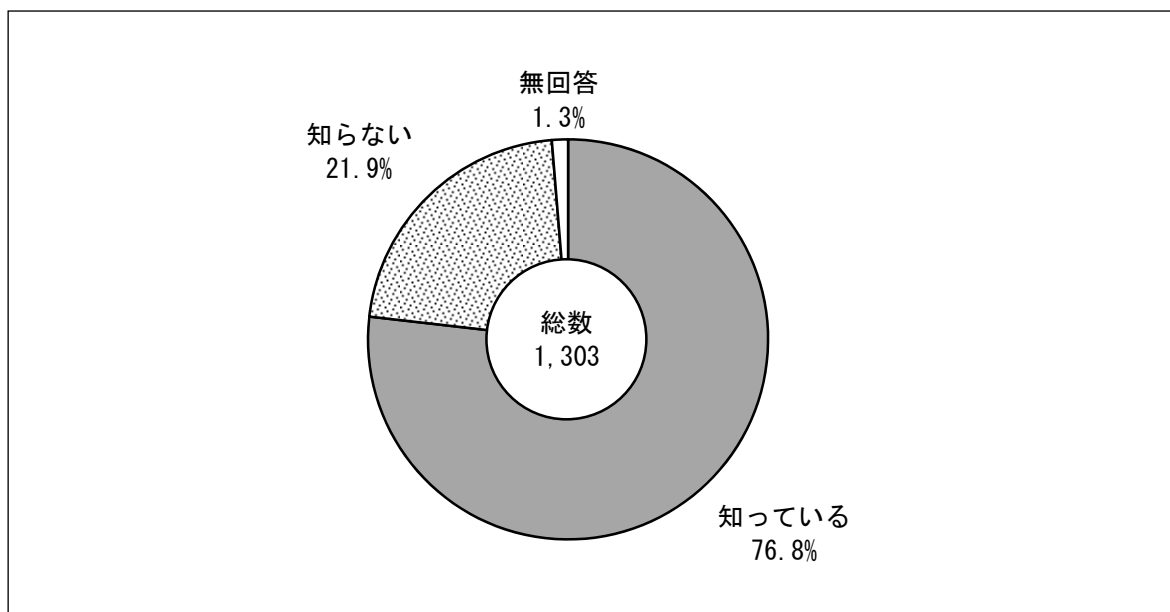
●前回調査・前々回調査との比較

「雇用促進など就労の支援」は、今回調査・前回調査・前々回調査とも5割強で最も多い回答となっています。また、「障害者が安心して生活を送れるよう、在宅サービスや福祉施設を充実する」は前々回調査から今回調査にかけて減少を続けています。

6 部落差別（同和問題）について

問 24 部落差別（同和問題）の認知状況

あなたは、日本の社会に部落差別（同和問題）といわれる人権侵害の問題があることを知っていますか。（○は1つ）



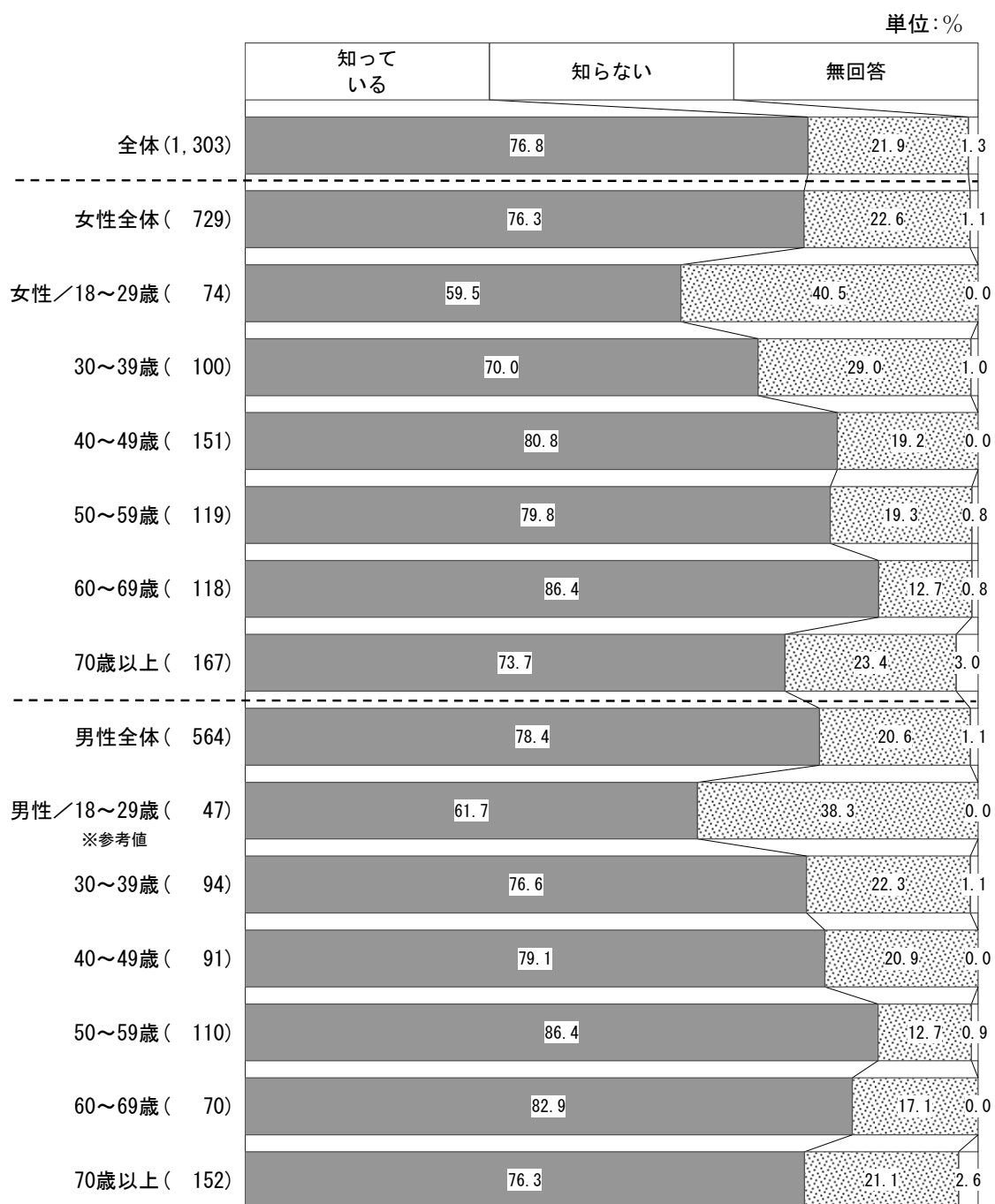
図表 109 部落差別（同和問題）の認知状況

○全体の傾向

「知っている」が76.8%であり、「知らない」が21.9%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

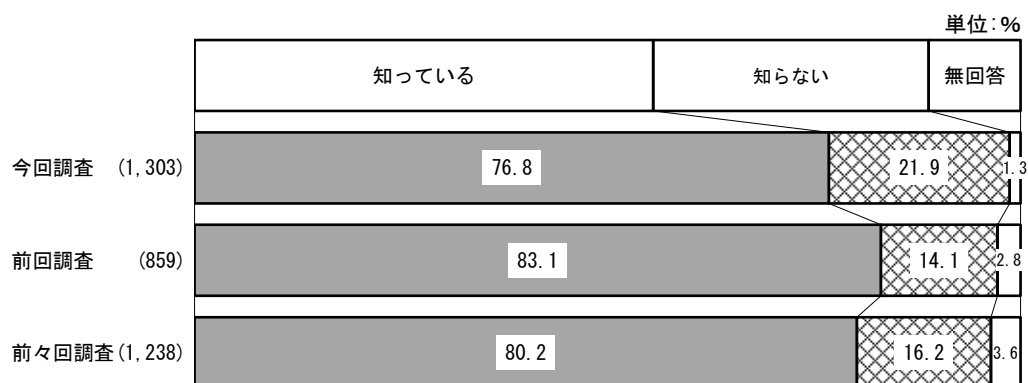


図表 110 部落差別（同和問題）の認知状況（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 60～69 歳では「知っている」が 86.4％であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。一方、女性の 18～29 歳では「知っている」が 59.5％であり、他の年代を 10 ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



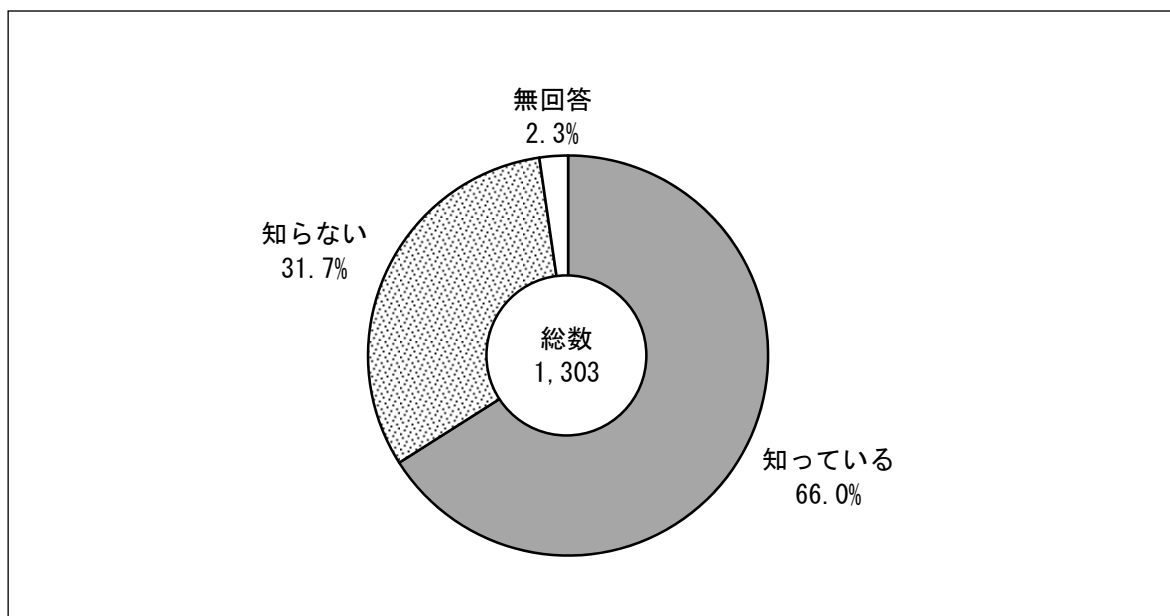
図表 111 部落差別（同和問題）の認知状況《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「知っている」が8割前後を占めていますが、前回調査から今回調査にかけて、「知っている」の割合が6ポイント減少し、「知らない」の割合が7ポイント増加しています。

問 25 被差別部落（同和地区）の認知状況

被差別部落（同和地区）といわれ、差別を受けている地区があることを知っていますか。
（〇は1つ）



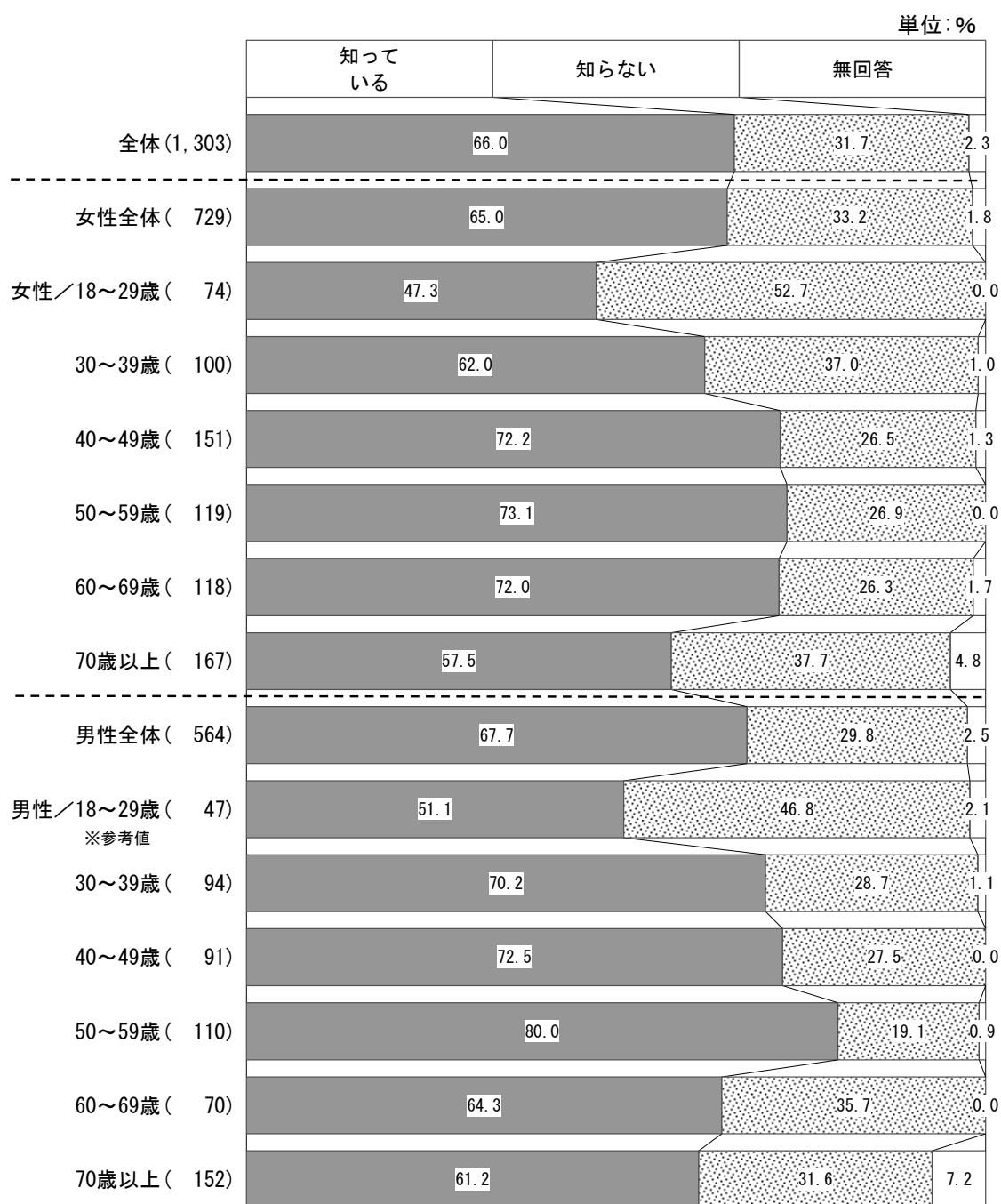
図表 112 被差別部落（同和地区）の認知状況

○全体の傾向

「知っている」が66.0%であり、「知らない」が31.7%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



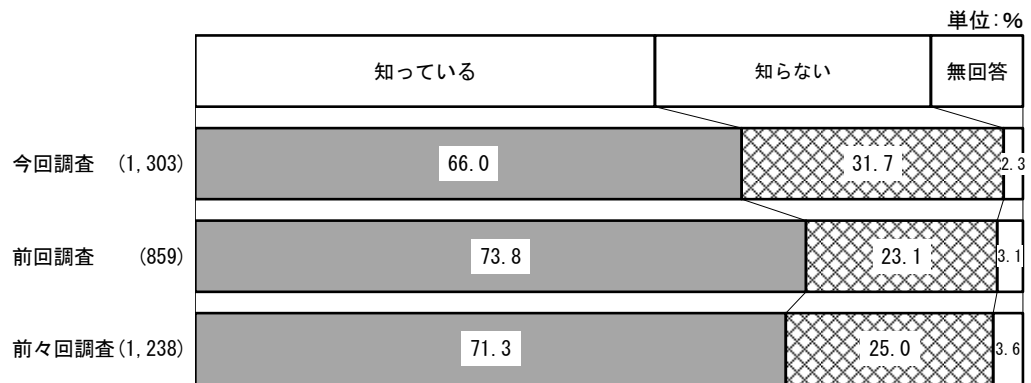
図表 113 被差別部落（同和地区）の認知状況（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男性のすべての年代と女性の30歳から69歳まででは、「知っている」が6割以上を占めて「知らない」を大幅に上回っているのに対し、女性の18～29歳では「知らない」（52.7％）が「知っている」（47.3％）を上回っています。

男性の50～59歳では、「知っている」が80.0％であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 114 被差別部落（同和地区）の認知状況◀前回調査・前々回調査との比較▶

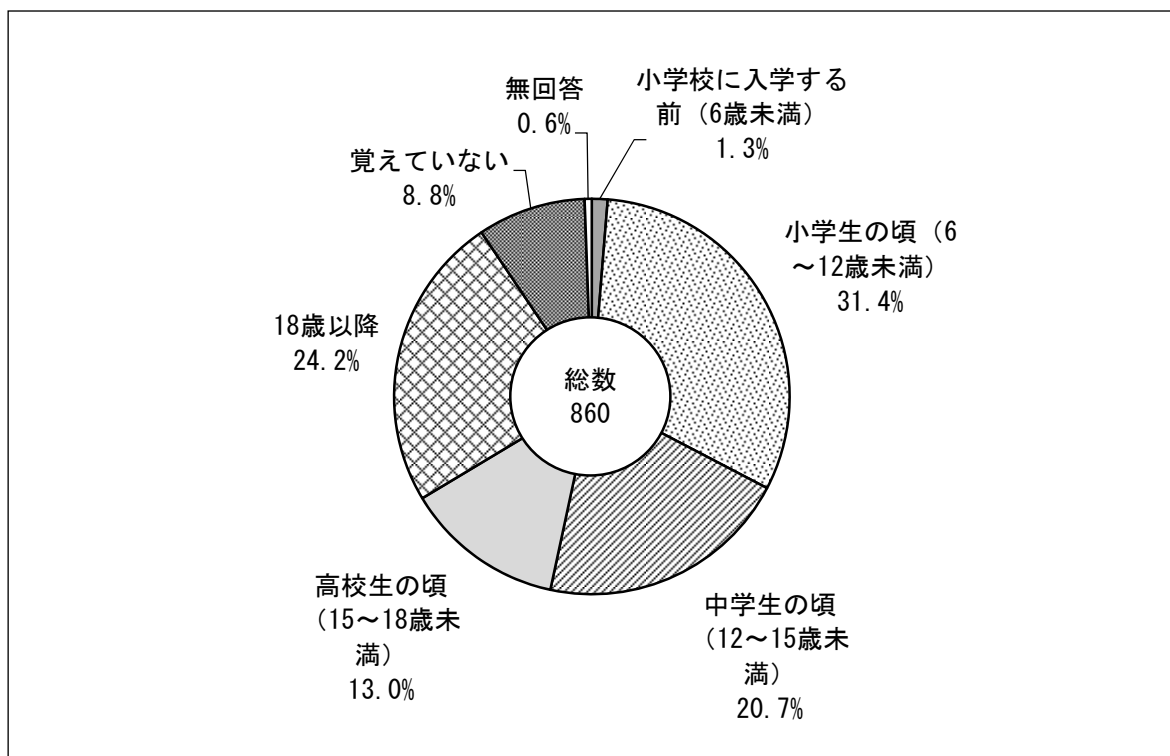
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「知っている」が7割前後を占めていますが、前回調査から今回調査にかけて、「知っている」の割合が7ポイント減少し、「知らない」の割合が8ポイント増加しています。

問 25-1 被差別部落（同和地区）の認知時期

問 25 で「1. 知っている」を選択された方にうかがいます。

それは、いつごろ知りましたか。（〇は1つ）



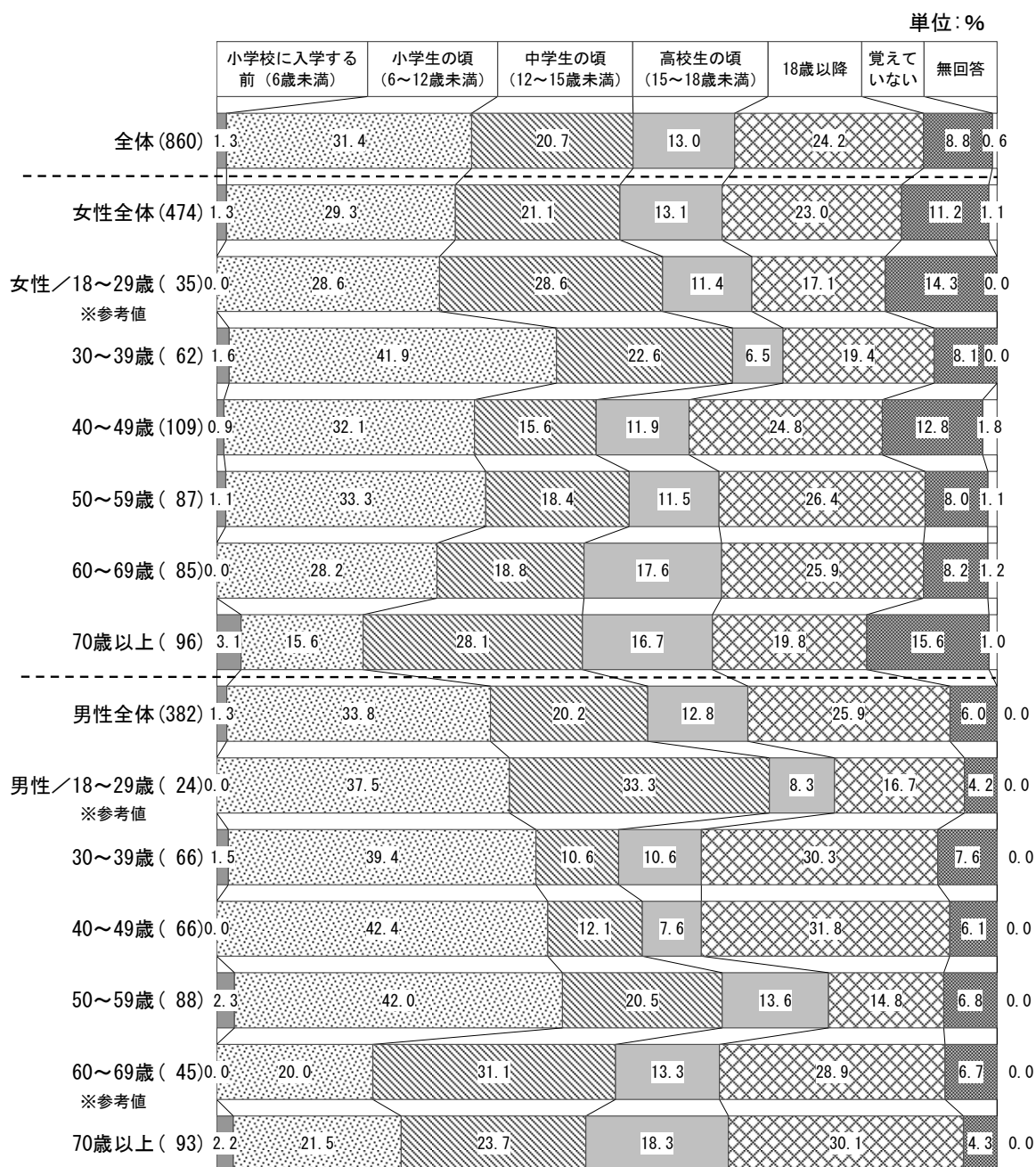
図表 115 被差別部落（同和地区）の認知時期

○全体の傾向

被差別部落（同和地区）を知っていると回答した人に対して、認知した時期について聞いたところ、「小学生の頃（6～12歳未満）」が31.4%で最も多く、「18歳以降」（24.2%）、「中学生の頃（12～15歳未満）」（20.7%）が続きます。「小学校に入学する前（6歳未満）」「小学生の頃（6～12歳未満）」「中学生の頃（12～15歳未満）」を合わせると53.4%であり、全体の過半数が中学生までの時期に被差別部落（同和地区）のことを認知したことがわかります。

○男女別の傾向

女性の「覚えていない」は11.2%であり、男性の割合を5ポイント上回っています。



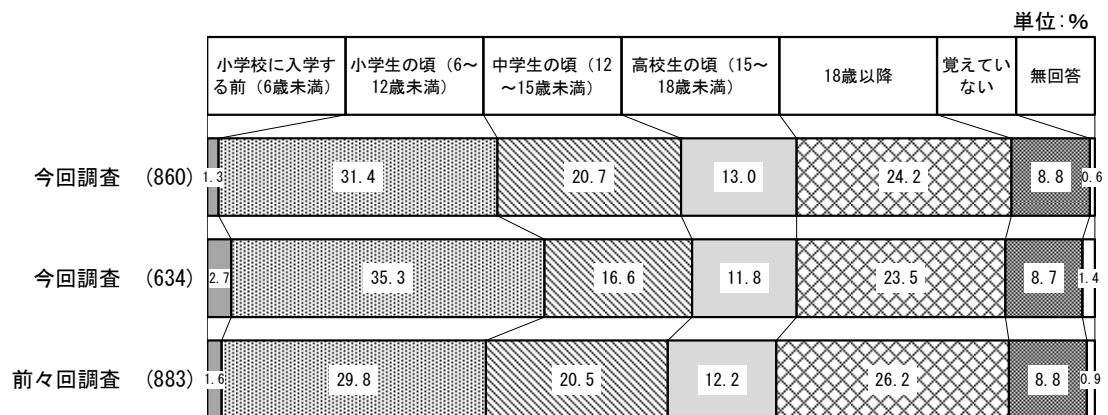
図表 116 被差別部落（同和地区）の認知時期（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の30～39歳では「小学生の頃（6～12歳未満）」が41.9%であり、女性回答者全体の割合を12ポイント上回っています。「小学生の頃（6～12歳未満）」はおおむね年代とともに割合が減少しており、70歳以上では15.6%です。このほか、70歳以上では「中学生の頃（12～15歳未満）」が28.1%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。

男性では、30～39歳と40～49歳、50～59歳で「小学生の頃（6～12歳未満）」が4割前後、40～49歳で「18歳以降」が31.8%であり、いずれも男性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 117 被差別部落（同和地区）の認知時期◀前回調査・前々回調査との比較▶

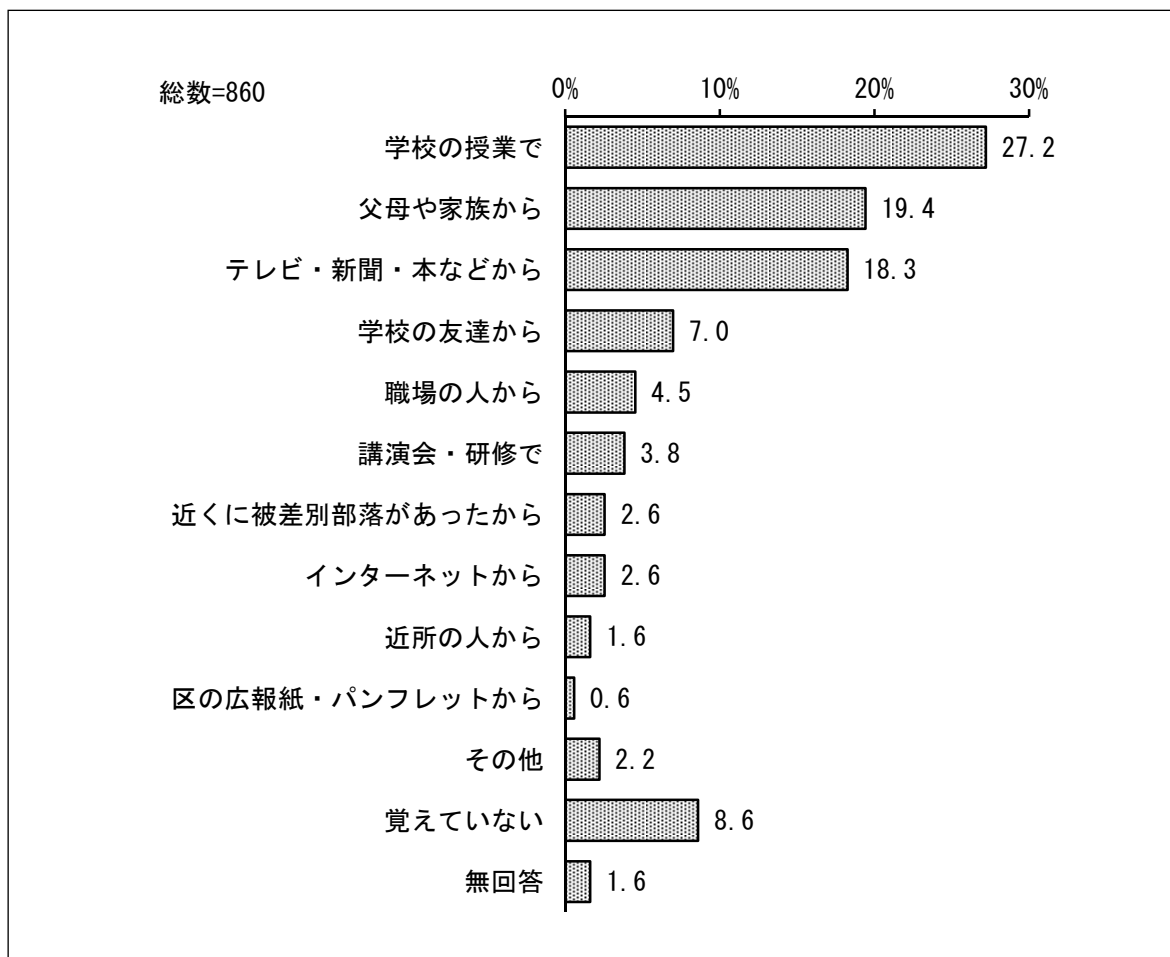
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「小学生の頃（6～12 歳未満）」が2割から3割台、「18 歳以降」が2割台となっています。また、中学生までの時期に被差別部落（同和地区）のことを認知したという回答が各調査とも過半数であり、大きな傾向の違いは見られません。

問 25-2 被差別部落（同和地区）の認知機会

問 25 で「1. 知っている」を選択された方にうかがいます。

初めて知ったのは、どのようにしてですか。（○は1つ）



図表 118 被差別部落（同和地区）の認知機会

○全体の傾向

被差別部落（同和地区）を知っていると回答した人に対して、認知した機会について聞いたところ、「学校の授業で」が 27.2%で最も多く、「父母や家族から」（19.4%）、「テレビ・新聞・本などから」（18.3%）が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全体	父母や家族から	近所の人から	学校の友達から	職場の人から	学校の授業で	講演会・研修で	区の広報紙から・パンフレット	テレビ・新聞・本などから	近くに被差別部落があつたから	インターネットから	覚えていない	その他	無回答
全体		860 100.0	167 19.4	14 1.6	60 7.0	39 4.5	234 27.2	33 3.8	5 0.6	157 18.3	22 2.6	22 2.6	74 8.6	19 2.2	14 1.6
性別	女性	474 100.0	88 18.6	8 1.7	26 5.5	18 3.8	140 29.5	20 4.2	4 0.8	88 18.6	10 2.1	10 2.1	41 8.6	13 2.7	8 1.7
	男性	382 100.0	79 20.7	6 1.6	30 7.9	21 5.5	94 24.6	13 3.4	1 0.3	69 18.1	12 3.1	12 3.1	33 8.6	6 1.6	6 1.6
	無回答	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	※参考値	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性・年代別	18～29歳	35	5	-	1	1	18	2	-	3	-	3	-	1	1
	※参考値	100.0	14.3	-	2.9	2.9	51.4	5.7	-	8.6	-	8.6	-	2.9	2.9
	30～39歳	62	5	-	2	2	33	2	-	9	-	2	6	1	-
	※参考値	100.0	8.1	-	3.2	3.2	53.2	3.2	-	14.5	-	3.2	9.7	1.6	-
	40～49歳	109	23	-	7	3	33	2	-	18	1	4	13	3	2
	※参考値	100.0	21.1	-	6.4	2.8	30.3	1.8	-	16.5	0.9	3.7	11.9	2.8	1.8
	50～59歳	87	18	2	3	5	30	7	-	12	1	1	5	3	-
	※参考値	100.0	20.7	2.3	3.4	5.7	34.5	8.0	-	13.8	1.1	1.1	5.7	3.4	-
	60～69歳	85	15	1	7	4	14	4	1	25	2	-	9	2	1
	※参考値	100.0	17.6	1.2	8.2	4.7	16.5	4.7	1.2	29.4	2.4	-	10.6	2.4	1.2
	70歳以上	96	22	5	6	3	12	3	3	21	6	-	8	3	4
	※参考値	100.0	22.9	5.2	6.3	3.1	12.5	3.1	3.1	21.9	6.3	-	8.3	3.1	4.2
	18～29歳	24	3	-	-	-	12	-	-	4	1	2	1	1	-
	※参考値	100.0	12.5	-	-	-	50.0	-	-	16.7	4.2	8.3	4.2	4.2	-
	30～39歳	66	9	-	4	2	26	3	-	4	1	9	7	-	1
	※参考値	100.0	13.6	-	6.1	3.0	39.4	4.5	-	6.1	1.5	13.6	10.6	-	1.5
男性	40～49歳	66	10	1	3	1	21	4	-	15	1	1	5	2	2
	※参考値	100.0	15.2	1.5	4.5	1.5	31.8	6.1	-	22.7	1.5	1.5	7.6	3.0	3.0
	50～59歳	88	24	-	11	4	20	4	-	16	2	-	7	-	-
	※参考値	100.0	27.3	-	12.5	4.5	22.7	4.5	-	18.2	2.3	-	8.0	-	-
	60～69歳	45	13	-	5	2	4	-	-	14	2	-	3	1	1
	※参考値	100.0	28.9	-	11.1	4.4	8.9	-	-	31.1	4.4	-	6.7	2.2	2.2
	70歳以上	93	20	5	7	12	11	2	1	16	5	-	10	2	2
	※参考値	100.0	21.5	5.4	7.5	12.9	11.8	2.2	1.1	17.2	5.4	-	10.8	2.2	2.2
	無回答	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	※参考値	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

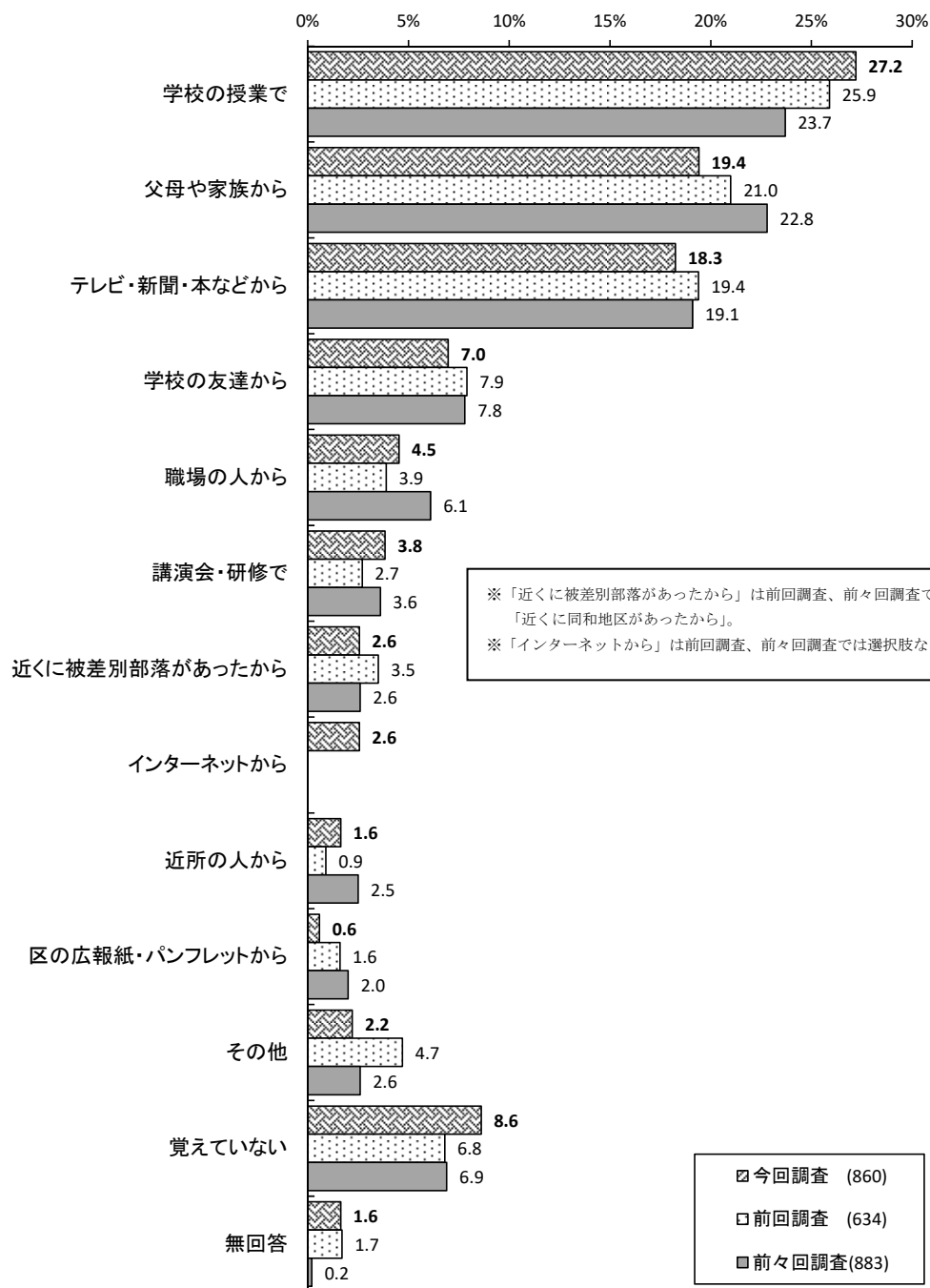
図表 119 被差別部落（同和地区）の認知機会（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の30～39歳では「学校の授業で」が53.2%であり、他の年代を18ポイント以上上回っています。また、60～69歳では「テレビ・新聞・本などから」が29.4%であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。

男性では、30～39歳の「学校の授業で」が39.4%であり、他の年代を7ポイント以上上回っています。50～59歳では「父母や家庭から」が27.3%、「学校の友達から」が12.5%であり、いずれも他の年代を5ポイント以上上回っています。また、70歳以上では「職場の人から」が12.9%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。このほか、30～39歳では「インターネットから」が13.6%であり、男性回答者全体の割合を10ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 120 被差別部落（同和地区）の認知機会《前回調査・前々回調査との比較》

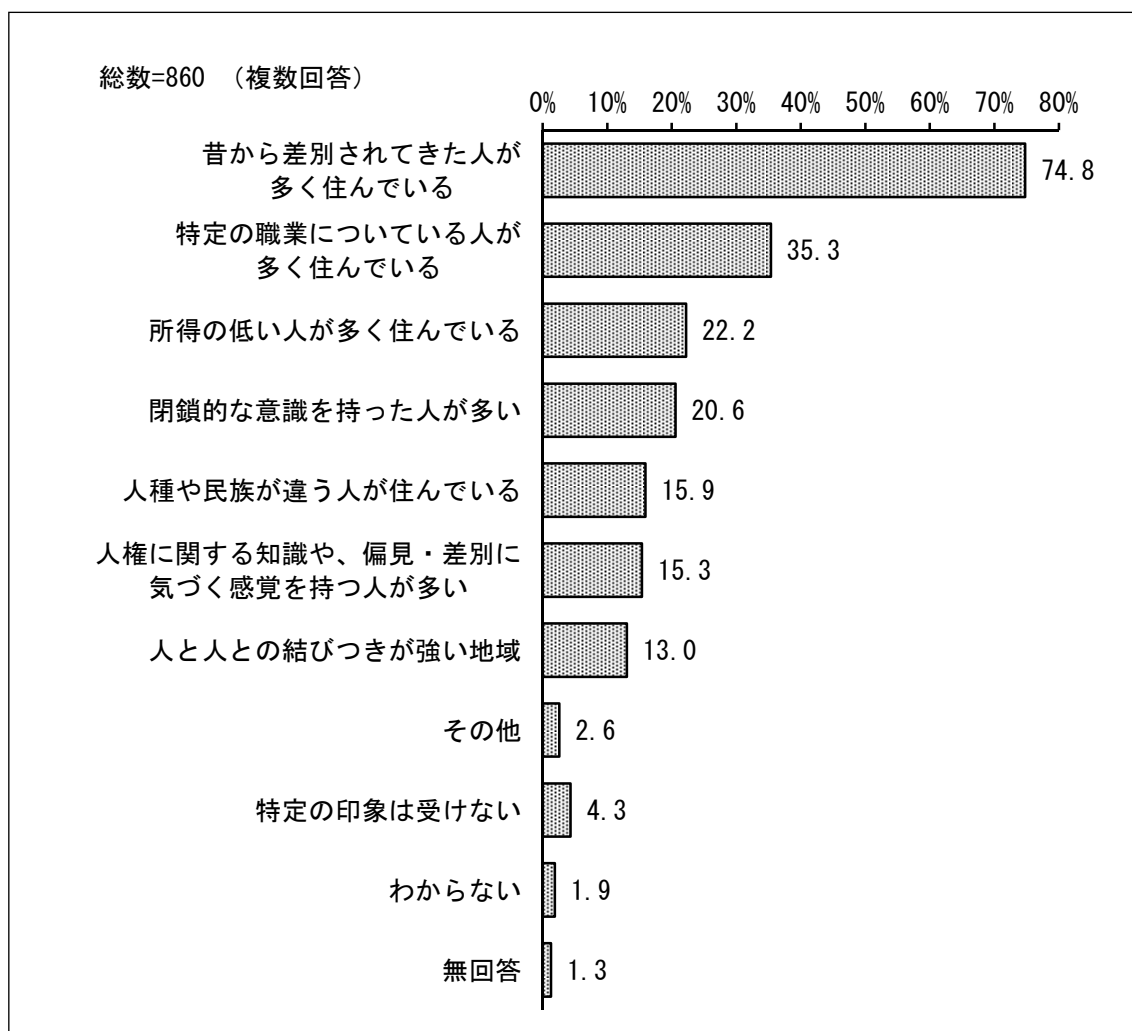
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「学校の授業で」が2割台、「父母や家族から」が2割前後、「テレビ・新聞・本などから」が2割弱となっています。「学校の授業で」は前々回調査から今回調査にかけて割合が増加を続けており、「父母や家族から」は割合が減少を続けています。

問 25-3 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象

問 25 で「1. 知っている」を選択された方にうかがいます。

「被差別部落」「同和地区」という言葉からどのような印象を受けますか。(〇はいくつでも)



図表 121 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象

○全体の傾向

被差別部落（同和地区）を知っていると回答した人に対して、「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象について聞いたところ、「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が74.8%で最も多く、「特定の職業についている人が多く住んでいる」(35.3%)、「所得の低い人が多く住んでいる」(22.2%)が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全体	昔から差別されてきた人が多く住んでいる	人種や民族が違う人が住んでいる	特定の職業についている人が多く住んでいる	人と人との結びつきが強い地域	閉鎖的な意識を持った人が多い	人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い	所得の低い人が多く住んでいる	特定の印象は受けない	わからない	その他	無回答	
全体		860 100.0	643 74.8	137 15.9	304 35.3	112 13.0	177 20.6	132 15.3	191 22.2	37 4.3	16 1.9	22 2.6	11 1.3	
性別	女性	474 100.0	357 75.3	68 14.3	171 36.1	64 13.5	88 18.6	74 15.6	98 20.7	20 4.2	8 1.7	9 1.9	6 1.3	
	男性	382 100.0	282 73.8	68 17.8	131 34.3	47 12.3	87 22.8	58 15.2	92 24.1	17 4.5	8 2.1	13 3.4	5 1.3	
	無回答	4	4	1	2	1	2	-	1	-	-	-	-	
	※参考値	100.0	100.0	25.0	50.0	25.0	50.0	-	25.0	-	-	-	-	
性・年代別	女性	18～29歳	35	20	2	4	3	6	2	7	3	3	2	1
		※参考値	100.0	57.1	5.7	11.4	8.6	17.1	5.7	20.0	8.6	8.6	5.7	2.9
		30～39歳	62	48	5	15	6	11	8	16	5	2	1	-
		※参考値	100.0	77.4	8.1	24.2	9.7	17.7	12.9	25.8	8.1	3.2	1.6	-
		40～49歳	109	83	16	28	15	27	15	24	1	-	1	2
		※参考値	100.0	76.1	14.7	25.7	13.8	24.8	13.8	22.0	0.9	-	0.9	1.8
		50～59歳	87	72	16	41	12	15	12	19	4	1	1	-
		※参考値	100.0	82.8	18.4	47.1	13.8	17.2	13.8	21.8	4.6	1.1	1.1	-
	男性	60～69歳	85	71	15	42	13	14	18	15	1	-	1	-
		※参考値	100.0	83.5	17.6	49.4	15.3	16.5	21.2	17.6	1.2	-	1.2	-
		70歳以上	96	63	14	41	15	15	19	17	6	2	3	3
		※参考値	100.0	65.6	14.6	42.7	15.6	15.6	19.8	17.7	6.3	2.1	3.1	3.1
		18～29歳	24	15	1	6	4	8	3	4	1	-	-	-
		※参考値	100.0	62.5	4.2	25.0	16.7	33.3	12.5	16.7	4.2	-	-	-
		30～39歳	66	45	8	8	4	12	8	14	10	2	1	1
		※参考値	100.0	68.2	12.1	12.1	6.1	18.2	12.1	21.2	15.2	3.0	1.5	1.5
	女性	40～49歳	66	51	13	20	7	17	10	20	2	1	5	-
		※参考値	100.0	77.3	19.7	30.3	10.6	25.8	15.2	30.3	3.0	1.5	7.6	-
		50～59歳	88	71	19	31	7	16	13	25	1	1	4	1
		※参考値	100.0	80.7	21.6	35.2	8.0	18.2	14.8	28.4	1.1	1.1	4.5	1.1
		60～69歳	45	31	10	19	11	10	8	10	1	3	1	1
		※参考値	100.0	68.9	22.2	42.2	24.4	22.2	17.8	22.2	2.2	6.7	2.2	2.2
	男性	70歳以上	93	69	17	47	14	24	16	19	2	1	2	2
		※参考値	100.0	74.2	18.3	50.5	15.1	25.8	17.2	20.4	2.2	1.1	2.2	2.2
	無回答		4	4	1	2	1	2	-	1	-	-	-	-
	※参考値		100.0	100.0	25.0	50.0	25.0	50.0	-	25.0	-	-	-	-

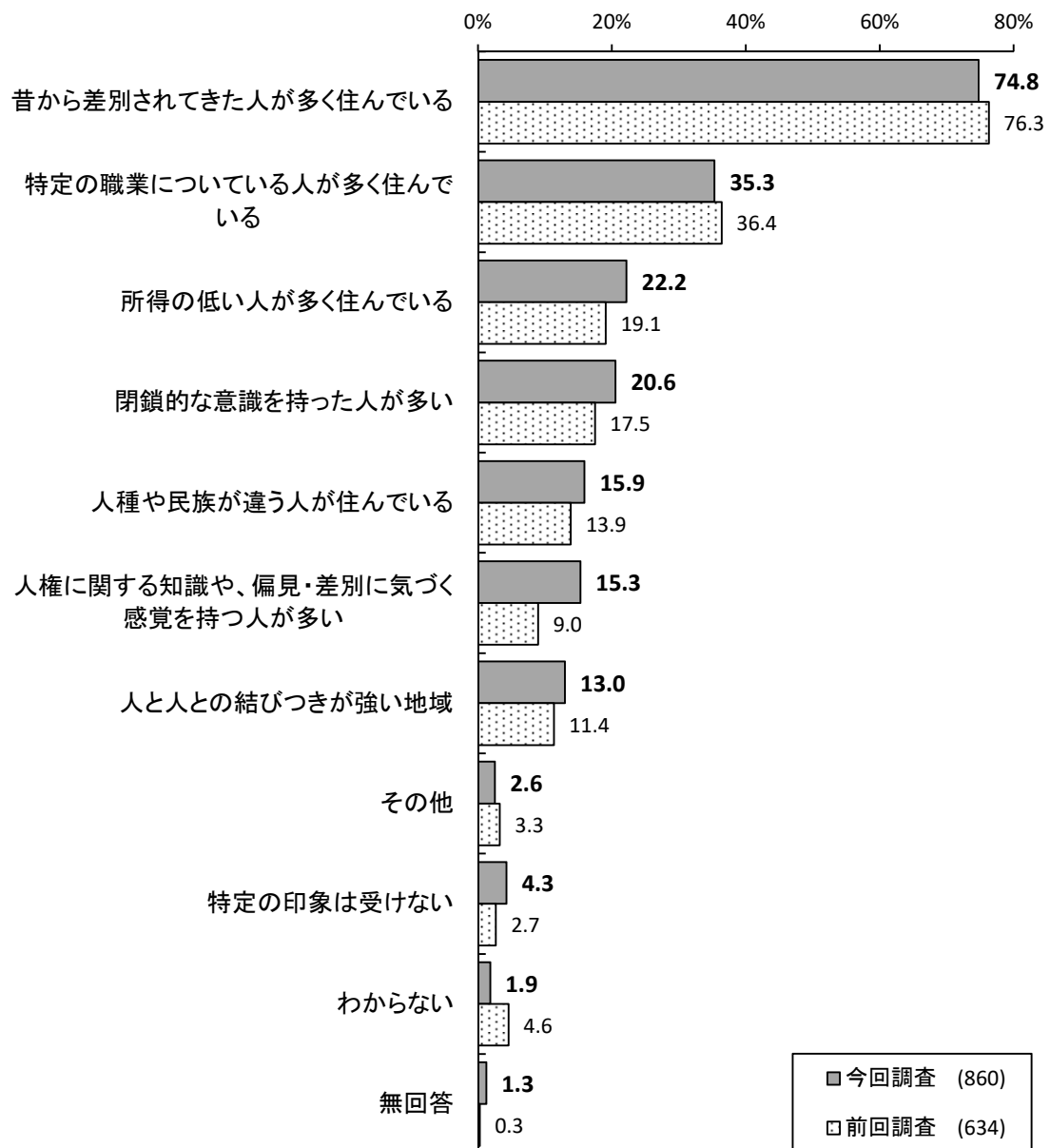
図表 122 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳と 60～69 歳では「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が 8 割強であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。また、40～49 歳では「閉鎖的な意識を持った人が多い」が 24.8%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。このほか、50～59 歳と 60～69 歳、70 歳以上では「特定の職業についている人が多く住んでいる」が 4 割台、30～39 歳では「所得の低い人が多く住んでいる」が 25.8%、60～69 歳では「人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い」が 21.2%であり、いずれも女性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。

男性の 70 歳以上では「特定の職業についている人が多く住んでいる」が 50.5%であり、他の年代を 15 ポイント以上上回っています。また、50～59 歳で「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が 80.7%、40～49 歳で「所得の低い人が多く住んでいる」が 30.3%であり、いずれも男性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。このほか、30～39 歳では「特定の印象は受けない」が 15.2%であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査との比較



※「人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い」は前回調査では「人権意識の高い人が多い」。

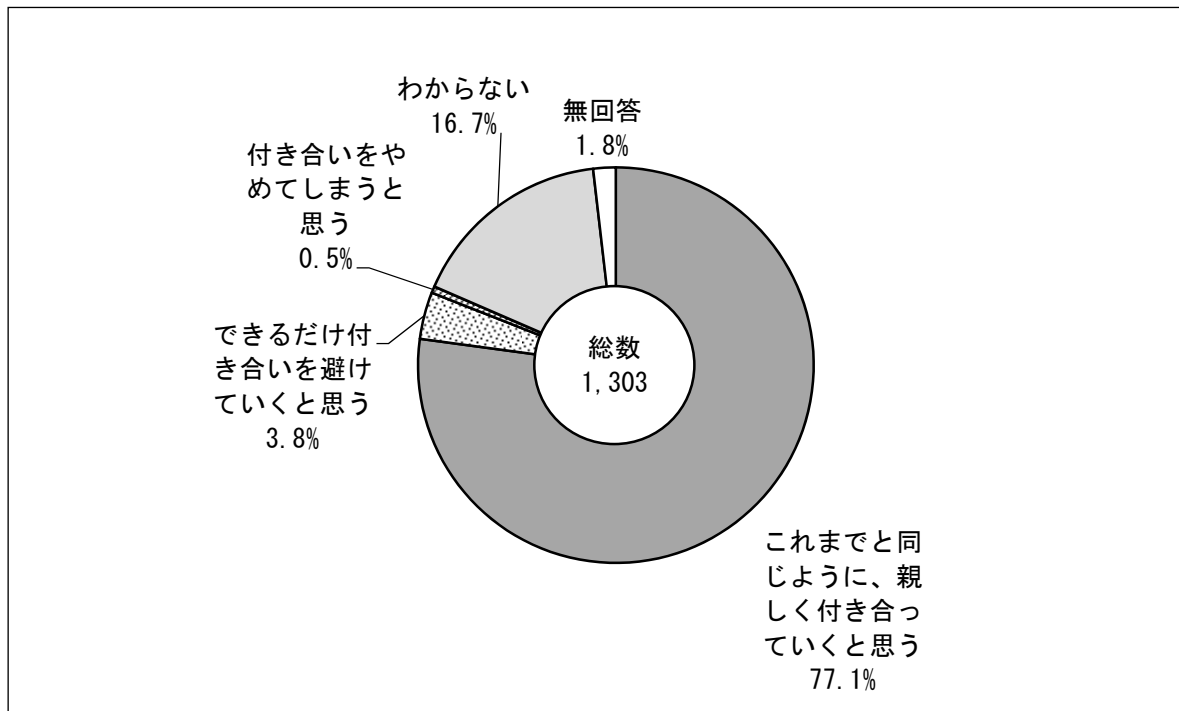
図表 123 「被差別部落」「同和地区」という言葉の印象＜前回調査との比較＞

● 前回調査との比較

今回調査・前回調査とも「昔から差別されてきた人が多く住んでいる」が7割台半ばで最も多く、「特定の職業についている人が多く住んでいる」が3割台半ばで続いています。また、今回調査の「人権に関する知識や、偏見・差別に気づく感覚を持つ人が多い」は前回調査の「人権意識の高い人が多い」を6ポイント上回っています。

問 26 親しい隣近所の人が「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応

あなたが親しく付き合っている隣近所の人が「被差別部落（同和地区）」出身の人であるとわかった場合、あなたはどのようにと思いますか。（〇は1つ）



図表 124 親しい隣近所の人が「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応

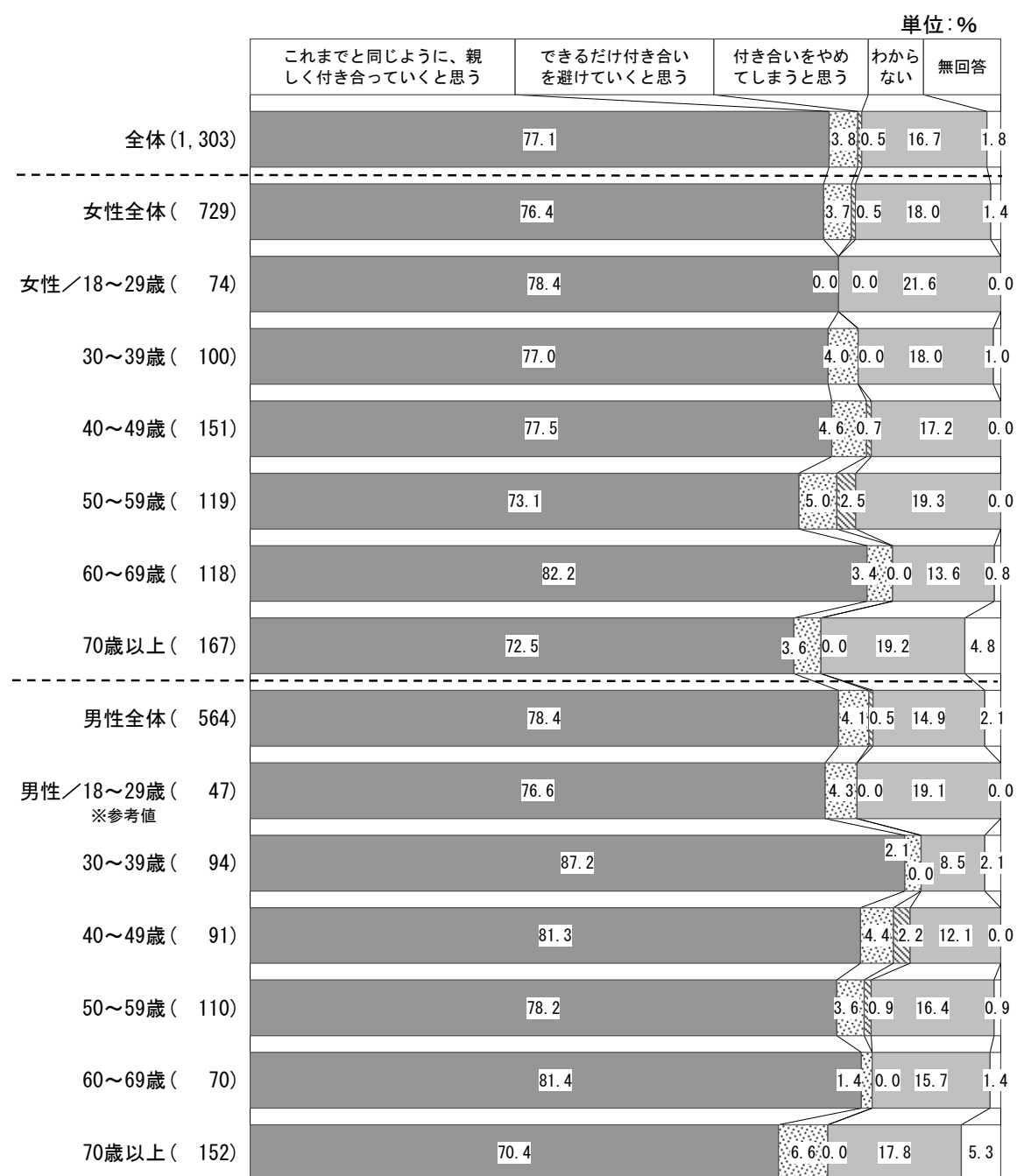
○全体の傾向

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が 77.1%で最も多く、「できるだけ付き合いを避けていくと思う」が 3.8%、「付き合いをやめてしまうと思う」が 0.5%です。「わからない」は 16.7%となっています。

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」以外を選択した割合（「できるだけ付き合いを避けていくと思う」と「付き合いをやめてしまうと思う」と「わからない」の合計）は、21.0%です。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

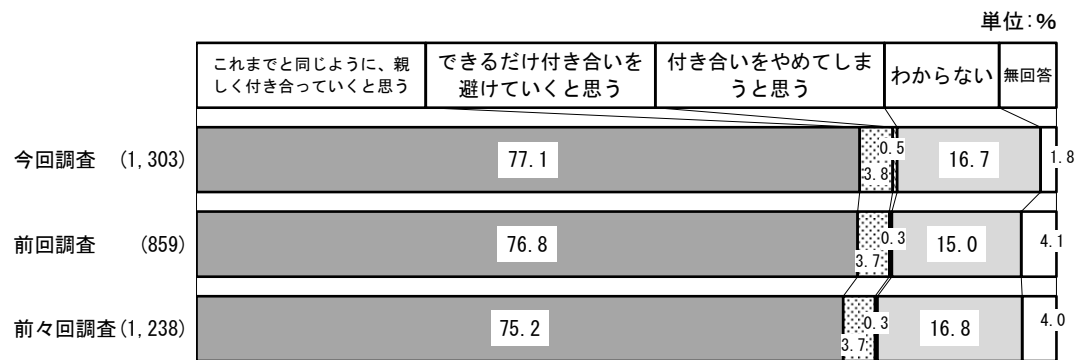


図表 125 親しい隣近所の人「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男性の30～39歳では、「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が87.2%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。また、70歳以上では「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が70.4%であり、他の年代を7ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



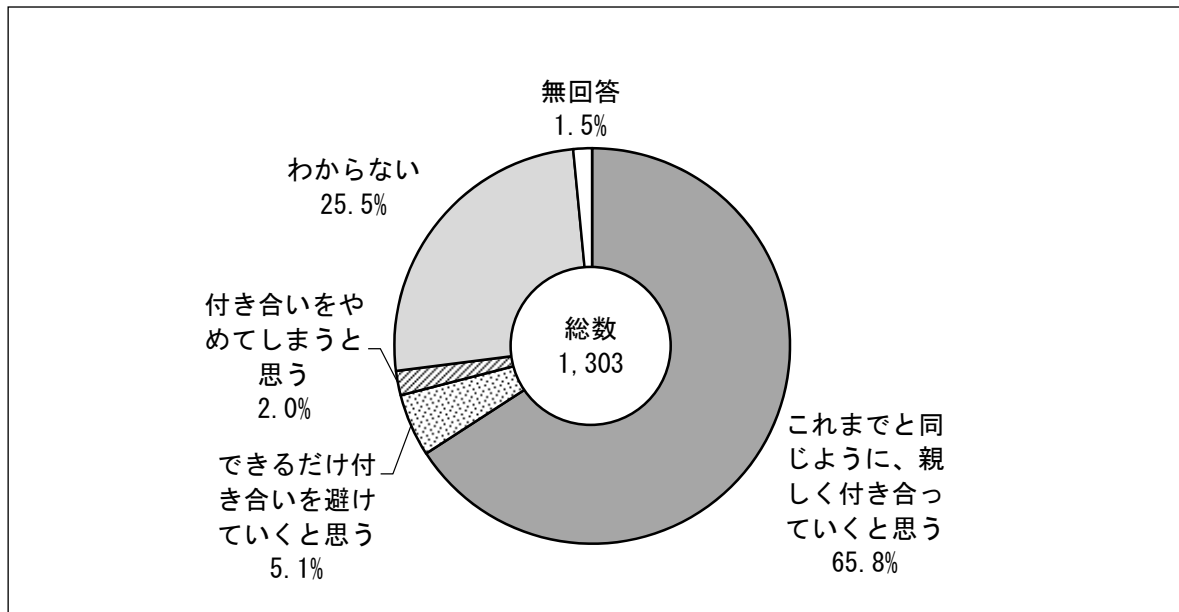
図表 126 親しい隣近所の人が「被差別部落（同和地区）」出身であるとわかった場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が8割弱を占めており、大きな傾向の違いは見られません。

問 27 身内の結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

あなたの身内の方の結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身であることがわかった場合、あなたはどのようにと思いますか（〇は1つ）



図表 127 身内の結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

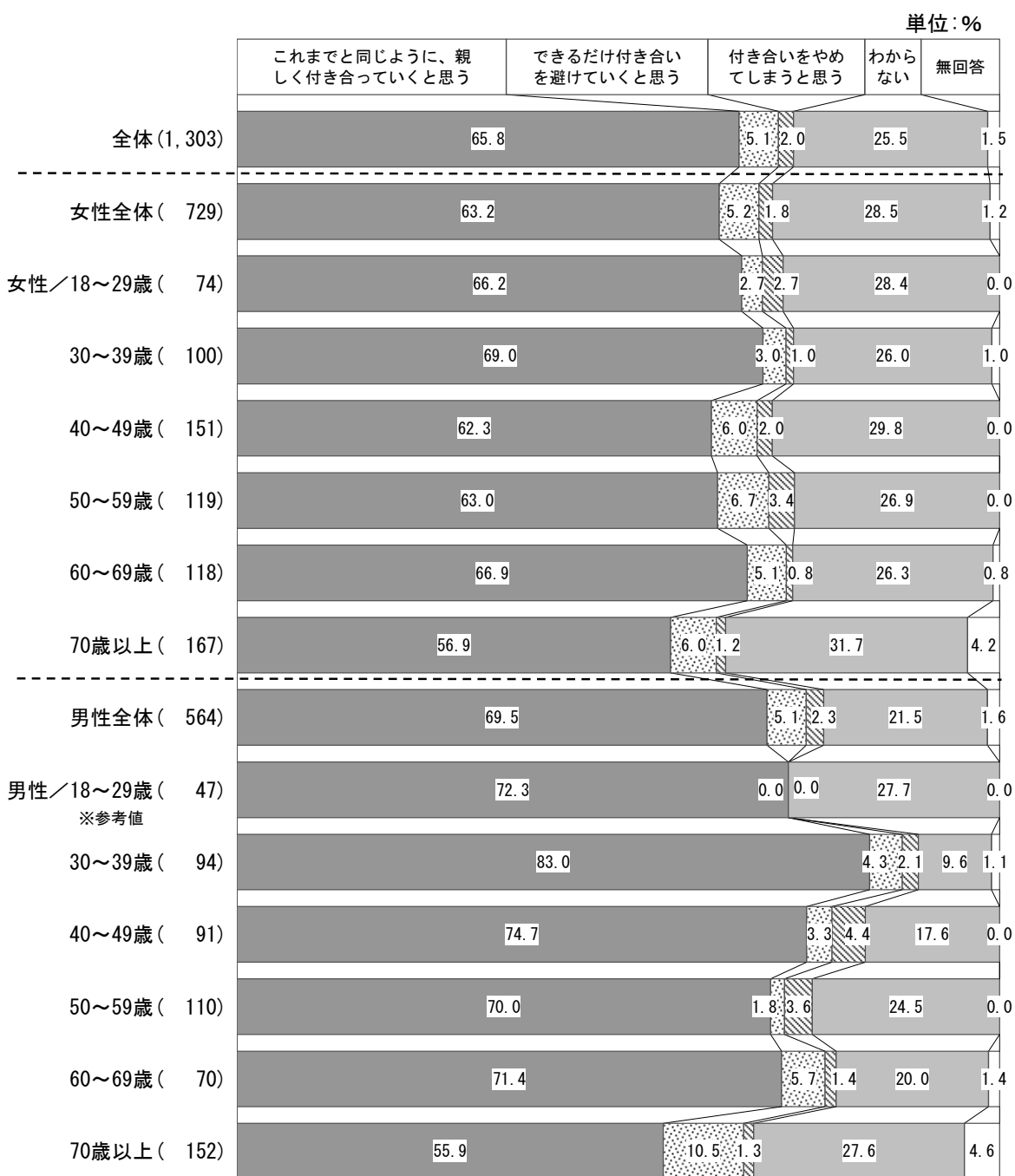
○全体の傾向

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が 65.8%で最も多く、「できるだけ付き合いを避けていくと思う」が 5.1%、「付き合いをやめてしまうと思う」が 2.0%です。「わからない」は 25.5%となっています。

「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」以外を選択した割合（「できるだけ付き合いを避けていくと思う」と「付き合いをやめてしまうと思う」と「わからない」の合計）は、32.6%です。

○男女別の傾向

女性の「わからない」は 28.5%であり、男性の割合を 7 ポイント上回っています。一方、男性の「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」は 69.5%であり、女性の割合を 6 ポイント上回っています。

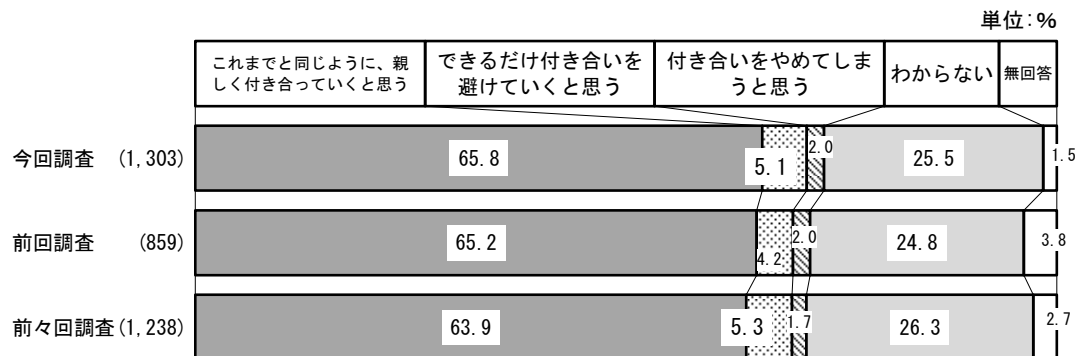


図表 128 身内の結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男性の30～39歳では、「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が83.0%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。一方、男女とも70歳以上では「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が6割弱で、他の年代を5ポイント以上下回っています。このほか、男性の70歳以上では「できるだけ付き合いを避けていくと思う」が10.5%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



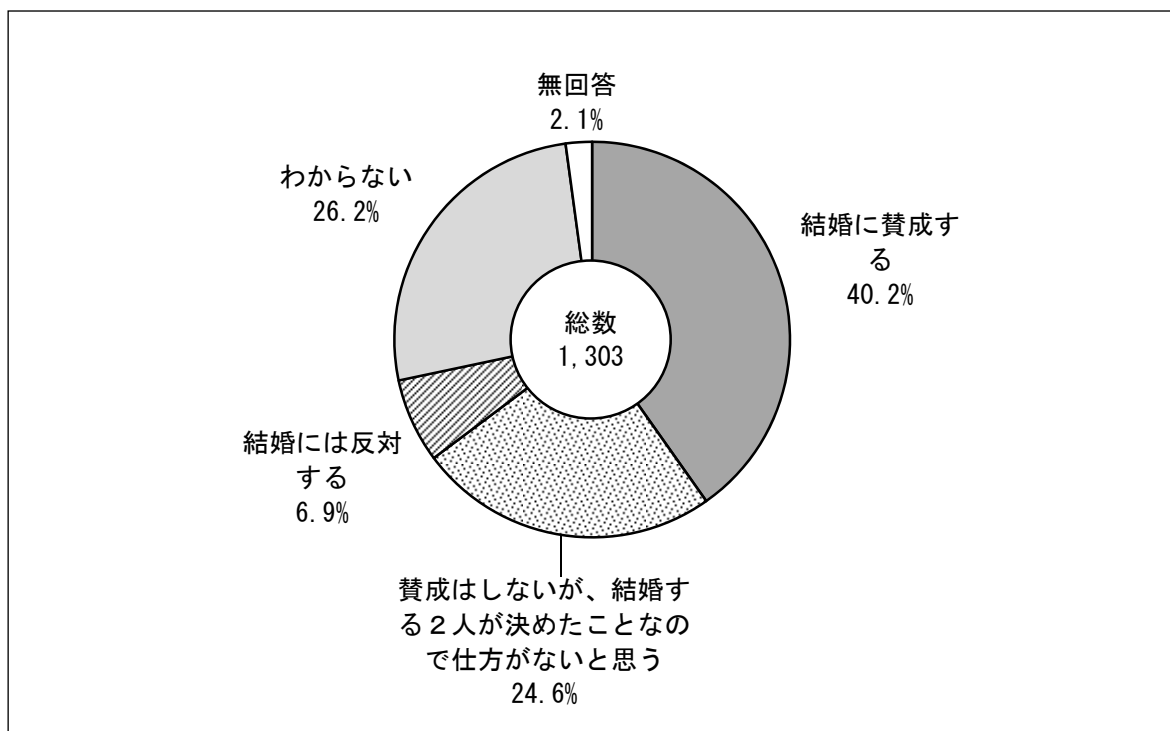
図表 129 身内の結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」が6割台を占めています。「これまでと同じように、親しく付き合っていくと思う」は、前々回調査から今回調査にかけて増加を続けています。

問 28 子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

もしも、あなたにお子さんがいるとして、そのお子さんの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身の場合、あなたはどのようにと思いますか。（〇は1つ）



図表 130 子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

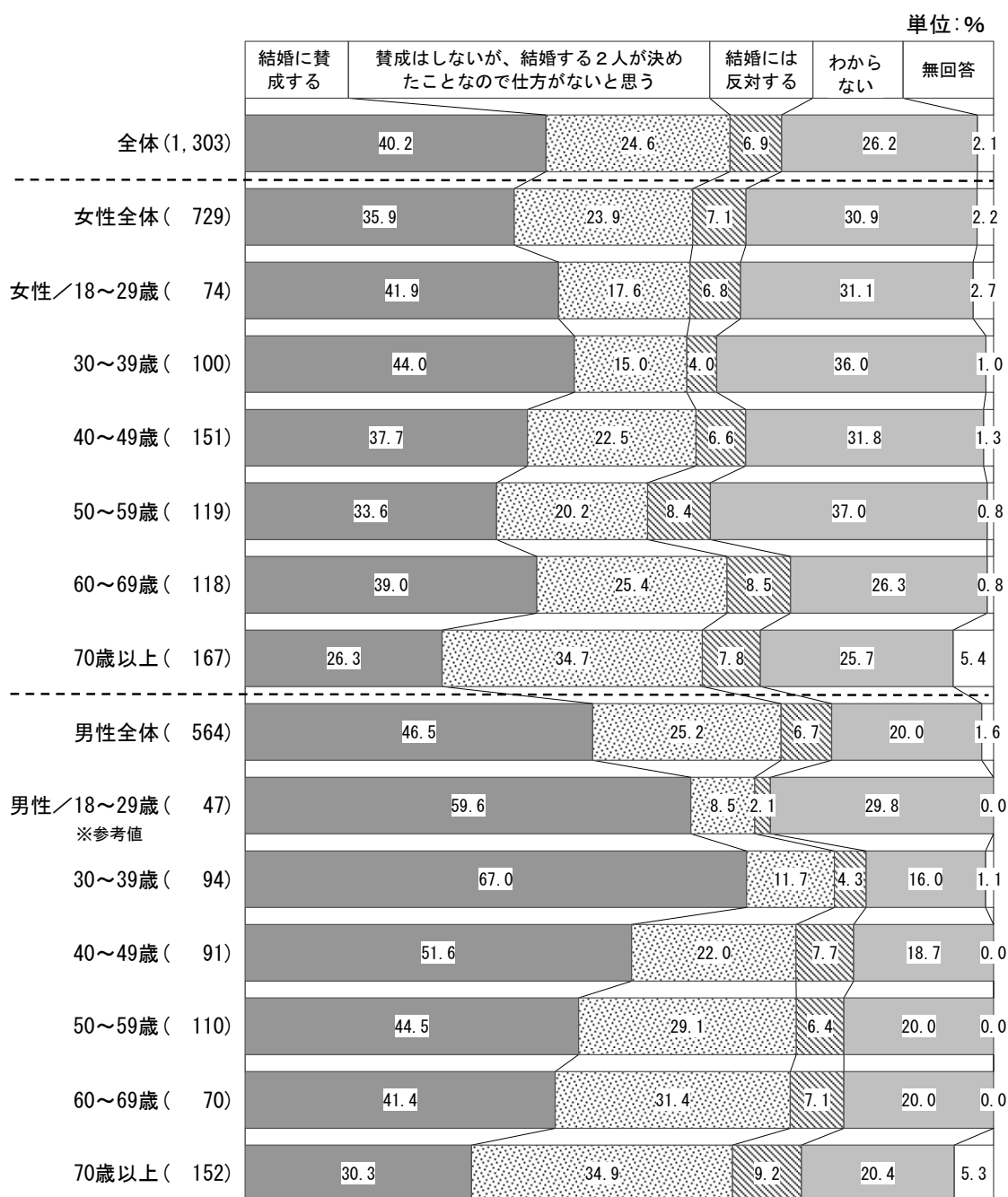
○全体の傾向

「結婚に賛成する」が 40.2%で最も多く、「賛成はしないが、結婚する2人が決めたことなので仕方ないと思う」が 24.6%、「結婚には反対する」が 6.9%です。「わからない」は 26.2%となっています。

「結婚に賛成する」以外を選択した割合（「賛成はしないが、結婚する2人が決めたことなので仕方ないと思う」と「結婚には反対する」と「わからない」の合計）は 57.7%であり、「結婚に賛成する」を上回っています。

○男女別の傾向

女性の「わからない」は 30.9%であり、男性の割合を 10 ポイント上回っています。一方、男性の「結婚に賛成する」は 46.5%であり、女性の割合を 10 ポイント上回っています。

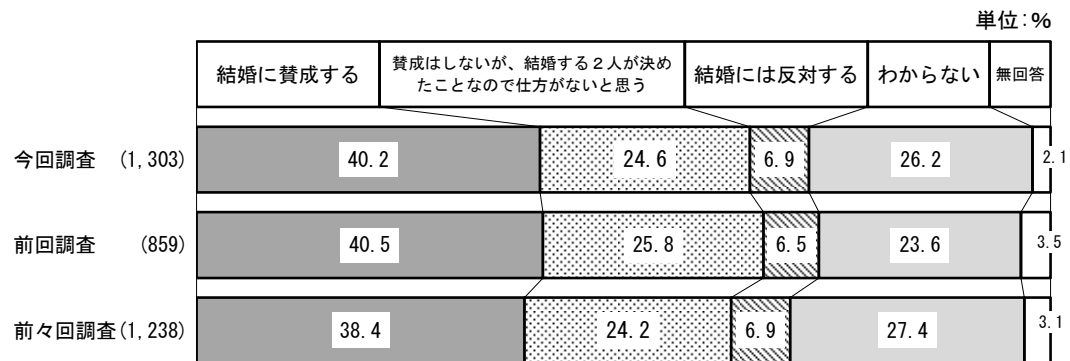


図表 131 子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応

○男女・年代別の傾向

男女とも69歳以下では「結婚に賛成する」が「賛成はしないが、結婚する2人が決めたことなので仕方がないと思う」を上回っているのに対し、70歳以上では「賛成はしないが、結婚する2人が決めたことなので仕方がないと思う」が「結婚に賛成する」を上回っています。70歳以上の「結婚に賛成する」は女性26.3%、男性30.3%であり、いずれも他の年代を7ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



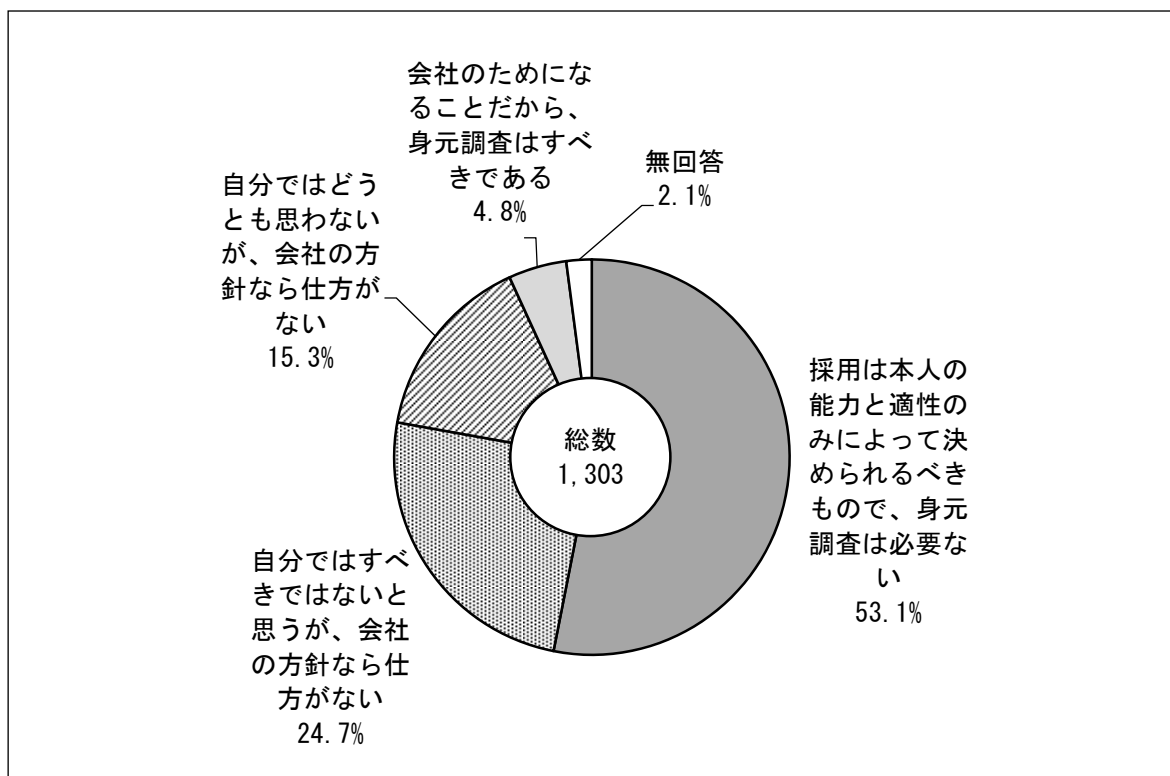
図表 132 子どもの結婚相手が「被差別部落（同和地区）」出身である場合の対応
 ≪前回調査・前々回調査との比較≫

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「結婚に賛成する」が4割前後で最も多くなっており、大きな傾向の違いは見られません。

問 29 採用試験の際に行われる身元調査への意識

ある会社で採用試験の際に、出身地や家族の状況などを、ひそかに興信所などを使って調べる身元調査をしています。あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)



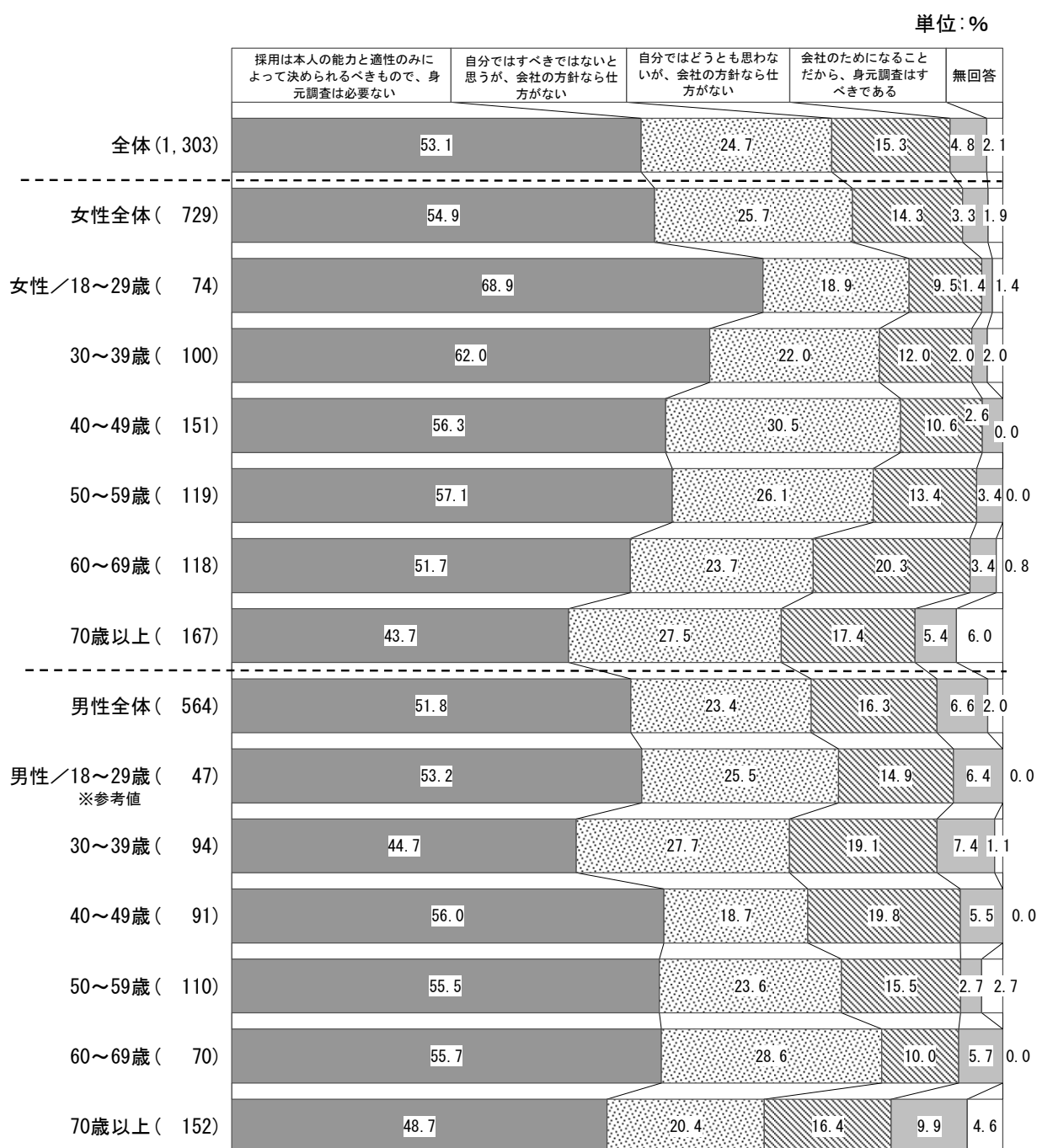
図表 133 採用試験の際に行われる身元調査への意識

○全体の傾向

「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が53.1%で最も多く、「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方ない」(24.7%)、「自分ではどうとも思わないが、会社の方針なら仕方ない」(15.3%)が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



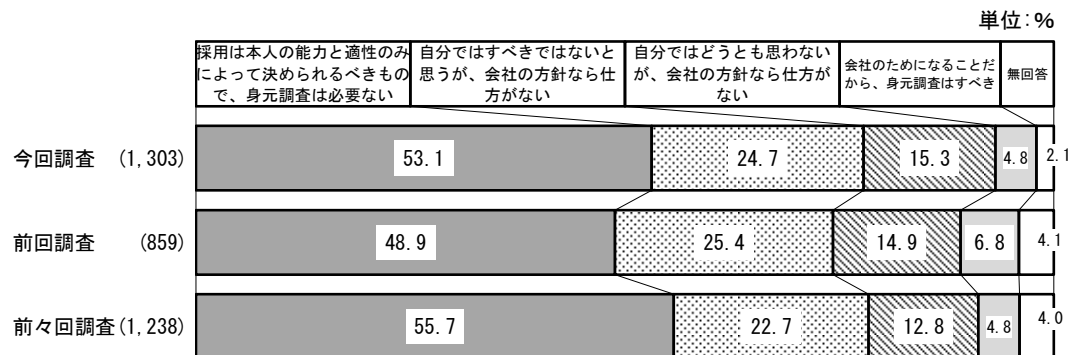
図表 134 採用試験の際に行われる身元調査への意識（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では、「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が 68.9％であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。60～69 歳では「自分ではどうとも思わないが、会社の方針なら仕方がない」が 20.3％であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。

男性では、60～69 歳で「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」が 28.6％であり、男性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 135 採用試験の際に行われる身元調査への意識《前回調査・前々回調査との比較》

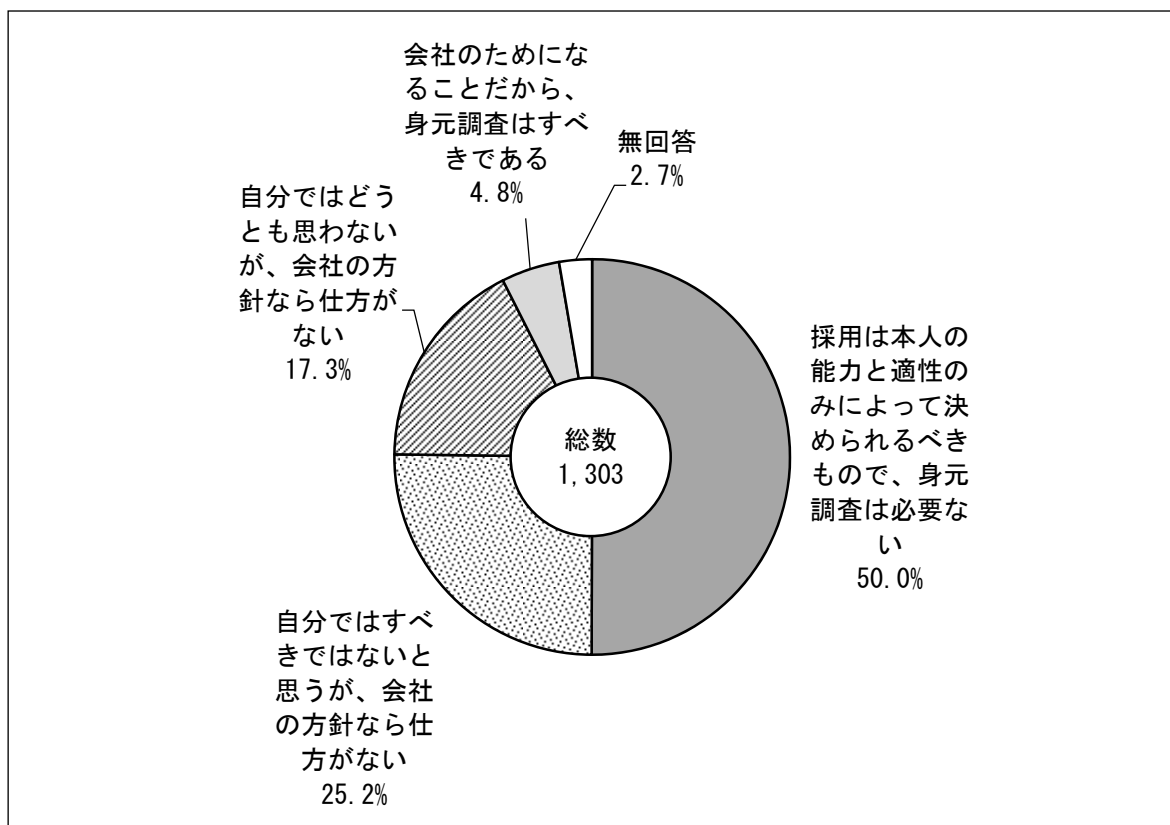
● 前回調査・前々回調査との比較

「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」は今回調査と前々回調査で5割台、前回調査では5割弱を占めています。前々回調査から前回調査にかけて「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が6ポイント減少しましたが、前回調査から今回調査にかけては増加に転じています。

問 30 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識

あなたが勤めている会社で身元調査をしているとします。あなたはどのように思いますか。

(〇は1つ)



図表 136 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識

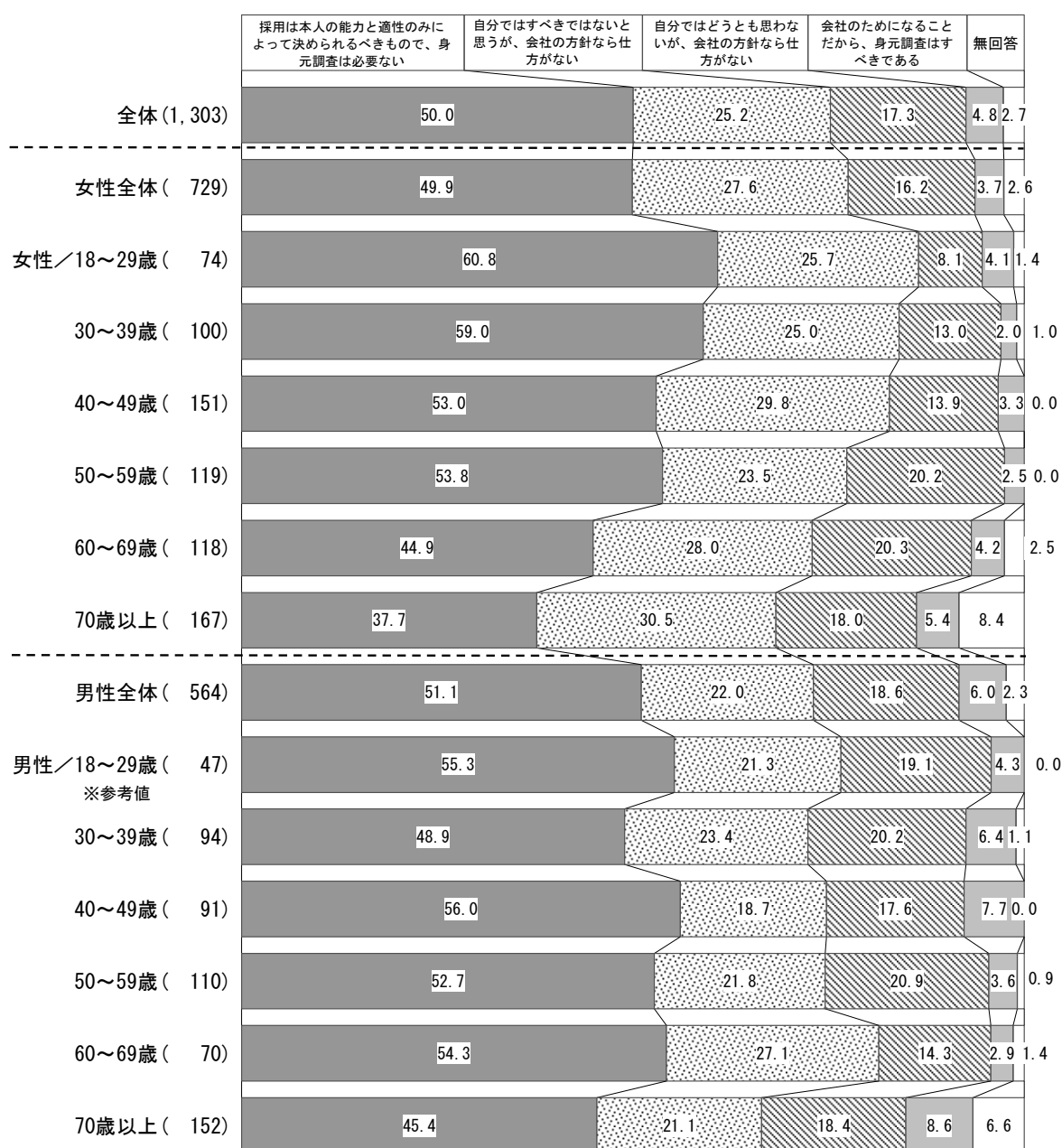
○全体の傾向

「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が50.0%で最も多く、「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方ない」(25.2%)、「自分ではどうとも思わないが、会社の方針なら仕方ない」(17.3%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方ない」は27.6%であり、男性の割合を5ポイント上回っています。

単位：％



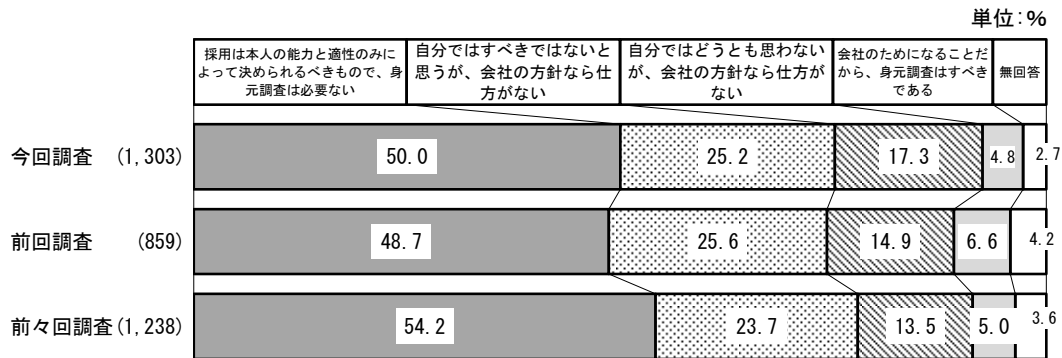
図表 137 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では、「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が 60.8%、30～39 歳では 59.0%であり、他の年代を 5 ポイント以上上回っています。「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」はおおむね年代とともに割合が減少しており、70 歳以上では 37.7%です。

男性では、60～69 歳で「自分ではすべきではないと思うが、会社の方針なら仕方がない」が 27.1%であり、男性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。また、70 歳以上で「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が 45.4%であり、男性回答者全体の割合を 5 ポイント下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



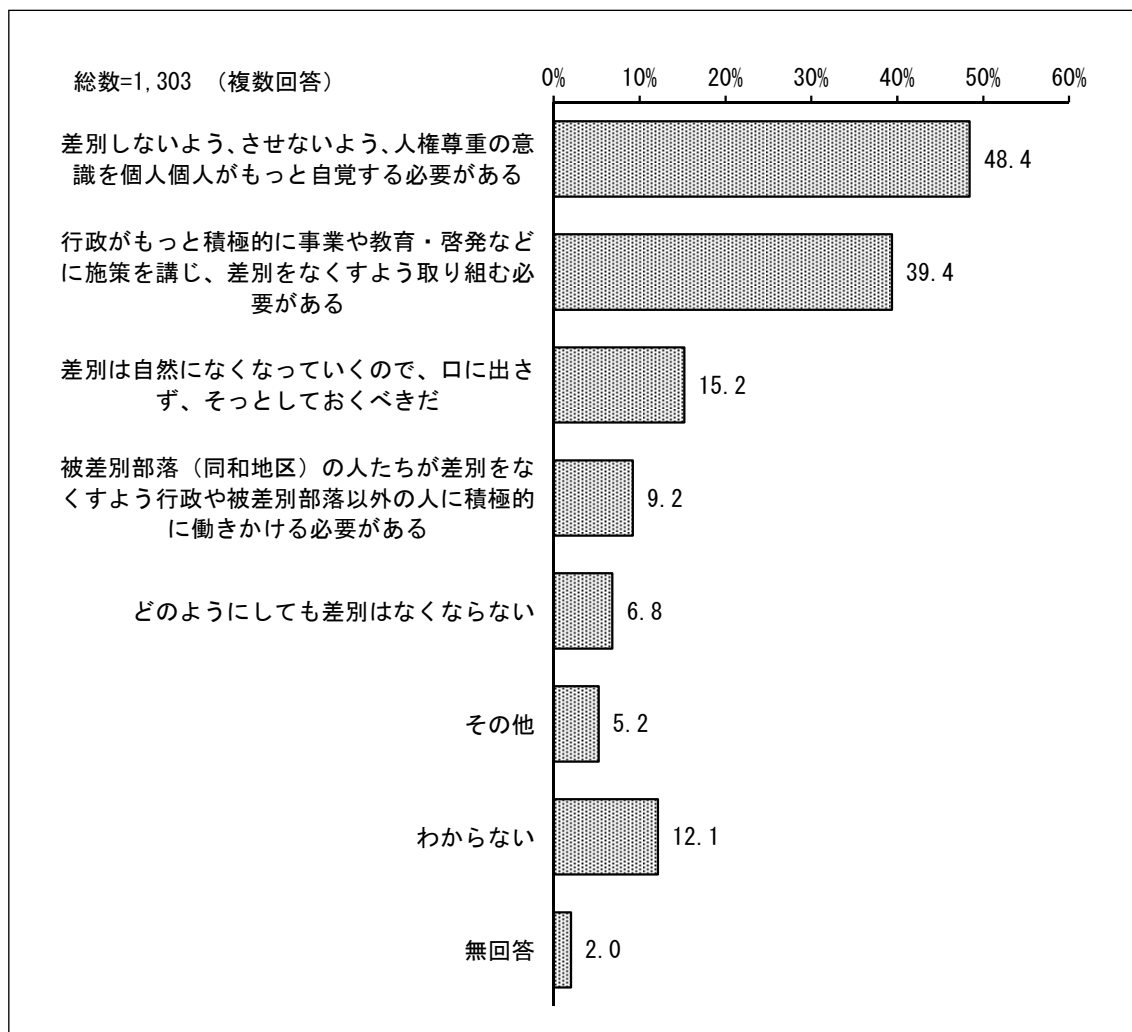
図表 138 勤めている会社で身元調査をしている場合の意識＜前回調査・前々回調査との比較＞

●前回調査・前々回調査との比較

「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」は今回調査と前々回調査で5割から5割強、前回調査では5割弱を占めています。前々回調査から前回調査にかけて「採用は本人の能力と適性のみによって決められるべきもので、身元調査は必要ない」が5ポイント減少しましたが、前回調査から今回調査にかけては増加に転じています。

問 31 部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと

部落差別（同和問題）解決のために、今後どうすればよいと思いますか。（〇はいくつでも）



図表 139 部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと

○全体の傾向

「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が 48.4%で最も多く、「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」(39.4%)が続きます。このほか、「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」が 15.2%となっています。

○男女別の傾向

女性の「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」は 52.1%であり、男性の割合を 8 ポイント上回っています。

			全体	行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある	差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある	被差別部落（同和地区）の人たちが差別をなくすよう行政や被差別部落以外の人に積極的に働きかける必要がある	差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ	どのようなにしても差別はなくなる	わからない	その他	無回答
全体			1,303 100.0	513 39.4	631 48.4	120 9.2	198 15.2	89 6.8	158 12.1	68 5.2	26 2.0
性別	女性		729 100.0	285 39.1	380 52.1	55 7.5	106 14.5	47 6.4	98 13.4	28 3.8	11 1.5
	男性		564 100.0	226 40.1	248 44.0	65 11.5	90 16.0	42 7.4	57 10.1	39 6.9	13 2.3
	無回答 ※参考値		10 100.0	2 20.0	3 30.0	－ －	2 20.0	－ －	3 30.0	1 10.0	2 20.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	31 41.9	42 56.8	6 8.1	10 13.5	6 8.1	3 4.1	3 4.1	2 2.7
		30～39歳	100 100.0	39 39.0	53 53.0	6 6.0	11 11.0	4 4.0	14 14.0	5 5.0	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	54 35.8	81 53.6	17 11.3	20 13.2	10 6.6	23 15.2	5 3.3	－ －
		50～59歳	119 100.0	50 42.0	61 51.3	6 5.0	8 6.7	14 11.8	16 13.4	4 3.4	－ －
		60～69歳	118 100.0	49 41.5	57 48.3	8 6.8	12 10.2	10 8.5	17 14.4	7 5.9	－ －
		70歳以上	167 100.0	62 37.1	86 51.5	12 7.2	45 26.9	3 1.8	25 15.0	4 2.4	8 4.8
		無回答 ※参考値	47 100.0	13 27.7	12 25.5	7 14.9	8 17.0	4 8.5	10 21.3	3 6.4	1 2.1
	男性	18～29歳	94 100.0	35 37.2	34 36.2	14 14.9	16 17.0	9 9.6	10 10.6	9 9.6	2 2.1
		30～39歳	91 100.0	35 38.5	46 50.5	11 12.1	8 8.8	12 13.2	9 9.9	6 6.6	－ －
		40～49歳	110 100.0	46 41.8	55 50.0	10 9.1	17 15.5	6 5.5	10 9.1	12 10.9	1 0.9
		50～59歳	70 100.0	33 47.1	31 44.3	12 17.1	10 14.3	5 7.1	4 5.7	2 2.9	1 1.4
		60～69歳	152 100.0	64 42.1	70 46.1	11 7.2	31 20.4	6 3.9	14 9.2	7 4.6	8 5.3
		70歳以上	10 100.0	2 20.0	3 30.0	－ －	2 20.0	－ －	3 30.0	1 10.0	2 20.0
		無回答 ※参考値									

図表 140 部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の70歳以上では「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」が26.9%であり、他の年代を13ポイント以上上回っています。また、50～59歳では「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」が6.7%であり、女性回答者全体の割合を7ポイント下回っています。

男性では、60～69歳で「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」が47.1%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。40～49歳では「差別しないよう、させないよう、人権尊重の意識を個人個人がもっと自覚する必要がある」が50.5%、50～59歳では50.0%であり、男性回答者全体の割合を6

ポイント上回っています。また、60～69 歳では「被差別部落（同和地区）の人たちが差別をなくすよう行政や被差別部落以外の人に積極的に働きかける必要がある」が 17.1%、40～49 歳では「どのようにしても差別はなくなるらない」が 13.2%であり、男性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。このほか、40～49 歳では「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」が 8.8%であり、男性回答者全体の割合を 7 ポイント下回っています。

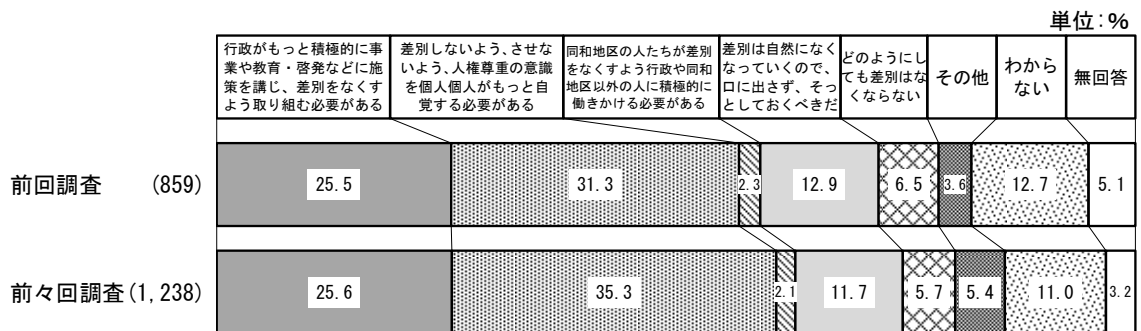
			啓行政 発がな すよう に行政 や被差 別部落 以外に 積極的 に働き かける 必要が ある	権差別 尊重の 意識を 個人が 持つと 、人	被差別 部落（ 同和地 区）の 人た ちが差 別を なくす よう 行政 や被差 別部落 以外に 積極的 に働き かける 必要が ある	口差別 は自然 になく なって いくの で、	どの ように しても 差別は なくな らな い	わ から ない	そ の 他	無 回 答
		全体								
全体		1,303 100.0	513 39.4	631 48.4	120 9.2	198 15.2	89 6.8	158 12.1	68 5.2	26 2.0
部落 差別	多く存在する	119 100.0	55 46.2	60 50.4	13 10.9	11 9.2	16 13.4	8 6.7	5 4.2	2 1.7
	ある程度存在する	757 100.0	328 43.3	390 51.5	75 9.9	99 13.1	52 6.9	79 10.4	35 4.6	4 0.5
	存在しない	309 100.0	93 30.1	142 46.0	27 8.7	66 21.4	17 5.5	49 15.9	23 7.4	7 2.3
	無回答	118 100.0	37 31.4	39 33.1	5 4.2	22 18.6	4 3.4	22 18.6	5 4.2	13 11.0

図表 141 部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと（部落差別（同和問題）の認識別）

○部落差別（同和問題）の存在に対する認識別の傾向

現在の社会で部落差別（同和問題）が多く存在すると考える人では、「行政がもっと積極的に事業や教育・啓発などに施策を講じ、差別をなくすよう取り組む必要がある」が 46.2%、「どのようにしても差別はなくなるらない」が 13.4%であり、いずれも回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。また、部落差別が存在しないと考え人では、「差別は自然になくなっていくので、口に出さず、そっとしておくべきだ」が 21.4%であり、回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



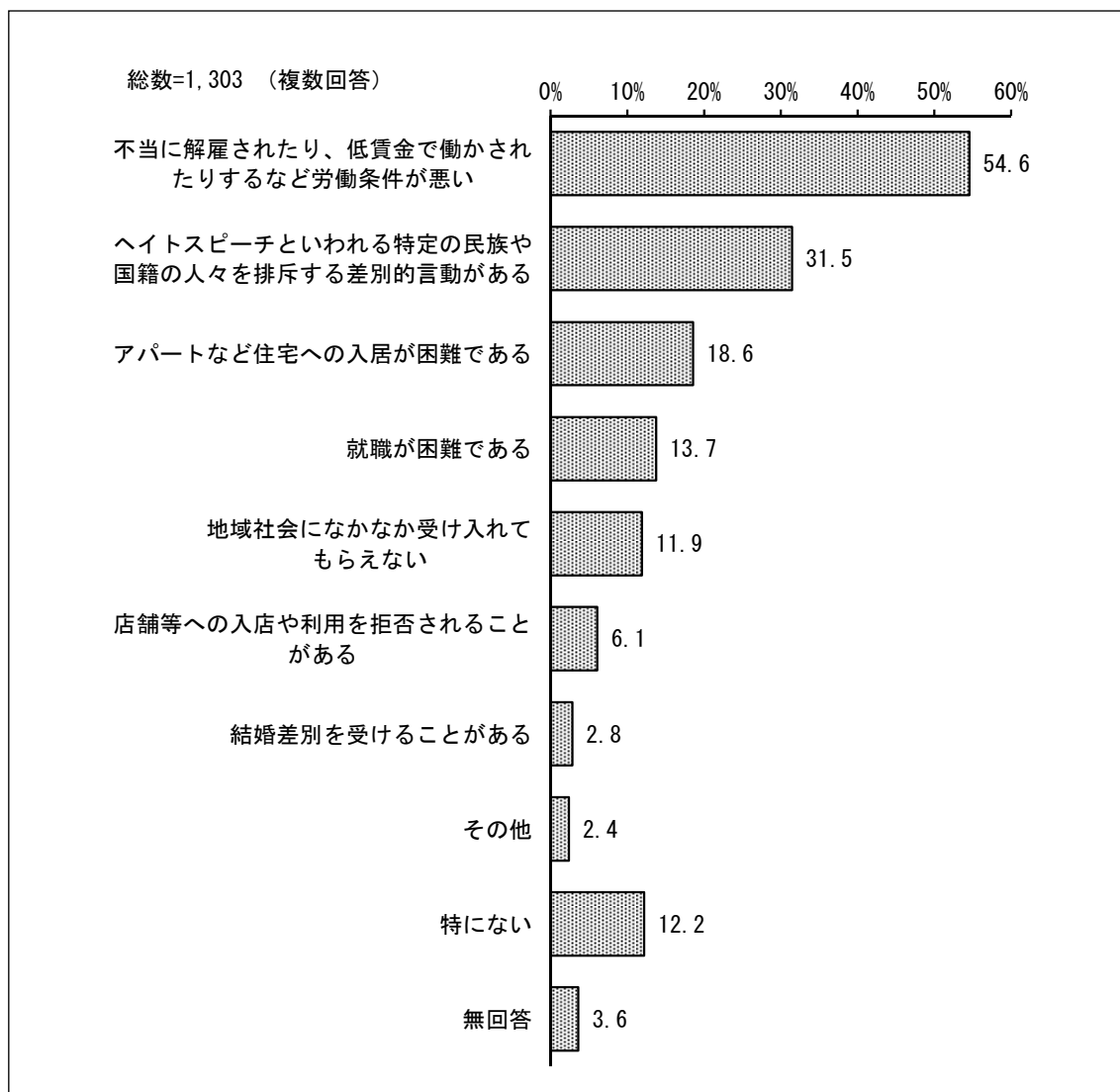
図表 142 部落差別（同和問題）解決のために今後実施すべきこと《前回調査・前々回調査結果》

● 前回調査・前々回調査とも本設問は単数回答方式で調査したため、参考掲載します。

7 外国人の人権について

問 32 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと

次にあげる外国人の人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。（〇は2つまで）



図表 143 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が54.6%で最も多く、「ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある」（31.5%）、「アパートなど住宅への入居が困難である」（18.6%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」は58.7%であり、男性の割合を9ポイント上回っています。

		全体	就職が困難である	労働条件が悪い	不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど	結婚差別を受けることがある	地域社会になかなか受け入れてもらえない	店舗等への入店や利用を拒否されることがある	アパートなど住宅への入居が困難である	特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある	特にな	その他	無回答
全体		1,303 100.0	179 13.7	711 54.6	37 2.8	155 11.9	79 6.1	242 18.6	410 31.5	159 12.2	31 2.4	47 3.6	
性別	女性	729 100.0	95 13.0	428 58.7	20 2.7	76 10.4	57 7.8	140 19.2	232 31.8	73 10.0	14 1.9	23 3.2	
	男性	564 100.0	81 14.4	280 49.6	16 2.8	78 13.8	20 3.5	101 17.9	177 31.4	84 14.9	17 3.0	23 4.1	
	無回答	10 100.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	-	1 10.0	
	※参考値												
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	13 17.6	43 58.1	1 1.4	14 18.9	7 9.5	18 24.3	22 29.7	3 4.1	2 2.7	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	15 15.0	57 57.0	7 7.0	7 7.0	10 10.0	23 23.0	32 32.0	10 10.0	1 1.0	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	22 14.6	92 60.9	5 3.3	14 9.3	15 9.9	34 22.5	49 32.5	8 5.3	3 2.0	1 0.7
		50～59歳	119 100.0	10 8.4	86 72.3	2 1.7	13 10.9	6 5.0	18 15.1	41 34.5	13 10.9	1 0.8	2 1.7
		60～69歳	118 100.0	16 13.6	67 56.8	1 0.8	16 13.6	7 5.9	18 15.3	50 42.4	11 9.3	2 1.7	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	19 11.4	83 49.7	4 2.4	12 7.2	12 7.2	29 17.4	38 22.8	28 16.8	5 3.0	17 10.2
		※参考値											
	男性	18～29歳	47 100.0	5 10.6	22 46.8	2 4.3	8 17.0	2 4.3	7 14.9	13 27.7	9 19.1	2 4.3	-
		30～39歳	94 100.0	8 8.5	48 51.1	4 4.3	15 16.0	10 10.6	15 16.0	26 27.7	9 9.6	6 6.4	3 3.2
		40～49歳	91 100.0	15 16.5	40 44.0	2 2.2	17 18.7	2 2.2	20 22.0	30 33.0	14 15.4	3 3.3	2 2.2
		50～59歳	110 100.0	16 14.5	62 56.4	3 2.7	12 10.9	3 2.7	22 20.0	46 41.8	14 12.7	3 2.7	1 0.9
		60～69歳	70 100.0	13 18.6	41 58.6	2 2.9	8 11.4	2 2.9	13 18.6	20 28.6	9 12.9	-	3 4.3
		70歳以上	152 100.0	24 15.8	67 44.1	3 2.0	18 11.8	1 0.7	24 15.8	42 27.6	29 19.1	3 2.0	14 9.2
		※参考値											
	無回答	10 100.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	-	-	1 10.0

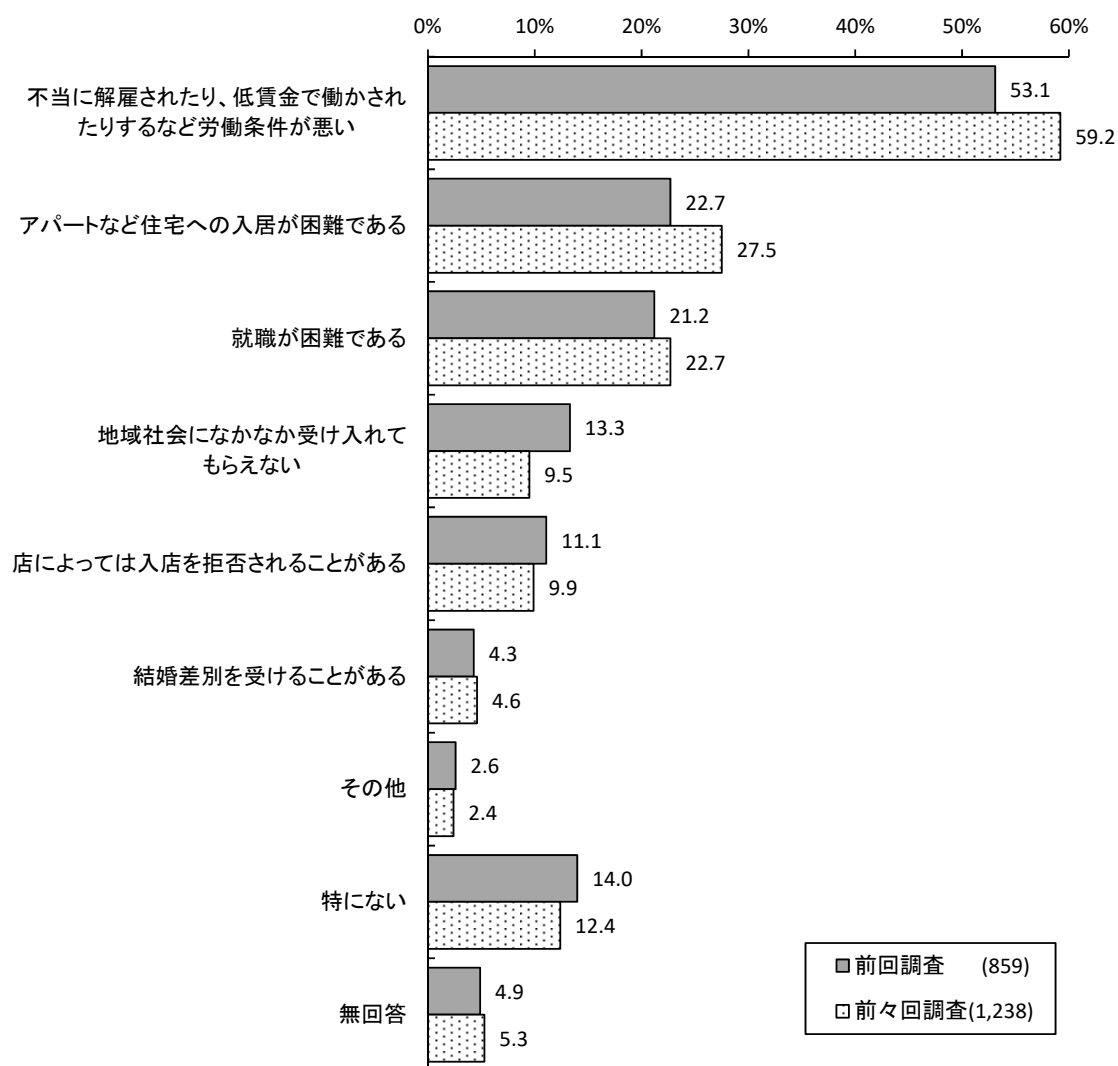
図表 144 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 50～59 歳では、「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が 72.3%であり、他の年代を 11 ポイント以上上回っています。60～69 歳では「ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある」が 42.4%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。また、18～29 歳では「地域社会になかなか受け入れてもらえない」が 18.9%で他の年代を 5 ポイント以上上回っているほか、「アパートなど住宅への入居が困難である」が 24.3%で女性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。

男性では、50～59 歳で「ヘイトスピーチといわれる特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がある」が 41.8%、30～39 歳で「店舗等への入店や利用を拒否されることがある」が 10.6%であり、いずれも他の年代を 7 ポイント以上上回っています。また、30～39 歳では「就職が困難である」が 8.5%であり、他の年代を 6 ポイント以上下回っているほか、40～49 歳と 70 歳以上では「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」が 4 割強であり、男性回答者全体の割合を 5 ポイント下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査結果



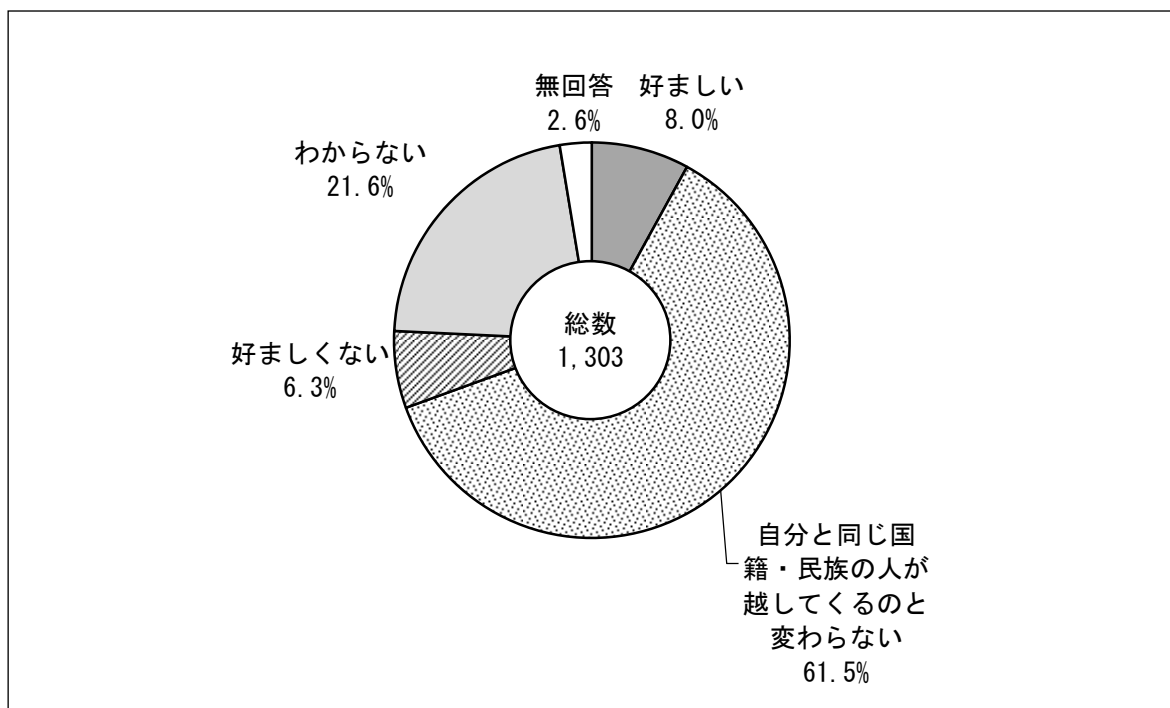
※「不当に解雇されたり、低賃金で働かされたりするなど労働条件が悪い」は前々回調査では「不当に解雇されたり、低賃金で働かされるなど労働条件が悪い」。「地域社会になかなか受け入れてもらえない」は前々回調査では「町会など地域社会の受け入れが十分でない」。

図表 145 外国人の人権問題で、特にひどいと思うこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査で選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 33 外国人（自分とは異なる国籍・民族）が隣に引っ越してきた場合の対応

外国人（自分とは異なる国籍・民族）が、あなたの隣に引越してきた場合、あなたはどのように思いますか。（〇は1つ）



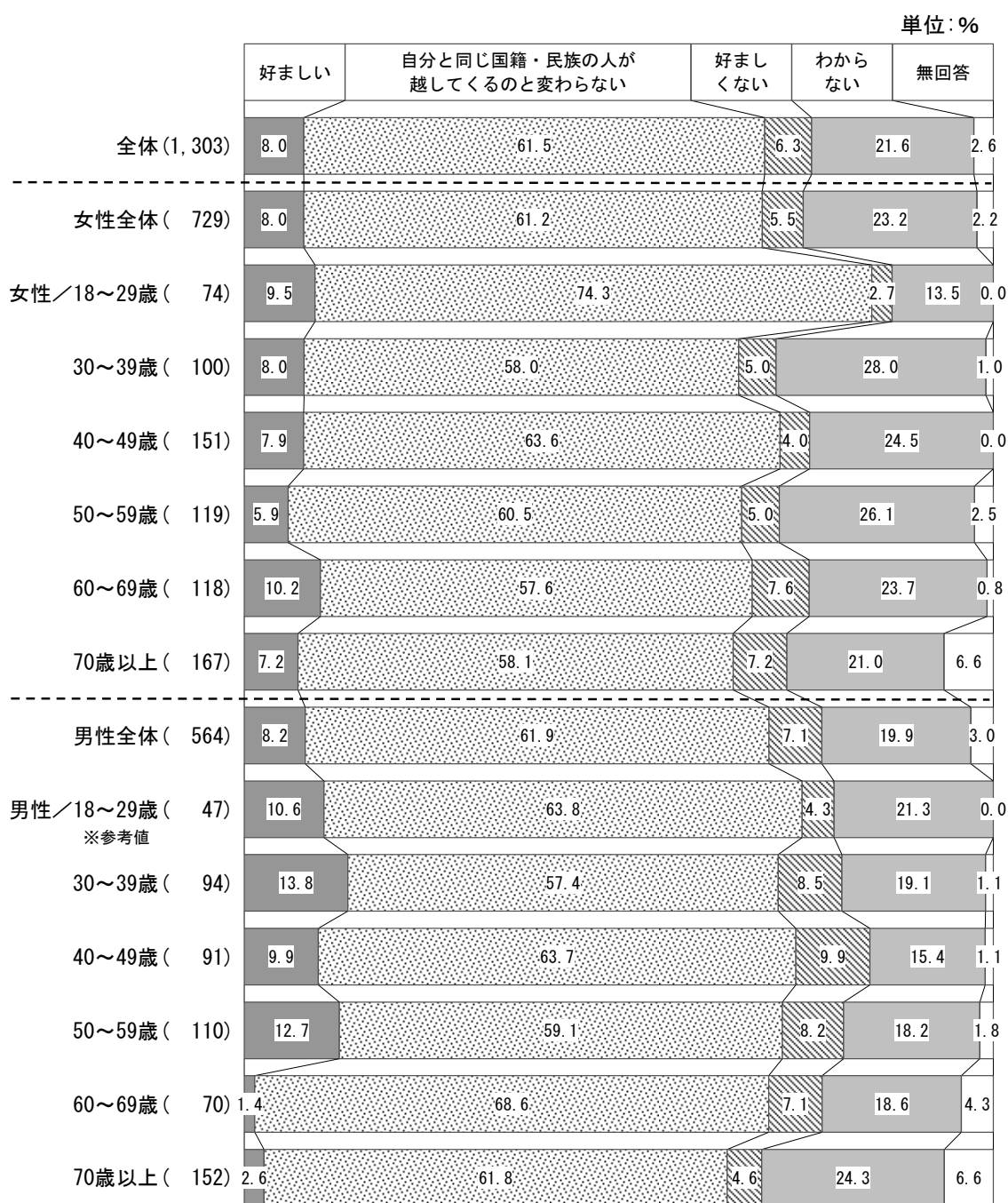
図表 146 外国人（自分とは異なる国籍・民族）が隣に引っ越してきた場合の対応

○全体の傾向

「好ましい」が8.0%、「自分と同じ国籍・民族の人が越してくるのと変わらない」が61.5%、「好ましくない」が6.3%となっています。
なお、「わからない」が21.6%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



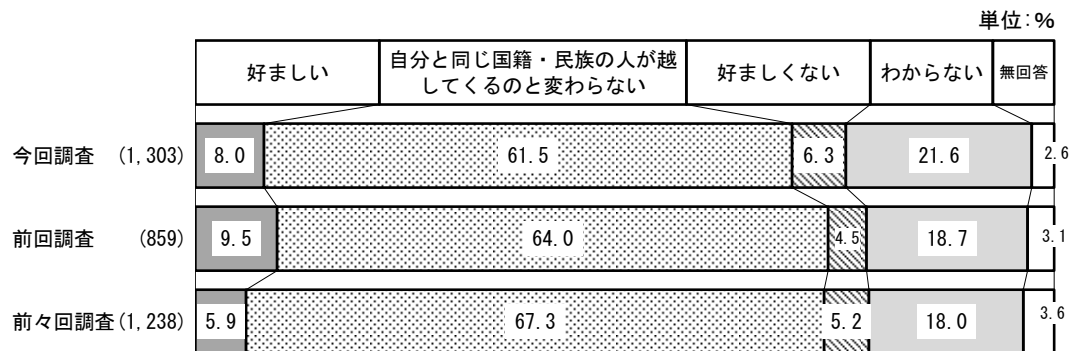
図表 147 外国人（自分とは異なる国籍・民族）が隣に引っ越してきた場合の対応（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では、「自分と同じ国籍・民族の人が越してくると変わらない」が 74.3% であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。

男性では、30～39 歳で「好ましい」が 13.8%、60～69 歳で「自分と同じ国籍・民族の人が越してくると変わらない」が 68.6% であり、いずれも男性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。また、60～69 歳と 70 歳以上では「好ましい」が 1 割未満であり、他の年代を 7 ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「自分と同じ国籍・民族の人が越してくると変わらない」は前々回調査では「日本人が越してくると変わらない」。

図表 148 外国人（自分とは異なる国籍・民族）が隣に引っ越してきた場合の対応

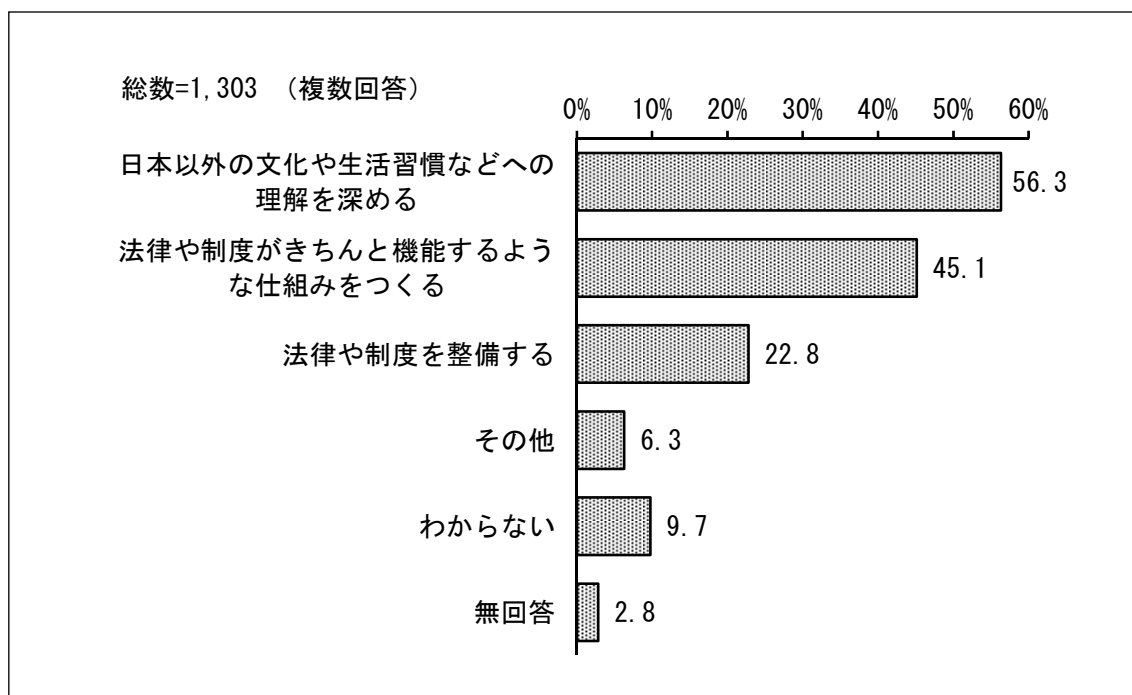
《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「自分と同じ国籍・民族の人が越してくると変わらない」が6割台で最も多くなっています。このほか、今回調査の「自分と同じ国籍・民族の人が越してくると変わらない」の割合は前々回調査を5ポイント下回っています。

問 34 外国人の人権を守るために必要なこと

外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）



図表 149 外国人の人権を守るために必要なこと

○全体の傾向

「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が 56.3%で最も多く、「法律や制度がきちんと機能するような仕組みをつくる」（45.1%）、「法律や制度を整備する」（22.8%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」は 59.8%であり、男性の割合を7ポイント上回っています。

			全体	日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める	法律や制度を整備する	法律や制度がきちんと機能するよう仕組みをつくる	わからない	その他	無回答
全体			1,303 100.0	734 56.3	297 22.8	588 45.1	127 9.7	82 6.3	37 2.8
性別	女性		729 100.0	436 59.8	163 22.4	337 46.2	63 8.6	36 4.9	19 2.6
	男性		564 100.0	294 52.1	132 23.4	249 44.1	62 11.0	45 8.0	16 2.8
	無回答 ※参考値		10 100.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	44 59.5	19 25.7	30 40.5	6 8.1	4 5.4	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	63 63.0	26 26.0	44 44.0	12 12.0	2 2.0	3 3.0
		40～49歳	151 100.0	91 60.3	33 21.9	69 45.7	11 7.3	15 9.9	—
		50～59歳	119 100.0	74 62.2	32 26.9	53 44.5	6 5.0	6 5.0	3 2.5
		60～69歳	118 100.0	64 54.2	24 20.3	65 55.1	11 9.3	3 2.5	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	100 59.9	29 17.4	76 45.5	17 10.2	6 3.6	11 6.6
		無回答 ※参考値	10 100.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0
	男性	18～29歳 ※参考値	47 100.0	18 38.3	11 23.4	28 59.6	4 8.5	6 12.8	—
		30～39歳	94 100.0	57 60.6	23 24.5	38 40.4	9 9.6	12 12.8	1 1.1
		40～49歳	91 100.0	45 49.5	30 33.0	41 45.1	10 11.0	9 9.9	—
		50～59歳	110 100.0	58 52.7	24 21.8	46 41.8	11 10.0	10 9.1	1 0.9
		60～69歳	70 100.0	41 58.6	12 17.1	28 40.0	6 8.6	4 5.7	3 4.3
		70歳以上	152 100.0	75 49.3	32 21.1	68 44.7	22 14.5	4 2.6	11 7.2
		無回答 ※参考値	10 100.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0

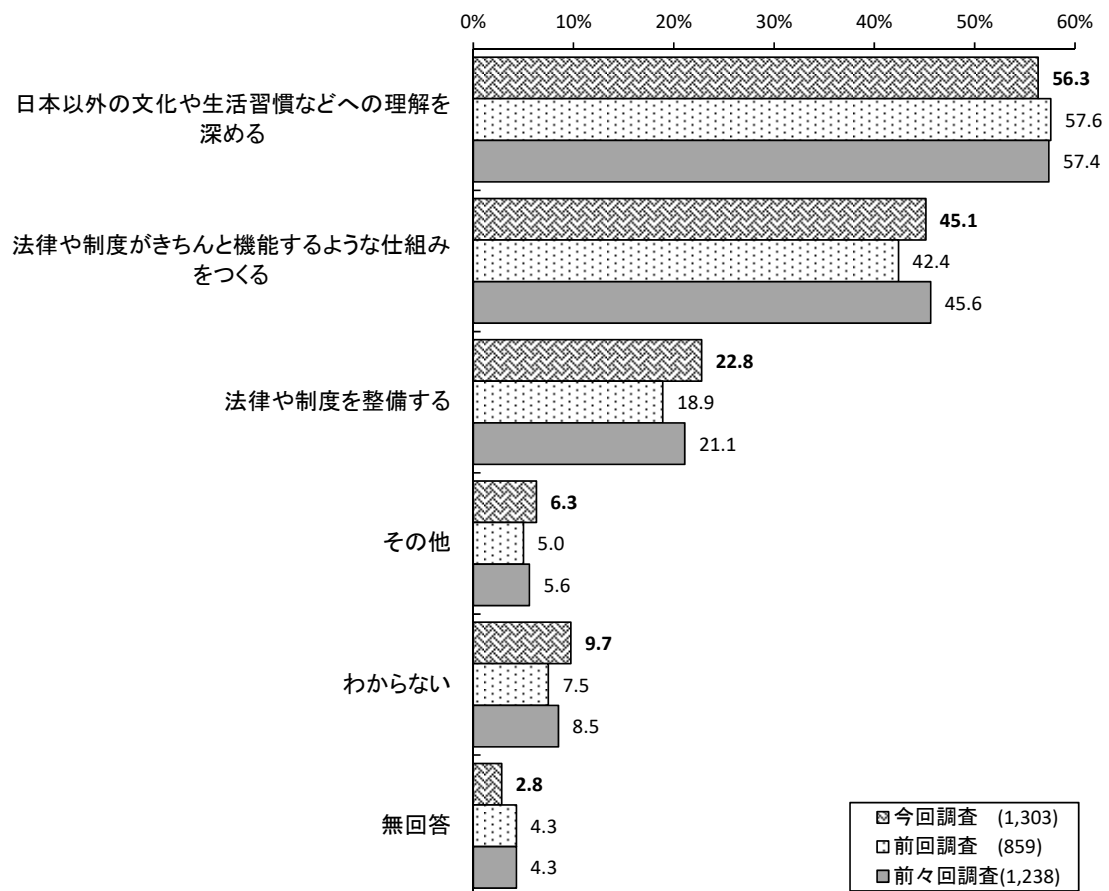
図表 150 外国人の人権を守るために必要なこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の60～69歳では、「法律や制度がきちんと機能するよう仕組みをつくる」が55.1%で他の年代を9ポイント以上上回っていると同時に、「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が54.2%で女性回答者全体の割合を5ポイント下回っています。

男性では、30～39歳と60～69歳で「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が6割前後であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。また、40～49歳では「法律や制度を整備する」が33.0%であり、他の年代を8ポイント以上上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」は前々回調査では「外国人の文化や生活習慣などへの理解を深める」。

図表 151 外国人の人権を守るために必要なこと《前回調査・前々回調査との比較》

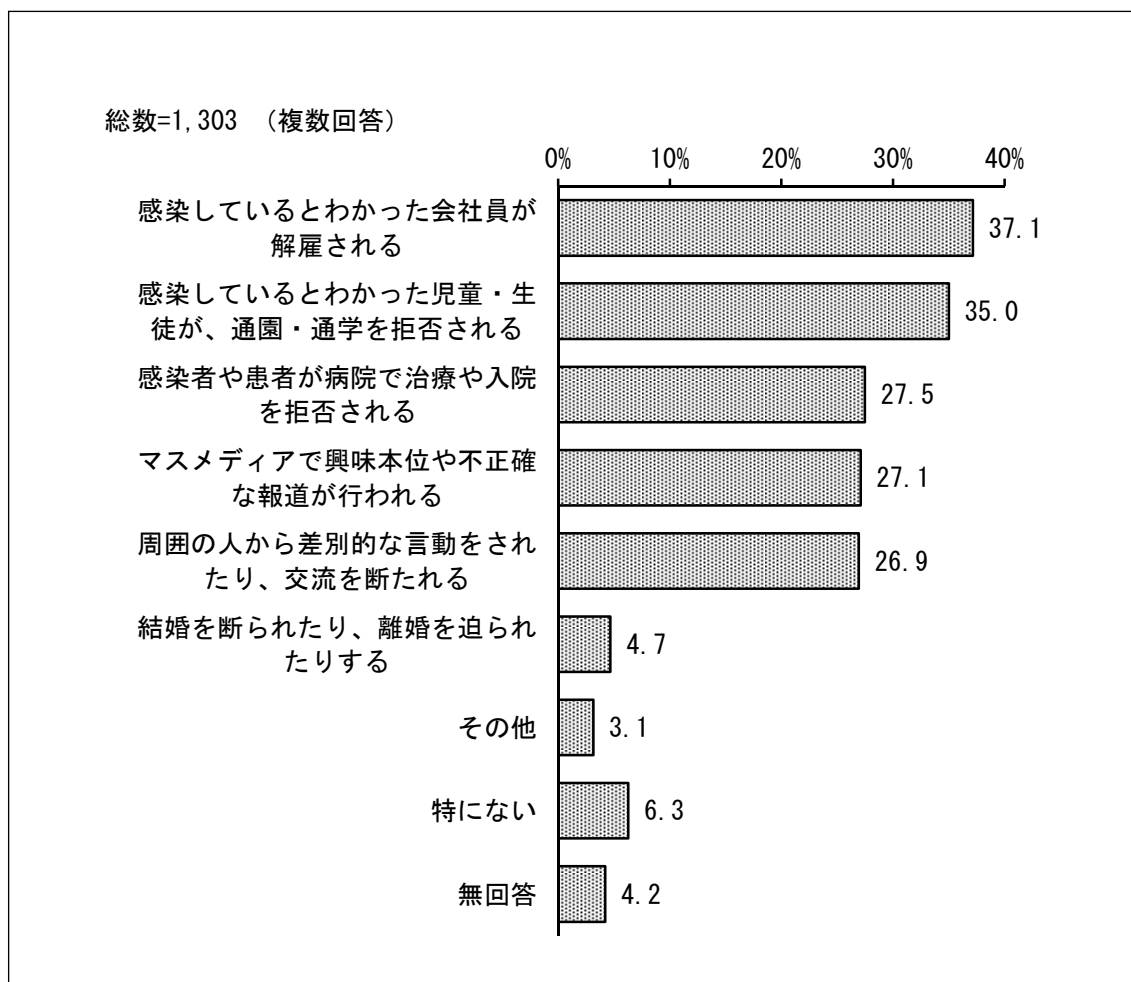
●前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「日本以外の文化や生活習慣などへの理解を深める」が6割弱で最も多くなっているほか、「法律や制度がきちんと機能するような仕組みをつくる」が4割台で続いており、大きな傾向の違いは見られません。

8 エイズと人権について

問 35 HIV 感染者・AIDS 患者の人権問題で特にひどいと思うこと

次にあげるHIV（エイズウィルス）感染者・AIDS（エイズ）患者の人権問題のうち、特にひどいと思うのはどのような場合ですか。（〇は2つまで）



図表 152 HIV 感染者・AIDS 患者の人権問題で特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「感染しているとわかった会社員が解雇される」が 37.1%で最も多く、「感染しているとわかった児童・生徒が、通園・通学を拒否される」(35.0%)、「感染者や患者が病院で治療や入院を拒否される」(27.5%)が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全体	感染している とわかった会 社員が解雇さ れる	感染している とわかった児 童・生徒が、通 園・通学を拒 否される	感染者や患者 が病院で治療 や入院を拒否 される	結婚を断られ たり、離婚を 迫られたりす る	マスメディア で興味本位や 不正確な報道 が行われる	周囲の人から 差別的な言動 をされたり、 交流を断られ る	特にな い	そ 他	無 回 答	
全体		1,303 100.0	484 37.1	456 35.0	358 27.5	61 4.7	353 27.1	351 26.9	82 6.3	41 3.1	55 4.2	
性別	女性	729 100.0	273 37.4	254 34.8	214 29.4	32 4.4	201 27.6	213 29.2	38 5.2	24 3.3	23 3.2	
	男性	564 100.0	209 37.1	202 35.8	139 24.6	29 5.1	149 26.4	137 24.3	43 7.6	17 3.0	29 5.1	
	無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	- -	5 50.0	- -	3 30.0	1 10.0	1 10.0	- -	3 30.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	26 35.1	21 28.4	17 23.0	8 10.8	24 32.4	28 37.8	1 1.4	4 5.4	2 2.7
		30～39歳	100 100.0	38 38.0	39 39.0	26 26.0	5 5.0	29 29.0	37 37.0	2 2.0	3 3.0	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	70 46.4	58 38.4	42 27.8	6 4.0	47 31.1	44 29.1	3 2.0	2 1.3	3 2.0
		50～59歳	119 100.0	45 37.8	32 26.9	47 39.5	4 3.4	37 31.1	36 30.3	6 5.0	3 2.5	2 1.7
		60～69歳	118 100.0	44 37.3	54 45.8	35 29.7	4 3.4	24 20.3	32 27.1	7 5.9	3 2.5	2 1.7
		70歳以上	167 100.0	50 29.9	50 29.9	47 28.1	5 3.0	40 24.0	36 21.6	19 11.4	9 5.4	13 7.8
		無回答 ※参考値	47 100.0	22 46.8	19 40.4	5 10.6	3 6.4	16 34.0	13 27.7	1 2.1	2 4.3	- -
	男性	18～29歳	94 100.0	42 44.7	37 39.4	21 22.3	8 8.5	23 24.5	25 26.6	5 5.3	4 4.3	2 2.1
		30～39歳	91 100.0	39 42.9	32 35.2	26 28.6	4 4.4	28 30.8	22 24.2	5 5.5	- -	3 3.3
		40～49歳	110 100.0	39 35.5	40 36.4	35 31.8	4 3.6	30 27.3	29 26.4	4 3.6	5 4.5	4 3.6
		50～59歳	70 100.0	23 32.9	24 34.3	17 24.3	4 5.7	17 24.3	20 28.6	7 10.0	2 2.9	5 7.1
		60～69歳	152 100.0	44 28.9	50 32.9	35 23.0	6 3.9	35 23.0	28 18.4	21 13.8	4 2.6	15 9.9
		70歳以上	10 100.0	2 20.0	- -	5 50.0	- -	3 30.0	1 10.0	1 10.0	- -	3 30.0
		無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	- -	5 50.0	- -	3 30.0	1 10.0	1 10.0	- -	3 30.0

図表 153 HIV 感染者・AIDS 患者の人権問題で特にひどいと思うこと（男女・年代別）

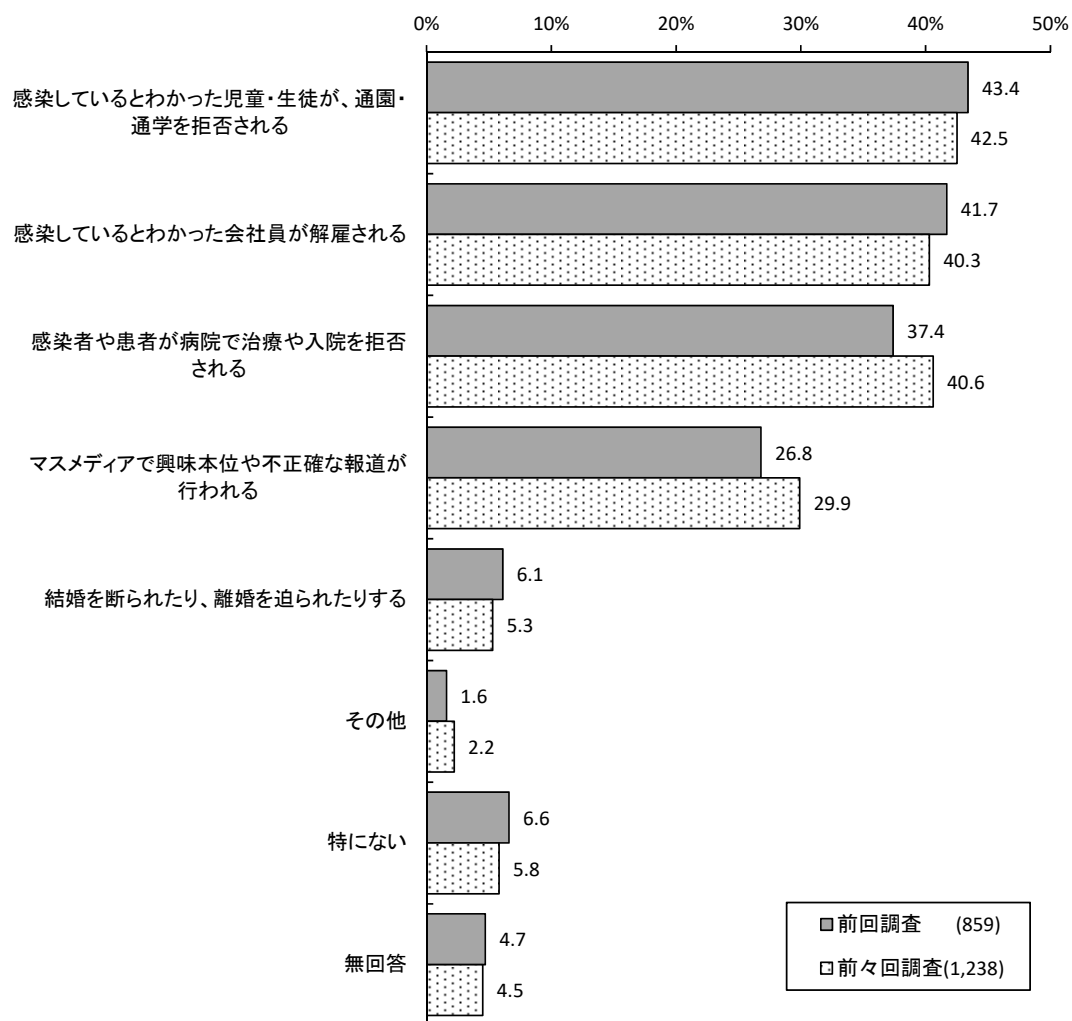
○男女・年代別の傾向

女性の 40～49 歳では「感染しているとわかった会社員が解雇される」が 46.4%、60～69 歳では「感染しているとわかった児童・生徒が、通園・通学を拒否される」が 45.8%、50～59 歳では「感染者や患者が病院で治療や入院を拒否される」が 39.5%、18～29 歳では「結婚を断られたり、離婚を迫られたりする」が 10.8%であり、いずれも他の年代を 5 ポイント以上上回っています。また、18～29 歳と 30～39 歳では「周囲の人から差別的な言動をされたり、交流を断たれる」が 4 割弱であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。このほか、70 歳以上では「感染しているとわかった会社員が解雇される」が 29.9%で女性回答者全体の割合を 7 ポイント下回っているほか、60～69 歳では「マスメディアで興味本位や不正確な報道が行われる」が 20.3%で女性回答者全体の割合を 7 ポイント下回っています。

男性では、50～59 歳で「感染者や患者が病院で治療や入院を拒否される」が 31.8%であり、男性回答者全体の割合を 7 ポイント上回っています。また、70 歳以上で「周囲の人から差別

的な言動をされたり、交流を断たれる」が 18.4%であり、他の年代を 5 ポイント以上下回っています。「感染しているとわかった会社員が解雇される」は 30～39 歳で 44.7%ですが、年代とともに割合が減少しており、70 歳以上では 28.9%となっています。

▼ 前回調査・前々回調査結果

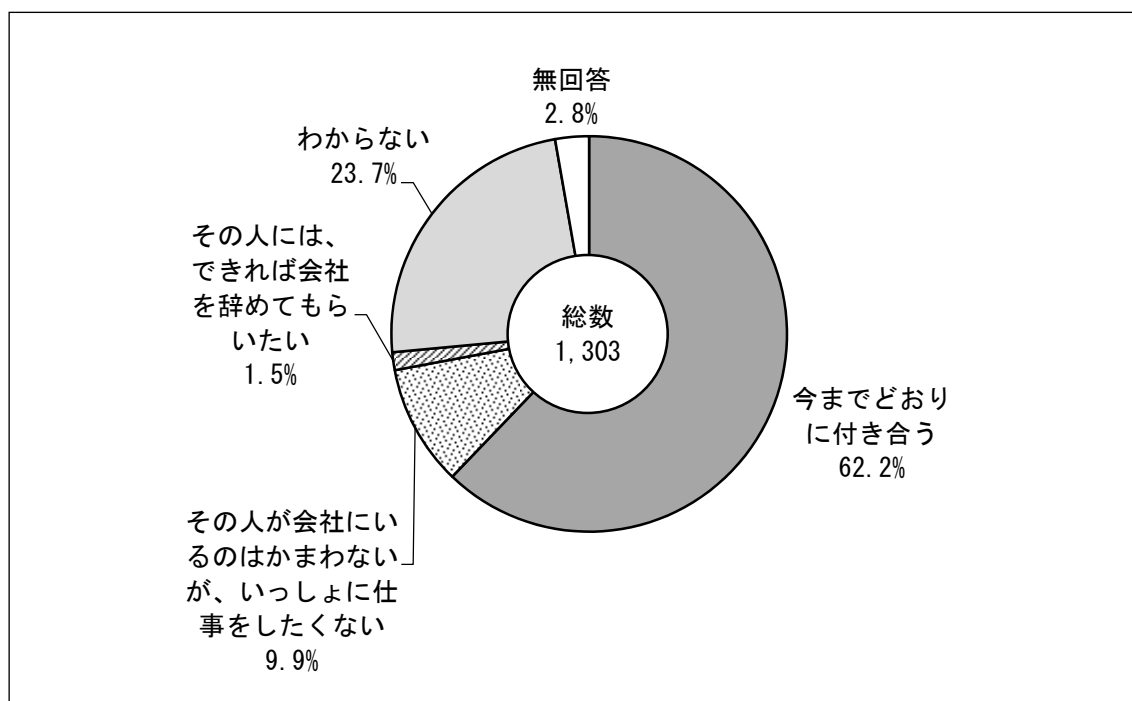


図表 154 HIV 感染者・AIDS 患者の人権問題で特にひどいと思うこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査で選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 36 同僚が HIV 感染者・AIDS 患者とわかった場合の対応

会社の同僚が、HIV（エイズウィルス）感染者・AIDS（エイズ）患者とわかった場合、あなたはどのように思いますか。（〇は1つ）



図表 155 同僚が HIV 感染者・AIDS 患者とわかった場合の対応

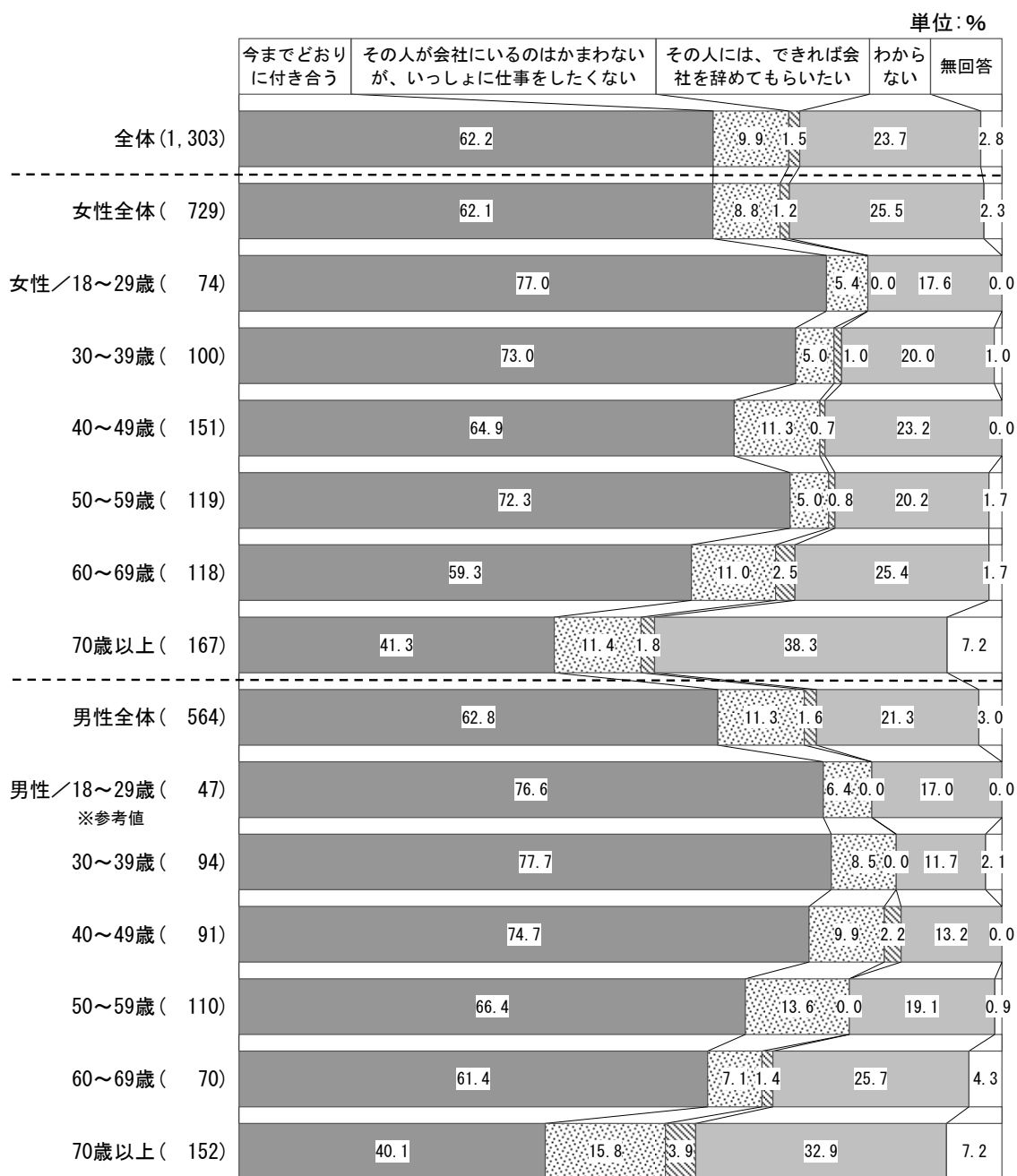
○全体の傾向

「今までどおりに付き合う」が 62.2%で最も多く、「その人が会社にいるのはかまわないが、いっしょに仕事をしたくない」が 9.9%、「その人には、できれば会社を辞めてもらいたい」が 1.5%です。

なお、「わからない」が 23.7%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



図表 156 同僚が HIV 感染者・AIDS 患者とわかった場合の対応（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳と 30～39 歳、50～59 歳では「今までもどおりに付き合う」が 7 割台であり、女性回答者全体の割合を 10 ポイント以上上回っています。70 歳以上では「今までもどおりに付き合う」が 41.3％であり、他の年代を 18 ポイント以上下回る一方で、「わからない」が 38.3％であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。

男性の「今までもどおりに付き合う」は 30～39 歳で 77.7％となっていますが、年代とともに割合が減少し、70 歳以上では 40.1％となっています。一方、「わからない」は 30～39 歳で 11.7％ですが、年代とともに割合が増加しており、70 歳以上では 32.9％となっています。

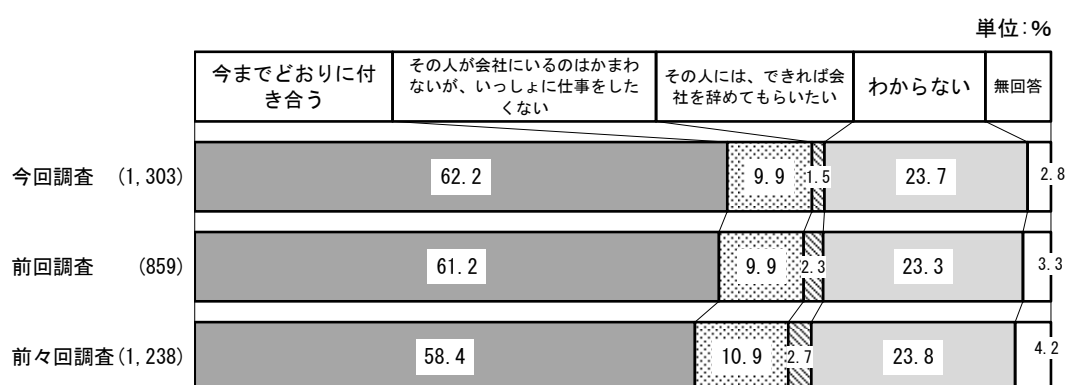
		全体	今までどおりに付き合う	その人が会社にいるのはかまわないが、いっしょに仕事をしたくない	その人には、できれば会社を辞めてもらいたい	わからない	無回答
全体		1,303 100.0	810 62.2	129 9.9	19 1.5	309 23.7	36 2.8
HIV感染者・AIDS患者差別	多く存在する	259 100.0	160 61.8	37 14.3	6 2.3	53 20.5	3 1.2
	ある程度存在する	773 100.0	513 66.4	71 9.2	7 0.9	168 21.7	14 1.8
	存在しない	158 100.0	93 58.9	14 8.9	1 0.6	45 28.5	5 3.2
	無回答	113 100.0	44 38.9	7 6.2	5 4.4	43 38.1	14 12.4

図表 157 同僚がHIV感染者・AIDS患者とわかった場合の対応（HIV感染者・AIDS患者差別の認識別）

○ HIV感染者・AIDS患者差別の存在に対する認識別の傾向

現在の社会でHIV感染者・AIDS患者差別が多く存在すると考える人では、「その人が会社にいるのはかまわないが、いっしょに仕事をしたくない」が14.3%であり、差別がある程度存在すると考える人や存在しないと考える人の割合を5ポイント上回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 158 同僚がHIV感染者・AIDS患者とわかった場合の対応《前回調査・前々回調査との比較》

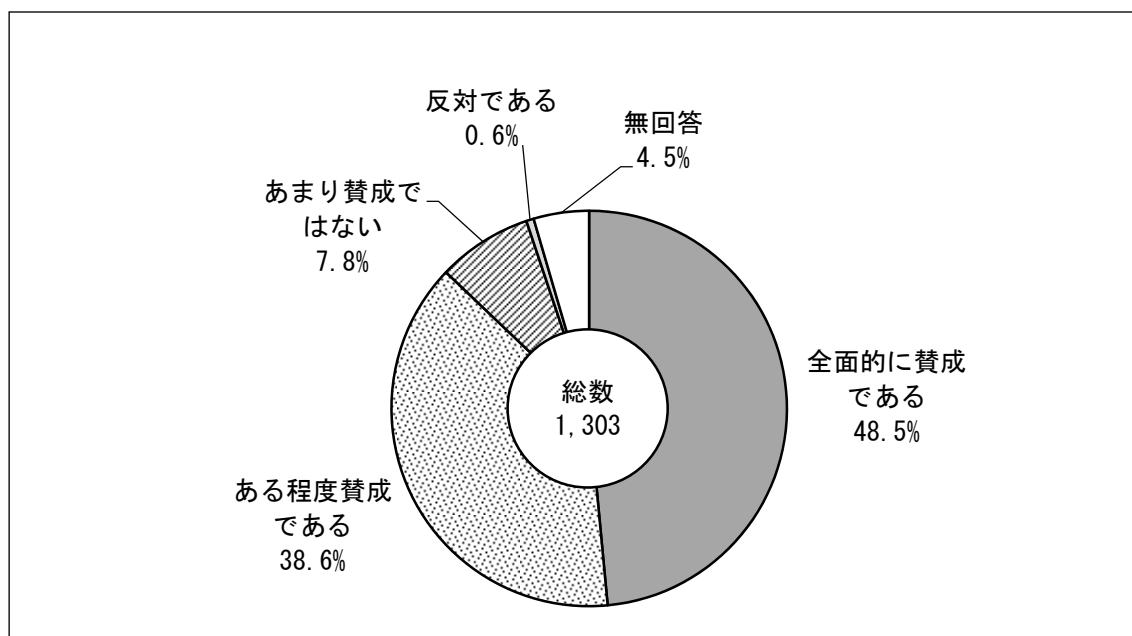
● 前回調査・前々回調査との比較

今回調査・前回調査・前々回調査とも「今までどおりに付き合う」が6割前後を占めています。「今までどおりに付き合う」は、前々回調査から今回調査にかけて増加を続けています。

問 37 「HIV 感染者・AIDS 患者を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否

「HIV（エイズウイルス）感染者・AIDS（エイズ）患者を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考えについて、あなたはどのように思いますか。

（○は1つ）



図表 159 「HIV 感染者・AIDS 患者を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否

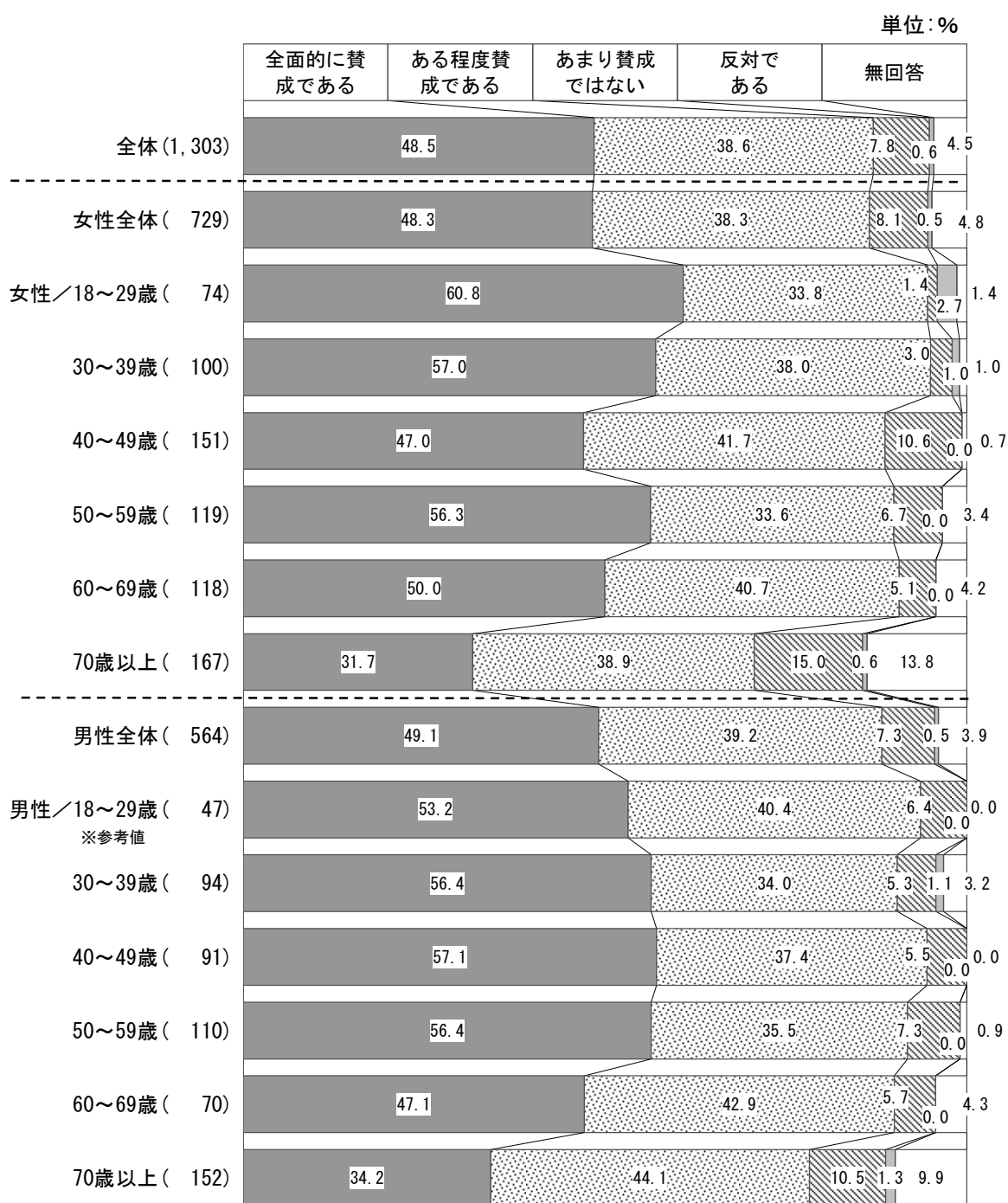
○全体の傾向

「全面的に賛成である」が 48.5%、「ある程度賛成である」が 38.6%であり、「反対である」が 0.6%、「あまり賛成ではない」が 7.8%となっています。

“賛成（「全面的に賛成である」と「ある程度賛成である」の合計）”は 87.1%、“反対（「反対である」と「あまり賛成ではない」の合計）”は 8.4%であり、“賛成”が“反対”を大幅に上回っています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



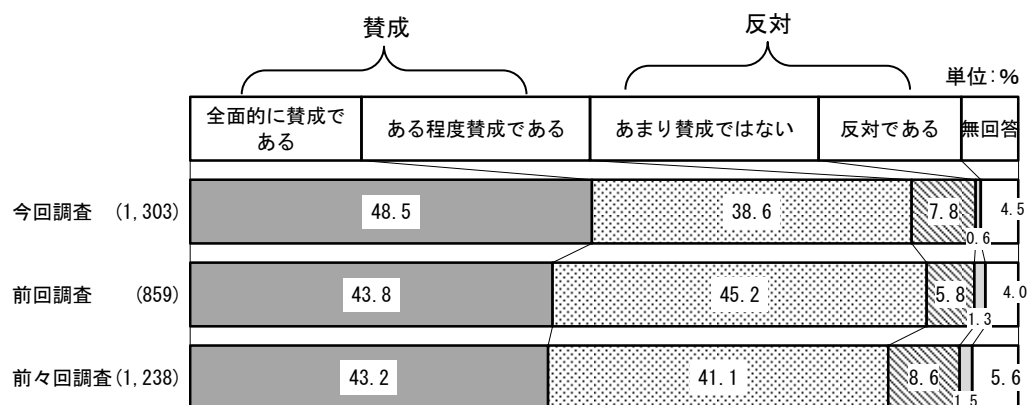
図表 160 「HIV 感染者・AIDS 患者を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男女とも 69 歳以下では“賛成”がおおむね 9 割となっています。女性の 18～29 歳では「全面的に賛成である」が 60.8%であり、女性回答者全体の割合を 12 ポイント上回っています。

女性の 70 歳以上では“賛成”が 70.6%、“反対”が 15.6%、男性の 70 歳以上では“賛成”が 78.3%、“反対”が 11.8%となっています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



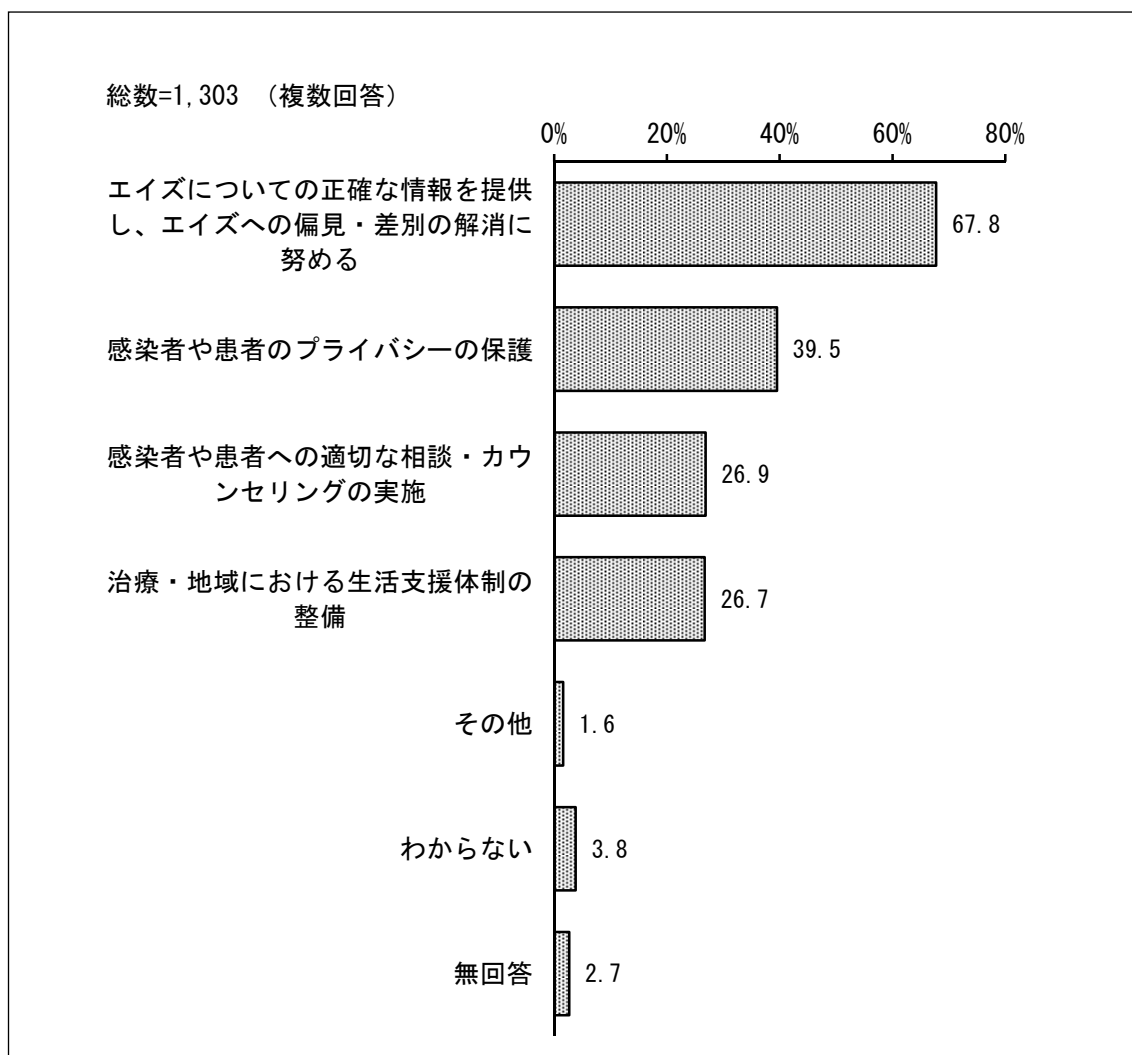
図表 161 「HIV感染者・AIDS患者を差別することなく、ともに社会の中で生きていくことが望ましい」という考え方への賛否《前回調査・前々回調査との比較》

● 前回調査・前々回調査との比較

前々回調査から今回調査にかけて、「全面的に賛成である」の割合が増加を続けており、今回調査の「全面的に賛成である」の割合は前々回調査を5ポイント上回っています。なお、今回調査・前回調査・前々回調査とも“賛成”が8割台を占めています。

問 38 HIV 感染者・AIDS 患者の人権を守るために、行政が実施すべきこと

HIV（エイズウィルス）感染者・AIDS（エイズ）患者の人権を守るためには、行政は、どのようなことを行えばよいと思いますか。（〇は2つまで）



図表 162 HIV 感染者・AIDS 患者の人権を守るために、行政が実施すべきこと

○全体の傾向

「エイズについての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」が 67.8%で最も多く、「感染者や患者のプライバシーの保護」(39.5%)、「感染者や患者への適切な相談・カウンセリングの実施」(26.9%)が続いています。

○男女別の傾向

女性の「エイズについての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」は 70.5%であり、男性の割合を 5 ポイント上回っています。

		全体	感染者や患者のプライバシーの保護	エイズについての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める	感染者や患者への適切な相談・カウンセリングの実施	治療・地域における生活支援体制の整備	わからない	その他	無回答
全体		1,303 100.0	515 39.5	883 67.8	350 26.9	348 26.7	50 3.8	21 1.6	35 2.7
性別	女性	729 100.0	295 40.5	514 70.5	199 27.3	188 25.8	21 2.9	9 1.2	16 2.2
	男性	564 100.0	218 38.7	366 64.9	149 26.4	156 27.7	28 5.0	12 2.1	17 3.0
	無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	4 40.0	1 10.0	-	2 20.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	34 45.9	56 75.7	11 14.9	18 24.3	1 1.4	2 2.7
		30～39歳	100 100.0	41 41.0	80 80.0	19 19.0	28 28.0	1 1.0	2 1.0
		40～49歳	151 100.0	68 45.0	119 78.8	33 21.9	32 21.2	7 4.6	1 0.7
		50～59歳	119 100.0	53 44.5	81 68.1	36 30.3	32 26.9	4 3.4	2 1.7
		60～69歳	118 100.0	38 32.2	85 72.0	33 28.0	39 33.1	2 1.7	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	61 36.5	93 55.7	67 40.1	39 23.4	6 3.6	11 6.6
		18～29歳 ※参考値	47 100.0	24 51.1	31 66.0	6 12.8	12 25.5	3 6.4	2 4.3
		30～39歳	94 100.0	40 42.6	66 70.2	20 21.3	22 23.4	4 4.3	2 2.1
	男性	40～49歳	91 100.0	36 39.6	66 72.5	24 26.4	24 26.4	1 1.1	4 4.4
		50～59歳	110 100.0	42 38.2	81 73.6	31 28.2	28 25.5	1 0.9	2 0.9
		60～69歳	70 100.0	29 41.4	43 61.4	19 27.1	22 31.4	3 4.3	- 5.7
		70歳以上	152 100.0	47 30.9	79 52.0	49 32.2	48 31.6	16 10.5	- 6.6
		無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0

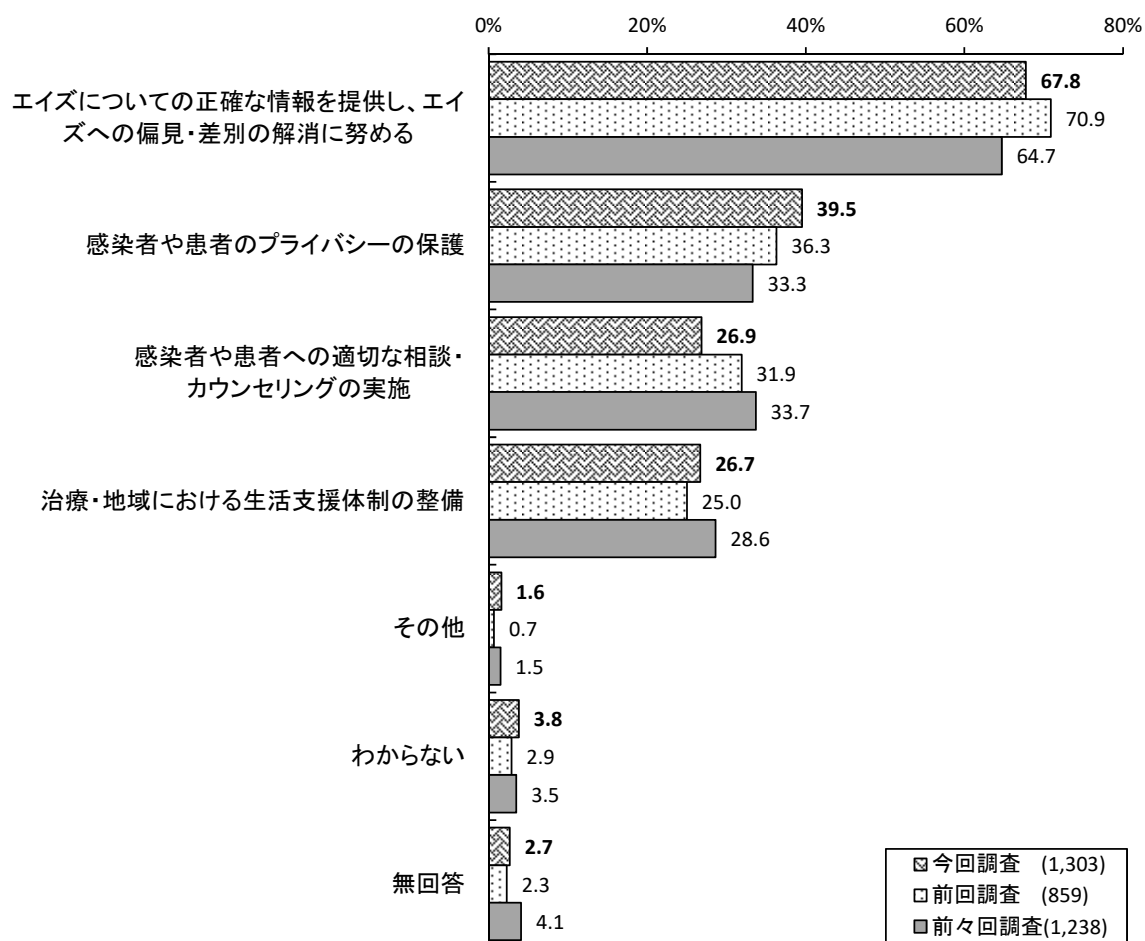
図表 163 HIV 感染者・AIDS 患者の人権を守るために、行政が実施すべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の70歳以上では、「感染者や患者への適切な相談・カウンセリングの実施」が40.1%であり、他の年代を9ポイント以上上回っています。また、18～29歳と30～39歳、40～49歳では「エイズについての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」が8割弱から8割、18～29歳では「感染者や患者のプライバシーの保護」が45.9%、60～69歳では「治療・地域における生活支援体制の整備」が33.1%であり、いずれも女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。

男性では、70歳以上で「エイズについての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」が52.0%、「感染者や患者のプライバシーの保護」が30.9%であり、いずれも他の年代を7ポイント以上下回っています。また、30～39歳では「感染者や患者への適切な相談・カウンセリングの実施」が21.3%であり、男性回答者全体の割合を5ポイント下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



※「感染者や患者のプライバシーの保護」は前回調査、前々回調査では「患者や感染者のプライバシーの保護」。「感染者や患者への適切な相談・カウンセリングの実施」は前回調査、前々回調査では「患者や感染者への適切な相談・カウンセリングの実施」。

図表 164 HIV 感染者・AIDS 患者の人権を守るために、行政が実施すべきこと

《前回調査・前々回調査との比較》

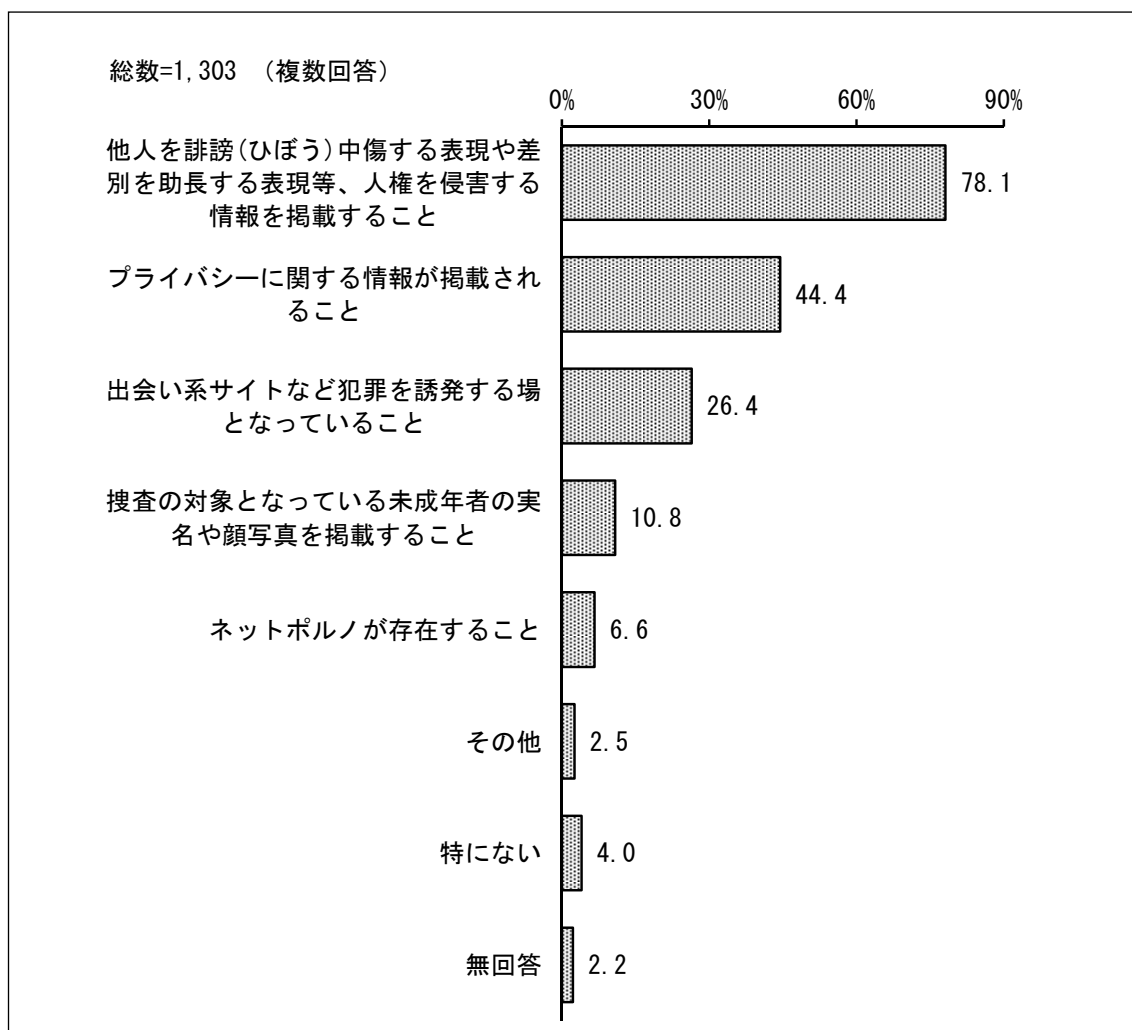
●前回調査・前々回調査との比較

「エイズについての正確な情報を提供し、エイズへの偏見・差別の解消に努める」は、今回調査・前回調査・前々回調査とも6割から7割台で最も多い回答となっています。このほか、「感染者や患者のプライバシーの保護」は前々回調査から今回調査にかけて6ポイント増加しており、「感染者や患者への適切な相談・カウンセリングの実施」は前々回調査から今回調査にかけて6ポイント減少しています。

9 インターネットに関する人権上の問題点について

問 39 インターネットで人権上問題があると思うこと

あなたが、インターネットに関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇は2つまで）



図表 165 インターネットで人権上問題があると思うこと

○全体の傾向

「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現等、人権を侵害する情報を掲載すること」が 78.1% で最も多く、「プライバシーに関する情報が掲載されること」（44.4%）、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」（26.4%）が続いています。

○男女別の傾向

女性の「ネットポルノが存在すること」は 8.9% であり、男性の割合を 5 ポイント上回っています。

		全体	他人を誹謗（ひぼう）中傷する表現や差別を助長する表現等、人権を侵害する情報を掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること	ネットポルノが存在すること	プライバシーに関する情報が掲載されること	特 に ない	その他	無 回 答	
全体		1,303 100.0	1,018 78.1	344 26.4	141 10.8	86 6.6	579 44.4	52 4.0	33 2.5	29 2.2	
性別	女性	729 100.0	570 78.2	202 27.7	87 11.9	65 8.9	334 45.8	22 3.0	17 2.3	11 1.5	
	男性	564 100.0	443 78.5	141 25.0	53 9.4	21 3.7	243 43.1	28 5.0	15 2.7	15 2.7	
	無回答 ※参考値	10 100.0	5 50.0	1 10.0	1 10.0	－	2 20.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	65 87.8	18 24.3	8 10.8	6 8.1	36 48.6	－	1 1.4	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	77 77.0	28 28.0	14 14.0	12 12.0	51 51.0	1 1.0	－	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	126 83.4	39 25.8	27 17.9	15 9.9	72 47.7	1 0.7	1 0.7	－
		50～59歳	119 100.0	101 84.9	28 23.5	11 9.2	12 10.1	57 47.9	4 3.4	1 0.8	1 0.8
		60～69歳	118 100.0	99 83.9	34 28.8	13 11.0	9 7.6	53 44.9	3 2.5	2 1.7	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	102 61.1	55 32.9	14 8.4	11 6.6	65 38.9	13 7.8	12 7.2	7 4.2
		無回答 ※参考値	10 100.0	5 50.0	1 10.0	1 10.0	－	2 20.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0
	男性	18～29歳 ※参考値	47 100.0	37 78.7	8 17.0	10 21.3	4 8.5	17 36.2	3 6.4	1 2.1	2 4.3
		30～39歳	94 100.0	71 75.5	15 16.0	12 12.8	2 2.1	38 40.4	5 5.3	3 3.2	2 2.1
		40～49歳	91 100.0	78 85.7	16 17.6	11 12.1	2 2.2	42 46.2	5 5.5	4 4.4	－
		50～59歳	110 100.0	98 89.1	21 19.1	13 11.8	2 1.8	54 49.1	－	4 3.6	1 0.9
		60～69歳	70 100.0	50 71.4	18 25.7	3 4.3	4 5.7	38 54.3	2 2.9	2 2.9	2 2.9
		70歳以上	152 100.0	109 71.7	63 41.4	4 2.6	7 4.6	54 35.5	13 8.6	1 0.7	8 5.3
		無回答 ※参考値	10 100.0	5 50.0	1 10.0	1 10.0	－	2 20.0	2 20.0	1 10.0	3 30.0

図表 166 インターネットで人権上問題があると思うこと（男女・年代別）

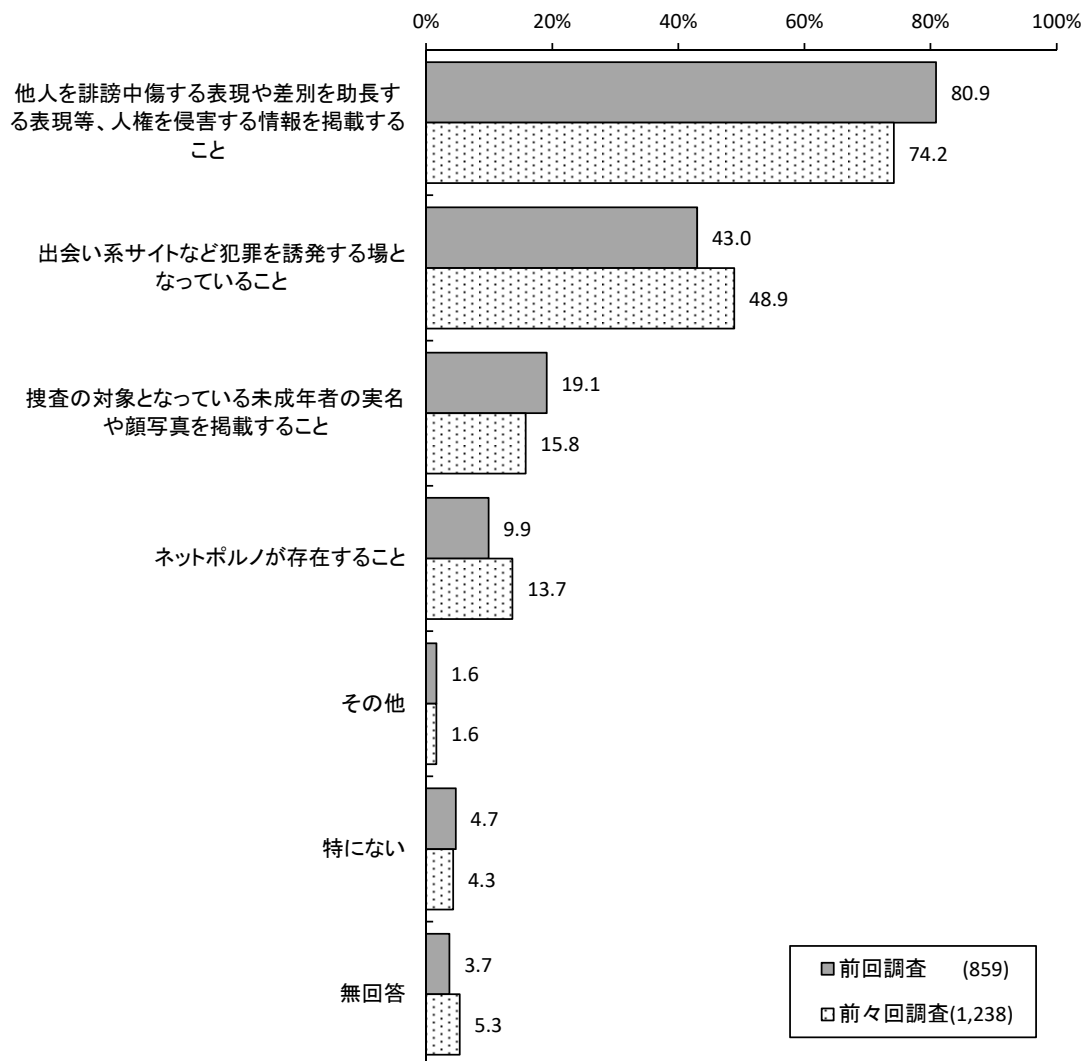
○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳と40～49歳、50～59歳、60～69歳では「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現等、人権を侵害する情報を掲載すること」が8割台に達しているのに対し、70歳以上では61.1%にとどまっています。また、30～39歳では「プライバシーに関する情報が掲載されること」が51.0%、40～49歳では「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること」が17.9%、70歳以上では「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が32.9%であり、いずれも女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。一方、70歳以上では「プライバシーに関する情報が掲載されること」が38.9%で

あり、他の年代を6ポイント以上下回っています。

男性では、40～49歳と50～59歳で「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現等、人権を侵害する情報を掲載すること」が9割弱であり、男性回答者全体の割合を7ポイント以上上回っています。また、60～69歳では「プライバシーに関する情報が掲載されること」が54.3%で男性回答者全体の割合を11ポイント上回っているのに対し、70歳以上では35.5%であり、男性回答者全体の割合を7ポイント下回っています。このほか、男性の「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」は年代とともに割合が増加する傾向があり、70歳以上では41.4%となっています。一方、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること」は年代とともに割合が減少する傾向があります。

▼ 前回調査・前々回調査結果

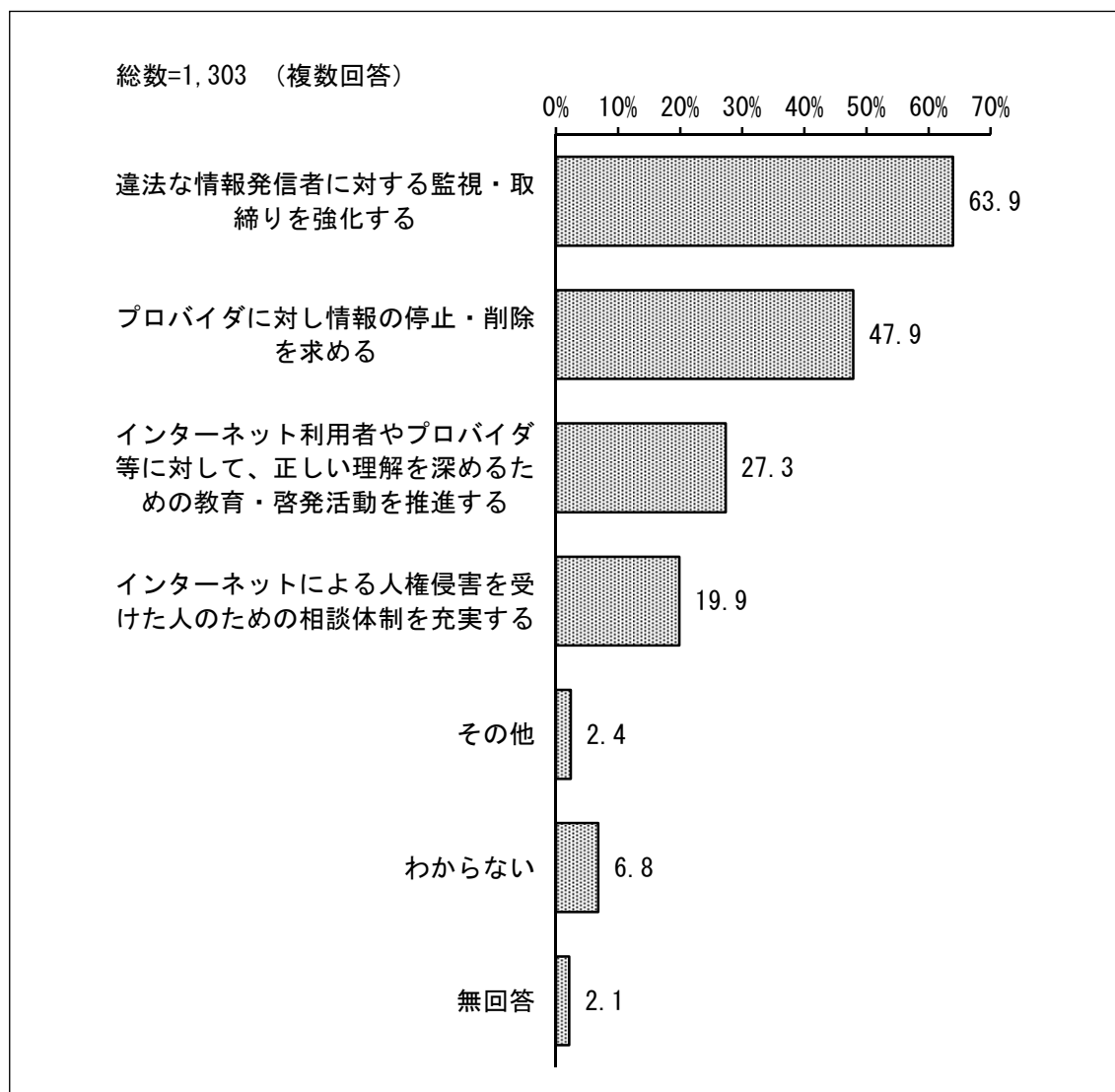


図表 167 インターネットで人権上問題があると思うこと《前回調査・前々回調査結果》

●今回調査で選択肢を追加したため、参考掲載します。

問 40 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと

あなたは、インターネットによる人権侵害を防ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）



図表 168 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと

○全体の傾向

「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が 63.9%で最も多く、「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」（47.9%）、「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」（27.3%）が続きます。

○男女別の傾向

女性の「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」は 30.3%であり、男性の割合を 6 ポイント上回っています。

		全体	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する	インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	プロバイダに対し情報の停止・削除を求める	違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する	わからない	その他	無回答	
全体		1,303 100.0	259 19.9	356 27.3	624 47.9	833 63.9	89 6.8	31 2.4	28 2.1	
性別	女性	729 100.0	133 18.2	221 30.3	357 49.0	469 64.3	49 6.7	16 2.2	12 1.6	
	男性	564 100.0	124 22.0	133 23.6	266 47.2	360 63.8	39 6.9	14 2.5	13 2.3	
	無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	9 12.2	27 36.5	34 45.9	52 70.3	2 2.7	1 1.4	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	20 20.0	33 33.0	48 48.0	71 71.0	2 2.0	2 2.0	2 2.0
		40～49歳	151 100.0	27 17.9	50 33.1	85 56.3	102 67.5	2 1.3	4 2.6	-
		50～59歳	119 100.0	15 12.6	39 32.8	69 58.0	81 68.1	7 5.9	3 2.5	-
		60～69歳	118 100.0	27 22.9	38 32.2	57 48.3	73 61.9	9 7.6	2 1.7	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	35 21.0	34 20.4	64 38.3	90 53.9	27 16.2	4 2.4	8 4.8
		無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0
		30～39歳	94 100.0	19 20.2	28 29.8	34 36.2	60 63.8	4 4.3	5 5.3	2 2.1
	男性	40～49歳	91 100.0	15 16.5	19 20.9	46 50.5	69 75.8	4 4.4	2 2.2	-
		50～59歳	110 100.0	26 23.6	32 29.1	55 50.0	72 65.5	3 2.7	3 2.7	2 1.8
		60～69歳	70 100.0	17 24.3	17 24.3	34 48.6	49 70.0	6 8.6	2 2.9	-
		70歳以上	152 100.0	35 23.0	23 15.1	79 52.0	85 55.9	18 11.8	1 0.7	8 5.3
		無回答 ※参考値	10 100.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0

図表 169 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと（男女・年代別）

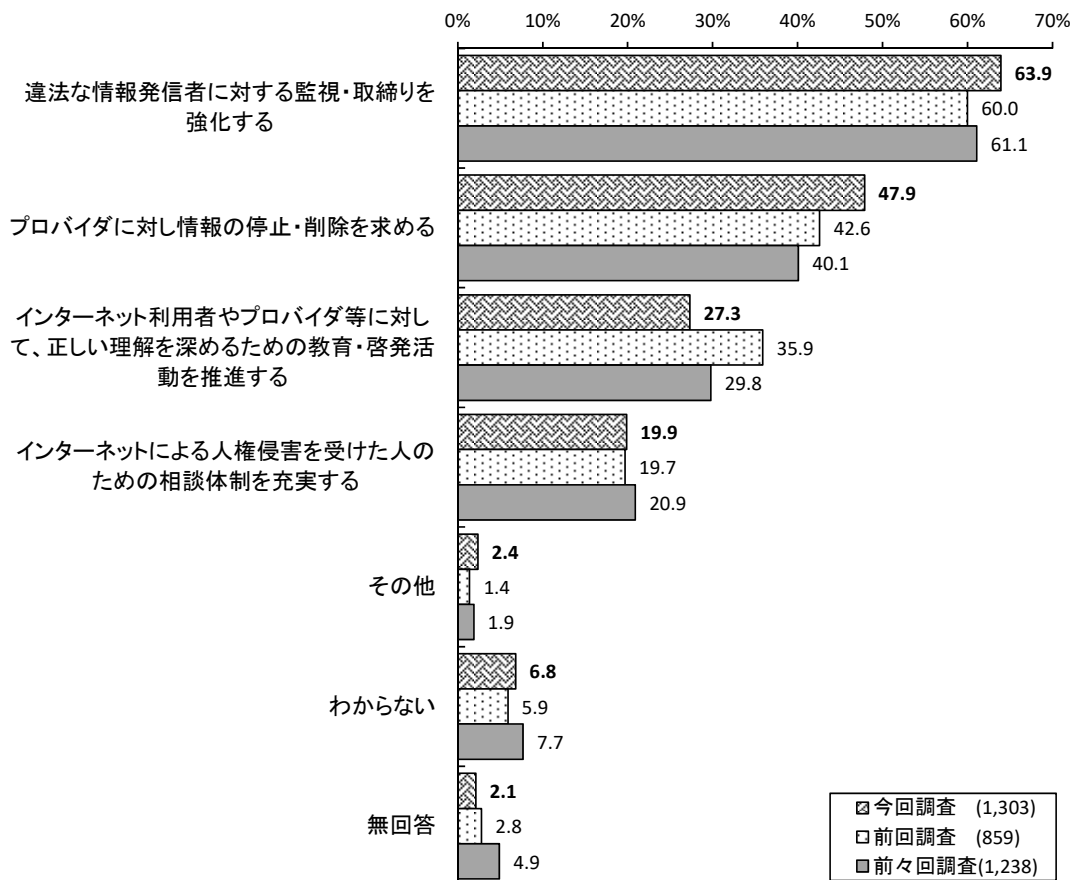
○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳と 30～39 歳では「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が 7 割強であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っています。また、40～49 歳と 50～59 歳では「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」が 6 割弱であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。18～29 歳では「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が 36.5%であり、女性回答者全体の割合を 6 ポイント上回っていますが、割合はおおむね年代とともに減少する傾向があり、70 歳以上では 20.4%にとどまっています。このほか、70 歳以上では「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」の割合が他

の年代を7ポイント以上下回っている一方で、「わからない」が16.2%で他の年代を8ポイント以上上回っています。

男性では、40～49歳で「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が75.8%であり、他の年代を5ポイント以上上回っています。また、30～39歳で「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」が36.2%であり、他の年代を12ポイント以上下回っています。このほか、70歳以上では「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が55.9%、「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が15.1%であり、いずれも他の年代を5ポイント以上下回っています。

▼ 前回調査・前々回調査との比較



図表 170 インターネットによる人権侵害を防ぐために必要なこと《前回調査・前々回調査との比較》

●前回調査・前々回調査との比較

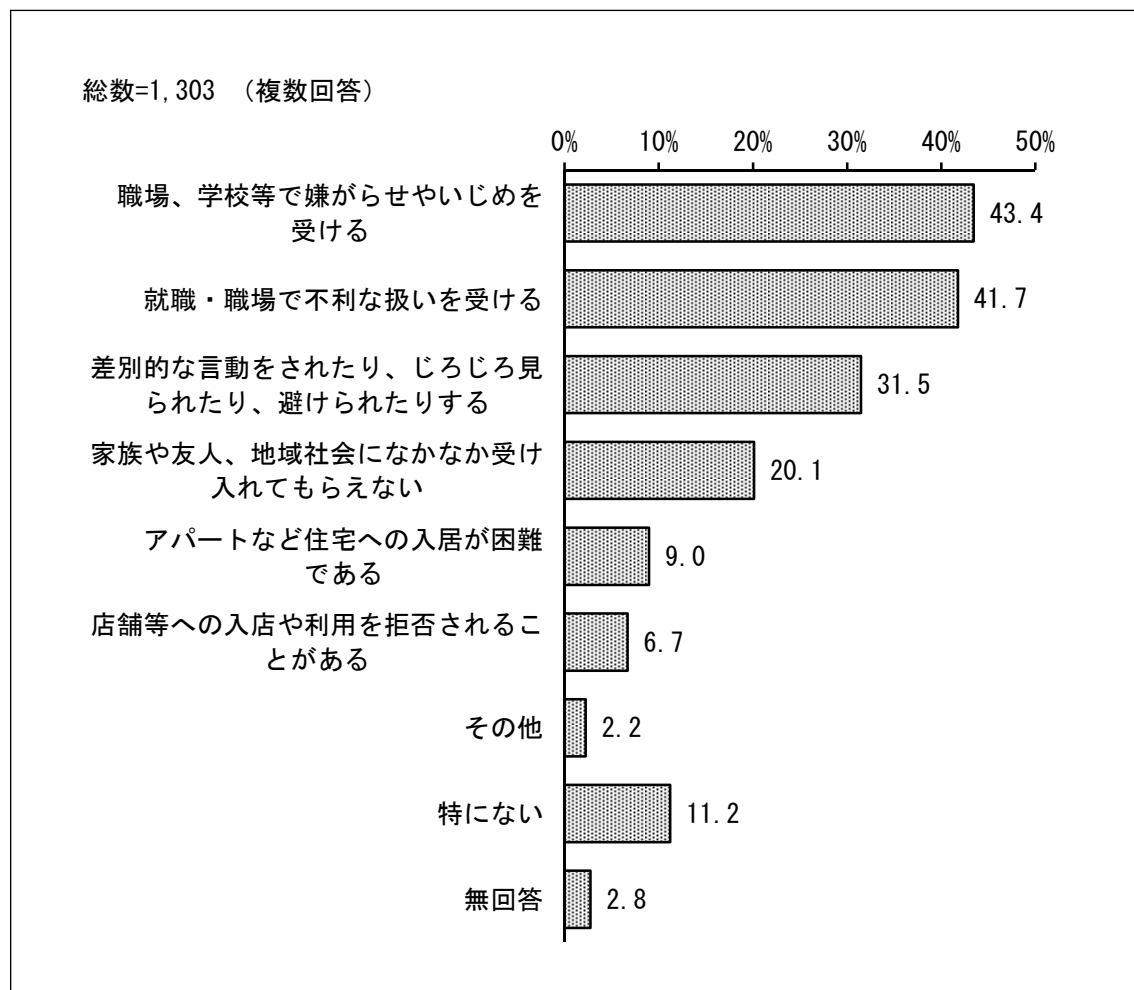
「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」は、今回調査・前回調査・前々回調査とも6割から6割強で最も多い回答となっています。また、「プロバイダに対し情報の停止・削除を求める」は前々回調査から今回調査にかけて増加を続けており、今回調査の割合は前々回調査を7ポイント上回っています。一方、「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」は前回調査から今回調査にかけて8ポイント減少しています。

10 性的マイノリティに関する人権について

問 41 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと

性的マイノリティを理由とする人権問題で、特にひどいと思うものはどれですか。

(〇は2つまで)



図表 171 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと

○全体の傾向

「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が 43.4%で最も多く、「就職・職場で不利な扱いを受ける」(41.7%)、「差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする」(31.5%)が続いています。

○男女別の傾向

女性の「就職・職場で不利な扱いを受ける」は 44.7%であり、男性の割合を 6 ポイント上回っています。一方、男性の「特にない」は 15.2%であり、女性の割合を 7 ポイント上回っています。

			全体	就職・職場で不利な扱いを受ける	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける	差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする	家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもらえない	店舗等への入店や利用を拒否されることもある	アパートなど住宅への入居が困難である	特にない	その他	無回答
全体			1,303 100.0	544 41.7	566 43.4	410 31.5	262 20.1	87 6.7	117 9.0	146 11.2	29 2.2	36 2.8
性別	女性		729 100.0	326 44.7	314 43.1	229 31.4	157 21.5	58 8.0	80 11.0	57 7.8	20 2.7	16 2.2
	男性		564 100.0	215 38.1	251 44.5	181 32.1	105 18.6	28 5.0	35 6.2	86 15.2	9 1.6	17 3.0
	無回答 ※参考値		10 100.0	3 30.0	1 10.0	- -	- -	1 10.0	2 20.0	3 30.0	- -	3 30.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	26 35.1	31 41.9	32 43.2	18 24.3	7 9.5	11 14.9	- -	5 6.8	1 1.4
		30～39歳	100 100.0	43 43.0	49 49.0	35 35.0	29 29.0	8 8.0	12 12.0	2 2.0	1 1.0	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	77 51.0	70 46.4	54 35.8	32 21.2	12 7.9	15 9.9	9 6.0	2 1.3	- -
		50～59歳	119 100.0	55 46.2	49 41.2	30 25.2	27 22.7	12 10.1	16 13.4	12 10.1	2 1.7	1 0.8
		60～69歳	118 100.0	57 48.3	54 45.8	41 34.7	24 20.3	7 5.9	11 9.3	9 7.6	2 1.7	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	68 40.7	61 36.5	37 22.2	27 16.2	12 7.2	15 9.0	25 15.0	8 4.8	12 7.2
		18～29歳 ※参考値	47 100.0	15 31.9	24 51.1	21 44.7	6 12.8	3 6.4	6 12.8	4 8.5	- -	2 4.3
	男性	30～39歳	94 100.0	32 34.0	38 40.4	28 29.8	25 26.6	11 11.7	8 8.5	10 10.6	3 3.2	2 2.1
		40～49歳	91 100.0	35 38.5	42 46.2	35 38.5	16 17.6	6 6.6	3 3.3	11 12.1	1 1.1	- -
		50～59歳	110 100.0	50 45.5	57 51.8	38 34.5	11 10.0	6 5.5	5 4.5	17 15.5	1 0.9	2 1.8
		60～69歳	70 100.0	30 42.9	28 40.0	24 34.3	16 22.9	1 1.4	5 7.1	9 12.9	3 4.3	- -
		70歳以上	152 100.0	53 34.9	62 40.8	35 23.0	31 20.4	1 0.7	8 5.3	35 23.0	1 0.7	11 7.2
		無回答 ※参考値	10 100.0	3 30.0	1 10.0	- -	- -	1 10.0	2 20.0	3 30.0	- -	- 30.0

図表 172 性的マイノリティを理由とする人権問題で特にひどいと思うこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の18～29歳では「差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする」が43.2%で他の年代を7ポイント以上上回っているのに対し、「就職・職場で不利な扱いを受ける」が35.1%で女性回答者全体の割合を9ポイント下回っています。50～59歳と70歳以上では「差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする」が2割台であり、他の年代を9ポイント以上下回っています。また、30～39歳では「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が49.0%、「家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもらえない」が29.0%、40～49歳では「就職・職場で不利な扱いを受ける」が51.0%であり、いずれも女性回答者全体の割合を5ポイント以上上回っています。このほか、70歳以上では「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」「家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもら

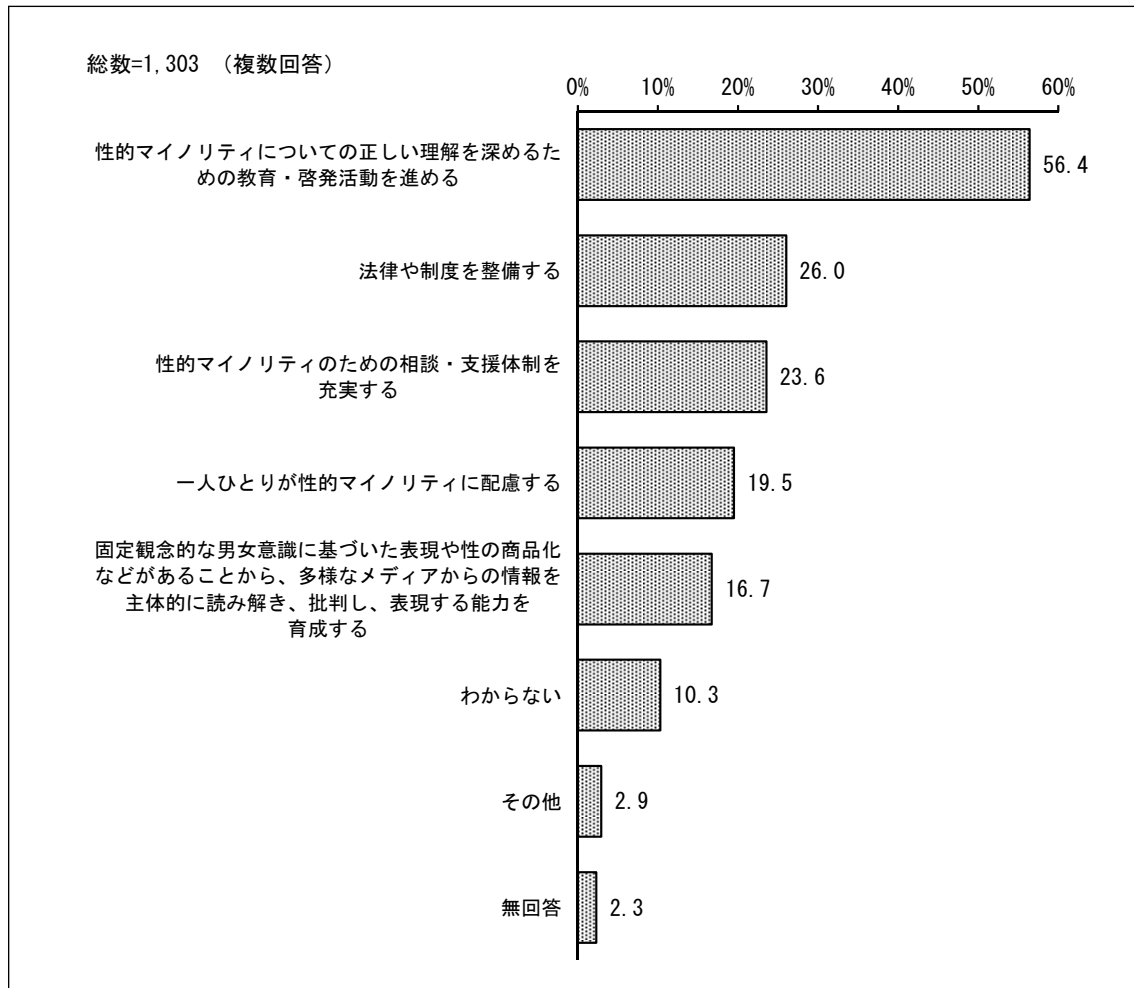
えない」が女性回答者全体の割合を5ポイント以上下回っているのに対し、「特にない」が15.0%で女性回答者全体の割合を7ポイント上回っています。

男性では、50～59歳で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受ける」が51.8%、30～39歳で「店舗等への入店や利用を拒否されることがある」が11.7%であり、いずれも他の年代を5ポイント以上上回っています。男性の「店舗等への入店や利用を拒否されることがある」は年代とともに減少する傾向があり、60～69歳と70歳以上では1%前後となっています。このほか、50～59歳では「家族や友人、地域社会になかなか受け入れてもらえない」が10.0%であり、他の年代を7ポイント以上下回っています。70歳以上では「差別的な言動をされたり、じろじろ見られたり、避けられたりする」が23.0%で男性回答者全体の割合を9ポイント下回っているのに対し、「特にない」が23.0%で他の年代を7ポイント以上上回っています。

問 42 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと

性的マイノリティの人権を守るため、どのようなことを行えばよいと思いますか。

(〇は2つまで)



図表 173 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと

○全体の傾向

「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」が56.4%で最も多く、「法律や制度を整備する」(26.0%)、「性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する」(23.6%)が続きます。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。

		全体	性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する	性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める	法律や制度を整備する	固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する	一人ひとりが性的マイノリティに配慮する	わからない	その他	無回答
全体		1,303 100.0	307 23.6	735 56.4	339 26.0	218 16.7	254 19.5	134 10.3	38 2.9	30 2.3
性別	女性	729 100.0	161 22.1	422 57.9	195 26.7	132 18.1	155 21.3	65 8.9	16 2.2	14 1.9
	男性	564 100.0	146 25.9	310 55.0	141 25.0	85 15.1	98 17.4	67 11.9	21 3.7	13 2.3
	無回答	10	-	3	3	1	1	2	1	3
	※参考値	100.0	-	30.0	30.0	10.0	10.0	20.0	10.0	30.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	12 16.2	49 66.2	28 37.8	18 24.3	15 20.3	3 4.1	2 2.7
		30～39歳	100 100.0	22 22.0	70 70.0	26 26.0	25 25.0	18 18.0	2 2.0	2 2.0
		40～49歳	151 100.0	27 17.9	103 68.2	39 25.8	33 21.9	30 19.9	9 6.0	5 3.3
		50～59歳	119 100.0	30 25.2	69 58.0	35 29.4	19 16.0	27 22.7	8 6.7	4 3.4
		60～69歳	118 100.0	25 21.2	67 56.8	29 24.6	17 14.4	32 27.1	10 8.5	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	45 26.9	64 38.3	38 22.8	20 12.0	33 19.8	33 19.8	4 2.4
	男性	18～29歳 ※参考値	47 100.0	13 27.7	21 44.7	13 27.7	9 19.1	12 25.5	4 8.5	4 8.5
		30～39歳	94 100.0	16 17.0	55 58.5	20 21.3	24 25.5	20 21.3	8 8.5	2 2.1
		40～49歳	91 100.0	19 20.9	61 67.0	24 26.4	16 17.6	11 12.1	9 9.9	4 4.4
		50～59歳	110 100.0	31 28.2	61 55.5	25 22.7	16 14.5	22 20.0	10 9.1	7 6.4
		60～69歳	70 100.0	21 30.0	42 60.0	20 28.6	7 10.0	14 20.0	7 10.0	2 2.9
		70歳以上	152 100.0	46 30.3	70 46.1	39 25.7	13 8.6	19 12.5	29 19.1	2 1.3
		無回答 ※参考値	10 100.0	-	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0
										3 30.0

図表 174 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 18～29 歳では「法律や制度を整備する」が 37.8%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。また、60～69 歳では「一人ひとりが性的マイノリティに配慮する」が 27.1%であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」は 18～29 歳、30～39 歳、40～49 歳では 7 割弱から 7 割、50～59 歳と 60～69 歳では 6 割弱ですが、70 歳以上では 38.3%にとどまっています。

男性では、40～49 歳で「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」が 67.0%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っている一方で、70 歳以上では 46.1%であり、他の年代を 9 ポイント以上下回っています。男性の「固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する」は 30～39 歳で 25.5%ですが、年代とともに割合が減少しており、70 歳以上では 8.6%です。このほか、30～39 歳では「性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する」が 17.0%で男性回答者全体の割合を 8 ポイント下回っており、40～49 歳と 70 歳以上では「一人ひとりが性的マイノリティに配慮する」が 1 割強で他の年代を 7 ポイント以上下回っています。

男女とも 70 歳以上では、「わからない」が 2 割弱であり、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。

	全体	性的マイノリティのための相談・支援体制を充実する	性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める	法律や制度を整備する	固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する	一人ひとりが性的マイノリティに配慮する	わからない	その他	無回答
全体	1,303 100.0	307 23.6	735 56.4	339 26.0	218 16.7	254 19.5	134 10.3	38 2.9	30 2.3
性的マイノリティに関する差別意識	多く存在する	363 100.0	71 19.6	237 65.3	126 34.7	89 24.5	71 19.6	20 5.5	8 2.2
	ある程度存在する	725 100.0	196 27.0	418 57.7	180 24.8	110 15.2	153 21.1	63 8.7	16 2.2
	存在しない	110 100.0	22 20.0	45 40.9	16 14.5	11 10.0	17 15.5	24 21.8	10 9.1
	無回答	105 100.0	18 17.1	35 33.3	17 16.2	8 7.6	13 12.4	27 25.7	4 3.8

図表 175 性的マイノリティの人権を守るために実施すべきこと（性的マイノリティに関する差別の認識別）

○性的マイノリティに関する差別の存在に対する認識別の傾向

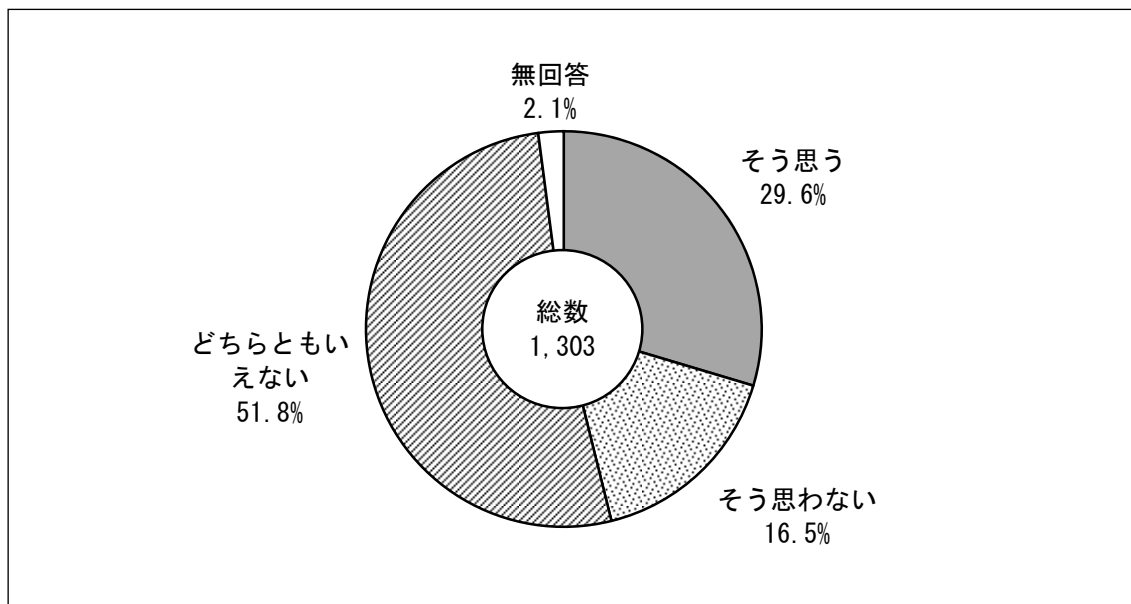
現在の社会で性的マイノリティに関する差別が多く存在すると考える人では、「性的マイノリティについての正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進める」が 65.3%、「法律や制度を整備する」が 34.7%、「固定観念的な男女意識に基づいた表現や性の商品化などがあることから、多様なメディアからの情報を主体的に読み解き、批判し、表現する能力を育成する」が 24.5%であり、いずれも回答者全体の割合を 7 ポイント以上上回っています。

一方、差別が存在しないと考える人では、「わからない」が 21.8%であり、回答者全体の割合を 11 ポイント上回っています。

11 人権尊重社会の実現について

問 43 10 年前に比べた区民の人権意識の状況

あなたは、10 年前に比べて、ご自身を含め区民一人ひとりの人権についての意識が高くなっていると思いますか。（○は1つ）



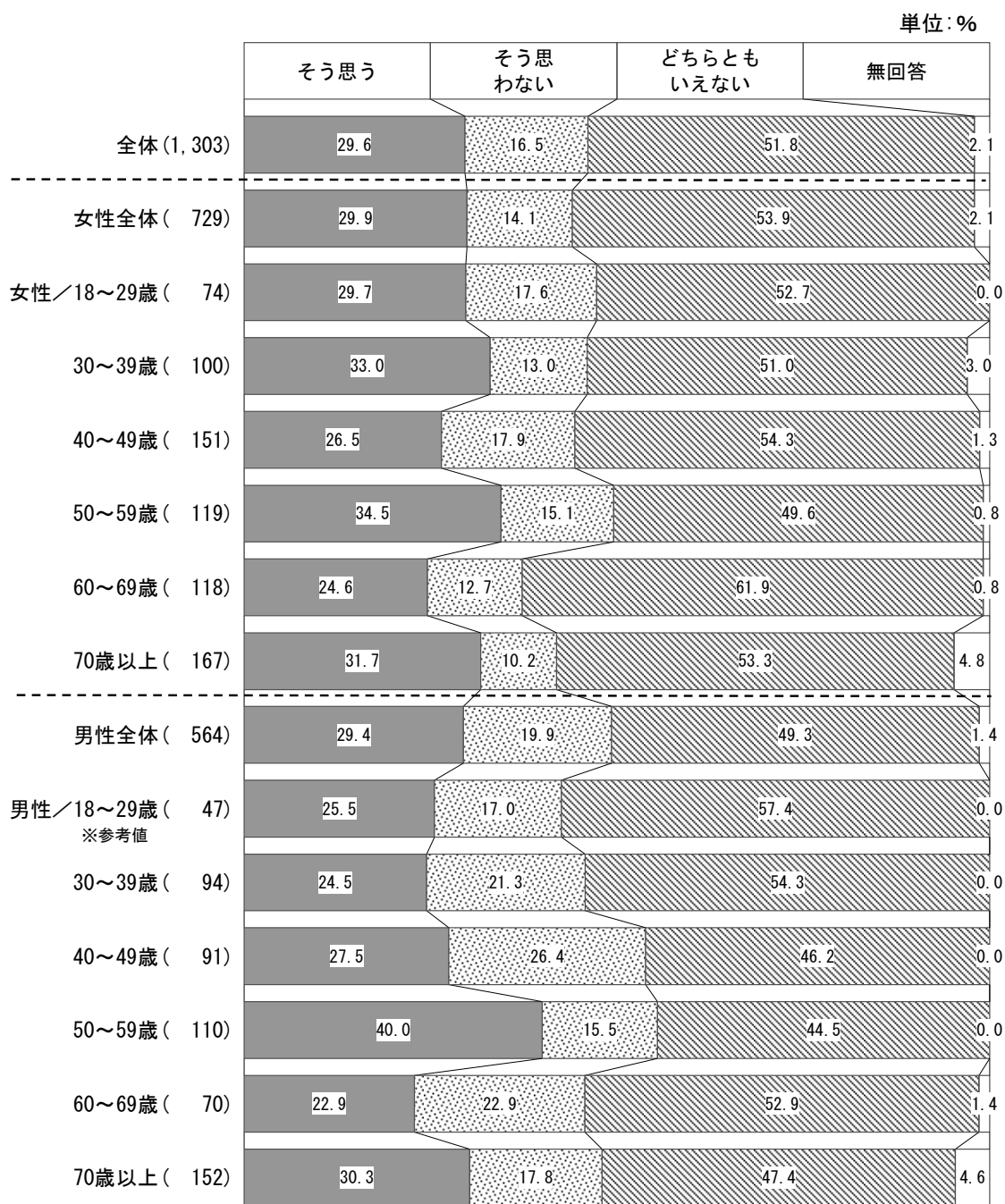
図表 176 10 年前に比べた区民の人権意識の状況

○全体の傾向

「そう思う」が 29.6%、「そう思わない」が 16.5%、「どちらともいえない」が 51.8%となっています。

○男女別の傾向

性別による大きな傾向の違いはありません。



図表 177 10 年前に比べた区民の人権意識の状況（男女・年代別）

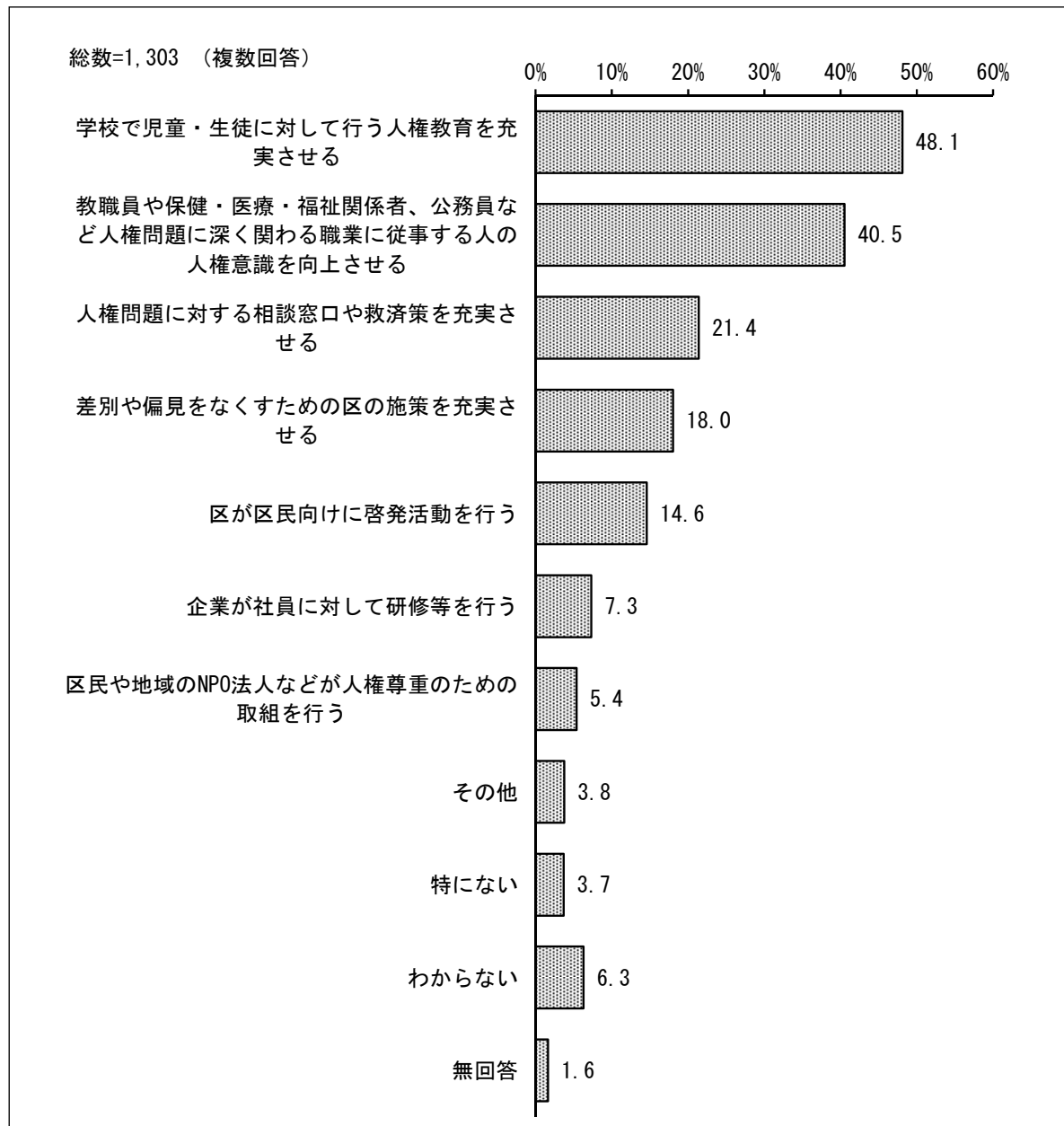
○男女・年代別の傾向

女性の 60～69 歳では「そう思う」が 24.6%であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント下回るとともに、「どちらともいえない」が 61.9%であり、他の年代を 7 ポイント以上上回っています。

男性では、50～59 歳で「そう思う」が 40.0%であり、他の年代を 9 ポイント以上上回っています。一方、40～49 歳では「そう思わない」が 26.4%、30～39 歳では「どちらともいえない」が 54.3%であり、いずれも男性回答者全体の割合を 5 ポイント以上上回っています。

問 44 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組

区民一人ひとりが尊重され、差別や偏見のない目黒区の実現に向けて、あなたは今後どのような取組が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



図表 178 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組

○全体の傾向

「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が 48.1%で最も多く、「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」(40.5%)、「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」(21.4%)が続きます。

○男女別の傾向

女性の「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」は 51.4%、「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」は 44.4%であり、いずれも男性の割合を 7 ポイント以上上回っています。

		全体	区が区民向けに啓発活動を行う	学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる	教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる	企業が社員に対して研修等を行う	人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる	差別や偏見をなくするための区の施策を充実させる	区民や地域の NPO 法人などが人権尊重のための取組を行う	特にない	わからない	その他	無回答
全体		1,303 100.0	190 14.6	627 48.1	528 40.5	95 7.3	279 21.4	235 18.0	70 5.4	48 3.7	82 6.3	49 3.8	21 1.6
性別	女性	729 100.0	99 13.6	375 51.4	324 44.4	49 6.7	155 21.3	145 19.9	34 4.7	15 2.1	40 5.5	25 3.4	9 1.2
	男性	564 100.0	91 16.1	249 44.1	201 35.6	46 8.2	123 21.8	89 15.8	36 6.4	31 5.5	42 7.4	23 4.1	9 1.6
	無回答 ※参考値	10 100.0	-	3 30.0	3 30.0	-	1 10.0	1 10.0	-	2 20.0	-	1 10.0	3 30.0
性・年代別	女性	18～29歳	74 100.0	8 10.8	41 55.4	27 36.5	10 13.5	17 23.0	14 18.9	5 6.8	1 1.4	2 2.7	4 4.1
		30～39歳	100 100.0	11 11.0	64 64.0	38 38.0	16 16.0	17 17.0	23 23.0	1 1.0	-	3 3.0	1 1.0
		40～49歳	151 100.0	19 12.6	71 47.0	59 39.1	11 7.3	35 23.2	33 21.9	7 4.6	3 2.0	11 7.3	-
		50～59歳	119 100.0	17 14.3	64 53.8	43 36.1	7 5.9	23 19.3	30 25.2	4 3.4	5 4.2	7 5.9	-
		60～69歳	118 100.0	16 13.6	64 54.2	70 59.3	2 1.7	23 19.5	23 19.5	7 5.9	1 0.8	5 4.2	1 0.8
		70歳以上	167 100.0	28 16.8	71 42.5	87 52.1	3 1.8	40 24.0	22 13.2	10 6.0	5 3.0	12 7.2	4 2.4
		無回答 ※参考値	10 100.0	-	3 30.0	3 30.0	-	1 10.0	1 10.0	-	2 20.0	-	3 30.0
	男性	18～29歳	47 100.0	2 4.3	20 42.6	15 31.9	2 4.3	17 36.2	5 10.6	3 6.4	4 8.5	3 6.4	1 2.1
		30～39歳	94 100.0	11 11.7	44 46.8	22 23.4	13 13.8	13 12.8	12 9.6	9 9.6	9 9.6	6 6.4	2 2.1
		40～49歳	91 100.0	10 11.0	47 51.6	34 37.4	15 16.5	13 14.3	15 16.5	8 8.8	6 6.6	4 5.5	-
		50～59歳	110 100.0	18 16.4	52 47.3	43 39.1	7 6.4	29 26.4	14 12.7	4 3.6	3 2.7	9 8.2	-
		60～69歳	70 100.0	14 20.0	32 45.7	35 50.0	5 7.1	20 28.6	8 11.4	7 10.0	1 1.4	2 2.9	-
		70歳以上	152 100.0	36 23.7	54 35.5	52 34.2	4 2.6	31 20.4	35 23.0	5 3.3	8 5.3	15 9.9	6 3.9
		無回答 ※参考値	10 100.0	-	3 30.0	3 30.0	-	1 10.0	1 10.0	-	2 20.0	-	3 30.0

図表 179 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の 30～39 歳では「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が 64.0%であり、他の年代を 8 ポイント以上上回っています。60～69 歳と 70 歳以上では「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」が 5 割台であり、「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」の割合を上回っています。また、18～29 歳と 30～39 歳では「企業が社員に対して研修等を行う」が 1 割台であり、他の年代を 6 ポイント以上上回っています。このほか、50～59 歳では「差

別や偏見をなくすための区の施策を充実させる」が 25.2%であり、女性回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。

男性では、60～69 歳で「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」が「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」を上回る 50.0%であり、他の年代を 10 ポイント以上上回っています。また、50～59 歳と 60～69 歳では「人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる」が 3 割弱、70 歳以上では「差別や偏見をなくすための区の施策を充実させる」が 23.0%、30～39 歳と 40～49 歳では「企業が社員に対して研修等を行う」が 1 割台であり、それぞれ他の年代を 6 ポイント以上上回っています。このほか、70 歳以上では「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が 35.5%であり、他の年代を 10 ポイント以上下回っています。

	全体	区が区民向けに啓発活動を行う	学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる	教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる	企業が社員に対して研修等を行う	人権問題に対する相談窓口や救済策を充実させる	差別や偏見をなくすための区の施策を充実させる	区民や地域の NPO 法人などが人権尊重のための取組を行う	特にない	わからない	その他	無回答
全体	1,303 100.0	190 14.6	627 48.1	528 40.5	95 7.3	279 21.4	235 18.0	70 5.4	48 3.7	82 6.3	49 3.8	21 1.6
人権侵害経験												
侵害された経験あり	479 100.0	70 14.6	258 53.9	220 45.9	41 8.6	100 20.9	93 19.4	25 5.2	12 2.5	13 2.7	22 4.6	5 1.0
侵害された経験なし	769 100.0	110 14.3	349 45.4	291 37.8	53 6.9	172 22.4	132 17.2	43 5.6	33 4.3	64 8.3	25 3.3	9 1.2
無回答	55 100.0	10 18.2	20 36.4	17 30.9	1 1.8	7 12.7	10 18.2	2 3.6	3 5.5	5 9.1	2 3.6	7 12.7

図表 180 人権を尊重する社会を実現するために必要な取組（人権侵害の経験別）

○人権侵害の経験別の傾向

これまでに自分や家族の「人権」が侵害されたと感じたことがある人では、「学校で児童・生徒に対して行う人権教育を充実させる」が 53.9%、「教職員や保健・医療・福祉関係者、公務員など人権問題に深く関わる職業に従事する人の人権意識を向上させる」が 45.9%であり、いずれも回答者全体の割合を 5 ポイント上回っています。